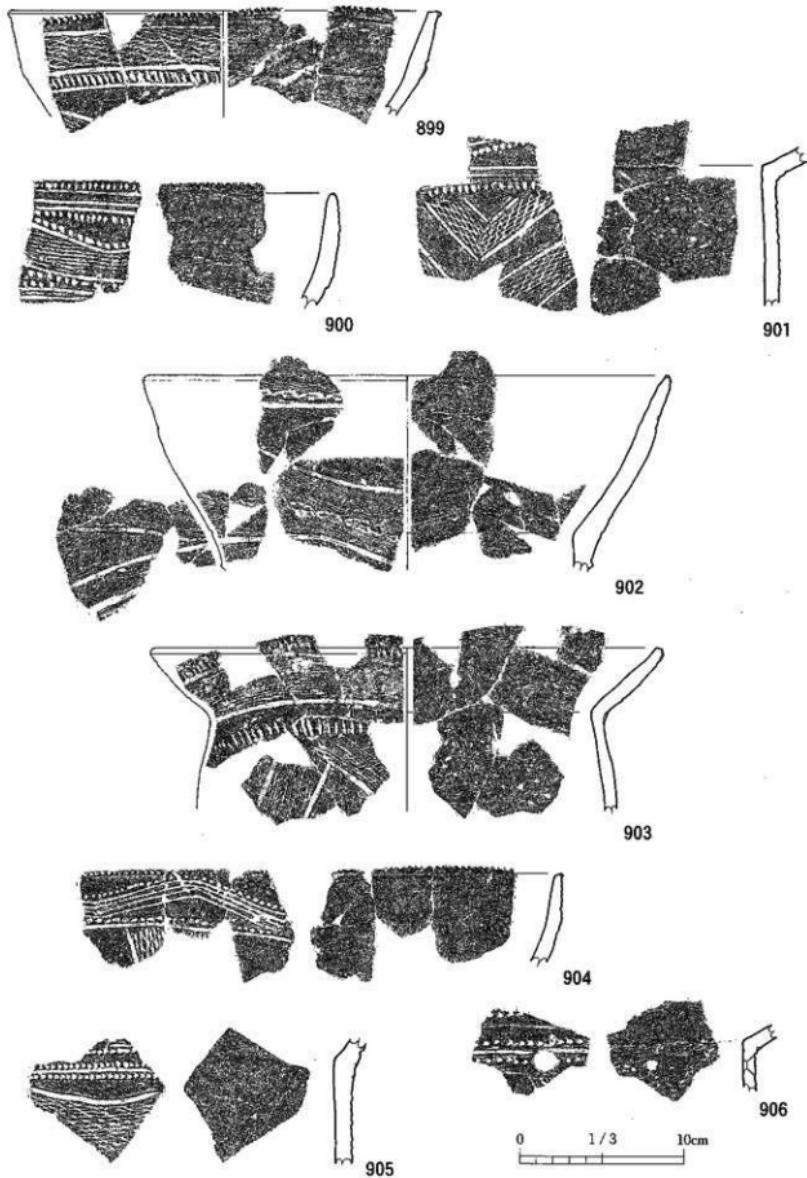
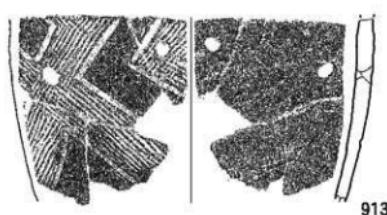
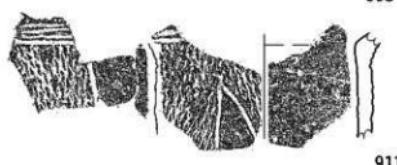
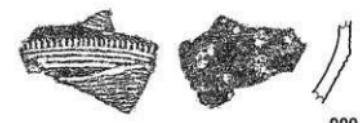
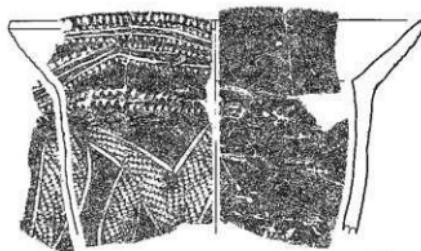
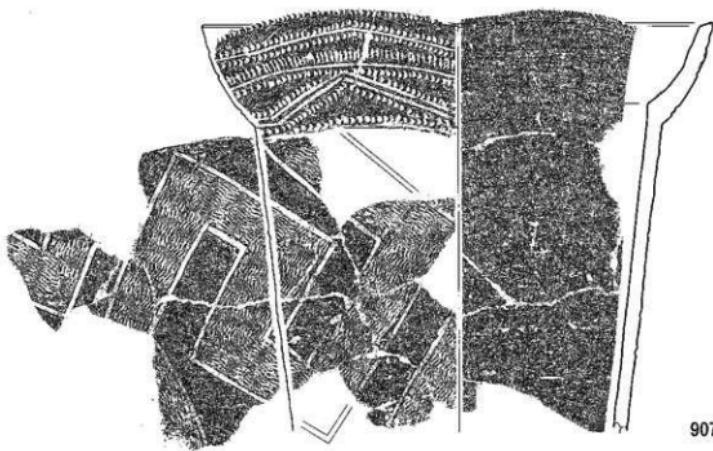


0 1/3 15cm

第106図 出土土器(7)

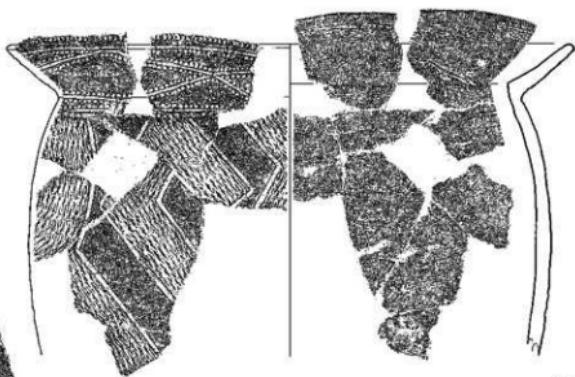


第107図 出土土器(74)

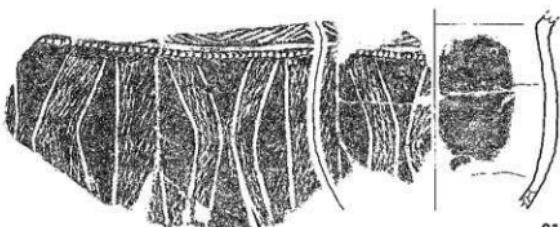


0 1/3 15cm

第108図 出土土器(7)



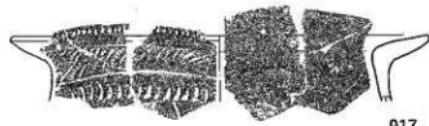
914



915



916



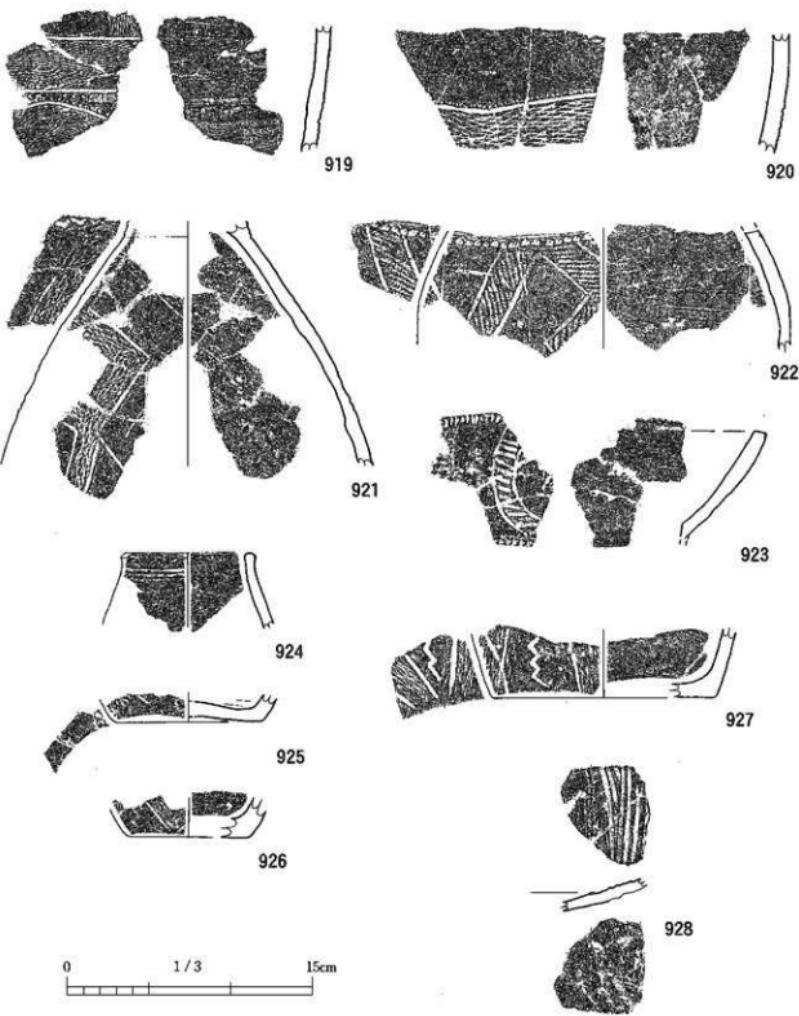
917



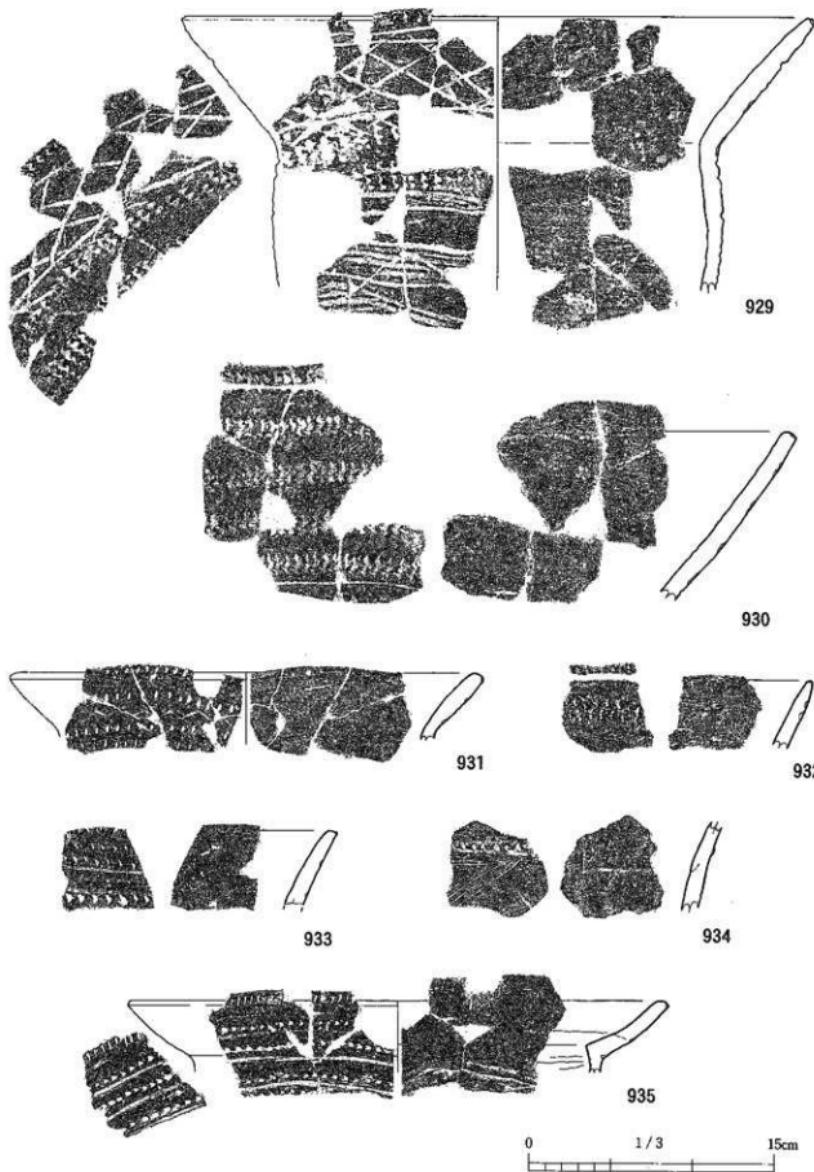
918

0      1 / 3      15cm

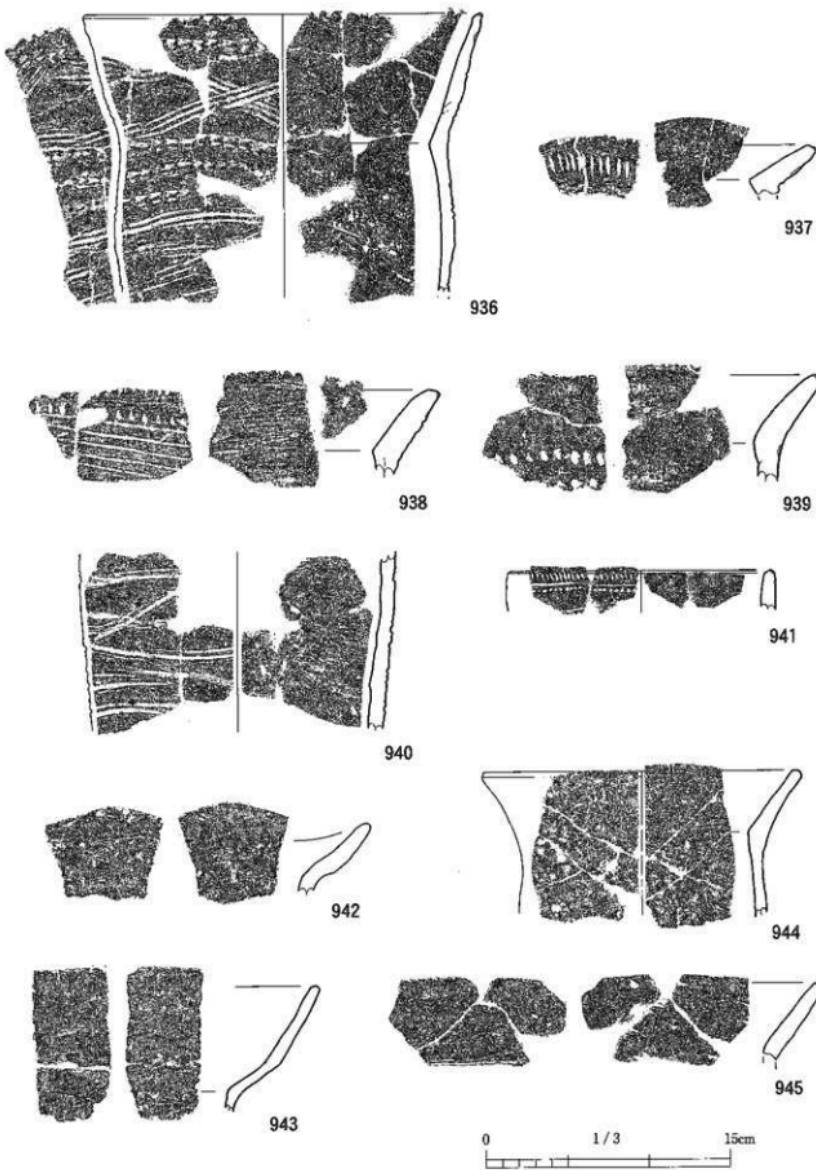
第109図 出土土器 76



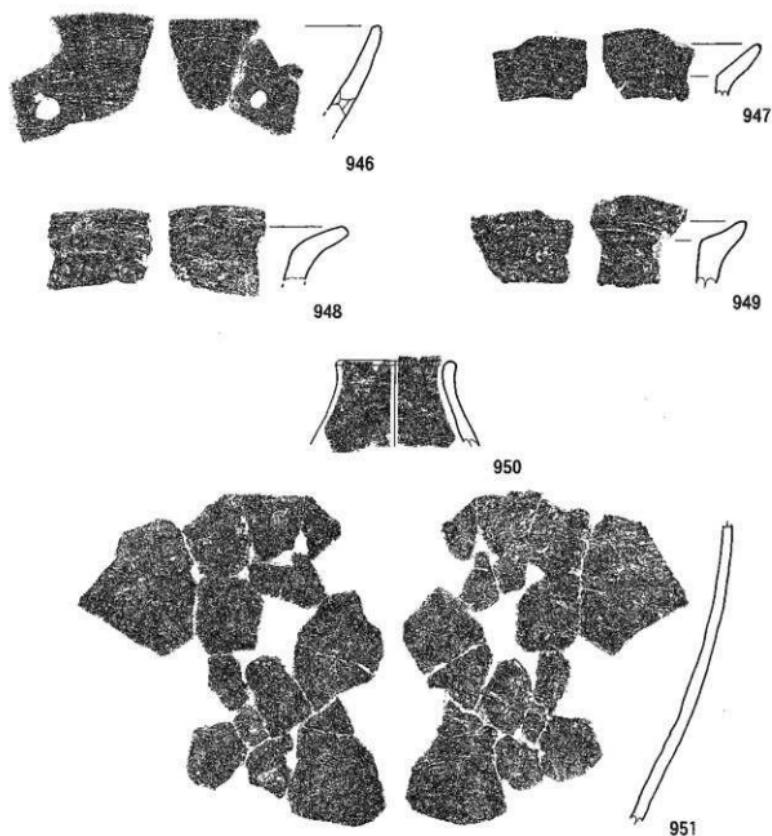
第110図 出土土器(刀)



第111図 出土土器 (7)

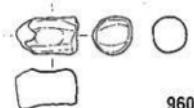
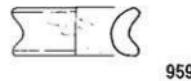
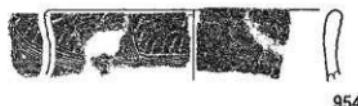
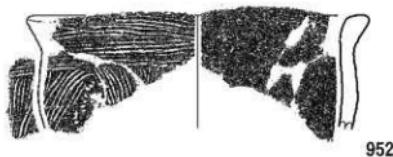


第112図 出土土器(7)



0      1 / 3      15cm

第113図 出土土器 (80)



0 1 / 3 10cm

第114図 出土土器(81)

表3 土器觀察表(2)

番号	出土地點	出土層	文様及び調整				色調	胎土	備考
			口唇部	外	内	外			
7	K・4	Ⅶ		貝殻条文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	¢4灰、黄灰、¢3黒銳光沢	
8	I・5	Ⅷ		貝殻腹縁压痕文、横形突帯	ナデ	橙	褐	微細陶灰光沢、微細浅黄橙、微細無色透明	
9	-	-		貝殻腹縁压痕文	ナデ	にぶい黄橙、にぶい黄	橙	¢3赤褐色、¢1黒銳光沢、¢1浅黄橙、微細無色透明	
10	L・10/11	Ⅷ		沈縫文	ナデ	橙	橙	¢2灰、黄灰、黒茶、微細無色透明、微細黒銳光沢	角筒形
11	-	c		貝殻条文、貝殻腹縁压痕文	ケズリ状ナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	¢1.5無色透明、¢1灰白、微細黑褐	角筒形
12	H・O	-		短沈縫文	ミガキ状ナデ	にぶい黄橙、褐灰	にぶい黄橙、灰黄褐	¢3褐鉄鉛、¢3白不透明、¢2無色透明	(外)黒変
13	-	-		貝殻腹縁压痕文、貝殻条文	ミガキ状ナデ	褐、にぶい黄橙	にぶい褐	¢3金雲母、¢2黄褐、¢2白不透明、¢1.5乳白	
14	A区	b'		短沈縫文	ミガキ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	¢3褐、¢1透明光沢、¢1黒光沢	
15	F・30	Ⅷ		貝殻腹縁压痕文、短沈縫文	丁寧なナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	¢3(やや黄)透明、¢1白、¢1青褐	
16	H・3	VI		短沈縫文	ミガキ状ナデ	明褐、灰褐	にぶい褐、黒褐	¢2黒銳光沢、¢2無色透明、¢2褐鉄鉛、¢1白不透明	(内)黒変
17	I・3	b'		貝殻腹縁压痕文、短沈縫文	丁寧なナデ	橙、灰黄褐	橙、黒褐	¢2白不透明、¢2無色透明	(外)黒変
18	H・3	b'		貝殻腹縁压痕文、短沈縫文	丁寧なナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐、黒褐	¢2.5薄褐、¢2.5白、¢2.5黒光沢	(内)黒変
19	A区	b'		貝殻腹縁压痕文、短沈縫文	ナデ	にぶい黄橙、明赤褐	にぶい黄橙	¢1白半透明、¢1黄味白、微細黒銳光沢	
20	H・2	-		貝殻腹縁压痕文、短沈縫文	ミガキ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	¢1白、¢1黄味白、微細黒銳光沢、無色透明、金光沢	(内)黒変
21	H・5	b		貝殻腹縁压痕文	丁寧なナデ	明赤褐	にぶい褐	¢2黒銳光沢、¢1白、¢2黄味	
22	I・4	Ⅷ		貝殻腹縁压痕文	ミガキ状ナデ	褐灰	灰黄褐	¢1灰白、微細黑褐	穿孔、(外)黒変
23	H・8	VI		貝殻腹縁压痕文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	¢1白、¢2白、¢2金雲母、¢2茶、黒銳光沢	
24	E・26	Ⅷ		撚工具(工具?)による压痕文	ナデ	橙	橙	¢2半透明光沢、¢2灰灰、¢2灰、¢2灰、¢2暗	
25	-	-		貝殻腹縁压痕文	丁寧なナデ	にぶい黄	暗灰黄	¢3金光沢、¢3褐、¢2褐灰不透明、¢1.5浅黄	
26	A区	b'		貝殻腹縁压痕文、短沈縫文	ミガキ状ナデ	褐	灰褐	¢3赤褐、¢2淡黄、¢2灰灰不透明、¢1.5灰白、¢1金光沢	
27	H・3	b'		貝殻腹縁压痕文、短沈縫文	ミガキ状ナデ	にぶい褐、灰褐	灰褐、褐	¢3.5金光沢、¢3.5明褐、¢3灰白、¢1浅褐、¢1赤褐	
28	A区	b'		貝殻腹縁压痕文(連点文状)	ミガキ状ナデ	褐	灰褐	¢1灰、¢1黄褐、¢1(黄都)不透明、¢1褐灰不透明、微細無色透明、微細金光沢	
29	H・3	VI		貝殻腹縁压痕文(連点文状)	ミガキ状ナデ	褐	褐	¢4褐灰、¢2半透明、明赤褐不透明、¢1金光沢	
30	H・3	b		貝殻腹縁压痕文(連点文状)	ナデ	にぶい褐	黑褐	¢3.5褐灰、¢3金雲母、¢2.5にぶい褐、¢1.5橙、¢1灰白	
31	H・6	Ⅷ		貝殻腹縁压痕文(連点文状)	工具ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	¢3灰、¢3褐灰、¢2褐、表面金色、微細透明、微細半透明、微細光沢	
32	F・30	Ⅷ		貝殻条文	丁寧なナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	¢7灰白、¢5灰黄褐、¢5にぶい黄褐、¢2.5光沢(カクセン石)、¢1ガラス質半透明、¢1黑褐	
33	M・4	Ⅷ	刻み	貝殻腹縁压痕文、ナデ	ナデ	にぶい黄褐	黑褐	¢2赤褐、¢1灰白、微細無色透明	
34	G・12/13	Ⅷ		条痕文	ナデ	浅黄褐	浅黄褐	¢2黄灰、¢2灰、¢2褐、微細透明、微細半透明光沢	(外)黒変
35	L・5	VI		条痕文、ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄褐、灰黄褐	灰	¢2白、¢2白半透明、¢2透	(内)黒変
36	L・5	VI		条痕文(工具?)	ナデ	灰黄	黄灰	¢1無色透明光沢、黒銳光沢	(外・内)黒変
37	D区	-		ナデ	ナデ	浅黄	にぶい黄褐	¢1黄灰、¢1灰白、¢1褐	
38	-	-		僅沈、赤色顔料か	ミガキ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	¢2褐、¢2灰、¢2灰灰	(外)黒変

表3 土器觀察表(3)

番号	出土地点	土層	文様及び調整				色調	胎土	備考
			口唇部	外	内	外			
39	I・8/J・9	VII	山形押型文の後ナデ	山形押型文	工具ナデ	にぶい橙	灰黄褐	△6白、△6薄褐	
40	L・7	VI b		山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙、黒褐	△1黒銳光沢、微細白不透明	
41	I・5	VII	山形押型文	山形押型文	山形押型文、列点文、ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙、黒褐	△1.5灰白、△1赤褐、微細黑褐	
42	J・2	b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄、黄灰	黄灰	△5墨、白半透明	
43	J・6	VI b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙、灰黄褐	にぶい黄橙、灰	△5.5灰白、△4灰、△2墨、△1黒光沢、△1無色透明	
44	I・2	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	橙、褐灰	橙、褐灰	△4.5橙、△2.5灰褐、△2黒級変	(外)黒変(内)黒變
45	L・7	VI b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙、灰	浅黄橙、暗灰黄	△3灰、△3褐、△3白半透明、△3墨鉛光沢、△3金色	
46	H・3	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	浅黄	にぶい黄橙	△3乳白、△3灰、△3茶、△3褐	穿孔、(内)黒變
47	I・4	VII	楕円押型文	楕円押型文	工具ナデ	にぶい黄橙、黒褐	にぶい黄橙、黒褐	△3褐、△2金雲母?、微細黄褐	(外)内黒變?
48	K・8	VII		楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、灰黄褐	△4灰、△4白、△3墨	
49	I・7	VI	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	明赤褐、褐灰	明褐、褐灰	△2明赤褐、△2灰褐、△1黒銳光沢	
50	L・5	VI b	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、楕円押型文	楕円押型文、工具ナデ	褐、黑褐	明褐、黑褐	△6淡黄、△5.5灰白、△5褐、△4黒鉛光沢、△3や黄半透明、△2灰灰	(内)黒變
51	A区	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	黄灰	にぶい黄橙	微細白	穿孔
52	J・7	VI b		楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい橙、黄灰	にぶい黄、黄灰	△5灰白、△5褐、△5白半透明	
53	L・4	VI b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	明黄褐	にぶい黄褐	微細黒銳光沢、微細白	
54	-	c	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	灰黄褐	明黄褐、灰	△2灰白、△1.5や黄半透明	(内)赤色顔料付着か
55	I・8	VI		楕円押型文	ナデ、指頭痕	にぶい黄橙、にぶい黄褐	にぶい橙、にぶい黄褐	△3灰白、△3赤褐、微細黒銳光沢、微細白	(外)黒變
56	D・24	VII		楕円押型文	短沈縫、ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△2赤褐、△1白半透明、微細黒	
57	I・8/9	VII	楕円押型文	ナデ	楕円押型文	にぶい橙	にぶい橙	△5白、△5墨、△2半透明、△2透明光沢	SIEの出土、穿孔
58	I・7	VI	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	明黄褐、にぶい黄橙	明黄褐、にぶい黄橙	△6淡黄、△4.5黄灰、△4灰白、△3.5明赤褐、△2金光沢雲母	
59	E・25	VII		山形押型文	山形押型文	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△3白、△3灰、△3墨觀光沢、△3白不透明	
60	F・25	VII		山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	△3白、△2白半透明、△1墨光沢、△1黄褐	63.99と同一個体か
61	I・7	VI	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	△1白銳光沢、△1黒銳光沢、△1褐、△1灰、△1墨	穿孔、(外)内黒變
62	F・26	VII	沈縫様キザミ	山形押型文	山形押型文	にぶい褐	褐	△4赤褐不透明、△2金光沢雲母、△2浅黄褐、△1白不透明	
63	D区	VI b		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	△4灰、△3白、△2透明、微細白	60.99と同一個体か
64	I・2	b		山形押型文	ミガキ状ナデ	にぶい黄橙、灰黄褐	明黄褐、黒褐	△4灰白、△4にぶい黄橙不透明、△3灰白不透明、△2褐、△1墨	(外)内黒變
65	I・4	b		ナデ、楕円押型文	ヘラ状工具による丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄、にぶい黄褐	△7暗赤褐、△1白色透明、△1白半透明、微細黒銳光沢	
66	L・5	VI b	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文	暗灰黄	浅黄	△2白、△2墨、△2褐、△1白不透明	(外)内黒變
67	H・9	VI		山形押型文	山形押型文、ナデ、ケズリ	明赤褐、橙	橙	△1.5灰褐、△1.5白半透明、微細黑褐	
68	I・6	VII	楕円押型文	楕円押型文	ヘラ状工具による丁寧なナデ	浅黄、暗灰黄	浅黄、にぶい黄橙	△2白半透明、△2白不透明	
69	K・6	VII	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文	にぶい褐	にぶい黄褐	△3白、△3墨、△3白半透明、△3墨觀光沢	
70	G・25	VII		楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ヘラ状工具による丁寧なナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	△5褐、△2無色透明、△1墨觀光沢	
71	G・6	VII	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文	にぶい黄褐	にぶい黄	△3.5白、△3.5灰、△3.5黒鉛光沢、△3.5白半透明	
72	-	c	山形押型文	山形押型文	工具ナデ	明赤褐、橙	褐褐、明褐	△6褐灰不透明、△6無色透明、△2.5黄褐、△2赤褐、△1黒銳光沢	

表3 土器観察表(4)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整				色調	胎土	備考
			口唇部	外	内	外			
73	N・8	VII	山形押型文	山形押型文	山形押型文	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△7白、△6褐、△2黒鏡光沢、無透明	
74	—	b		山形押型文	山形押型文、ナデ	褐灰	灰黄褐	△1.5灰白、微細黒褐	
75	K・6	VII	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	浅黄	△7白、△4灰、△3半透明、△3透明光沢、△3黒光沢	SI42内出土
76	E・27	VII		山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	△4灰、△3透明、△1黑、微細黑	
77	I・5	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙、にぶい褐	にぶい黄褐	△5灰、△3黄褐、△3半透明光沢、微細黒、微細白、微細赤褐	178と同一個体か、穿孔、(外)黒変
78	I・4	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	暗灰黄	にぶい黄橙	△4灰褐、△2半透明、△1乳白	
79	M・4	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文	にぶい褐	にぶい褐	△1乳白、微細金光沢	
80	J・5	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、丁草ナデ	黄褐、黒褐	にぶい黄橙、黒	△2褐、微細白不透明、微細黒透明光沢 (外・内) 黑斑、穿孔	
81	I・3	b		楕円押型文	楕円押型文、ナデ	暗灰黄	にぶい黄	△2褐、微細黄褐、微細黒光沢 (外・内) 黑変	
82	A区	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△4灰、△2灰、△2褐、△2黒、△2透明	(外・内) 黑変
83	K・4	VII b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文	にぶい黄	黑褐	△3赤褐、褐、△1白～乳白	
84	M・6	VII	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△7褐、△7灰、△7黄褐、△7黒、微細銀光沢	穿孔、(外) 黑変、(内) 黑斑?
85	E・25	VII b		山形押型文	山形押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	黑、灰、黒鏡光沢	
86	E・25	VII		山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい褐、にぶい黄橙	にぶい赤褐、褐灰	△1無色透明、微細黒鏡光沢、微細乳白	
87	G・26	VII		山形押型文	燈芯模様、山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△4白、△4灰、△4黒鏡光沢、△4白不透明	
88	A区	VII	山形押型文	山形押型文	山形押型文、丁草ナデ	黄褐、黒褐	にぶい黄、明黄褐	△灰、△乳白、△透明、△透明、△透明	
89	D・26	VII		山形押型文	山形押型文、山形押型文、ケズリ状ナデ	浅黄、にぶい橙	浅黄	△3褐、△3黄褐、△2灰、△2透明、△2半透明	
90	L・5	VII b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	暗灰黄、にぶい黄褐、褐灰	黄褐、黄灰、△3黄褐不透明、△3透明	△金光澤、△3黄褐不透明、△3透明	
91	H・7	VII	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙、にぶい橙	にぶい黄、△1.5白半透明、△3黄褐、△1.5白透明光沢	△4.5白半透明、△4.5黄透明、△1黑鏡光沢	
92	M・5	VII b	山形押型文	山形押型文の後ナデ	山形押型文、ケズリ状ナデ	橙	橙	△3金色鱗片状、△2灰、△2黄灰、△2褐	
93	L・8	VII b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△2.5白、△2.5う褐、△2.5金色	
94	I・6	VII b	山形押型文	山形押型文	山形押型文の後、山形押型文、ナデ、山形押型文	にぶい黄褐、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐、暗灰黄	△3.5白、△3.5黄褐不透明、△1金光澤	
95	L・8	VII b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	暗灰黄	△2.5白、△2.5金色	
96	E・26	VII		山形押型文	ナデ	浅黄	にぶい黄	△2灰白、微細灰褐	
97	F・25	VII		山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△5灰、△5褐、△5白不透明、△5黒鏡光沢	
98	J・5	VII	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	△6白、△3.5黑、△3.5白不透明、△3.5透明光沢	
99	E・25	VII		山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	△5灰、△4白、△2乳白、△2半透明、△2透明	60.6と同一個体か
100	G・14	VII		山形押型文	ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	△淡黄、△淡紫、△2明紫、△1.5紫光沢、△1.5にぶい紫不透明、△2黒鏡光沢	
101	J・4	VII	杉葉文	杉葉文	杉葉文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい橙	△1灰白、微細赤褐、微細黒褐	
102	K・4	VII b	沈線状刻み	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐、にぶい黄橙	△2黄褐、△2浅黄褐、△1灰白不透明、△1金光澤	
103	L・5	VII b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	灰黄褐、にぶい橙	灰黄褐	△4灰褐、△2金色鱗片状、△1灰白	
104	I・10	VII	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△5.5白、△3透明光沢	
105	L・5	VII b		山形押型文	ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい褐	明褐、褐灰	△1黒鏡光沢、△1.5白半透明、微細灰褐	
106	K・5	VII	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△1灰白、微細黒褐	
107	L・7	VII b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	△1薄褐、△1.5透明光沢	
108	K・4	VII	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙、△4.5白、△4.5黒光沢、△4.5金色		

表3 土器観察表(5)

番号	出土地点	出土層	文様及び調査			色調	胎土	備考	
			口唇部	外	内				
109	O・5	VII	山形押型文 ナデ、山形押型文	山形押型文、 ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい橙	△25白、△25灰、△25赤褐、△1金光沢 黒基、△1白半透明、△1やや青透明	(内)黒変	
110	M・4	VI b	ナデ、山形押型文	ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△55白半透明、△3赤褐、△1墨脱光沢		
111	I・6	VII	山形押型文	山形押型文、 ケズリ状ナデ	暗灰黄、 黒褐	黒	△5.5にぶい黄褐、△4褐灰、 △3にぶい橙		
112	M・7	VII	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい褐	にぶい橙	△赤褐、△25白、△25灰、△1金光沢 母		
113	K/L・5	VII		山形押型文の後ナデ 山形押型文の後ナデ	山形押型文の後ナデ 山形押型文の後ナデ	にぶい黄橙	△3.5灰白、△3灰、△3褐、 △2.5白不透明、△1黒脱光沢	SI37内出土	
114	K・5	VII	短沈線文	山形押型文、ナデ	山形押型文、ナデ	にぶい橙	△3.5黑、△3.5薄褐、△3.5白透明		
115	F・27	VII	列点文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄、黄灰	△3褐、△2淡黄、△1橙、△1金光沢 母		
116	-	VII	山形押型文	山形押型文、 ケズリ状ナデ	褐灰	褐灰	△2赤褐、△1褐		
117	I・7	VI	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐、 黄褐	△2赤褐、△1黒脱光沢、微細黒～黒褐		
118	M・5	VII	山形押型文	ナデ	山形押型文、 ケズリ状ナデ	暗灰黄、 黄灰	にぶい黄橙 △1.5白不透明、微細灰		
119	L・4	VI b		ナデ	山形押型文、ナデ	褐灰	△1灰白		
120	H・3	b	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄橙	浅黄褐、褐灰	△3灰、△3白、△1墨脱光沢、△1色透明		
121	-	VI b	山形押型文	山形押型文、 ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△3灰、△3白、△3透明光沢、 △3金色	穿孔	
122	I・7	VII		山形押型文	ナデ、ケズリ状ナデ	褐褐、灰褐	△3褐、△2.5にぶい灰、△1.5灰、△1金光沢母		
123	J・8	VI	山形押型文	ナデ、山形押型文	菱目状山形押型文、 ケズリ状ナデ	にぶい黄、 黄灰	△2.5白、△1黒脱光沢、微細 白不透明	124と同一個 体か	
124	J・8	VI	山形押型文	ナデ、山形押型文	菱目状山形押型文、 ケズリ状ナデ	にぶい黄褐、 灰黄褐	△3灰白不透明、△2黄褐、 △1淡褐、微細無色透明		
125	I・8	VII	短沈線文	山形押型文、 ナデ	褐	褐、黄褐	△4黄褐、△3橙、△1.5白半透明、 △1墨脱光沢、△1褐不透明	384と同一個 体か	
126	L・4	VI b	山形押型文	山形押型文	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△2.5白、△2.5灰、△2.5金色		
127	L・7	VI b	山形押型文	ナデ	山形押型文、ナデ	にぶい橙	明黄褐	△25黑、△2白透明、△1黑褐、微細灰白	
128	K・7	VII	山形押型文	山形押型文	にぶい黄橙	にぶい黄橙、 暗灰黄	△3黄白、△1.5無色透明、 △1褐、微細黒脱光沢		
129	J・9	VI	山形押型文	ナデ	山形押型文、 ケズリ状ナデ	にぶい褐	褐灰、 にぶい黄橙	△1灰白、△3赤褐、△1灰白	
130	L・7	VI b	山形押型文	山形押型文	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△3灰白、△1.5無色透明、 △1.5黑褐		
131	J・7	VI	山形押型文	ナデ	山形押型文	にぶい褐	△1.5白、△1.5黑脱光沢	穿孔	
132	L・5	VI b	山形押型文	山形押型文	褐灰	灰褐	△2赤褐、△1.5黑半透明、△1灰白		
133	I・8	VI	山形押型文	山形押型文	にぶい黄褐	明赤褐	△2白半透明、△1赤褐、△1灰白、微細 褐		
134	K・4	VII	山形押型文	山形押型文	にぶい褐	暗褐	△1黒脱光沢、△1墨脱光沢、△1白透明		
135	G・4	b	山形押型文	山形押型文、 ナデ	橙	橙	△4金色鱗片状、△3黄灰、 △3褐、△3乳白	(外・内)黒変	
136	-	a	短沈線文	山形押型文	にぶい橙	にぶい黄橙	△3褐、△3白、△3金色鱗片状		
137	K・9	VII	山形押型文	山形押型文	浅黄褐	明黄褐	△2灰白、△2墨脱光沢、△1淡黄、△1灰白	確認3付近	
138	-	-	山形押型文	ナデ、山形押型文	にぶい褐	にぶい黄褐	△7褐、△1無色透明、△1白、 微細黒脱光沢		
139	H/I・8	VII	山形押型文	ナデ	山形押型文	褐	△2灰白、△2.5無色透明、微細無色透明、 △2墨脱光沢	SI64出土(外)黒変	
140	H・3	VI	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	灰黄褐、にぶい黄	△3.5白、△3.5黒脱光沢	SI28内出土	
141	H・7	VI	山形押型文	ナデ	山形押型文、 ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい橙	△2白、△2褐、△2金色	
142	H・10	VI	山形押型文	山形押型文	にぶい黄褐	橙	△4.5灰、△4.5白、△4.5薄褐、△2.5半透明、 △2.5白不透明、△2.5墨脱光沢		
143	M・5	VI b	山形押型文	山形押型文	ナデ	にぶい赤褐	灰褐褐、にぶい黄褐	△2.5黑、△1.5灰白、△1黑褐	
144	-	b	山形押型文	山形押型文、丁寧なナデ	にぶい黄橙	明黄褐、暗灰黄	△4灰白、△2暗褐、△1褐灰白		

表3 土器観察表(6)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口部部	外	内	外	内		
145 N・6	■	山形押型文	山形押型文	山形押型文	明褐色、灰褐色	明褐色、褐灰色	△3明赤褐色、△3暗赤褐色、△3にぶい黄褐色、△1黒銅光沢		
146 J・6	VI b	山形押型文	山形押型文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△4赤褐色、△2黒銅光沢、△2灰褐色、△2透明	(外・内) 黒度、穿孔	
147 H・7	VI	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	黄褐色、灰褐色	にぶい黄褐色	△5褐色、△2白、△2褐色、△2灰褐色、△2黒銅光沢		
148 L・6	VI b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△3赤褐色、△1.5白半透明、△1灰白色		
149 K・8	VI b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐色	褐色、灰褐色	△9浅黄褐色、△3淡黄褐色不透明、△3明黄褐色、△2灰褐色不透明		
150 L・7	VI b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ?	灰黄褐色、褐灰色	黑	△5明褐色、△5透黃褐色、△2にぶい黄褐色		
151 L・6	■	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	褐灰色	にぶい褐色	△3灰白色、△2半透明、△1.5赤褐色		
152 L・5	VI b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、短沈継文、ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△1.5褐色、微細黒褐色、微細灰白色		
153 N・5	VI b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	橙、黒褐色	橙、黒褐色	△4褐色、△3浅黄褐色、△3灰白色半透明、△2黒銅光沢、△2赤褐色、△2無色透明		
154 M・7	■	山形押型文	山形押型文	ナデ、ケズリ状ナデ	橙	にぶい橙	△2金色鱗片状、△1灰褐色、△1半透明		
155 J・5	■	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	△6赤褐色、△1.5灰白色、微細赤褐色		
156 J・4	VI	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△2灰白色、△2褐色、△0.5金色鱗片状、△0.5浅黄褐色		
157 K・10	■	山形押型文	丁寧なナデ	山形押型文、ケズリ状ナデ?	にぶい橙	にぶい橙	△2褐色、△2黒銅光沢、△1無色透明、微細白、微細紅、微細赤褐色		
158 M・7	■	山形押型文	ナデ、山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	△6赤褐色、微細無色透明、微細黒銅光沢、微細灰白色		
159 K・11	■	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい褐色	△2深褐色、△2浅黄褐色、△2微細白半透明		
160 I・7	VI b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△4白、△4灰褐色、△4透明白、△4透明光沢、△4白半透明、△4黒銅光沢		
161 J・5	■	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△4.5薄褐色、△2.5白	穿孔	
162 H・4	b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐色、にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△3白、微細透明光沢		
163 L・9	■	山形押型文	ナデ	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐色、褐灰色	にぶい黄褐色、褐灰色	△4透明白、△2深褐色、△2浅黄褐色不透明	宋貴通穿孔	
164 N・5	VI b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△3灰白色、△1無色透明、微細黒銅光沢		
165 M・5	VI b	山形押型文	ナデ	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色	黄褐色	△1白、微細金色鱗片状		
166 A区	b	山形押型文	山形押型文、ナデ	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色、暗灰褐色、明黄色	△4にぶい黄褐色、△3灰褐色		
167 H・6	VI	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	灰褐色	浅黄褐色	△5灰白色、△2無色透明、微細黒銅光沢		
168 L・G	VI b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△9褐色、△6褐色		
169 J・8	VI	山形押型文	山形押型文、ナデ	山形押型文、ナデ	褐灰色、にぶい黄褐色	灰褐色	△2黒銅光沢、△1灰白色、△1灰褐色、微細黒褐色		
170 L・4	■	山形押型文	山形押型文	山形押型文、丁寧なナデ	明褐色、灰褐色	灰褐色、黑褐色	△5透明白、△2褐色、△1金屬露澤、△1褐色		
171 L・7	VI b	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△3金色鱗片状、△2灰白色、△2灰褐色、△2褐色		
172 H・8	■	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	灰褐色	灰褐色	△3白、△3灰褐色、△2透明白、△2金色鱗片状	機群4行近	
173 J・5	VI	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色	灰褐色	△2灰褐色、△1黄褐色、△1无色透明		
174 L・5	VI b	楕円押型文	楕円押型文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい橙	△1白透明白、△2深褐色、△2浅黄褐色、△1无色透明		
175 H/I・8	■	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ、指標付き	にぶい褐色	褐灰色	△5灰白色、△3にぶい橙、△1黒銅光沢、△1微細新色透明	SI64内出土、(外・内) 黑度	
176 I・3		山形押型文	ナデ	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐色、灰褐色	にぶい橙	△4白、△4薄褐色、△4灰白色、△4金色		
177 A区	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	灰褐色、黑褐色	橙、灰褐色	△9黄褐色、△2黒銅光沢、△2やや黄透明、△2白透明、△1赤褐色		
178 K・4	■	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色、黄褐色	△4灰白色、△2白、△2半透明光沢、△1赤褐色	77と同一舊名か、(外) 黑度、(内) 黑度	
179 N・6	VI	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい橙	褐灰色	微細白、微細金色、微細黒銅光沢		
180 A区	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文の後ナデ、ナデ	にぶい褐色	灰褐色	微細白、微細金色、微細黒銅光沢	穿孔	

表3 土器觀察表(7)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
181	I・8/9	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	楕	にぶい黄橙	φ3白、微細白半透明	
182	K・5	VII	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、工具ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙、黒褐	φ3黒褐、φ3白、φ1白純光沢	(内)黒変
183	M・4	VI b	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐、にぶい黄	にぶい褐、にぶい黄	φ3無色透明、φ3白不透明、φ2金色鱗片状	(外・内)黒斑、穿孔
184	K・4	VI	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	暗灰黄	灰黄褐	φ3やや灰白、白半透明、やや黄透明	
185	K・6	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	暗褐	暗褐、にぶい黄	φ3茶褐、φ3乳白、微細黒混光沢	
186	J・6	-	楕円押型文	楕円押型文の後 の後ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい粉、黄灰、灰黄	灰黄、にぶい粉、 楕、灰黄褐	φ6浅黄、φ5灰白、φ3.5 淡褐、φ3明赤褐	SI79内出土
187	H・8	VII	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2.5淡黄、φ2灰白、φ1や や黄透明	
188	H・8	VII	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	黑褐	黑褐	φ2黑、φ1金色鱗片状、微細 白~乳白	SI57内出土
189	H・4	b	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文	明黄褐、褐灰	明黄褐、橙	φ3C、にぶい黄褐、φ2浅黄	
190	H/I・8	VII	達哉押型文	ナデ	楕円押型文、ナデ	暗褐、暗褐	暗褐、にぶい黄	φ3白、φ2純光沢、φ2白、 φ2透光沢	SI64内出土、(外)黒変
191	D・25	VII	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	φ2無色透明、φ1褐、微細墨	
192	I・7	VII	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、 ケズリ状ナデ	暗灰黄	にぶい黄	φ2金光沢、φ2黒光沢、 φ2灰黄、φ2灰	SI81内出土、 (外・内)黒変
193	L・8	VI	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、 ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ5白、φ2金色(黒雲母)、 φ1白、φ1褐	(内)黒変
194	K・9	VII	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、 ケズリ状ナデ、ナデ	明赤褐、 明黄褐	明赤褐、 にぶい橙	φ4黄褐、φ3半透明光沢、 φ2黑、微細赤褐	SI50内出土
195	K・6	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、工具ナデ	暗灰褐、にぶい黄	にぶい黄褐	φ4半透明、φ4透光沢、φ4深、 φ3透	穿孔
196	N・4	VI b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、 ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	明褐	φ3.5灰、φ3.5褐、φ3.5白不 透明、φ3.5金色	
197	L・4	VI b	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、 ケズリ状ナデ	暗灰黄	暗灰黄、 にぶい褐	φ4灰白、φ2.5白不透明、 φ2褐色鱗片状	
198	-	-	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、 ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ2白、φ2金色	粘土紐接合部 が観察可
199	D・6	VII	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、 ケズリ状ナデ	灰褐	にぶい褐	φ4赤褐、褐灰、φ1灰白	
200	K・4	VII	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、 ケズリ状ナデ	にぶい黄	にぶい黄	φ3白、φ1黄褐、微細金雲母?	
201	J・4	VII	ナデ、楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐、黒	φ4褐、φ2赤褐、φ2光沢、φ1黄褐	(内)黒変?
202	K・8	VI b	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、 ケズリ状ナデ	暗灰黄	黄褐、暗灰黄	φ3黑透明、φ1.5黄味、 φ1.5褐、φ1金色	
203	L・5	VI b	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ナデ、 ケズリ状ナデ	にぶい黄褐、 黒褐	明赤褐	φ2灰白、φ2白不透明、 φ1.5無色透明、φ1黒混光沢	262と同一か、 (外)黒変
204	J・7	VI	楕円押型文	楕円押型文	ケズリ状ナデ	明黄褐、褐灰	明黄褐、 にぶい黄褐、 黄褐、暗灰黄	φ3浅黄褐、φ2褐灰、φ1白半透 明、φ1黒混光沢、φ1.5黄褐	(外)黒変
205	L・5	VI b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、 工具ナデ	橙	明黄褐	φ3無色光沢、φ2白不透明、 φ1黒混光沢、φ1.5白	
206	M・6	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、工具ナデ	淡黄	淡黄	φ6白不透明、φ3黑、φ3灰	SI40内出土
207	M・4	VII a	楕円押型文	ナデ	楕円押型文	にぶい黄褐	にぶい褐	φ3深、φ3浅、 微細紅色、 微細灰	(外)黒変
208	I・8	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナ デ、ケズリ状ナデ	にぶい黄、 にぶい黄	にぶい黄褐	φ3黄、φ1やや黄透明、 φ1にぶい黄褐	
209	I・5	VI	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナ ナ	にぶい黄	橙	φ3透、 φ3透、 φ3透、 φ3透	(内)黒変
210	M・6	VI a	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、 ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	φ5灰白、φ5褐灰、φ5暗褐、 φ2無色透明、微細墨	
211	H・11	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、 ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ4金光沢、φ4白純光沢、 φ3茶褐、φ1黄褐	(内)黒変?
212	I・7	VI	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナ デ、ケズリ状ナデ	橙	にぶい黄褐	φ8灰白、φ8薄褐、φ3白半 透明、φ3黑	(外)赤彩か?
213	K・6	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、 ケズリ状ナデ	暗灰黄	暗灰黄	φ2金色鱗片状、φ2黄灰、 φ2褐、φ2灰	SI42内出土、 (内)黒変

表3 土器觀察表(8)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
214	L・8	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	褐、灰褐	明褐色、 において褐色	△3にぶい褐、△2黒鏡光沢、 △2にぶい黄褐、△1黄橙	
215	H・9	VI	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	橙	において橙	△4灰白、△2白半透明、 △1黄褐	
216	M・5	VI b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	において黄橙	において黄橙	△3灰、△3灰白、△3金色	
217	I・4	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	灰黄褐	において黄褐	△3白、△2白半透明、△1灰	
218	K・6	VII	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	黄灰	において黄橙	△3灰白、△1.5やや黄透明、△1.5 黒鏡光沢、△1白半透明、△1黑褐	(内)黒変
219	-	VI a	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	において褐	において褐	△2白不透明、△2赤褐、△1.5 白半透明、△1.5金色鱗片状	
220	L・7	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	明赤褐	オリーブ黒	△2透明光沢、△2金色	
221	D・25	VI b	山形押型文 (連珠文様)	山形押型文 (連珠文様)	ケズリ状ナデ	において褐	灰褐	△4黄白、△2.5金色鱗片状、 △1.5黒鏡光沢、△1無色透明	
222	I・5	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	において褐	において褐	△3灰色、△2.5白	
223	H・4	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	において黄褐	において黄褐	△3黒褐色光沢、△2黄褐、 △1黒鏡光沢、△1無色透明	
224	I・7	VI	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	灰黄、灰	において黄橙	△2白不透明、△1.5黄橙、△1.5金色 鱗片状、△1.5白半透明、△1.5赤褐	
225	M・8	VII	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	橙、灰	において褐	△3白不透明、△3灰白、△2金色鱗片状	
226	H・7	VI	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、楕円押型文	ケズリ状ナデ	において黄褐	において黄	△3灰、△2金雲母、△2黄褐	
227	L・7	VI b	楕円押型文	ナデ	明褐	明褐	△4灰白、△1赤褐、△1微細白~半透明		
228	K・8	VI	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	において黄褐	において黄褐	△4褐色、△2無色透明、 △1黄褐	
229	K・7	VII	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	において黄褐	において黄褐	△5褐、△5乳白、△5黄灰、 △1無色透明	(内)黒変
230	M・5	VI b	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	において黄褐	において黄褐	△51、△1白半透明、△1微細黑、 △1微細赤褐		
231	J・6	VII	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	において褐	において褐	△2褐、△2黄灰、△1金色鱗片状、 △1無色透明	(外)黒変
232	K・4	VI	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	において黄	において黄	△2金色鱗片状、△2黒鏡光沢、 △2黄灰、△2灰、△1無色透明	
233	H・4	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	において黄褐	において黄褐	△2灰、△2黄灰、△1.2灰、△1.2灰、 △1微細白半透明、△1微細黒鏡光沢	(口唇)黒変
234	L・4	VII	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	において黄褐	灰黄褐	△2.5灰褐、△2黄灰、△1.5白 半透明、△1.5薄金光沢	
235	J・5	VII	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	灰黄褐	において黄褐	△2白、△2白半透明	
236	L・7	VI a	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	において黄褐	暗灰黄	△2.5黒褐、△2白不透明、 △1金色鱗片状、△1赤褐色鱗片状	
237	K・5	VII	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	において黄褐	において黄褐	△2灰、△2黄灰、△2褐、△1微細白半透明	(外)黒変
238	E・26	VII	山形押型文 (連珠文様)	山形押型文 (連珠文様)、ナデ	山形押型文、ナデ	浅黄、 灰オーライ	浅黄、 灰オーライ	△5白、△5黄灰、△2黒鏡光沢、 △1半透明	
239	K・9	VII	楕円押型文	楕円押型文の後 ナデ、楕円押型文	楕円押型文、 ケズリ状ナデ	灰黄褐	において褐	△3白、△3乳白、△3透明光沢、 △3金色	SI50内出土
240	K・8	VI b		ナデ	山形押型文、 ケズリ状ナデ	灰褐	灰黄褐	△3白、△3灰、△3黒鏡光沢、 △3不透明	
241	D・4	-	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、 ケズリ状ナデ	黄褐	暗灰黄	△2金光沢、△1微細白	
242	J・2	VI	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ	において黄褐	において黄褐	△2白半透明、△2無色透明、△2黒鏡光沢、 △2褐	SE25社、伊弉諾
243	E・26	VII	山形押型文 (連珠文様)	山形押型文 (連珠文様)、ナデ	山形押型文、 ナデ	浅黄	において黄	△3白、△3半透明	
244	K・9	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文	において黄褐	△4褐、△4白半透明、△1光沢、△1微細白	(外)黒変	

表3 土器観察表(9)

番号	出土地点	出土層	文様及び調査				色 調	胎 土	備 考
			口唇部	外	内	外			
245	J・5	VI	短沈線文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色	にぶい褐	φ2赤褐色、φ2白、φ2白半透明、φ2金色	
246	I・10	VI b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ?	にぶい橙	橙	φ3乳白、φ2透明、φ2褐色、φ2黑色	
247	D・4	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	黄橙	にぶい黄橙	φ15無色透明、φ1褐、φ1黒褐色	
248	J/K・8	VI	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	淡黃	にぶい黄褐色	φ1白、φ1褐色、φ1白色、φ1透明、φ1黑色	SI101内出土
249	L・7	VI b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい橙	灰黄褐色	φ15乳白、φ1半透明、微細黒褐色	
250	L・5	VII	短沈線文	ナデ、沈線文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	橙、黒褐色	にぶい褐、黒	φ4黒褐色光沢、φ4白半透明、φ4金色、φ4白、φ4赤褐色	(内) 黑変
251	J・7	VII	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐色	φ3白、φ3褐、φ3金色	
252	K・4	VIII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	灰褐色、褐灰色	にぶい赤褐色	φ3乳白、φ2透明、φ2不透明、φ15透明、φ15黑色	(内) 黑変
253	I・4	-	ナデ、楕円押型文	丁寧ナデ、工具ナデ	にぶい橙	橙、黒褐色	φ7褐色、φ3無色透明、微細黒褐色光沢		
254	N・5	VI b	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	楕円押型文	灰黄褐色	にぶい褐	φ4-5赤褐色白透明、φ1黄味、微細灰	
255	L・5	VI b	ナデ、楕円押型文	耐熱性ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄	φ2白乳光沢、φ2光沢、φ2白	(内) 黑変	
256	M・7	VI b	ナデ	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	黄褐色	黄褐色	φ3黑半透明、φ2.5金色鱗片状、φ1白	
257	I・9	VII	楕円押型文	ナデ	楕円押型文	にぶい橙	にぶい橙	φ1透明光沢、微細白	SI169内出土
258	K・7	VII	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	橙	にぶい橙	φ3黒褐色、φ2無色透明	
259	J・6	VI b	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、工具ナデ	にぶい褐	橙	φ3.5白、φ3.5灰、φ3.5薄褐色	穿孔
260	K・6	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	暗灰黄	浅黄	φ38、φ35、φ35、φ15透明、φ15黑色	
261	M・7	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ4薄褐色、微細白、白半透明	穿孔
262	L・5	VI b	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色、黒褐色	にぶい褐、暗褐色	φ2灰白、φ2白不透明、φ1黑褐色光沢、φ1無色透明	(外) 黑変	
263	H・7	VII	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	楕円押型文	灰黄褐色	にぶい黄褐色	φ2金色鱗片状、φ2灰白、φ2褐	(内) 黑変
264	N・4	VI b	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	浅黄	浅黄	φ2黑、φ2灰、φ2黄褐色、微細白半透明	(内) 黑変
265	K・5	VII	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	明赤褐色	明赤褐色	φ3白、φ2透明、φ2酒紅、φ15透明	
266	L・9	VI b	楕円押型文	枝回転文、ナデ	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2黄褐色、φ2茶、φ2褐、微細黑色透明	(外・内) 黑変
267	N・5	VII	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	黄褐色	褐	φ1灰、φ1黄褐色、微細透明光	(外・内) 黑変
268	F・24	VII	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	にぶい赤褐色	にぶい橙	φ5灰白、微細灰、微細黒、微細光沢	
269	I・7	VI	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	褐	黑褐色	微細無色透明、微細白	
270	M・4	VI b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	灰黄褐色	にぶい黄橙	φ3乳白、φ3灰、φ3褐、φ1白	
271	I・4	b	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	暗灰黄	φ3灰白、φ2金色鱗片状	
272	L・5	VI b	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	黑褐色	浅黄	φ1黑褐色光沢、微細白	
273	K・4	VI	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	褐	褐	微細灰白、微細無色透明	
274	J・9	VII	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	暗灰黄	にぶい黄、暗灰黄	φ2灰白、φ1浅黄褐色、微細無色透明	
275	L・7	VI b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	φ5.5灰白、φ1.5灰、φ1.5赤褐色、φ0.5無色透明	(外) 黑変
276	H・7	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ8褐、φ8茶、φ8灰	(外) 黑変
277	H/K・5	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ?	赤褐色	明赤褐色	φ2無色透明、φ2赤褐色、φ1白半透明、φ1灰白	
278	K・9	VI b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	橙	φ2灰白不透明、φ1黄、φ1赤褐色	
279	M・5	VI b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄褐色、黑	にぶい黄褐色	φ8黄褐色、φ3白、微細黒褐色光沢	(内) 黑変
280	I・2	b	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	φ4灰褐色、φ4褐色、φ2褐、φ1黄褐色、φ1やや黄褐色光沢	
281	K・2	VI b	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	楕円押型文	にぶい橙	にぶい橙	φ15無色透明光沢、φ1白不透明、φ1黑褐色光沢	

表3 土器観察表(10)

番号	出土地点	出土層	文様及び調査			色調	胎土	備考
			口唇部	外	内			
282	M・5	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ4白、φ3白半透明、φ1透明光沢
283	L・8	VII		楕円押型文	楕円押型文	にぶい黄橙、ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	φ5灰白、φ5灰、φ5黑褐、φ1黒鏡光沢、φ1無色透明
284	H・7	VI	楕円押型文	楕円押型文、山形押型文	ナデ	灰黄褐	にぶい褐	φ3灰、φ3黄、微細白半透明、微細黒
285	M・6	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	浅黄、黄灰	浅黄、暗灰黄	φ5白
286	H・7	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3白、φ3灰、φ3白半透明、φ3黑光沢
287	H・4	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	オリーブ黒、浅黄橙	にぶい黄橙、褐灰	φ5灰、φ5赤褐、φ5白、φ5黒鏡光沢、φ5黒鏡光沢、φ5無色透明
288	B区	-	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	黄褐	黄褐	φ3白、φ3灰、φ3黑、φ2白半透明、φ2透明光沢
289	N・4	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	黄褐	φ4灰、φ4薄褐、φ4白半透明、φ4透明、φ4黒鏡光沢
290	H・8	VI	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	黄褐	黄褐	φ3金色鱗片状、φ2灰、φ2黄灰、φ2褐、φ1白半透明
291	J・9	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ5褐～赤褐、微細乳白
292	K・7	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ4白、φ4金色
293	A区	-	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	黄褐	黄褐	φ7淡黄、φ3白不透明、φ3灰白、φ2墨色透明
294	I・10	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文	にぶい褐	褐灰	φ1灰褐、φ1白不透明、φ1灰白
295	J・4	VII	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文	にぶい褐	にぶい黄褐	φ2白、φ2.5灰、φ2.5黒鏡光沢
296	K・4	VI	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐、にぶい	白灰、φ4.5、φ4.5、φ4.5、φ4.5、φ4.5
297	L・4	VI b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、丁寧ナデ	暗灰黄	浅黄	φ5素褐、φ2白、φ2透明光沢
298	I・6	VI	楕円押型文	丁寧ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	暗灰黄	黄褐	φ3明褐、φ2淡黄、φ2明褐灰不透明、φ1褐
299	A区	IV	楕円押型文	楕円押型文	ナデ、楕円押型文、工具ナデ?	にぶい程	にぶい褐	φ4灰白、φ4灰、φ1黑
300	I・5	VI b	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	暗灰黄、黄灰	暗灰黄	φ8白半透明、φ2金光沢、φ2灰、φ2黑褐、φ15灰白、φ15無色透明
301	H・6	VII	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2白～乳白、φ2灰褐、微細褐
302	-	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	暗灰黄	φ4褐、φ4乳白、φ4灰、φ4灰灰、φ2墨鏡光沢、φ2白半透明
303	K・5	VII	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい褐	φ3.5赤褐、φ3金露褐?、φ1白半透明、φ1黄褐、φ1灰
304	J・8	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文	にぶい褐	にぶい褐、灰褐	φ1黄褐、φ1灰白、φ1金光沢雲母
305	K・7	VI	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	橙	φ2白半透明、φ1白不透明、φ1金色鱗片状
306	L・4	VII	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	灰黄	にぶい黄	φ3灰、φ3灰黄、φ3褐、φ1白不透明
307	J・3	VI	短沈縫文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	明赤褐	明赤褐、黑褐	φ3.5褐、φ3.5無色透明
308	M・4	VII		ナデ	楕円押型文	にぶい黄	浅黄、黄灰	微細灰白、微細白光沢、微細黒鏡光沢
309	I・7	VII	山形押型文	山形押型文、ナデ	ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ2.5、φ2灰、φ2.5、φ2墨鏡光沢、φ1金色鱗片状
310	I・9	VI	枝回転文	ナデ	枝回転文、ケズリ状ナデ	灰黄褐、明黄褐	灰黄褐、褐灰	φ4.5にぶい黄褐、φ4.5褐、φ4.5、φ4.5墨鏡光沢
311	L・5	VI b	枝回転文	ナデ、枝回転文	枝回転文、ケズリ状ナデ	橙	にぶい橙	φ2白不透明、φ15黒鏡光沢、微細白、微細茶、微細やや黄
312	L・5	VI b	枝回転文	枝回転文	枝回転文、ナデ	橙	にぶい橙	φ4.5白、φ4.5白、φ2白半透明、φ1白、φ1赤褐、φ1灰、φ1黒鏡光沢
313	M・7	VII	枝回転文	ナデ、枝回転文	枝回転文、ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	φ2金色鱗片状、φ2黄褐、φ2灰、φ2褐
314	N・4	VII	枝回転文	枝回転文	枝回転文、ナデ	橙	にぶい橙	φ2白色透明、φ2灰褐、φ2灰、φ2褐、微細茶
315	H・11	VII	枝回転文	枝回転文、丁寧ナデ?	枝回転文、ケズリ状ナデ	明褐	にぶい褐	φ2.5無色透明、φ1灰白、微細赤褐
316	M・6	VII	枝回転文	枝回転文	枝回転文	灰黄褐	にぶい黄褐	φ2金色鱗片状、φ2灰褐、φ2灰、微細無色透明
317	M・5	VI b	枝回転文	ナデ、ケズリ状ナデ	枝回転文	にぶい褐、褐灰	にぶい褐、褐灰	φ5白、微細無色透明
318	K・9	VII	枝回転文	枝回転文	枝回転文、ケズリ状ナデ	にぶい黄	暗灰黄	φ2灰、φ2灰、φ1金色鱗片状、微細無色透明

表3 土器観察表(1)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整				色 調	胎 土	備 考
			口唇部	外	内	外			
319	I・7	VII	枝回転文	ナデ、枝回転文	枝回転文、ケズリ状ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	φ2金色鱗片状、φ2黄灰、φ2灰	S169出土、(内)黒斑
320	K・4	VII	枝回転文	枝回転文	枝回転文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	φ2灰、φ2黄灰、φ2乳白、微細無色透明、微細白半透明	(内)黒斑
321	L・8	VII	枝回転文	ナデ、枝回転文	枝回転文、ナデ	にぶい褐色、褐灰	にぶい橙、にぶい褐色、明褐色	φ5灰白、φ4明褐色、φ4褐色、φ3暗赤褐色、微細無色透明、微細黑絶光沢	(外・内)黒変
322	K・4	VII	枝回転文	枝回転文	枝回転文、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	φ2灰、φ2黄灰、φ2乳白、微細無色透明、微細白半透明	(内)黒斑
323	N・5	VI b	枝回転文	ナデ、枝回転文	枝回転文、ケズリ状ナデ	提	にぶい褐色	φ3光沢、φ2明褐色、φ2褐色、φ15灰白、φ1褐色、φ1灰光沢	
324	J・8	VII a	ナデ後・枝回転文	ナデ、沈線文	ナデ、枝回転文	にぶい黄褐色	にぶい褐色	φ2金色鱗片状、φ2乳白、φ2灰、φ2褐色、φ1白半透明	(口唇部)黒変
325	L・5	VI b	枝回転文	ナデ	ナデ、ケズリ状ナデ	橙	橙	φ1金色鱗片状、φ1乳白色、φ1白半透明、φ1灰白	
326	I・8	VII	枝回転文	ナデ、枝回転文	枝回転文	にぶい黄褐色	灰褐色	φ3灰白、φ1.5黄褐色、φ1.5赤褐色	
327	L・6	VII	ナデ、枝回転文	ナデ、枝回転文	枝回転文、ナデ、ケズリ状ナデ	褐褐色	にぶい褐色	φ2灰白、φ2金色鱗片状、微細黑褐色	
328	M・5	VI b	刻目	ネガティブ捲円文	ネガティブ捲円文、ナデ	褐灰、にぶい橙	にぶい黄褐色	φ1.5乳白、φ1黑、微細にぶい黄褐色不透明、微細無色透明	
329	F・24	VII	平行押型文	列点文、平行並押型文、ケズリ状ナデ	明褐色	にぶい黄褐色	φ1黒絶光沢、φ1褐色光沢、φ1褐灰色光沢	(内)黒変	
330	L・7	VII	短沈線文	ナデ、平行押型文?	浅い短沈線文、ケズリ状ナデ	褐灰	にぶい黄褐色、褐灰	φ2灰白、微細黒褐色、微細黒絶光沢	(外)黒斑
331	-	c	短沈線文	ナデ、平行押型文?	短沈線文、ケズリ状ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	φ2黑絶光沢、φ2黄灰、φ2灰、微細無色透明、白半透明	(外)黒変、(内)黒変
332	M・5	VI b	平行押型文?	平行押型文?	ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色	黑褐色	φ1.5灰白、φ1金色鱗片状	
333	J・7	VII	短沈線文	ナデ	短沈線文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色、明褐色	にぶい黄褐色	φ5灰白、φ2.5褐色不透明、φ2ヤヤ黄透明、φ1浅黄色	
334	J・7	VII	短沈線文	ナデ、平行押型文?	短沈線文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄	暗黃褐色、黃褐色	φ3白半透明、φ1.5灰白、φ1.5灰褐色	(内)黒變
335	J・2	b	短沈線文	ナデ、平行押型文?	短沈線文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色、明褐色	褐灰、にぶい黄褐色	φ4浅黃褐色、φ3灰白半透明、φ3褐灰、φ2金光沢、φ2ヤヤ黄透明	(J4)黒變
336	I・2	b	短沈線文	ナデ	短沈線文、工具ナデ	橙	明黃褐色	φ3灰褐色、φ3灰、φ3褐、微細透明、微細半透明、微細黑絶光沢	(内)黒斑
337	L・6	VI b	ナデ、平行押型文?	平行押型文?ナデ	明黃褐色	にぶい黄褐色、褐灰	φ5にぶい黄褐色、φ4浅黃褐色、φ3褐灰、φ3浅黃褐色、φ1灰白	(外)黒変、(外・内)黒變	
338	H・7	VII	短沈線文	ナデ	平行押型文?ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	φ3褐色、φ3乳白、φ3灰、φ3灰褐色、φ1黑絶光沢、微細無色透明、微細白半透明	(外)黒変、(外・内)黒變
339	L・5	VII	短沈線文	ナデ	平行押型文?ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	φ2褐色鱗片状、φ2深褐色光沢、φ2黃褐色、φ2灰、φ2褐色、微細無色透明	(外・内)黒變
340	I・9	VII	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい赤褐色	灰褐色	φ4灰白、φ1無色透明、微細黒絶光沢	
341	H・7	VII	捲円押型文	ナデ、捲円押型文	捲円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	φ3金色鱗片状、φ1黄褐色、φ1灰	(外・内)黒變
342	E・23	VII	捲円押型文(連珠文様)、ケズリ状ナデ	ナデ、捲円押型文(連珠文様)、ケズリ状ナデ	浅黃	浅黃	φ2無色透明、φ2黒絶光沢、φ2灰、φ2黑褐色	(内)黒變	
343	J・7	VI b	捲円押型文	捲円押型文、ナデ	にぶい橙、黃褐色	にぶい橙、黃褐色	φ5灰白、φ5褐色、φ5白半透明	(内)黒變	
344	M・7	VII	捲円押型文	捲円押型文、ナデ	捲円押型文、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	φ1黑、微細白	(内)黒變
345	A区	b	捲円押型文	捲円押型文	捲円押型文、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	φ2白半透明、微細黒絶光沢、φ1黑褐色、微細無色透明	(内)黒變、鉢形
346	C・25	VII	ナデ、捲円押型文(連珠文様)	ナデ	橙	にぶい橙、にぶい黄褐色	にぶい褐色、明黃褐色	φ2白半透明、φ1白半透明、φ1灰白、φ1黒褐色、微細無色透明	鉢形
347	H・4	b	捲円押型文	ナデ	ナデ	にぶい褐色	灰褐色、明黃褐色	φ1褐色透明、φ1灰褐色透明、φ1黒褐色透明	
348	I・8/9	VII	捲円押型文、山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐色、にぶい赤褐色	にぶい褐色、褐灰	φ3灰白、φ3灰白、微細灰褐色	S169出土、(内)黒斑	
349	I・8	VII	ナデ、山形押型文	ナデ	にぶい褐色、黒褐色	にぶい褐色	φ3にぶい黄褐色、φ3褐色、φ1赤褐色、φ1褐灰、φ1無色透明		
350	A区	b	山形押型文	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	φ3橙、φ3黒褐色、φ2微細、微細褐色		
351	M・5	VI b	山形押型文	ナデ	明赤褐色	にぶい黄褐色	φ4灰白、φ4灰、φ4灰、φ4黄褐色、φ1黑絶光沢、微細無色透明	(外)黒変、(内)黒變	
352	H・9	VII	山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐色、褐灰	にぶい褐色	φ7にぶい褐色、φ7白、φ7灰白、φ7白不透明	(外)黒斑	

表3 土器観察表(12)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整				色調	胎土	備考
			口唇部		外	内			
			外	内	外	内			
353	H・9	VI		山形押型文	ケズリ状ナデ	黒褐、灰黃褐、 にぶい黄褐色	黒褐、灰黃褐、 にぶい黄褐色	△2灰黄褐、△2区黒褐、△1浅 黄褐、△1金色	(外) 黒変
354	H・2	VI		山形押型文	ケズリ状ナデ?	にぶい黄	にぶい黄、 灰褐	△2淡黄、△2.5灰白、△1褐、 △1やや黄透明、微細金色	SI23内出土
355	M・6	VII		山形押型文	ナデ?	にぶい黄、 黄灰	にぶい黄褐、 灰黄褐	△3浅黄褐、△3褐灰不透明、 △2金色、△1透明	SI40内出土
356	F・27	VII		山形押型文	ナデ	橙	にぶい黄	△2黑銳光沢、△2褐、△2灰、 △2黄灰、微細白半透明	
357	M・5	VII		ナデ、山形押型文	ケズリ状ナデ、 ナデ	にぶい黄褐、灰黃 褐、灰灰、灰灰	にぶい黄褐、 灰褐、黑	△3余褐、△3にぶい黄不透明、△3や黄透明、 △1深褐、△1淡黄、△1金色、微細金色透明	(内) 黒変
358	I・7	VII		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	△5黄灰、△5灰、△5褐	(外) 黑變、(内) 黑變
359	D・27	VII		山形押型文	丁寧なナデ	明黄褐	にぶい黄褐、褐灰	△3黒銳光沢、△3赤褐、△1.5褐灰	
360	K・5	VII		山形押型文	ナデ	明黄褐	にぶい黄褐、 灰黄褐	△0.5灰白、微細黑銳光沢、微 細無色鋸光沢	
361	K・6	VII		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	△2黄灰、△2灰、微細無色透明	(内) 黒変
362	G・6	VI		山形押型文	丁寧なナデ	褐灰、 にぶい黄褐	にぶい黄褐、 にぶい黄褐	△5灰白、△4.5淡黄、△3黑、 △2黑銳光沢、△2赤褐	
363	J・4	VI		山形押型文	丁寧なナデ	暗灰黄	暗灰黄	微細黑、微細灰	SD09内出土(外)黒變
364	-	-		ナデ、山形押型文	ケズリ	にぶい黄褐	黑	△1全色鱗片狀、微細無色透明、微細白	(内) 黑斑
365	H・7	VII		山形押型文	ナデ	にぶい黄褐、 オリーブ黒	黄褐	△7白、△7褐、△2黑銳光沢、 △1透明光沢	
366	F・27	VII		山形押型文	ナデ	浅黄褐	にぶい黄褐	△5灰、△5乳白、△5黄灰、△5褐、 △1半透明、微細黑銳光沢	(外) 黒変
367	N・7	VII		山形押型文	ナデ	にぶい黄褐	明黄褐	△3黄灰、△3灰、△3褐、△2黑銳光沢	
368	K・8	VII		山形押型文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△1白、△1白不透明	
369	L・6	VII		山形押型文	ケズリ状ナデ、ナデ	にぶい褐	灰褐	△1金色鱗片狀、微細無色透明、微細灰白	
370	A区	b		山形押型文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△1白色、△2淡黄、△1淡黄、△1灰	
371	L・6	VI b		山形押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	△3灰、△3黄灰、△3褐	(外) 黑變
372	K・4	VII		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐	黑褐	△3薄褐、△3黑、△3灰、△3金色	(外) 黑變
373	I・8	VI		山形押型文	ケズリ状ナデ	灰	にぶい黄	△25灰白、△15金色鱗片狀、△1金色透明	
374	L・7	VI b		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△2灰白、△2灰、△1全光沢、△1黑	(外) 黑變、(内) 黑變
375	K・6	VII		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	△25赤褐、微細金色鱗片狀、微細灰白	
376	H・2	b		山形押型文	ナデ	浅黄	浅黄	△2黄灰、△2灰、△2褐、△2白、 微細無色透明、微細黑銳光沢	
377	-	c		山形押型文、 ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△2褐、△2灰、△2乳白、△2 乳白光沢、微細無色透明、白半透明	(外) 黑變
378	-	VI		山形押型文、 ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△5黄灰、△5灰、△3黑褐光沢、 △2不透明、微細無色透明光沢	(外) 黑變
379	M・6	VII		山形押型文	ナデ	橙、にぶい橙	橙、褐灰、 にぶい黄褐	△2浅黄、△2褐、△2黑銳光沢、△1 1.5褐灰、△1.5半透明、△1無色透明	
380	J・9	VII		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△1浅褐、△1褐、△1全光沢、△1不透明	SI70内出土
381	J・6	VII		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい橙	黑褐	△1灰白、微細白半透明	SI79内出土
382	O・4	VI a		山形押型文	ケズリ状ナデ	褐	黑褐	△3灰黄褐、△2浅黄褐、△1 灰白不透明、微細無色透明	
383	-	c		山形押型文	ケズリ状ナデ	明褐、 にぶい褐	明褐	△5浅黄褐、△5にぶい黄褐、 △1無色透明、△1黑銳光沢	
384	G・27	VII		山形押型文の後ナ 道、山形押型文	ナデ	褐灰、褐、 明赤褐	褐、褐	△1浅黄、△1明褐、△1赤褐、△1 1.5深褐、△1黑銳光沢、△1.5白半透明	125と同一個 体か
385	-	c		山形押型文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△1浅黄、△1深黄、△1金色鱗片狀、 微細金色鱗片狀	(外) 黑變
386	L・4	VII		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	褐灰	△2金色鱗片狀、微細灰白	
387	F・24	VII		山形押型文	ケズリ	にぶい橙	暗灰黄	微細無色透明、微細全色鱗片狀	
388	L・6	VII		山形押型文	ケズリ	黑褐、にぶい褐	黑褐、灰黄褐	△3白、△2深黄、△1.5浅黄、△1 金色鱗片狀、微細金色鱗片狀	(外) 黑變
389	M・6	VII		山形押型文	ナデ	にぶい橙	暗灰黄	△2灰黄、△2透明、△2褐、 微細半透明、微細黑銳光沢	(外) 黑變

表3 土器観察表(13)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
390	K・4	VI	山形押型文	ナデ	暗灰黄、明褐	灰黄褐、褐灰	#3浅黄、#2にい黄、#1光沢、#1黒褐		
391	L・4	VI	山形押型文	丁寧なナデ	にい黄褐	灰黄褐、黑褐	#4灰黄、#2浅黄、#2褐、#15黒褐色		
392	H・2	b	山形押型文	ナデ	にい黄褐、橙	灰黄褐	微細黑、微細白		
393	L・6	VI b	ナデ、山形押型文	ナデ	にい黄褐	橙	#1.5乳白、#1灰白、微細黑褐		
394	M・5	VI	山形押型文	ナデ	にい黄褐、 褐灰	灰黄褐、 灰黄褐	#1黄褐、#1やや黄透明、 #0.5灰白	SI 4 内出土	
395	K・6	VI	山形押型文	ケズリ状ナデ	にい褐	にい黄褐	#3褐、#2灰、#2無色透明、#15黒褐色	SI 8 内出土	
396	M・6	VI	山形押型文	ケズリ状ナデ	橙	にい褐	#3灰、#2灰、#2無色透明、#15黒褐色	(内) 黑斑	
397	-	-	山形押型文	ケズリ状ナデ	にい褐	にい黄褐	#3黄灰、#3灰、#3褐、 微細金色鱗片状、#1半透明	(内) 黑斑	
398	L・5	VI b	山形押型文	ケズリ状ナデ	にい黄褐	にい黄褐	#1黄褐、#1褐灰		
399	J・4	VI	山形押型文	丁寧なナデ	暗灰黄、浅黄	黄褐、黑褐	#5薄灰、#1透明光沢	(内) 黑変	
400	-	-	山形押型文	丁寧なナデ	にい黄褐	褐灰、黑褐	#3浅黄、#2黒褐色、#2黄褐		
401	H・8	VI	山形押型文	ケズリ状ナデ	にい褐	にい褐、灰褐	#3金灰、#2灰白、#2浅黄、#2褐		
402	K・5	VI	山形押型文	ケズリ状ナデ	にい黄褐	にい黄褐	#4金色鱗片状、#1白不透明、微細金色 微細透明、#1半透明		
403	-	-	山形押型文	ケズリ状ナデ	にい黄褐	にい黄褐	#2黄灰、#2灰、#1金色鱗片状、 #1白不透明、微細金色	SI 87 内出土	
404	J・5	VI	山形押型文	ケズリ状ナデ、ナデ	にい黄褐	にい黄褐	#1灰白、#1白半透明、微細金色		
405	F・24	VI	山形押型文	ナデ	橙	灰黄褐、黑褐	#5浅黄、#3黄、#3暗赤褐、#2 灰黄褐、#2黑色透明、#2黒褐色		
406	L・5	VI b	ナデ、輪円押型文	工具ナデ	橙、灰黄褐	にい黄褐	#15無色透明、#15黒褐色、#15 黒褐色、#15黑色透明		
407	J・8	VI	山形押型文	ケズリ状ナデ	にい黄褐	にい黄褐	#3褐灰、#1黄褐、微細透明		
408	K・6	VI	輪円押型文	ナデ	にい褐	にい褐	#1金色、微細白半透明		
409	A区	b	輪円押型文	工具ナデ、ナデ	橙	にい黄褐	#9灰、#9黄灰、#9乳白、#9褐、#2黑 色光沢、#2白不透明、微細無色透明	(内) 黑斑	
410	I・6	VI	輪円押型文	ナデ	にい褐	にい赤褐	#2.5黄灰、#2.5乳白、#2.5褐、 #2金色鱗片状	(外)・(内) 黑変	
411	I・7	VI	輪円押型文	ナデ	にい黄褐	にい黄褐	#4黄褐、#4灰、#4褐、#1金光沢	(外) 黑変	
412	I・6	VI	輪円押型文	ナデ	にい赤褐	褐	#2黄褐、#2褐、#1金色(黒雲母?)	(外) 黑変	
413	J・9	VI	輪円押型文	ナデ	にい黄褐	にい褐	#3白、#2白、#2黑、#2褐	SI 70 内出土	
414	M・5	VI	輪円押型文	ナデ	灰褐	にい赤褐	#4白光沢、#3褐鉛光沢、 #1金色(黒雲母)、#1赤褐	SI 5 内出土	
415	H・7	VI	輪円押型文	ケズリ状ナデ	にい褐	褐	#3白、#1灰、微細光沢、微細赤褐	(外) 黑変	
416	L・5	VI b	ナデ、輪円押型文	ケズリ状ナデ	にい褐	にい褐	#4褐、#4白、#4金色、#2透明		
417	I・4	VI	輪円押型文	ナデ、ケズリ状ナデ	黑褐	にい黄褐	#3灰、#1赤褐、#1金色(黒雲母)、#1白	(内) 黑変	
418	H・3	b	輪円押型文、 山形押型文	丁寧なナデ	灰黄	にい黄、青灰黄	#3灰白、微細無色透明、微細黒褐色光沢		
419	H・7	VI	輪円押型文、 山形押型文	ナデ	橙	黑褐	#2.5黄白、#2.5灰、#2.5黒褐色光沢、 #2.5無色透明、#2.5黒褐色光沢		
420	H・8	VI	輪円押型文、 山形押型文	ナデ	灰黄褐、褐 灰	暗灰黄	#1.5灰白、#1.5黑褐、#1無色 透明、微細黒褐色光沢		
421	J・9	VI	輪円押型文	ナデ	黑褐	褐	#3褐、#3灰褐、#3乳白、#1金色鱗片状	SI 71 内出土	
422	H・10	VI	輪円押型文	ケズリ状ナデ	にい黄褐	にい黄褐	#2灰、#2黄褐、#2褐、#1金色鱗片状	(内) 黑変	
423	-	c	輪円押型文、 山形押型文	ケズリ	にい褐	にい黄褐、 褐灰	#2黄白、白半透明、金色鱗 片状		
424	K・7	VI	輪円押型文	ナデ	にい黄褐	暗灰黄	#5白、#2.5白半透明		
425	H・4	b	輪円押型文、 ナデ	ナデ、工具ナデ	にい橙	にい黄褐、 黑褐	#4黄褐、#3白、#3黑、#2黑 色光沢、#1白純光沢、#1赤褐		
426	H・8	VI	輪円押型文	ナデ、ケズリ状ナデ	橙	灰黄褐	#4灰白、#4薄褐、#3半透明、#2褐	(外) 赤彩か?	
427	K・7	VI	輪円押型文	ナデ	にい橙	暗オリーブ褐	#6灰褐、#2灰、#2無色白半透明		
428	L・4	VI b	輪円押型文	ナデ	にい褐、黑褐	にい褐、黑褐	#1.5灰白、#1.5褐		
429	J・4	VI	輪円押型文	ケズリ状ナデ、 ナデ	褐	赤褐	#1.5灰白、#1.5褐、#1.5白不透明、#1 金色鱗片状、#1白半透明、#1白不透明	(外) 黑變?	

表3 土器観察表(14)

番号	出土地点	出土層	文様及び構造		色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外		
430	L・4	VII	楕円押型文	ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	φ2灰褐、φ1黄褐、微細光沢	
431	L・9	VII	楕円押型文	ナデ	にぶい黄	暗灰黄	φ1白半透明、φ1黑銅光沢	
432	M・4	VII	楕円押型文	ナデ	明赤褐	にぶい褐、灰褐	φ4灰白、φ15中黄褐色、φ1黒褐、φ1黒銅光沢	
433	K・7	VII	楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ1黄灰、φ2灰、φ3褐、微細無色透明、微細金色、微細黑銅光沢	(内)黒斑
434	G・6	VII	楕円押型文	ナデ	にぶい黄褐	明褐	φ1白半透明、φ1茶褐	
435	I・8	VII	楕円押型文	ナデ	にぶい褐、灰褐	にぶい黄褐	φ1深灰、φ1やや黄透明、φ1にぶい黄褐	
436	K・7	VII	ナデ、楕円押型文	ケズリ状ナデ	灰黄褐	灰黄褐	φ3白、φ35薄褐、φ2半透明光沢	
437	K・5	VII	楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐、黄灰	灰黄褐	φ3灰白、φ1無色透明、φ1白半透明	(外)黒変?
438	K・7	VII	楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ4白、φ4薄褐、φ1透明光沢	
439	A区	b	ナデ、楕円押型文	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	φ2.5金色、φ2白	
440	K・4	VI	楕円押型文	丁寧なナデ	灰黄褐	灰黄褐	φ2.5白、φ2.5透明光沢	SII6内出土(外)黒変
441	L・4	VII	楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄、褐灰	暗灰黄、黑褐	φ3灰褐、φ15浅黄、φ15全光沢雲母	
442	-	-	楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	黄褐	φ2全光沢、φ2灰、φ2黄褐、φ2褐	
443	I・7	VI	楕円押型文、山形押型文	ナデ、ケズリ状	にぶい褐	にぶい褐	φ3灰白、φ1.5無色透明、微細黑銅光沢、微細金色	
444	K・5	VII	楕円押型文	ケズリ状ナデ	褐	にぶい褐	φ4褐、φ1黄褐、φ1金色(雲母?)	
445	J・2	b	楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ2灰、φ2白、φ2半透明、φ2透明光沢、φ2金色鱗片狀	(外)黒変
446	H・7	VII	ナデ、楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	φ4深褐、φ2灰色透明、φ2深褐、φ1灰	SII6内出土
447	I・8	VII	楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	棕	φ2褐、φ2白、φ2白半透明、φ2透明光沢、φ2金色鱗片狀	SII6内出土
448	K・5	VII	楕円押型文	ケズリ状ナデ、ナデ	棕	にぶい褐	φ1.5、φ1.5、φ1深褐、φ1透明光沢、φ1透明光沢	SII8内出土
449	K・9	VII	楕円押型文	ナデ	棕、明褐	にぶい黄橙、棕	φ4淡棕、φ4浅黄褐、φ1浅黄、φ0.5黑	SII5内出土
450	I・9	VII	楕円押型文	ナデ	棕	にぶい棕	φ4灰白、φ1やや黄透明、φ1黑銅光沢	SII6内出土
451	J・9	VII	楕円押型文	ナデ	にぶい黄	灰黄褐	微細白、微細透明光沢	SII7内出土
452	H・7	VI	楕円押型文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	φ2黄灰、φ2白、φ2褐	
453	G・27	VII	楕円押型文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	φ1白不透明、φ1茶褐	
454	H・3	VI	楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐、褐灰	褐	φ2灰黄、φ2灰白不透明、φ2浅黄褐、φ1金光沢雲母	(外)黒変
455	J・6	VI	楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい棕	にぶい褐	φ4白半透明、φ2透明光沢	
456	J・3	a	楕円押型文	ナデ	にぶい棕	にぶい黄褐	微細白、微細黑、微細透明光沢	
457	I・8	VI	楕円押型文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	φ3灰、φ1.5白、φ1金色鱗片狀	
458	K・7	VI	楕円押型文	ナデ	にぶい黄褐	黄褐	φ3灰褐、φ3灰、φ3褐、微細無色透明	SII10内出土
459	-	-	椎円押型文の後ナデ、楕円押型文	ナデ	にぶい褐、褐灰	明褐、灰黄褐	φ2.5全光沢雲母、φ2.5褐灰、φ2褐、φ1淡黄	
460	-	-	楕円押型文	ナデ	にぶい黄褐、褐灰	にぶい黄褐	φ1金色鱗片狀、φ1白不透明	
461	J・7	VI	楕円押型文	ナデ	にぶい棕	にぶい黄褐	φ2褐色鱗片狀、φ2黄灰、φ2灰、φ2褐、微細無色透明	SII3内出土
462	K・4	VI	楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい棕	黑褐	φ7、φ8、φ8透明、φ8透明、φ8透明	
463	N・5	VII	楕円押型文	ナデ	にぶい棕	棕	φ2白半透明、φ2褐、φ2白	(内)黒変
464	J・5	VI	楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ2.5灰、φ2.5白	
465	L・7	VI b	山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	棕	にぶい褐	φ2白透明、φ2褐、φ2金色鱗片狀、φ2白	
466	L・7	VII	楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい褐	暗灰黄	φ2白、φ2黑光沢	
467	L・5	VI b	楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい棕	にぶい棕	φ2白不透明	
468	L・5	VI b	枝回転文	ケズリ状ナデ	暗灰黄	暗灰黄	φ3金光沢雲母、φ1褐褐、φ1灰白	(外)黒変
469	L・8	VII	枝回転文	ケズリ状ナデ	灰褐、にぶい黄褐	にぶい褐	φ1黄褐、φ1灰白、φ1赤褐	
470	J・4	VI	枝回転文	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ1褐、φ1黄灰、φ2灰、φ2褐、φ2金色鱗片狀、微細無色透明	(外)黒変、(内)黒斑
471	I・8	VI	枝回転文	ケズリ状ナデ	にぶい赤褐、褐灰	褐灰	φ2灰白、φ2褐褐、φ15金色鱗片狀	
472	G・6	VI	枝回転文の後、一部ナデ	条痕	褐灰	にぶい褐、灰褐	φ1.5やや黄透明、半透明、 φ1半透明、微細灰白	(外)黒変、(内)黒斑

表3 土器観察表(19)

番号	出土地点	出土層	文様及び開窓				色調	胎土	備考
			口唇部	外	内	外			
473	L・6	VI b	枝回転文	ナデ	に bei 極	に bei 程	△3黄灰、△3灰、△3褐、△2金 色鱗片状、微細無色透明	(内) 黒斑	
474	H・9	VI	枝回転文	ケズリ状ナデ	灰褐	褐	△25に△1褐、△25褐、△25青灰、△25 色		
475	I・9	VII	ナデ、枝回転文	ケズリ状ナデ	に bei 極	に bei 極、褐灰	△45白、△無色透明、微細赤灰、微細灰白	SI69内出土	
476	H・7	VI	枝回転文	ケズリ状ナデ	に bei 程	に bei 黄褐、褐灰	△3褐、△2赤褐、△2金色、△1黄 褐	(内) 黒変	
477	N・6	VII	枝回転文	ケズリ状ナデ	に bei 黄褐、 に bei 黄	褐、黑褐	△2黒褐、△1灰白、微細鱗片状		
478	J・9	VII	枝回転文、ナデ	ケズリ状ナデ	灰黃褐、 に bei 黄	黄灰、 に bei 黄褐	△8灰白、△5褐灰、△3灰白、△3黄 褐、微細無色透明、微細無色光沢	SI82内出土	
479	SC137内	-	枝回転文	ケズリ状ナデ			△15や黄、微細灰白		
480	G・6	VI	短沈線文	平行押型文、ナデ	平行押型文、ナデ	に bei 極	暗黄、に bei 黄褐	△5黒級光沢、△5白透明、△3褐	(内) 黒斑
481	H・7	VI	平行押型文	ナデ	に bei 褐、灰黄褐	に bei 極	△2褐、△1黒級光沢、△1無色透明、△1灰白	(外) 黒変、(内) 黑底	
482	K・7	VII	平行押型文、 ナデ	ケズリ状ナデ	に bei 極	に bei 黄褐	△2無色透明、△15白半透明、 △1金色般光沢、△1灰白	(内) 黒変	
483	M・7	VI b	平行押型文	ケズリ状ナデ	に bei 黄褐	に bei 極	△黄、△灰白、△赤褐、△淡黄		
484	A区	b	平行押型文	ナデ	に bei 黄褐	灰黄褐	△8白透明、△1黒級赤灰、△1無色透明	(内) 黑底	
485	L・8	VII	平行押型文	ナデ	に bei 極	灰黄褐、黑褐	△25に△1黄、△1赤、△1白、△5淡 黄		
486	H・3	VI	平行押型文、ナデ	ナデ	程	に bei 程	△2白、△2やや黄透明、微細黒級光沢		
487	K・7	VII	平行押型文、 ナデ	ケズリ状ナデ	に bei 極	に bei 褐、 黑褐	△1黒級光沢、△1黄透明、△1白透明、 △1透明、△1灰白、微細金色般光沢	(内) 黒変	
488	H・7	VI	平行押型文	ナデ	程	に bei 黄褐	△1褐、△1黄灰、△1灰、 微細白半透明	(内) 黒斑	489と同一個体か
489	J・4	VII	平行押型文	ナデ	程	暗灰黄	△8褐、△8黄、△8灰、 微細不透明		
490	K・7	VI	平行押型文	ナデ	に bei 黄褐	に bei 黄褐	△3白、△3灰白、△1金色、△0.5白、 △0.5やや黄、△0.5灰白		
491	L・5	VI b	格子目押型文	ケズリ状ナデ	に bei 極	灰黄褐	△1金色光沢、△1白、△1褐、 微細灰白		
492	L・4	VI b	格子目押型文、 ナデ	ケズリ	に bei 黄褐	に bei 赤褐	△3白、△3やや黄、△3赤褐、△15金色、 △15白半透明、△1白、△1赤、△1やや黄		
493	O・5	VII	山形押型文、ナデ	ナデ	に bei 黄褐	に bei 黄褐	△2褐、△2白、△2黄、△2黒級光沢	(外) 黒変、(内) 黑底	
494	K・5	VII	楕円押型文、ナデ	ナデ	に bei 黄褐	に bei 黄褐	△5白、△2白、△2褐、△2褐、 微細光沢		
495	L・5	VI b	山形押型文、沈線文	ナデ	黒褐、に bei 極	黒褐、に bei 極	△4白、△4褐、△2黒級光沢、△1白半透明		
496	K・12	VII	山形押型文	ナデ	程	程	△2白、△2褐、△2灰、 微細黒級光沢、微細無色透明、微細半透明		
497	H・2	VI	山形押型文、ナデ	ナデ	灰黄褐	に bei 黄褐	△3白、△3灰、△3白、△1金色鱗片状	SI29内出土(内) 黑底	
498	K・8	VI	楕円押型文	ケズリ状ナデ	に bei 黄褐	に bei 黄褐	△7赤褐、△4乳白、△2白	733.734と同一個 体か、(内) 黑変	
499	G・24	VII	楕円押型文(連珠文様)、ナデ	ナデ	に bei 赤褐	褐灰	△1赤褐、△1灰白、△1金色 鱗片状		
500	L・4	VII	山形押型文、 ナデ	ケズリ状ナデ	に bei 黄、 暗灰黄	に bei 黄、 黑褐	△5白、△5褐～赤褐、△3白 半透明	(外) 黑変	
501	N・6	VI	山形押型文	ナデ	に bei 黄褐	褐灰	△3白、微細無色透明、微細黒級光沢	(外)・(内) 黑変	
502	L・5	VII	山形押型文、 ケズリ	ケズリ状ナデ	に bei 極	褐	△6白、△3金色般光沢、△3白不透明、 △3褐色光沢、△15白半透明、△1黄褐、 △1黄褐、△1黑、微細黒級光沢	(外) 黑変	
503	L・5	VI b	山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	灰黄褐	灰黄褐	△1灰白、微細金色鱗片状		
504	M・9	VI	山形押型文	ケズリ状ナデ	に bei 黄	褐オリーブ褐	△3金色鱗片状、△1白		
505	A区	b	山形押型文、 ナデ		明褐	に bei 黄褐、 黄褐、褐	△4浅褐、△3赤白、△1黄透明、 △3褐色光沢、△15白半透明、△1黄褐、 △1白半透明、△0.5黒級光沢		
506	-	b	山形押型文、 ナデ	ケズリ状ナデ	に bei 黄褐、 暗灰黄	に bei 黄褐、 に bei 黄	△5白、△1白半透明、微細黒級 光沢	(外) 黑変	
507	M・7	VII	山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	に bei 極	に bei 極	△2金色鱗片状、△2黄灰、 △2灰、△2褐、微細無色透明	(内) 黑変	
508	K・8	VII	山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	に bei 程	に bei 黄褐	△2赤褐、△15白、△1金色鱗片状		
509	-	c	山形押型文、ナデ	ナデ	に bei 黄褐	に bei 黄褐	△15白不透明、△1黒級光沢、△1白		

表3 土器観察表(16)

番号	出土地点	出土層	文様及び調査			色調	胎土	備考
			口唇部	外	内			
510 J・7	VII		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐	褐	△2灰白、△1金色鱗片状	(内)黒変
511 K・7	VII		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐	灰褐、 にぶい黄褐	△2浅黄褐、△1灰白、△0.5黄 褐、微細無色透明	
512 L・5	VII b		山形押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△2灰白、 △1微細白不透明	(内)黒変
513 H・4	b		山形押型文、ナデ	ナデ	褐	褐	△3灰、△3黄灰、△3褐、 △2黑鏡光沢、△2微細無色透明	
514 A区	—		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△1金色鱗片状、△1灰白	
515 E・25	VII		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	橙	にぶい黄褐	△強、△強、△強、△強透明、△強透明	(内)黒斑
516 K・7	VII		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	△3白半透明、△1金色觀光沢、 △1褐鏡光沢、△1灰白	
517 K・6	VII b		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい赤褐	赤褐	△7白、△7赤、△7赤褐、△2白半透 明、△2微細白不透明、△2黄褐不透明	
518 J・5	VII		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△3灰、△3黄灰、△3褐、△1金 色鱗片状、△2微細無色透明	(外)黒変、 (内)黒斑
519 L・5	VII b		山形押型文、ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	△15黑鏡光沢、△1白透明、△1灰白	
520 J・7	VII		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐	褐、黒褐	△にぶい褐、△透敷、△1金色、△1無色透明	
521 I・7	VII		山形押型文、 ナデ	ナデ	にぶい黄褐、 にぶい黄褐	灰黄褐	△2灰褐、△1にぶい黄褐、 △0.5褐、△2微細無色透明	
522 K・7	VII		山形押型文		にぶい黄褐	にぶい黄褐	△2.5白半透明、△1.5灰白、 △1赤褐、△2微細金色鱗片状	(外)白色物付 着
523 K・4	VII		山形押型文、ナデ	ナデ	にぶい橙	灰褐	△2透明光沢、△2黑光沢	
524 J・4	VII		工具ナデ、ケズリ	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△5灰白、△3金属光沢、△3白不透明	(外)黒変、(内)黒斑
525 N・6	VII		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄	黄褐	△擴張、△漏、△微細無色透明、 △微細觀光沢	
526 H・7	VII		山形押型文、 ナデ	ケズリ状ナデ	明赤褐	にぶい褐	△1無色透明、△1やや黄透明、 △1灰白、△1黑、△1赤褐	(外)・(内)黒斑
527 O・4	VII b		山形押型文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	△3灰褐、△3褐、△2金色鱗片状	
528 K・7	VII		楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△2黄灰、△2灰、△2黑、△2褐、 △2金色鱗片状、△2微細無色透明	SII1内出土、 (内)黒変
529 I・9	VII		楕円押型文	ナデ	にぶい橙	浅黄	△2灰白、△1白不透明、△1黑鏡光沢	SII9出土、(内)黒斑
530 H・2	VII		楕円押型文、 ナデ	ナデ	にぶい黄褐、 黑	にぶい黄、 黑	△微細無色透明光沢、△黑鏡光沢	SII23内出土、 (外)・(内)黒斑
531 K・5	VII		楕円押型文、 ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△5強、△5赤褐、△3金色鱗片状、△2.5灰白、 △15灰、△15白不透明、△15白半透明	SII38内出土
532 K・5	VII		楕円押型文、 ナデ	ナデ	明赤褐	褐、灰黄褐	△2灰白、△1黑鏡光沢、 △1無色透明	SII24内出土、(外) 白色物付着
533 K・6	VII		楕円押型文、 ナデ?	ナデ?	にぶい褐	褐	△2赤、△2褐、△2白半透明、 △1無色透明、△1金色鱗片状	(外)黒変、白色物 付着?(内)黒変?
534 I・3	b		楕円押型文、 ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	△8黑褐、△4白、△1赤褐、 △2微細光沢	
535 H・6	b		楕円押型文、 ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△3赤褐、△2白半透明、△2黑 鏡光沢、△2灰白、△1無色透明	
536 J・5	VII		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄	浅黄	△3黄褐、△2金色(黒背景)、△1褐	(外)・(内)黒変
537 H・6	VII		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	△3.5白、△3.5白不透明、△3.5金色	(内)黒変
538 L・8	VII		楕円押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	褐灰	△1灰白、△1灰白、△2微細白半透明	
539 I・7	VII		楕円押型文、ナデ	ケズリ、ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△20や黄透明、△15黑鏡光沢、△微細灰白沢	(内)黒変
540 N・6	VII		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄褐	灰黄	△微細、△漏、△微細黑光沢、△微細白光沢	
541 K・8	VII		楕円押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐	褐灰	△漏、△漏白、△15白半透明、△微細灰白沢	
542 L・6	VII		楕円押型文、 丁寧なナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△3灰、△3黄灰、△1.3褐、 △1黑鏡光沢、△微細無色透明	
543 L・5	VII b		楕円押型文、 ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄	△2金色鱗片状、△2無色透明、△ 2白半透明、△2黑、△2灰、△2褐	(内)黒変
544 L・5	VII b		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄	微細白	
545 L・6	VII b		楕円押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	褐灰、にぶい黄褐	△2.5浅黄褐、△2.5褐、△2褐灰	
546 J・4	VII		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい褐	暗灰黄	△5灰白、△1黄褐、△1灰	

表3 土器觀察表(17)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整				色調	胎土	備考
			口唇部	外	内	外			
547	F・26	VII	楕円押型文(連珠文様?),ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	△3褐色、△3黄褐色、△3灰褐色、△1金色鱗片状、微細無色透明		
548	A区	IV	楕円押型文、ナデ		にぶい黃褐色	にぶい黃褐色	△3灰褐色、△1金色鱗片状、△1黃褐色		
549	I・7	VI	楕円押型文、ナデ		橙	橙	△3白、△3灰褐色、△1金色鱗片状、微細無色透明		
550	K・5	VII	楕円押型文、ナデ	ケズリ	灰黃褐色	黑褐色	△2白不透明、△2白、△2灰褐色、△1透明光沢		
551	K・5	VI b	楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい黃褐色、塵灰黃褐色	△4灰褐色、△3黑色、△2白色、△1透明光沢	(内)黒変?	
552	L・9	VII	楕円押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黃褐色	にぶい褐色、塵灰黃褐色	△1無色透明、微細黑色光沢、微細灰白色		
553	H・4	b	楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい黃褐色	浅黃褐色	微細黃褐色、微細黑色、微細光沢	(外・内)黒変	
554	-	-	楕円押型文、ナデ	ナデ	橙	にぶい黃褐色	△3褐色、△3灰褐色、△15白不透明、△1金色鱗片状		
555	K・8	VII	楕円押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黃褐色、灰黃褐色	黑褐色	△3金光沢雲母、△3乳白色、△3赤褐色、△3灰褐色	(内)黒変	
556	J・8	VI	楕円押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	△3白、△3白不透明、△3透明光沢		
557	M・8	VII	楕円押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	灰黃褐色	灰黃褐色	△2褐色、△1無色透明、△1灰白色	(外)白色物付着、(内)黒変	
558	J・5	VII	楕円押型文	ケズリ状ナデ	灰黃褐色	灰黃褐色	△3白不透明、△3灰褐色、微細やや黃透明		
559	J・4	VII	楕円押型文	ケズリ状ナデ	灰黃褐色	にぶい黃褐色	△3やや黃透明、△15黒光沢、微細灰白色		
560	L・8	VII	枝回転文、ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい黃褐色、黑褐色	△1黃褐色、△1灰白色、微細黑褐色	(外)白色物付着、(内)黒變?	
561	K・7	VII	枝回転文、工具ナデ	ケズリ状ナデ	赤褐色	明赤褐色	△3金光沢、△3白、△3灰褐色、△3赤褐色、△2黒褐色、△1白、△1やや黄褐色	(外)白色物付着	
562	L・6	VI b	枝回転文、ナデ、工具ナデ	ナデ	暗灰褐色	にぶい褐色、黑褐色	△3淡黄褐色、△3灰褐色、△1やや黄褐色、△2透明光沢、微細金光沢	(外)白色物付着、(内)黒變	
563	J・2	b	枝回転文、工具ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐色、黄褐色	にぶい褐色、黄褐色	△0.5褐色、微細黑色光沢、微細無色透明	(内)黒變	
564	I・7	VI	枝回転文、ナデ	ケズリ状ナデ	赤褐色	赤褐色	△3やや黄褐色、△2白、△2灰褐色、△2半透明、微細白、微細灰褐色		
565	L・6	VI b	枝回転文、ナデ	ナデ	橙	明赤褐色、黄褐色	△3白、△1透明光沢、△1白、△1やや黄褐色、△1褐色		
566	N・6	-	枝回転文、ナデ	ケズリ状ナデ、ナデ	暗赤褐色	にぶい褐色	△6白、△3褐褐色、△2白、△2灰褐色、△2乳白色、△2黑色、△2金色、微細白、微細黑褐色、微細无色透明	(内)黒變	
567	I・7	VII	枝回転文、ナデ	ケズリ状ナデ	赤褐色	灰黃褐色	△4灰褐色、△3赤褐色、△3金色、△2黄褐色、△2白、△2赤褐色、△2灰褐色、△2黒褐色	SII69内出土、(外)白色物付着、471と同一個体か	
568	K・5	-	枝回転文、ケズリ	ケズリ状ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	△3半透明、△1白、△1褐色、△1やや黄褐色、△1灰褐色	(外)黒變	
569	I・8	VI	枝回転文、ナデ、工具ナデ	ケズリ状ナデ	灰黃褐色	にぶい褐色	△2.5半透明、△1白	(外)黒變	
570	L・5	VI b	枝回転文、ナデ	ケズリ状ナデ	赤褐色	赤褐色	△3半透明、△1白、△1褐色、△1やや黄褐色、△1灰褐色、△1黑色、△1金色	(外)黒變、(内)黒變	
571	J・4	VII	枝回転文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	△2.5半透明、△1白	(内)黒變	
572	H・7	VII	枝回転文、ナデ		灰黃褐色	にぶい褐色	△4やや黄褐色、△2白色、△15白、△15灰褐色	(外)黒變	
573	H・13	VII	山形押型文	ナデ	浅黃褐色	灰黃褐色	△2白、△2黒褐色	(外)黒變	
574	L・6	VI a	山形押型文	山形押型文、ナデ	黃褐色	にぶい褐色、黄褐色	△3白、△3灰褐色、△2褐色	(外)黒變	
575	I・10	VII	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	△2深褐色、△2灰褐色、△1浅黃褐色、△1金光沢	(外)黒變	
576	J・6	VII	山形押型文	丁寧なナデ	褐灰色	にぶい黃褐色	△5灰褐色、△3黒褐色、△2浅黃褐色、△2明褐色、微細灰白色透明		
577	L・5	VII	山形押型文	丁寧なナデ	にぶい褐色	にぶい黃褐色	△3白、△3褐色、△2深褐色、△2透明光沢、△1無色透明		
578	N・5	VII	山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい赤褐色	明褐色	微細白不透明		
579	M・6	VII	山形押型文、枝回転文?	ケズリ状ナデ	明褐色、灰褐色	灰褐色、黑褐色	△6にぶい褐色、△5にぶい褐色、△3褐色、△2灰褐色、△2白色、△2無色透明、△1乳白色、△1褐色	(外)黒變	
580	M・5	VII	山形押型文	ケズリ状ナデ	灰褐色、褐灰色	灰褐色、褐灰色	△3深褐色、△3灰褐色、△2無色透明、△1金色		
581	J・7	VII	山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黃褐色	にぶい褐色	△3灰褐色、△3黄褐色、△3褐色、△2浅黃褐色、△2白色、△2金色、△2黒褐色	SII69内出土、(外・内)黒變	
582	I・9	VII	山形押型文	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	△3灰褐色、△3黄褐色、△3褐色、△2白色、△2金色、△2黒褐色	SII69内出土、(外・内)黒變	
583	G・9	VI	山形押型文、ナデ	ナデ	にぶい赤褐色、にぶい黃褐色	にぶい黃褐色	△2白、△2赤褐色、△1白、△1赤褐色、微細黑褐色	(内)黒變	

表3 土器観察表(18)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整				色調	胎土	備考	
			口唇部	外	内	外				
584	M・6	VII	山形押型文	ナデ	にぶい赤褐	褐灰、にぶい黄橙	△1白、微細金色、微細茶褐色			
585	M・6	VI b	山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	△1黒光沢、微細白不透明			
586	G・27	VII	撚糸文?	ナデ	橙	明黄褐	△5白、△3白、△3灰、△1黑光沢			
587	G・26	VII	撚糸文?	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△5黄褐、△3黑			
588	-	c	山形押型文、ナデ、庄文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△2.5白、△2.5薄褐、△2.5黒銀光沢、△2.5白半透明	(内)黒変		
589	N・8	VII	繩文	繩文、ナデ	褐灰	にぶい黄橙	△1黑、△1白半透明	(外)黒変		
590	-	c	繩文	繩文	繩文、ケズリ状ナデ	灰黄褐	褐灰	△1黒光沢、△1無色透明光沢、△1白半透明、△1灰白	(口唇部・内)黒斑?	
591	L・7	VI b	繩文	ナデ、繩文	繩文、丁寧なナデ	にぶい橙	灰褐	△2灰白、△1金光沢、△0.5にぶい黄橙、△0.5ガラス質黄光沢	(内)黒斑?	
592	I・7	VII	撚糸文	ナデ、撚糸文	暗褐	灰黄褐	△4浅黄橙、△4褐灰	(外・内)黒変		
593	J・3	VI	繩文	ナデ後繩文、ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	△5褐灰、△2ガラス質黒光沢、△2褐褐、△0.9にぶい黄橙	(外・内)黒斑?		
594	F・28	VII	ナデ、撚糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△2にぶい黄橙、△1褐灰	(外・内)黒変		
595	K・4	VI	迷点文	ナデ、繩文	丁寧なナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	△2灰白	(外)黒変	
596	J・4	VII	ナデ、繩文	繩文、ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△6灰褐、△3白、微細ガラス質黄光沢	(内)黒斑?		
597	E・26	VII	ナデ、撚糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△灰、△2白、△2灰、△2.5黒銀光沢	(外)黒変		
598	D区	-	繩文	ナデ	橙、褐灰	橙	△4赤褐、△3白、△3灰白、△1黄色透明光沢、△1金光沢	(外)黒変、713と同一個体か		
599	SC137	-	繩文	繩文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙、黒	褐灰	△1浅黄、△1黒光沢			
600	H・7	VII	繩文?ナデ	繩文?ナデ	繩文?、ケズリ状ナデ	明褐	にぶい褐	△2浅黄橙、△2褐灰		
601	J・3	a	短沈線文	ナデ、撚糸文	撚糸文、ナデ	にぶい褐	灰褐	△15白透明、△0.5黒		
602	I・10	VI	ナデ、撚糸文	撚糸文、ナデ、ケズリ状ナデ	黄灰	黄灰	△2黒光沢、△2黒褐、△1灰白			
603	K・5	VII	撚糸文	撚糸文	にぶい黄褐、褐灰	にぶい黄褐、褐灰	△15白透明、△1白透明、△0.5黒	(外)黒変		
604	M・5	VI b	撚糸文	撚糸文	撚糸文、ナデ	にぶい黄褐	褐灰	△4灰褐、△3ガラス質黒光沢、△2灰白、△1ガラス質透明光沢	(外・内)黒変	
605	H・7	VII	撚糸文	ナデ、撚糸文	撚糸文、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、黒褐	△2灰白、△1金光沢	S158内出土、(外・内)黒変	
606	J・6	VI a	撚糸文	撚糸文	撚糸文、ナデ	にぶい黄橙、灰黄褐	△2白、△2透明光沢、△1灰白	(外・内)黒変		
607	L・4	VII	網目撚糸文	網目状撚糸文、ナデ	褐灰	褐灰	△5にぶい橙、△2白、△2.5灰、△2.5褐灰、△2浅黄			
608	J・18	-	迷点文	ナデ、撚糸文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△1ガラス質黄光沢、墨縞にぶい黄、濃縮明暗	(外・内)黒変	
609	D	-	ナデ、撚糸文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△15灰、△1ガラス質黄光沢、微細黒褐	(外)黒変		
610	J・10	VII	撚糸文	ナデ、撚糸文	撚糸文、ナデ	にぶい橙	にぶい橙、褐灰	△1白透明、△0.5黒、微細灰白	(内)黒変	
611	H・8	IV	繩文?、ナデ	ケズリ状ナデ	橙	にぶい褐	△3褐、△3白、△3黄褐、△3灰、△3灰、△2白透明、△2黒銀光沢	(内)黒変		
612	N・7	VI b	ナデ、撚糸文?	条痕文、ナデ	橙、褐灰	にぶい橙	△2.5白透明、△2.5透明光沢、△2明赤褐、△2褐、△2白、△2黑光沢	(外)黒変、(内)尾化613と同一個体か		
613	N・6	VII	撚糸文?	ナデ	にぶい黄橙、褐灰	にぶい黄橙、褐灰	△3黑、△2.5白透明、△1灰白、△1黑光沢	(外)黒変、(内)尾化612と同一個体か		
614	H・6	VI	変形撚糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙、褐灰	にぶい黄褐、褐灰	△3灰褐、△2白不透明、△1無色透明	(外)黒変、(内)黒変		
615	L・4	VII	変形撚糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	黑褐	△4褐、△2.5薄茶半透明、△2白半透明	(外)黒変、焼きむらによる変色?		
616	A区	III	変形撚糸文	変形撚糸文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△16E、△2薄色半透明、△2茶、△1白透明	(内)黒変		
617	H・6	VII	撚糸文	ナデ	浅黄	にぶい黄橙	△2白透明、△2白、△1薄茶半透明	(口唇部・内)黒変		
618	I・3	b	変形撚糸文	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△2白透明、△2白、△1薄色透明、△1黑	(外)黒変、		
619	M・4	VI b	ナデ、撚糸文	ナデ	にぶい褐、褐灰	灰褐	△2白不透明、△2金光沢、微細灰白	(外)黒変		
620	G・28	VII	沈線文	沈線文	ナデ	橙	△8浅黄、△3白、△3黄、△3橙、△2白半透明、△2黑光沢			
621	-	c	山形押型文?	沈線文	ナデ	浅黄	△1黑銀光沢、微細乳白			

表3 土器觀察表(19)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			外	内	胎土	備考	
			口唇部	外	内					
622	-	b	山形押型?	沈線文	ナデ	におい黄	浅黄	¢2黒銅光沢、¢2赤褐	621と同一個体か	
623	-	c		沈線文	ナデ	浅黄	浅黄	微細黒銅光沢、微細黒銅光沢	621-622と同一個体か	
624	-	c		沈線文	ナデ	におい黄橙	におい黄橙	¢3黄、¢1黒銅光沢、¢1黒銅光沢	621-623と同一個体か	
625	-	b	沈線文、貼付付け案 器上に傳伏工具によ る圧痕、工具ナデ		ナデ	におい黄橙	におい黄橙	¢2黒銅光沢、¢1乳白、微細 黒銅光沢	621-624と同 一個体か	
626	K・5	VI b	並行沈線文	ナデ	灰黄褐	におい褐	¢深、¢暗褐、¢3深、¢1墨色透明			
627	F・27	VII	沈線文	ナデ	橙、黒褐	橙	¢4白、¢2不透明、¢15墨、¢15墨光沢	(外)黒変		
628	I・4	b	連点文	並行沈線文	ナデ	におい褐	におい黄褐	¢4白、¢2墨、¢15墨透明、¢15墨透明		
629	H・4	b	連点文	並行沈線文	ナデ	浅黄橙	におい黄橙	¢1褐-灰白、微細黒褐		
630	H・4	b	沈線文	並行沈線文	ナデ	におい橙	褐	¢2透明、¢1黒銅光沢、¢1淡黄、¢1赤褐、¢1灰白、¢1黒銅、¢1明黄褐	(内)黒変	
631	L・8	VII	沈線文	ナデ	におい橙	におい橙	¢1灰白、微細黒銅光沢			
632	J・5	VII	連点文、沈線文	ナデ	におい橙、褐灰	黄灰	¢3明赤褐、¢15灰白、¢15白 半透明、¢15金黄色	(外)黒変? (内)黒變?		
633	H・14	VII	並行沈線文	ナデ、条痕?	浅黄	暗灰黄	¢褐、¢15白-半透明、微細灰白-黑			
634	K・10	VII	連点文	並行沈線文、 沈線文、凹点	ナデ、凹点	におい橙	におい黄褐	¢2黄灰、¢2灰、微細透明、 微細黒銅光沢		
635	L・10	VII	短沈線文	沈線文	ナデ	灰黄	黄灰、浅黄	¢2白半透明、微細黒銅光沢、 微細灰白	(口唇部-外)黒 変、(内)黒變	
636	N・4	VII	短沈線文、沈線文?	ナデ	ナデ	浅黄橙	におい黄橙	微細灰白、微細黒褐		
637	A区	IV		並行沈線文	ナデ	におい黄橙、橙	におい黄橙	¢15明赤褐、¢15白不透明、 ¢1黒銅光沢、¢1無色透明		
638	L・4	VI b	連点文	沈線文	ナデ	におい黄橙	におい黄橙	¢深、¢15深褐色、¢15深褐色、¢15 黄褐、¢15深褐色、¢15墨光沢、¢15墨透明	(口唇部)黒變	
639	A区	IV	連点文	ナデ、沈線文	丁寧なナデ	におい黄褐、灰黄褐	におい黄褐、灰黄褐	¢2灰黄褐、¢1黑、¢1無色透明		
640	A区	IV	ナデ、並行沈線 文、透点文	ナデ	におい橙	褐灰	微細白-黄、微細黒褐			
641	G・26	VII	沈線文、並行沈線文	ナデ	程	明黄褐	¢3.5灰白、¢3.5墨、¢3.5白			
642	H・3	b	ナデ	ナデ	におい橙	におい橙	¢透體、¢深黃、¢2白半透明、¢1墨光沢			
643	L・5	VI b	短沈線文	ナデ、沈線文	ナデ	におい橙	におい橙	¢2白半透明		
644	A区	a	短沈線文	ナデ、沈線文	ナデ	におい褐	におい黄褐	¢25、¢28、¢21不透明、¢2透體光沢	(内)黒變	
645	N・4	VII	短沈線文	並行沈線文	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	¢2白色透明、¢1.5白不透明、微 細黒銅光沢、微細灰白、微細赤褐		
646	I・4	b	短沈線文	並行沈線文	ナデ	におい黄橙	におい黄橙	微細無色透明、微細褐		
647	H・3	b	壓北畫文(ヘラ状工 具による凹痕)	並行沈線文	ナデ	におい黄橙	におい黄橙	¢2やや黄白、¢2赤褐、 ¢1黒銅光沢、¢1無色透明		
648	K・5	VII	短沈線文-削目	並行沈線文	ナデ	におい橙	におい橙	¢1白半透明、¢1無色透明、¢1墨光沢		
649	L・5	VI b	短沈線文	ナデ、ヘラ状工具 による凹痕、ナデ	ナデ	におい黄橙、 灰黄褐	灰黄褐	¢1金色、¢1赤褐、微細無色 透明		
650	D・21	VII	短沈線文	ナデ、連点文、 沈線文	ナデ	におい黄褐	におい黄褐、 におい黄	¢2白半透明、¢2白、¢2褐、¢2白、 ¢2やや黄、¢2灰色、¢1黒銅光沢		
651	N・7	VII	壓北畫文(ヘラ状工 具による凹痕)	沈線文、貼付 穴空	ナデ	におい黄橙	におい黄橙	¢2褐、¢1赤褐、¢0.5灰白		
652	J・4	VI	短沈線文	並行沈線文	ナデ	浅黄橙	黄灰	¢2ガラス状、¢1褐、微細ガ ラス状光沢、微細灰白		
653	H・8	VI		並行沈線文	ナデ	におい黄褐	におい黄褐	¢4灰、¢4黄灰、¢4褐、微 細半透明、微細黒銅光沢	(口唇部-外、 (内)黒變	
654	A区	b	貼付突帯、丁寧 なナデ、連点文	丁寧なナデ	におい黄橙	におい黄橙、 褐灰	¢2赤褐、微細黒銅光沢、 微細無色透明、微細灰白		(内)黒變	
655	N・4	VI b	貼付突帯(削目)、ナデ	ナデ	におい黄橙	におい黄橙	¢2褐灰、微細ガラス質光沢			
656	K・4	VI	貼付突帯(削目)、ナデ	ナデ	におい橙	におい橙	¢15墨光沢、墨闇に¢1白、 ¢15墨光沢、¢1白	(外)黒變		
657	I・5	VI	貼付突帯(削目)、ナデ	ナデ	浅黄橙、褐灰	浅黄橙	¢透透明、¢1白、¢1墨、¢1透明光沢	(外)黒變		
658	I・5	VI	貼付突帯(削目)、ナデ	ナデ	におい黄橙、褐灰	におい黄橙	¢15透明光沢、¢1白、¢1墨、¢1黒銅光沢	(外)黒變		

表3 土器觀察表(2)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考	
			口唇部	外	内	外	内			
659	H・4	b	貼付突帯(押目)、ナデ	ナデ	にぶい黄橙、褐灰	にぶい黄橙	△2赤褐、△1黒銅光沢、△1灰白	(外)黒変		
660	K・5	VI	壓北蓋文(ヘラ押工具による凹・凸目)、沈線文	工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△3薄褐			
661	I・4	VI	壓北蓋文(ヘラ押工具による凹・凸目)、沈線文	工具ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	△1灰、△1薄褐			
662	H・4	b	壓北蓋文(ヘラ押工具による凹・凸目)、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△1灰、△1白			
663	N・7	VI b	壓北蓋文(ヘラ押工具による凹・凸目)、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄	△1白半透明、△1黄橙、△1灰白、△1黑褐、△1赤褐、△1浅黄橙、△1灰白、△1薄灰			
664	A区	a	微隆起突帯(刻目)、沈線文	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい褐	△3白半透明、△2黒銅光沢、△1明赤褐、△1浅黄橙、△1灰白、△1薄灰			
665	J・4	VI	達点文、輪文、葉輪文	ナデ	にぶい褐	にぶい橙、褐灰	△1白半透明光沢、微細灰白	663と同一個体か?		
666	J・4	VI	繩文、結節繩文	ナデ	にぶい橙	灰褐	△1黑光沢、△5無色透明光沢、微細灰白	(外)黒変?		
667	H・3	b	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△1透明光沢、△1黒光沢、△1灰白			
668	D区	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△2.5にぶい黄橙、△2半透明光沢、△1黒光沢、△1浅黄橙			
669	M・8	-	ナデ	ナデ	明灰黄	にぶい黄褐	△4乳白、△3黑、△3金色光沢、△2黒光沢(妻母)、△2半透明	(外)黒変		
670	E・24	VI	壓模突起-供拵文、刻目	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	△3白、△2灰			
671	E・24	VI	捺糸文	ナデ、捺糸文	ナデ	にぶい程、明褐灰	△4白、△2灰	(口唇部-外)黒変		
672	D区	-	短沈線文	貼付突帯-壓目、刻目	ナデ	にぶい黄褐	△2灰白、△1黑褐			
673	D区	-	達点文	貼付突帯(達点)、ナデ	ナデ	にぶい黄	△2白、△1微細黑			
674	G・24	VI	短沈線文	貼付突帯(達点文)、繩文	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい黄橙、△2.5灰白、△2.5褐灰	719と同一個体か?		
675	-	-	貼付突帯(押压繩文)、繩文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	△4.5灰白、△1.5褐灰、△1黒光沢(カクセン石)			
676	H・5	b	達点文	貼付突帯(達点)、ナデ	褐灰	黒褐、にぶい黄褐	△3にぶい黄褐、△1無色透明、△1にぶい黄橙			
677	C区	VI	貼付突帯(達点)、ナデ	ナデ	浅黄	にぶい黄橙	△3程程、微細白、微細赤褐、微細黑光沢			
678	D区	-	短沈線文	繩文	ナデ	橙	△2明赤褐、△2浅黄、△1黒光沢			
679	D区	-	壓模突起(達点)、繩文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△1黒光沢、△0.5暗、△0.5白	(外)黒変		
680	G・12	VI	貼付突帯(押压繩文)、繩文	ナデ	橙	にぶい黄橙	△3半透明、△3黒光沢(カクセントン)、△3黄灰、△3灰、△3黑	(内)黒斑		
681	D区	-	達点文	貼付突帯(達点)、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	△4半透明、微細黒光沢、微細灰白	(外)黒變?	
682	G・14	VI	貼付突帯(押压繩文)、ナデ	ナデ	にぶい黄橙、黒褐	にぶい黄橙、黒褐	△4灰灰、△2赤褐、△2黑、△2半透明、△2黒光沢	(外)黒變		
683	H・12	VI	貼付突帯(押压繩文)、ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	△5褐灰、△3黑褐、△3灰白、△2黒光沢、△2浅黄橙			
684	D区	-	書狀突起-達点文、沈線文	繩文、ナデ	橙	橙	△3橙、△2白、△1黒光沢			
685	C・22	VI	達点文・沈線文	貼付突帯(達点文)、ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	褐灰	△1浅黄橙、△1褐、△1灰白 不透明、微細無色透明		
686	M・4	VI b	短沈線文	壓北蓋文、沈線文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	微細白半透明、微細無色透明、微細黒光沢	(外)黒變	
687	K・8	VI b	貼付突帯(達点)、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	△白、△2白、△2灰、△2透明光沢			
688	K・4	VI	達点文、沈線文、微隆起突帯(達点)、ナデ	工具ナデ	明赤褐	褐	△2白灰、△1.5黒銅光沢、△1橙			
689	M・4	VI b	繩状突起-達点文、沈線文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	△1白灰、△1褐灰	(外)黒變		
690	K・5	VI b	短沈線文	微隆起突帯(浅い刻目)、沈線文、ナデ	沈線文、ナデ	にぶい橙	△1.5灰白、△1無色透明、△1褐灰			
691	D区	-	貼付突帯-達点文、沈線文	ナデ	にぶい褐	灰褐	△1黒銅光沢、△1赤褐、△0.5無色透明、微細灰白	(外)黒變		
692	L・8	VI b	貼付突帯(達点文)、沈線文	工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△1.5黑、△1白半透明、微細白透明光沢			
693	L・4	VI b	瘞突伏起-浅い刻目、沈線文、ナデ	ナデ	にぶい褐	灰黄褐	△1淡黄			

表3 土器観察表(2)

番号	出土点	出土層	文様及び調査			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
694	D区	-	沈線文	沈底文、骨管状工具による連点文、貼付突帯(透点文)、透密文(透点文)	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△3金色鱗片状、△3黄灰、△3灰、△3褐	(外・内)黒変
695	I・5	VII	連点文	貼付突帯(透点文)、沈線文	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	△2白	
696	M・8	VII b		貼付突帯(透点文)、沈線文	ナデ	浅黄褐色、灰白	にぶい橙	△0.15褐、△0.15灰白、微細透明光沢	(外)黒変
697	H・5	b	ヘラ状工具による透い刻目	轍状突起(透点文)、工具ナデ、並行旋文、微細突帯(刻目)	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい黄褐色	△1.5無色透明、△1.5黒鉛光沢、△1灰白	(外・内)黒変
698	D区	-	透点文	貼付突帯(透点文)、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色、にぶい橙	にぶい橙、にぶい黄褐色	微細黒	
699	D区	-	短沈線文	沈底文、貼付突帯(刻目)	工具ナデ、ナデ	にぶい赤褐色	明赤褐色	△透點光沢、△透黃、△1半透黃、△1灰白、△1にぶい、△1オカリナ、△1青白、△1透黒光沢	
700	E・22	VII	短沈線文	瘤状突起、沈線文、連点文	ナデ	明赤褐色	明赤褐色、にぶい赤褐色	△1灰白、△1浅黄、△1透明、△1半透明、△1褐灰	
701	H・15	VII	短沈線文	瘤状突起、燃文系	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	△2無色透明、△1灰白、△1黒褐色	
702	L・8	VII		瘤状突起のち押印、透点文、沈線文	ナデ	浅黄	浅黄	△2透明、△2黒光沢、△2灰、△2乳白、△2褐	(外)黒変
703	D区	-		瘤状突起、瘤状突帯(透点文)、沈底文、透点文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐色	△2黄褐色、△2灰、△2微細透明、△2細黒光沢	(外・内)黒変
704	D区	-	短沈線文	獣文系、沈線文	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	△3や黄褐色、△2黄褐色、△2黒灰光沢	672-701と同一個体か
705	D・20	VII	短沈線文	貼付突帯(透点文)、沈底文、透点文	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい橙	△4.5白、△4.5灰、△4.5やや黄褐色、△1.5灰光沢、△1灰、△1やや黄褐色	
706	F・21	VII	短沈線文のち透点文	沈底文、ナデ	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	△3透黃、△2灰白、△2やや黄褐色、△2透黒、△2灰白、△2黒褐色	
707	D区	-	刻目	貼付突帯、燃文系	ナデ	灰黄	灰黄	△1灰、△1褐、△2微細透明、△2細黒光沢	(外・内)黒変
708	F・21	VII		貼付突帯(透点文)、沈底文、透点文	工具ナデ	にぶい褐色	明褐色	△4灰白、△4褐、△2黒光沢	(外)黒変
709	D区	-	沈線文	瘤状突起、沈線文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△6灰黄褐色、△2灰褐色、△2半透明、△2やや黄透明、△2不透明、△2黒鉛光沢	
710	G・27	VII	刻目	瘤状突起、ナデ、紐の压痕	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△1.5無色透明光沢、△1黒光沢、△1灰白	
711	H・10	VII	連点文	櫛描き様の沈線文、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐色	△3黄褐色、△3灰、△3褐、△2金色、△2黒	
712	D区	-	短沈線文	貼り付け突帯(透点文)、沈底文	短沈線文、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△3褐、△3うすい肌色、△3白、△2微細半透明光沢	
713	D区	-	繩文	瘤状突起、微隆起(透点文)、燃文	ナデ	橙	橙	△3赤褐色、△1灰白、△1褐灰、△1透明光沢	
714	H・14	-		貼付突帯(透点文)、燃文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐色	△2白、△2黑、△2灰白、△1透明光沢	
715	D区	-		貼付突帯(透点文)、燃文	ナデ、指顎痕	にぶい橙	にぶい赤褐色	△1褐色	
716	D区	-			ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	△3黒褐色	(外)黒変
717	G・12	VII	羽状の繩文	結束繩文、沈線文	工具ナデ	にぶい橙	灰黄	△2半透明光沢、△2灰、△2黄褐色、△2黑	
718	G・13	VII	繩文	ナデ、沈底文、透点文	工具ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	△2にぶい黄褐色	(外・内)黒変
719	F・23	VII			ナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	△3褐色、△3灰褐色	
720	K・9	VII		微隆起突帯(透点文)、繩文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△4灰白、△2黒光沢、△2褐灰、△2ガラス質半透明(カクセ石)	
721	H・4/5	b	透点文、沈線文	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△4褐、△4黄灰、△4灰	
722	D区	-	短沈線文	透点文、沈線文	工具ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色、にぶい黄	△5茶、△3黄褐色、△2白不透明、△1黒鉛光沢、△1透黒光沢	(外)黒変、(内)黒斑
723	J・6	VII b	短沈線文、透点文	透点文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△2墨光沢、△2半透明、△2無色透明、△2不透明、△1褐色、△2透黒	
724	M・6	VII	短沈線文、透点文	透点文、沈線文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△2半透明、△2不透明、△2無色透明、△2無色透明光沢、△2金色鱗片状	723と同一個体か?
725	H・11	VII	短沈線文	短沈線文、透点文	ナデ	にぶい褐色、褐色	にぶい褐色、褐色	△2褐色、△2灰、△2無色透明、△2透黒	(外・内)黒変
726	A区	IV	透点文、沈線文	ナデ	ナデ	橙	にぶい褐色	△6赤褐色、△5黄褐色、△5白、△1黒鉛光沢	(外)黒変?
727	K・7	VII b	透点文、沈線文	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△1黄褐色、△1褐色、△2微細黒光沢、△2無色透明	

表3 土器観察表(2)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調	胎土	備考
			口唇部	外	内			
728 K・9	VII	短沈線文	ナデ、沈線文	ナデ、工具ナデ	に赤い黄	に赤い橙	φ2白	
729 J・4	VII	連点文	沈線文、連点文、ナデ	ナデ	に赤い黄橙	に赤い黄橙	φ2灰白、φ1黒鏡光沢、φ1褐灰	(外・内)黒変
730 K・9	VII	沈線文	沈線文	ナデ	に赤い褐	に赤い褐、褐灰	φ1白透明、φ2灰白、微細黒光沢	
731 K・9	VII	連点文、沈線文	連点文、沈線文	ナデ	橙、に赤い橙	に赤い黄橙	φ4橙、微細橙、微細灰白、微細淡黄半透明、微細白半透明、微細黒光沢	(外)黒変?
732 D区	-	羽状の短沈線文	ナデ	ナデ	に赤い橙	に赤い黄橙	φ1灰白、φ1黒鏡光沢、φ1褐灰	
733 L・9	VII a	連点文、沈線文	ナデ	橙、褐灰	に赤い褐、褐灰	φ1墨、φ1灰白、φ1白透明、φ1黒光沢	(外・内)黒変	
734 G・25	VII	繩文	繩文	ナデ	に赤い黄橙	に赤い黄橙	φ3白、φ5灰、φ4乳白、微細半透明光沢	
735 D区	-	短沈線文	ナデ、短沈線文、沈線文、連点文、貼付帯(連点文)	ナデ	に赤い黄橙	橙	φ3.5灰、φ3やや黄、φ1黒、φ1灰、φ1やや黄、φ1白	
736 D区	-	短沈線文	ナデ、短沈線文、沈線文、連点文	ナデ	に赤い黄橙	に赤い黄橙	φ1黒褐、微細無色透明	
737 F・22	VII	連点文、沈線文	連点文、沈線文	ナデ	に赤い黄橙	に赤い黄橙	φ2白、φ2うすい肌色、φ2灰、φ2白不透明、φ2黒光沢	(外)黒変
738 E・22	VII		連点文、沈線文、撚糸文	ナデ	に赤い橙	灰黄褐	φ3浅黄橙、φ3金光沢、φ25褐	(外)黒変
739 K・10	VII b		沈線文	ナデ	に赤い橙	に赤い黄橙	φ1墨、φ1透明光沢、φ1灰黄、φ1灰	(内)黒斑
740 J・4	-		ナデ、微隆起突帯(連点文)	丁寧なナデ	橙	橙	φ2黄灰、φ2灰、φ2灰白、φ2墨、φ2暗、微細透明、微細黒光沢	(外)黒変
741 K・4	VII		沈線文、連点文、ナデ	条痕、ナデ	に赤い赤褐	に赤い褐	φ1黒鏡光沢、φ1白不透明	
742 K・4	VII	刻目	沈線文、連点文、瘤状突起	ナデ	に赤い黄橙	に赤い黄橙	φ1黒鏡光沢、φ1白不透明、φ1半透明、φ1白、φ1灰白	(外)黒変、(内)黒變
743 J・4	VII		微隆起突帯(刻目)、沈線文	ナデ	に赤い橙	に赤い橙	φ1黒鏡光沢、φ1灰半透明、φ1白	
744 -	-	羽状の短沈線文	微隆起突帯(刻目)、沈線文	ナデ	に赤い褐	に赤い褐	微細黒鏡光沢、微細無色透明	穿孔、(外)黒変、(内)黒斑
745 M・5	VII b		刻目、沈線文、連点文	ナデ	橙、に赤い橙	に赤い黄橙	φ2無色透明、φ1黒鏡光沢、φ1白半透明、φ1墨、φ1灰白	(外)黒変? (内)黒斑
746 -	-	刻目	連点文、沈線文	丁寧なナデ	に赤い黄橙	に赤い黄橙	φ1黒鏡光沢、φ1灰半透明	(外)黒変
747 H・4	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	褐灰、に赤い黄橙	褐灰、に赤い褐	φ3褐色、φ1灰褐透明、φ1に赤い黄橙、φ1暗褐、微細黒鏡光沢	(口唇部・外・内)黒変
748 K・5	VII	短沈線文	連点文、沈線文	ナデ	に赤い黄橙	に赤い黄橙	φ3白、φ3灰、φ2黒鏡光沢、φ2無色透明、φ2白半透明、φ15金光沢雲母	
749 A区	IV	刻目	連点文、沈線文	ナデ	に赤い黄橙	に赤い黄橙	φ2白、φ2やや黄、φ2赤褐、φ0.5赤、φ0.5白、φ0.5やや黄	(内)黒変
750 M・4	VII b	刻目	沈線文	ナデ	に赤い褐	に赤い橙	φ2半透明光沢、φ2黒光沢、φ2黄灰、φ2灰、φ2乳白、φ2褐	(口唇部・外)黒変
751 J・5	VII	刻目	連点文、沈線文	ナデ	に赤い黄橙	暗灰黄	φ2やや黄透明、φ2透光現象、微細白	
752 -	-	刻目	連点文、沈線文	丁寧なナデ	に赤い黄褐	に赤い黄褐、橙	φ5に赤い黄橙、φ2灰白	
753 I・4	-	刻目	連点文、沈線文	ナデ、工具ナデ	灰オリーブ	灰オリーブ	φ3白	
754 I・4	b	刻目	沈線文	工具ナデ、ナデ	浅黄	に赤い黄橙	φ1灰不透明、φ1墨、φ1白	(内)黒変
755 I・3	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	に赤い黄橙	に赤い橙	φ35%、φ3灰黄、φ3暗、微細黒鏡光沢	
756 M・4	VII b	刻目	沈線文	丁寧なナデ	淡黄	淡黄、灰白	φ1無色透明、φ0.5褐灰、φ0.5橙、微細黒鏡光沢	
757 J・7	VII	刻目	連点文、沈線文	ナデ	に赤い黄橙	明黄褐、に赤い黄橙、褐灰	φ3浅黄、φ3暗灰黄、φ2灰白、φ1墨、微細黒鏡光沢	(口唇部・外・内)黒変
758 H・4	b	刻目	連点文、沈線文、貝殻置換痕	ナデ	に赤い橙	に赤い橙	φ2赤褐、φ2.5やや黄、φ1やや黄、φ1白、φ1墨	
759 A区	III	刻目	連点文、沈線文	ナデ	に赤い黄褐	に赤い黄褐	φ2金色鱗片状、φ2灰、φ2黄灰、φ2乳白、φ1墨鏡光沢	
760 M・5	VII b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	に赤い黄褐	に赤い黄褐	φ3浅黄、φ3暗褐、φ3透光現象、φ2半透明、φ2金雲母	
761 -	-	連点文、沈線文	ナデ	に赤い黄褐	に赤い黄褐	φ1墨褐、φ1黒鏡光沢、微細無色透明		
762 H・5	b	連点文、沈線文	ナデ	に赤い黄褐	黄灰	φ2無色透明、φ2黒鏡光沢、φ2灰白、φ2墨褐		

表3 土器觀察表(2)

番号	出土地点	出土層	文様及び調査			色調	胎土	備考
			口唇部	外	内			
763	J・4	VI	短沈線文	沈線文	ナデ	褐灰、褐	褐灰、褐	△にぶい黄褐色、微細無色透明、微細黒靄光沢、微細浅黃橙
764	-	b	短沈線文	沈線文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	△無色透明、△2やや黄透明、△1灰白、△1赤點、△1黒銅光沢
765	A区	-	短沈線文	沈線文	ナデ	浅黃橙	浅黃橙	△1灰、△1黑、△1褐、微細半透明光沢
766	J・4	VI	刻目	微隆起突帯(刻目)、工具ナデ	丁寧なナデ	にぶい褐、灰褐	にぶい褐、灰褐	△1黑、△1灰白色、微細無色透明
767	A区	b	短沈線文	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	黑褐色	△1白、微細黑褐色
768	K・5	VII	短沈線文	連点文、沈線文	丁寧なナデ	にぶい褐、橙、褐灰	灰黄褐、明黄褐	△1.5黒銅光沢、微細浅、黄橙、微細無色透明
769	H・6	VI	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙、褐灰	褐灰、にぶい黄橙	△1黑褐色、微細灰白、橙
770	J・4	VI	短沈線文	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐色	(外)黒変
771	I・3	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙、明黄褐	にぶい黄橙、灰黄褐	△1無色透明、△1灰白、△1浅黃橙
772	H・4	b	刻目	連点文、沈線文	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	△2灰オーリーブ、△2金雲母、△1黑銅光沢、△1黒銅光沢、△1灰白、淡黄、黄橙
773	A区	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△1白、灰色、△1無色透明、△1黑
774	H・4	b	刻目	連点文、沈線文、撲杀文	ナデ、黒斑	にぶい黄橙	にぶい黄橙、褐灰	△1黑、△1白色半透明、微細灰白
775	J・10	VI	刻目	連点文、沈線文、短沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	△3色不透明、白色半透明、黒銅光沢、△2灰白、褐
776	A区	b	短沈線文	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	黑褐	△1白、微細黑褐色
777	K・6	VII		刻目による丁寧なナデ	丁具による丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	△5黄橙、△2浅黃橙、△1明褐色、△1灰白、△1銀光沢
778	K・4	VI	刻目	連点文、沈線文	ナデ	橙	橙	△2灰、△2黄、微細黒銅光沢
779	H・4	b	刻目	連点文、沈線文	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	△2灰オーリーブ、△2金雲母、△1黒銅光沢、△1黒銅光沢、△1灰白、△1淡黄、△1銀
780	I・7	VI	刻目	連点文、沈線文	貝殻条痕文	にぶい褐、褐灰	△4浅黃橙、△2褐灰、微細無色透明、微細金銀光沢	
781	M・5	VI b	刻目	連点文、沈線文	丁寧なナデ	浅黃橙	灰黄褐	△1.5灰白、△1無色透明、△1白半透明、△1黒銅光沢
782	I・5	b	刻目	連点文、沈線文、短沈線文	ナデ	褐灰	にぶい褐	(内)黒変、黒變?
783	L・6	VI b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	△1褐灰
784	K・8	VI b	刻目	微隆起突帯(刻目)、工具ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	△1白、△1白半透明、△1黒銅光沢
785	H・2	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△1褐灰、△1白、△1黑褐
786	K・4	VI	刻目	連点文、沈線文、短沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	△2無色透明、△1灰白、△1黑褐
787	I・6	VI	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	△1.5褐灰、△1黒銅光沢、△1金雲母
788	J・4	VI	短沈線文	沈線文	ヘラ状工具による追跡割み目、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	△2灰、△2灰、微細黒、微細金色
789	J・4	VI	刻目	連点文、沈線文	ナデ	明赤褐	橙	△2灰白、△2にぶい黄橙、△2黑褐
790	J・2/K・6	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	浅黃橙	浅黃橙	微細灰白、微細黑褐
791	M・7	VI b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい褐、にぶい黄橙	にぶい黄、にぶい黄褐	△2白、△1黒銅光沢、△1無色透明銀光沢、△1灰半透明
792	-	-	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△2無色透明、△2灰、△1黒銅光沢、△1灰白
793	I・9	VI b	短沈線文	沈線文	丁寧なナデ	淡黄、黄灰	淡黄、黄灰	△15褐、△1無色透明、微細黒銅光沢
794	H・6	VI	工具による 繩維押圧文	沈線文、ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	△1.5灰
795	J・5	VII	羽状の短沈線文	微隆起突帯(刻目)、沈線文	丁寧なナデ	灰黄褐、褐灰	にぶい黄橙、△2灰白、△1黒銅光沢、微細無色透明	
796	H・9	VI	棒状工具による 押圧刻み目	ナデ、棒状工具による沈線文	ナデ	浅黃橙、橙	にぶい黄橙	△2茶褐、△2黒銅光沢、△2白不透明、△1無色透明

表3 土器観察表(24)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
797	L・10	VI a	刻目	沈線文	ナデ	明褐色	にぶい黄褐色	△1灰白、褐色、黒	
798	G・4	—	刻目	微隆起突帯(刻目)、沈線文	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	△1灰白、△1白色半透明、黒色鏡光沢	(内)黒変
799	I・4	b	刻目	連点文、沈線文	横ナデ	褐、にぶい褐色	にぶい黄褐色	△1黒鏡光沢、△1灰色半透明、△1白	(外)黒変
800	I・2	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	橙	橙	△3白、赤褐色、やや黄、△2黒鏡光沢、△1黒鏡光沢、微細白、やや黄	
801	A区	b		ナデ、沈線文	ナデ、沈線文	橙	橙	△1無色透明、△1赤褐色、微細灰褐色	
802	L・4	VII		ナデ、沈線文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△2黑、灰、黄灰、褐色、△1透明、黒	SI108内車土(口唇部-外)黒変
803	J・2	b	刻目	連点文、沈線文、突帶状?	ナデ	にぶい黄褐色	黒褐色	△3透明光沢	穿孔
804	H・3	b	刻目	連点文、沈線文	工具ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△2灰色半透明、△1黒鏡光沢、△1白、△1やや黄	(外)黒変
805	I・10	VII	刻目	連点文、沈線文	ナデ	灰黄	浅黄	△2黒鏡光沢、△1黒鏡光沢、微細灰、灰、乳白色	(外)黒変
806	I・3	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ、押圧痕	にぶい橙	にぶい橙	△2褐色	(外)黒変
807	J・3	VI	短沈線文(浅い刻目)	沈線文、浅い刻目、突帶状?	ナデ	褐色	にぶい橙	△2灰白、褐色、△2やや黄、△2白色不透明、△2白色透明	(外-内)黒変
808	J・4	VI	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	微細黒褐色	
809	K・4	VI	短沈線文	沈線文、連点文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△3白色半透明、△2灰、△2灰白、黄褐色、浅青褐色、褐色、△1黒鏡光沢、△1黒鏡光沢	
810	H・4	b	刻目	微隆起突帶(刻目)	ナデ	明褐色	にぶい黄褐色	△2褐色、△2黄褐色、微細無色透明、微細黒褐色光沢	
811	K・4	VI		微隆起突帶(刻目)、沈線文	横ナデ	明赤褐色	にぶい褐色	△2灰、黒、乳白色、△1黑、透明光沢	(外)黒変
812	K・5	VI b	刻目	連点文、凹線文	横ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	△2褐色、△2黒鏡光沢、△2灰白、淡青	(外)黒変
813	H・4	b	刻目	微隆起突帶(刻目)、沈線文、瘤状突起	ナデ、瘤斑	にぶい褐色	にぶい褐色	△2灰黄、灰、褐色	
814	G・4	b		微隆起突帶(刻目)、ナデ	ナデ、瘤斑	橙	にぶい黄褐色	微細半透明色、黒色光沢、灰、黄褐色、乳白色、褐色	(外)黒変
815	K・4	VII		微隆起突帶(刻目)、沈線文	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	△3灰、灰黄、乳白、褐色、△2透明、黑色光沢	(外)黒変
816	—	VI		微隆起突帶(刻目)、沈線文	ナデ	にぶい橙、褐色	にぶい褐色	△3橙、△1灰白、白色半透明、黒	(外)黒変
817	K・5	VI b		微隆起突帶(刻目)、沈線文	ナデ	橙、褐色	褐色	△2白色半透明、透明光沢、△1灰白、黒	
818	L・5	VI b	刻目	微隆起突帶(刻目)、沈線文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい褐色	△2金雲母、△2灰色半透明、△2白、茶	(外)黒変、(内)黒變(焼きらむ?)
819	L・4	VI b		微隆起突帶(刻目)、沈線文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△1褐色	(外)黒変
820	L・4	VI b		沈線文、連点文	工具ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐色	△2灰黄褐色、△2灰白、△1ガラス状光沢、△2浅黄褐色	
821	F・25	VII		沈線文、連点文	工具ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△3灰白、△2黄褐色	(外)黒変
822	I・3	b	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△2黑、△2透明光沢	(内)黒変
823	H・4	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	橙、にぶい橙	にぶい黄褐色	△2にぶい黄褐色、△15灰白、△1無色透明、△1黒鏡光沢	
824	A区	—	刻目	短沈線文、沈線文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△1灰褐色	
825	J・4	VI	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄褐色	褐色	△1白	(口唇部-外)黒変
826	J・4	VI	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい橙	△2赤褐色、△1黒鏡光沢、△15黒、△0.5灰、△0.5やや黄、△0.5白	
827	K・6	VII	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△1黒鏡光沢、△1白半透明、△1無色透明	(外)黒変
828	I・4	b	刻目	沈線文、捺糸文	ナデ	にぶい黄褐色	灰褐色	△2褐色	
829	M・5	VI b		連点文、沈線文	ナデ	灰褐色	にぶい褐色	△2白半透明、△20.5黒、微細灰白	
830	I・4	b	刻目	沈線文、捺糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐色	△0.5透明光沢、△0.5白、△0.5灰	(外)黒変

表3 土器觀察表(25)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
831	I・4	b	連点文、沈線文	ナデ	にぶい橙	にぶい青、灰褐	φ0.5透明光沢、φ0.5白、φ0.5黒	(外)黒変	
832	L・4	VI b	細沈線文、連点文	工具ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ1半透明、φ1やや黄、微細黒透光沢	(外)黒変	
833	K・4	VI	刻目	沈線文	ナデ	橙	φ1黄灰、φ1灰、φ1褐、微細黒	(外・内)黒変	
834	M・5	VII	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	淡黄	φ1無色透明、φ1黒透光沢、φ1半透明	(外)黒変
835	H・2	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1黑、φ1灰、φ1白、φ0.5黒透光沢	
836	I・5	VI	刻目	沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ1ガラス状光沢、φ0.5黒光沢、φ0.5灰白	(外・内)黒変
837	J・2	b		沈線文	ナデ	浅黄褐	浅黄	φ1黑、φ1黒光沢、φ1透明光沢	
838	J・5	VI a	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ2灰、φ2K、φ2B、φ1灰、微細半透明、微細白不透明、微細純光沢、微細全色	
839	J・2	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい青、淡黄	にぶい黄褐	φ1やや黄、φ1黒光沢、φ1白半透明	(外)黒変
840	I・6	VI	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ7やや黄、φ3やや黄、φ3灰、φ3赤褐、φ3白、φ1黒透光沢	(I区部)黒変
841	A区	b	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ5灰、φ5K、φ5L白、微細黒透光沢	(外・内)黒変
842	J・10	VI	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ1浅黄	
843	I・4	b	刻目	沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ1灰白	(外)黒変
844	A区	b		沈線文、撚糸文	工具ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ4にぶい黄橙、φ2透明光沢、φ1黒光沢	
845	J・4	VI		連点文、沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい橙	褐灰	φ3灰白、φ3B、φ2白不透明、φ2半透明、φ2透明光沢、φ1黒光沢	(外・内)黒変
846	A区	b		沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2灰灰、φ2K、φ2B、φ2褐、φ2透明光沢	(外)黒変、(内)黒斑
847	K・4	VI		沈線文、網目撚糸文	工具ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	φ1褐灰	(外・内)黒変
848	N・6	VI b		沈線文、撚糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	φ2灰白、φ2褐、φ1透明光沢、φ1黑	穿孔、(外)黒変、(内)赤变?
849	A区	IV		連点文、沈線文、撚糸文	ナデ	橙	にぶい黄橙	φ2黄灰、φ2K、φ2B、微細透明、微細黒透光沢	(外)黒変
850	A区	b	刻目	沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	φ1黑光沢、φ0.5褐、φ0.5灰	(内)黒変
851	I・2	b	羽状の刻目	沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ2灰、φ1黑、φ1白、φ1無色透明	(外・内)黒変
852	K・4	VII	刻目?	沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	φ1白	(外・内)黒変
853	A区	IV		沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ1褐灰	(内)黒変
854	A区	-		沈線文、網目撚糸文	工具ナデ	灰黄褐	灰黄褐	φ1.5金色光沢、φ1黑、φ1灰白	(外)黒変
855	J・2	b		沈線文、網目撚糸文、結節繩文	ナデ	橙	にぶい黄橙	φ2黑褐、φ2灰白、φ1ガラス質透明光沢、φ1ガラス質黒透光沢	(内)黒変
856	H・5	b		沈線文、網目撚糸文	丁寧なナデ	にぶい褐	灰褐	φ15白、φ0.5透明光沢、φ0.5金色澤	(内)黒変
857	K・4	VII		沈線文、網目撚糸文	ナデ	橙	にぶい褐	φ2灰、φ2黄灰、φ2褐、微細黒透光沢	(外)黒変、(内)黒斑
858	H・6	VI	刻目	沈線文、連点文	ナデ	にぶい黄橙	明黄褐	φ2黒透光沢、φ1無色透明	(外・内)黒変
859	J・5	VI	羽状の刻目	沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3金澤母、φ2金澤母、φ2半透明、φ2灰白、φ1浅黄	(I区部)外・白、(内)黒変?
860	H・4	b	刻目	沈線文、連点文	ナデ	にぶい橙、橙	にぶい黄橙	φ2.5灰褐、φ15黒透光沢、φ1無色透明	
861	I・2	b	刻目	沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい橙、灰褐	φ3灰白、φ2金色、φ1黑透光沢	
862	H・2	b	刻目	爪形の連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1白半透明、φ1黑透光沢、微細灰白	
863	M・10	VI b	刻目	沈線文、半截竹管様の工具による連点文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2ガラス状光沢、φ2黄橙、φ15灰白	(内)黒変?
864	J・9	VII	刻目	爪形の連点文、沈線文	ナデ	にぶい橙、褐	橙、褐	φ3褐、φ3にぶい黄橙、φ2.5にぶい赤褐、φ2黑、φ2半透明、φ2灰白、微細無色透明	
865	N・4	VI		沈線文、爪形の連点文、貝殻模様正直文	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	φ1ガラス状透明光沢、φ1ガラス質半透明、φ1灰白、φ0.5ガラス質黒	
866	H・3	b	層	刻目	沈線文、連点文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1ガラス質透明光沢、φ1灰白、φ0.5ガラス質黒
867	H・6	VI		沈線文、連点文	ナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	φ2灰白、φ2灰褐、φ1金澤母、φ1黒透光沢	

表3 土器観察表(26)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
868	I・3	b	刻目	沈線文	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	♂25、微透明光沢、微細無色透明	(外)黒変
869	I・2	b		沈線文、連点文	ナデ	明赤褐	にぶい黄橙	♂2白、♂2褐	
870	J・4	VI		沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	♂2黒銅光沢、♂1黒銅光沢、♂1褐白、♂1灰白、♂1青紫、♂1浅黄橙	(外)黒変
871	-	c	羽状の刻目	沈線文	ナデ	橙	にぶい黄橙	♂2黒、♂2茶褐、♂2白、♂1無色透明、♂1黒銅光沢	
872	J・5	V	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	♂1黒銅光沢、♂1無色透明、♂1白	
873	H・3	b	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	♂3黒、♂2白	
874	J・4	a	棒状工具による連続圧痕	沈線文	ナデ	黄褐	にぶい黄橙	♂1白、♂1黒、♂1黒光沢	
875	H・2	-	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	♂1無色透明、♂1黒銅光沢	(外)黒変
876	K・3	VI	刻目	沈線文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	♂灰青闇、♂4にぶい褐、♂2黒銅光沢、♂1半透明、♂灰白、♂1褐白、♂1明赤褐	
877	H・3	b	刻目	沈線文	ナデ	橙	にぶい黄橙	♂1黒銅光沢、微細白	
878	H・4	b	刻目	沈線文、撲糸文	ナデ	にぶい黄橙、橙	にぶい橙	♂1無色透明、♂15黒銅光沢、♂1白	
879	K・5	VI		沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	♂15褐褐、♂1灰白	(外)凹点
880	J・4	a		沈線文	ナデ	褐	にぶい褐	♂1白、♂1黒、♂1やや黄	(内)黒変
881	J・4	VI	刻目	沈線文	ナデ	明赤褐	明赤褐	♂2にぶい黄橙、♂2薄赤褐、♂15白不透明、♂1灰白、♂1褐白、微細無色透明	
882	I・7	VI	刻目	沈線文	ナデ	橙、浅黄	浅黄橙、褐灰	♂2白透明、♂1黑、微細灰白	(内)黒変
883	-	-	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	♂3薄白褐、♂35灰、♂3透明光沢	(口唇部)黒変
884	A区	b		沈線文、連点文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	♂3浅黄、♂2赤褐、♂2灰白、微細透明光沢	(外)黒変
885	K・6	VI b		沈線文	ナデ	灰黄	灰黄	♂5無色透明、♂5白不透明、♂2黄褐、♂1黒銅光沢、微細灰白	(外)黒変、(内)黒變
886	I・4	b	羽状の刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	♂1黑、微細灰白、微細赤褐	
887	I・5	VI		沈線文	ナデ、工具ナデ	にぶい橙、 提糸	にぶい黄橙、 灰黄褐	♂15無色透明、♂0.5黒	
888	H・4	b	刻目	沈線文	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	♂25赤褐、♂1黑、♂1黄橙、微細灰白	
889	I・3	b		沈線文	ナデ	にぶい橙、褐灰	にぶい橙	♂1白半透明、微細黒銅光沢、微細灰白	
890	N・5	VI b		連点文、沈線文、 撲糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	♂8灰白、♂5褐灰、♂2浅黄橙	
891	(口)	b	刻目	沈線文、網目撲糸文	ナデ	浅黄橙、褐灰	にぶい黄橙	♂1.5黑、♂1.5白半透明、 ♂1黑、♂1透明光沢	(口唇部)黒変
891	(頭)	b		沈線文、網目撲糸文	ナデ	灰黄褐、褐灰	にぶい黄橙、 褐灰	♂2黑、♂2透明光沢、微細灰白	
892	H・4	VI	刻目	連点文、沈線文、 網目撲糸文	ナデ	褐灰、灰黄褐	にぶい黄橙、 褐灰	微細透明光沢、微細灰白、微 細黑	(口唇部)黒変
893	A区	b	刻目	短沈線文、沈線文、 撲糸文、 網目撲糸文	ナデ	褐	にぶい褐	♂7赤褐、♂5にぶい黄橙	
894	J・2	b	刻目	沈線文、網目撲糸文	ナデ	浅黄	浅黄	微細透明、微細半透明、微細 黒銅光沢、微細灰白、微細灰	(外)黒変、(内)黒變
895	A区	b	刻目	短沈線文、沈線文、 撲糸文、 網目撲糸文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	♂1白、♂0.5透明光沢	
896	-	-	刻目	沈線文、網目撲糸文	ケズリ	暗灰黄	暗灰黄	微細白、微細黒銅光沢、微細半透明	SI20内出土
897	A区	b	刻目	沈線文、網目撲糸文	ナデ	にぶい褐、褐灰	にぶい褐、褐灰	♂2白透明、♂1黑、♂1透明光沢	
898	H・4	b		沈線文、網目撲糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	♂1黒光沢、♂0.5透明光沢	
899	J・2	b	刻目	沈線文、網目撲糸文、 短沈線文	ナデ	灰黄褐	にぶい褐	♂2褐灰	(外)黒変
900	K・3	VI	刻目	連点文、沈線文、 網目撲糸文	刷毛目様の工 具ナデ	灰黄褐	にぶい橙	♂3にぶい褐、♂15ガラス質 黒、♂1黄灰	
901	H・3	b		連点文、沈線文、 網目撲糸文	ナデ	にぶい橙	橙	♂3灰褐、♂3灰、♂3褐、♂3黑	(外)黒変
902	J・2	b	刻目	沈線文、撲糸文	ナデ	にぶい黄橙、 褐灰	にぶい黄橙、 褐灰	♂25明赤褐、♂25灰白、 ♂25透明光沢、♂1黒光沢	(外)黒変

表3 土器観察表(2)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
903	I・25	-	刻目	短沈線文、沈線文、捺系文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	精良	
904	I・5	VI	刻目	連点文、沈線文、網目捺系文	ナデ	にぶい黄褐	灰黄	△3灰白ガラス状無色透明、△3金色光沢、△1灰黄、飛揚ガラス質光沢	(外・内)黒變?
905	H・4	b		連点文、沈線文、網目捺系文	ナデ	にぶい橙	褐灰	△2白不透明、△1黒光沢	(外・内)黒變
906	I・2	b		半斜面首器の工具または貝殻による連点文、沈線文、捺系文	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐、灰黄褐	△3明赤褐、△3灰黄褐不透明、△3にぶい橙不透明、△2浅黄橙、△1灰白、△0.5無色透明	穿孔
907	H・6 (口)	VI	刻目	沈線文、網目捺系文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△2透明、△2黒、△2金色光沢、△2黄灰、△2灰、△2褐	(外・内)黒變
907	A区 (側)	b		沈線文、網目捺系文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△2透明、△2黒、△2金色光沢、△2黄灰、△2灰、△2褐	(外・内)黒變
908	A区	b	刻目	連点文、沈線文、横文	丁寧なナデ、工具ナデ	褐	褐	△2金色、△1灰黄光沢、△1淡黃	(口唇部-外)黒變
909	K・5	VI b		連点文、沈線文、網目捺系文	ナデ	にぶい橙	灰褐	△1.5ガラス状半透明、△1.5黒光沢、△1ガラス質光沢、微細黑、飛揚灰白	(外)黒變
910	A区	-		連点文、沈線文、網目捺系文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△1黄灰、△1灰、微細透明、飛揚黒光沢	(外)黒變
911	K・5	VI		沈線文、網目捺系文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	△3褐、△1褐灰	(外・内)黒變
912	J・4	VI		沈線文、縦文	丁寧なナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	△1.5浅黄橙、△1.5褐、△1金色	(外)黒變
913	A区	b		沈線文、捺系文	ナデ、穿孔	にぶい橙	にぶい黄橙	△2灰白、△2褐灰	穿孔、(外・内)黒變
914	I・2	b	刻目	沈線文、連点文、捺系文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	△3にぶい浅黄橙、△2黒光沢、△2にぶい紫、△1ガラス状光沢、△1灰褐	(外・内)黒變
915	A区	b		連点文、沈線文、捺系文	ナデ、補修孔	にぶい橙、褐灰	にぶい橙、灰褐	△1黒光沢、△1透明光沢、△0.5灰白	(外・内)黒變
916	J・4	VI	刻目	沈線文、捺系文	丁寧なナデ	灰黄褐	灰黄褐	△1灰白	(口唇部-外)黒變
917	K・4	VI	刻目	沈線文、捺系文、爪形の連点文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	△2透明、△2黒、△2金色光沢、△2黄灰、△2灰、△2褐	(口唇部-外)黒變
918	J・2	b		沈線文、網目捺系文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△3浅黄橙、△2褐灰、△2黒褐、飛揚ガラス質光沢	(外・内)黒變
919	H・4	b		沈線文、捺系文、連点文	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	△2褐、△2赤褐、△1透明光沢	(外・内)黒變
920	K・5	VI		連点文、沈線文、網目捺系文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△0.5灰白、△0.5白、△0.15透明光沢	(外)黒變
921	N・7	VI		爪形の連点文、沈線文、捺系文	ナデ	橙	にぶい黄橙	△4灰黄褐、△3褐、△2灰	
922	K・7	VI b		連点文、沈線文、縦文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△3にぶい黄橙、△3褐灰、△1黒褐、△1ガラス質光沢	(外・内)黒變
923	L・5	VI b	刻目	沈線文、短沈線文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	△2灰、△2にぶい黄橙	
924	I・2	b	刻目	沈線文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△2黄灰、△2灰、△2褐	
925	N・7	VI b		沈線文、捺系文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	△2灰、△2褐灰、△2褐、微細半透明光沢、微細黒光沢	(外)黒變
926	H・4	b		沈線文、捺系文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△2黄灰、△2灰、△2黒、微細半透明光沢、微細黒光沢	(外)黒變
927	J・2	b		沈線文、捺系文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	△0.5黒褐、△0.5褐	(内)黒變
928	K・5	VI b			ナデ	ナデ、微隆起突帯(刻目)、沈線文	にぶい褐	微細透明、微細黒光沢、微細黄灰、微細褐灰、微細褐	
929	I・2 (口)	b	貝殻腹縁压痕文	沈線文、貝殻腹縁压痕文	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	△5白光沢、△5黒光沢、△1無色透明光沢	
929	I・3 (側)	b		沈線文	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	△5白光沢、△3黒光沢、△2無色透明光沢	(内)黒變
930	A区	IV	貝殻腹縁压痕文	貝殻腹縁压痕文、沈線文	ナデ	にぶい橙	橙	△4にぶい黄橙、△4灰白、△1黒光沢、△0.5ガラス質透明光沢	(外・内)黒變
931	I・2	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	橙	△1連点紋、△1白、△1灰、△1褐、微細	(内)黒變
932	H・2	b	貝殻腹縁压痕文	貝殻腹縁压痕文	ナデ	にぶい黄	△3灰白	(外)黒變	

表3 土器観察表(2)

番号	出土地点	出土層	文様及び調査			色 調	胎 土	備 考
			口唇部	外	内			
933	J・2	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	に赤い黄橙	に赤い黄橙	φ1黒褐、微細灰白
934	G・4	b		丁寧なナデ、粗み目 粗面起突帝文、横走 縦走縞文、細沈線文	丁寧なナデ	橙	橙	φ1灰白
935	H・5	—	刻目	連点文、沈線文	ナデ	に赤い黄橙、 灰黄褐	に赤い褐、 褐灰	φ3褐、φ1明黄褐、φ1赤褐、φ1灰 白、φ0.5金色光沢、微細無色透明
936	L・10	VI a	刻目	貝殻腹縫压痕 文、沈線文	ナデ	に赤い褐	灰黄褐	φ3灰白、φ3褐、φ3赤褐
937	I・3	b	刻目	沈線文、短沈線文	ナデ	に赤い黄	に赤い黄橙	φ1黄褐、φ1灰、微細無色透明、輕金色、垂相間 (内)黑斑
938	H・3	b	刻目	貝殻腹縫压痕 文、沈線文	ナデ	灰黄	に赤い黄橙	φ1灰褐
939	I・2	b	刻目	貝殻腹縫压痕 文	ナデ	に赤い褐	に赤い褐	φ4ガラス質半透明灰白、 φ2.5灰白、φ2金色光沢
940				沈線文	工具ナデ、ナデ	に赤い褐	灰褐、に赤い褐	φ2半透明、φ1金色、φ1白、φ1淡黄 SI 20内出土
941	J・4	VI	刻目	連点文、沈線文	丁寧なナデ	に赤い黄褐	に赤い黄橙、 灰黄褐	φ1灰白、φ1褐灰
942	—	b		ナデ	ナデ	浅黄、黄灰	浅黄	φ2灰白、φ1半透明光沢、 φ1墨光沢、φ1金色
943	A・5	VI		ナデ	ナデ	に赤い黄橙	に赤い黄橙	φ2金色、φ2墨光沢、φ2黄 灰、φ2灰、φ2乳白、φ2褐 (外)黒変
944	H・6	VI		ナデ	工具ナデ	に赤い黄橙	に赤い黄橙	φ2灰褐、φ2灰、φ2褐 (外)風化、 (内)黒斑
945	I・3	b	刻目	ナデ	ナデ	に赤い黄	に赤い黄橙	φ2灰、φ2黑、微細墨光沢 (外)黒変
946				ナデ	ナデ	に赤い黄橙	に赤い黄橙	φ1灰、微細墨、微細灰半透明 SI 20内出土、穿孔
947	I・3	b	刻目	ナデ	ナデ	に赤い褐、 褐灰	に赤い褐	φ1黄、微細灰白、微細透明 光沢、微細墨光沢 (外)黒變？
948	J・4	VI		ナデ	ナデ	黄褐	に赤い黄橙、 褐灰	φ4黑、φ4灰白、φ4白不透 明、φ2透明光沢、φ1黑褐光沢 (口唇部、外) 黒變
949	I・5	VI		ナデ	ナデ	に赤い褐	に赤い褐	φ3.5赤褐、φ0.5褐、φ0.5透明光沢 (口唇部、内)黒變
950	K・4	VI		ナデ	ナデ	に赤い黄橙	灰黄褐	φ3灰、φ1白不透明、φ2淡黄、φ2 金色光沢、φ1透明光沢、φ1黑褐光沢 S1と同一個体か (外)黒變
951	K・4	VI		丁寧なナデ	ナデ	に赤い黄橙、 褐灰	灰黄褐、褐灰	φ3灰、φ2淡黄、φ2白不透明、 φ2透明光沢、φ1金色 (外)黒變、95 S0と同一個体か (外)黒變
952	I・8	VI		貝殻による条痕文、 貝殻腹縫压痕文	ナデ	に赤い黄橙、 褐灰	褐灰	φ7半透明光沢、φ2灰白、 φ2半透明光沢、φ1金色 (外)黒變、95 S0と同一個体か (外)黒變
953	—	—		貝殻による条痕文、 貝殻腹縫压痕文	ナデ	に赤い褐	灰黄褐	φ2.5半透明光沢、φ2.5乳白、 φ1金色 (外)黒變、952 S0と同一個体か (外)黒變
954	K・7	VI		貝殻による条痕文、 貝殻腹縫压痕文	ナデ	黄灰	に赤い黄橙	φ2黒褐光沢、φ2金色鱗片状、 φ1灰白 (口唇部)黒変、 (外)黒變、黒變、(内)風化
955	K・7	VI		貝殻による条痕文、 貝殻腹縫压痕文	丁寧なナデ	黄灰	に赤い黄橙	φ2に赤い褐、φ2灰白、 φ2黒褐、φ2金色鱗片状 (外)黒變、黒變、(内)黒變
956	L・5	—		貝殻による条痕文、 貝殻腹縫压痕文	丁寧なナデ	に赤い黄橙	オリーブ黒	φ1.5白半透明
957	I・5	VI		貝殻による条痕文、 貝殻腹縫压痕文	丁寧なナデ	に赤い黄	暗灰黄	φ1無色透明光沢、 φ1黒褐光沢 (外)黒變、(外) 黒變、(内)黒變
958	K・9	VI b	刻目	瘤状突起、貝殻 腹縫压痕文	ナデ	灰黄	暗灰黄	φ1褐灰、φ1淡黄 (内)黒變
959	K・5	VI b		ナデ		に赤い黄橙	に赤い黄橙	φ2灰褐、φ2灰、φ2褐、微細墨光沢
960	L・4	VI b		ナデ		に赤い黄橙	明黄褐	φ2黒褐光沢、φ1無色透明 (外)内)黒變

### 第3節 石 器

石器の報告は、石器群を便宜的に出土層別に分けて行なうものとする。その理由は、現時点で、石器の時期を個々の石器からのみでは特定できないためである。これについては、今後の研究に期待したい。なお、以下では、黒色黒曜石は黒曜石、白色黒曜石については姫島黒曜石、青灰色黒曜石は淀姫黒曜石と呼称して記述する。

#### 1 IXa～IXb層

細石刃（961～966）・細石刃核（973～995）、石斧（999）・搔器（969+970）・削器（971）・微細剥離ある剥片（972）、不定形剥片剥離の接合資料（997+998+α）が出土する。

細石刃・細石刃核はすべて黒曜石製で、複数の産地が想定される。細石刃核の素材は、2～5cm大の小礫であり、細石刃剥離は礫分割面を打面とし、礫形状を活かしながら行なわれるものが多い。

接合資料（997+998+α）は、約8×9×4cmの亜角礫から剥片剥離されたものである。剥片剥離は、礫の角である⑪⑫から剥離される。その後、礫は節理面を境に、礫Aと礫Bに分割される。礫Aは剥片（⑧の前身）が剥離された時、節理などによって①②③が同時に分割された可能性がある。⑥は搔器（997）へと加工される。礫Bは、礫端の④⑤が剥離され、石核原型が作出される。石核は礫面を除くように打面形成（⑥の剥離）、石核成形（⑩⑬）が行なわれ、④⑦のような不定形剥片が剥離される。いかなる剥片を目的としたかは明確でない。最終的に、石核（⑨、998）が残される。

石斧（999）は、縦長に近い、厚手の剥片を素材とし、素材剥片末端側が石斧刃部となる。石材はシルト岩。成形加工は素材剥片裏面を打面として行なわれ、その後、刃部周辺を中心研磨がなされる。石斧は、最大長11cmで直線的な両側縁を持つ平面短冊形、最大厚3.5cmを超す断面かまぼこ形である。基部付近は幅約3cmで丸みを帯び、刃部は、幅約4.5cmではば直線的である。4cm前後の横幅に対し、石斧の最大厚は3.5cmを越し、非常に甲高である。石斧刃部にはやや深めの剥離が残される。

石斧はその後、解体される。解体は、石斧の最も甲高な稜から剥離し（1007）、続けて刃部周辺が打ち落とされる（①②）。その後、③を含む、石斧腹面側からの剥離によって、旧石斧刃部側に尖頭部が作出される（1008）。適当な器種名が見当たらず、仮に削器として報告した。石核の可能性もある。背面に研磨痕のある縦長剥片（1001+1002+1003+1004、1006）と縦長に近い不定形剥片など（1000・1005）は石斧と同石材である。石斧本体との接合は確認できていない。

この他、図示していないが、長径10cm前後の球状のチャート礫を分割し、礫面から分割面中央に向かって不定形剥片が剥離される接合資料がある。利用されたチャートは粗質で、石器石材として向いてない。拳大のチャート原石も1点出土する。これも粗質のチャートであり、これらの石材が利用された製品は見当たらない。

#### 2 VII・VIII層

1009～1139は打製石鎌。1071・1085の表裏面には部分的に研磨が見られ、また両側縁は鋸歯状を呈する。打製石鎌は、チャート・黒曜石製のものの中に、うす手の一群がある。この傾向は、

チャート製のもので特に強い。また、1066・1067のような、分厚く、基部にU字の抉りを持つ一群は、安山岩で占められる。1072は帖地型石鎚Aタイプ、1073はその範疇に入りそうなもの、1125は欠損が著しいものの、帖地型石鎚Bタイプになるであろう。1216は圓面の都合上、石鎚に含まれていないが、小形の帖地型石鎚Aタイプであろう。1072・1125・1216は、すべて乳白色の珪質岩である。石材と石鎚形態に一定の相関が見られる。1090～1139は欠損の著しいものを一括した。先端からの加熱によって欠損する資料が一定量見られる。1140～1177は打製石鎚未製品である。

1178～1182は礫器である。石材は、尾鈴酸性岩・砂岩・頁岩がある。1179・1181は尾鈴酸性岩製で、それらは礫片を利用し、背面に大きく礫面を残す。

1183・1186は舟底状石器で、いずれも黒曜石製で小形である。1184・1185は石錐である。1187～1190・1194・1195は二次加工ある剥片、1192・1196は微細剥離ある剥片である。1191は小形角礫の角を剥離したものである。左側面に見られる剥離の意図は不明確である。打面再生剥片、打面作出剥片などが想定される。1193は六角柱の水晶の結晶である。水晶は、包含層中に本来存在しないことから、持ち込まれたものである可能性が高い。稜が摩滅する。1197～1199は、削器と剥片が接合する資料である。1200～1206・1209・1210は石匙である。小形のものは黒曜石、少数のチャート、大形のものは安山岩製である。小形の一群は下端を尖らすものが特徴的に見られる。1207は楔形石器、1208・1211～1214は搔器である。

1215・1217～1219は尖頭器である。1215→1218→1217の順に、大→中→小となる。石材は大・中が安山岩、小が頁岩となる。1219は尖頭部が明確でなく、また加工のあり方など一般的な尖頭器と異なる点が多いが、便宜上ここに掲載した。1220～1239は削器である。尖頭状石器・石鎚未製品との区別が明確でないものもここに含めた。小型のものには黒曜石・チャートが多用され、大型のものには砂岩・頁岩が多用される。

1240～1272は石核である。小形のものに黒曜石・姫島黒曜石・淀姫黒曜石・チャートが、大形のものに砂岩・頁岩が多用される。傾向として、大形・小形の石核を問わず、縦長に近い不定形剥片が剥離される。1252は細石刃核の可能性がある。

1273～1275は異形石器である。1275は黒味を帯びたチャート製であり、1273・1274の黒曜石製のものと合わせ、黒色系石材が利用される。1280・1281は磨製石斧、1282は環状石斧である。環状石斧の残り半分は出土していない。欠損部周辺は赤化する。1283～1299は敲石類、1300～1305は石皿類である。

1276～1279はⅣ層中より出土した。1276・1279は二次加工ある剥片、1278は石核である。

### 3 VI層

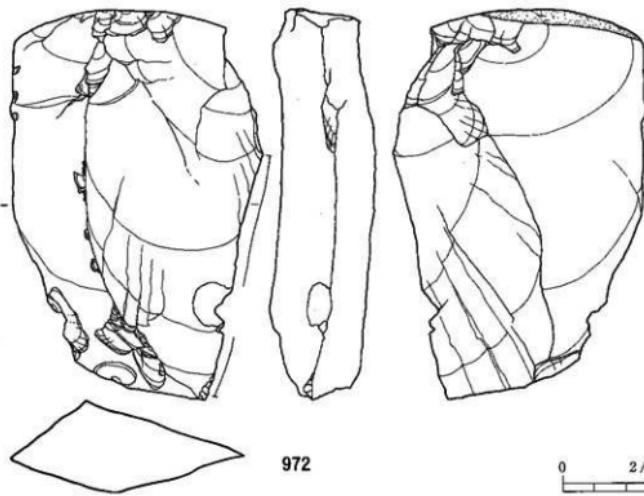
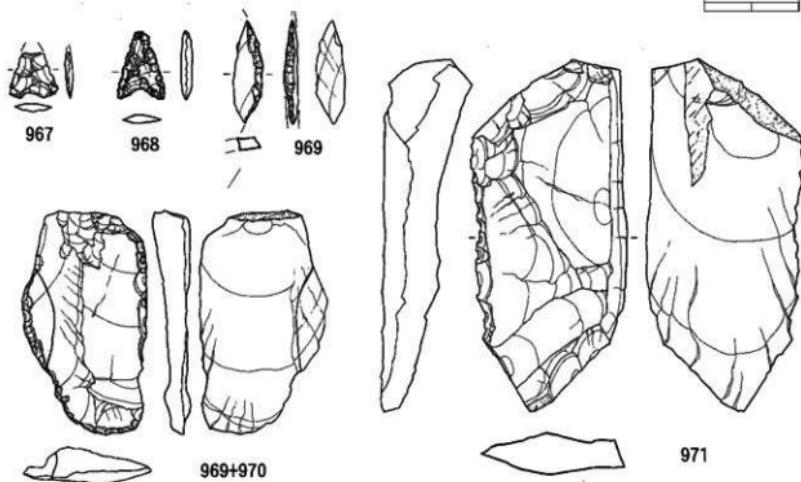
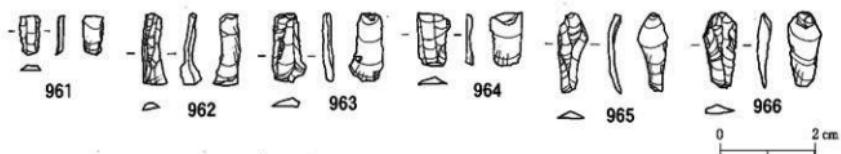
1306～1434は打製石鎚である。石材を見ると、黒曜石・チャート・姫島黒曜石がそれぞれ同数程度あり、この他、淀姫黒曜石・安山岩製のものが一定量認められる。1435～1468・1473・1474は打製石鎚未製品である。削器、石錐未製品、尖頭状石器との区別が明確でないものもここに含めた。打製石鎚と石材の利用傾向は同じである。1469は楔形石器とした。石鎚未製品の可能性がある。1470～1472・1475～1488は削器である。石材は打製石鎚・その未製品と同じ傾向である。

尖頭部を持つものが散見される。

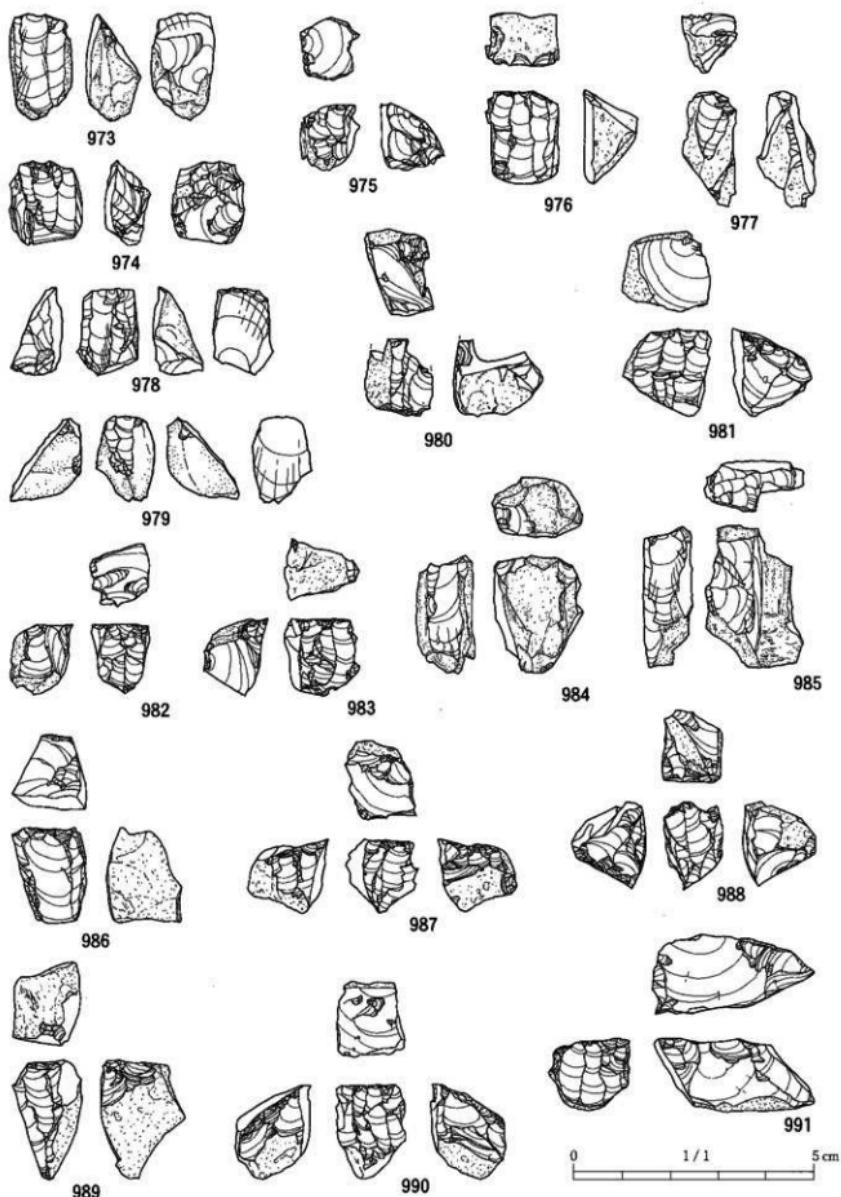
1489は全面研磨された玉製品である。口をくびった袋のようなものか。1490～1492・1497は石錐である。錐部断面形は円でなく菱形のものが多い。1496は楔形石器である。1493～1495は異形石器、1498・1499は異形局部磨製石錐である。前者は黒曜石とチャート製であるのに対し、後者は全てチャート製で占められる。

1500～1502・1504・1505は石匙である。1500・1502は小形のもので、素材剥片形状をそのまま活かして作られる。1504・1505は大形の石匙であり、いずれも縦匙である。1501は大形石匙のつまみ部の可能性がある。1503・1506・1507は搔器である。平面形は、小形円形と大形縦に長い長方形のものとがある。

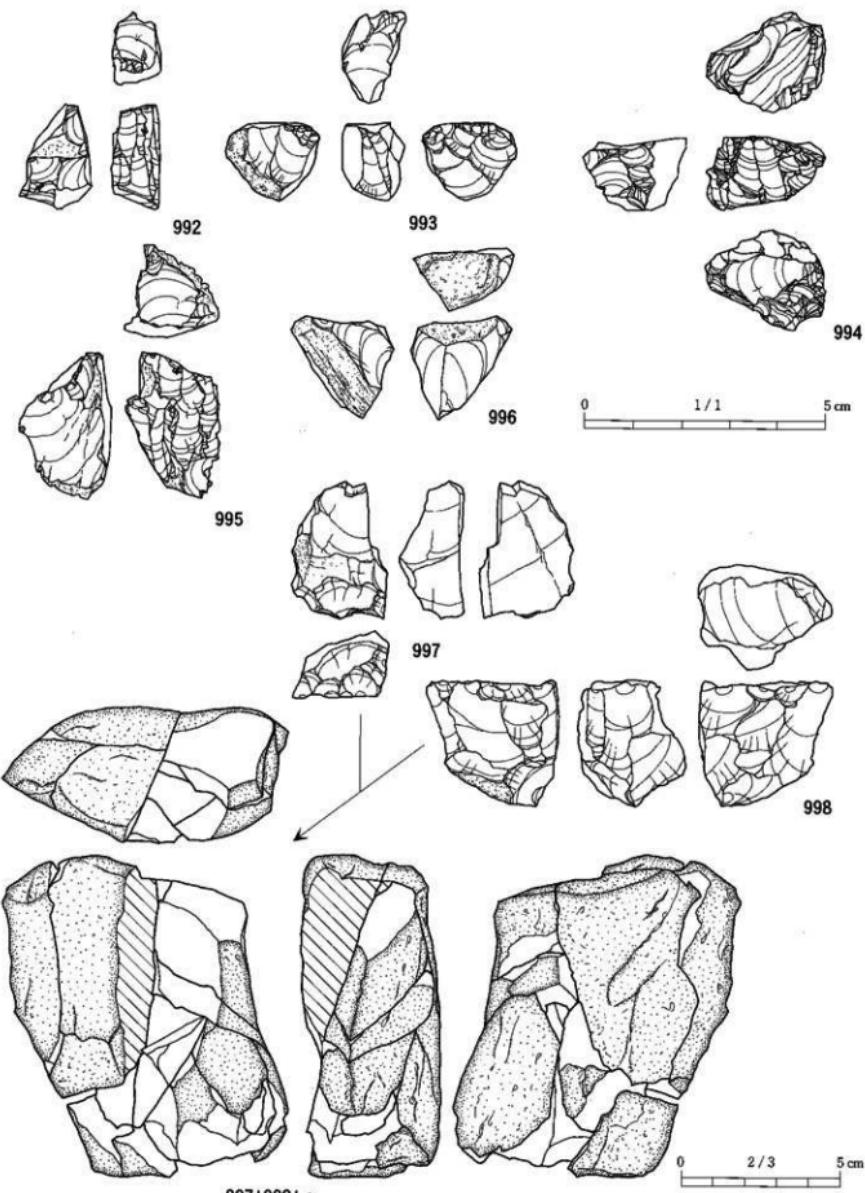
1508～1529は石核である。石材を見ると、黒曜石と姫島黒曜石が多い。1508・1509は小形の黒曜石礫から、特に石核整形など行わず不定形剥片が剥離される。姫島黒曜石のものは、概して黒曜石製の石核に較べ大形である。ある程度、打面を一所に固定して不定形剥片が剥離されるものが多い。この他、チャートや頁岩製のものが見られ、後者は（1529）周縁から中心に向かって不定形剥片が剥離される点で、他の石核と剥離方法に大きな差がある。1530は微細剥離ある剥片、1531～1540・1542・1543は二次加工ある剥片である。1533はⅧ層出土の舟底状石器とした1183・1186に類似する。1541は大形の縦長剥片の周縁に加工が施されたもので、サイズが大きいこと、下縁の稜がやや潰れることから、打製石斧とした。1544は磨製石斧。1545～1558は敲石類である。尾鈴酸性岩・砂岩が多用される。1559は礫器である。1560～1562（1561・1562はⅧ層出土）は黒曜石原石である。1560は大形で、表皮の観察から、佐賀県伊万里市腰岳産の可能性がある。1561・1562は小形で、後者は細石刃核の原礫である可能性がある。1563～1566は石皿類である。



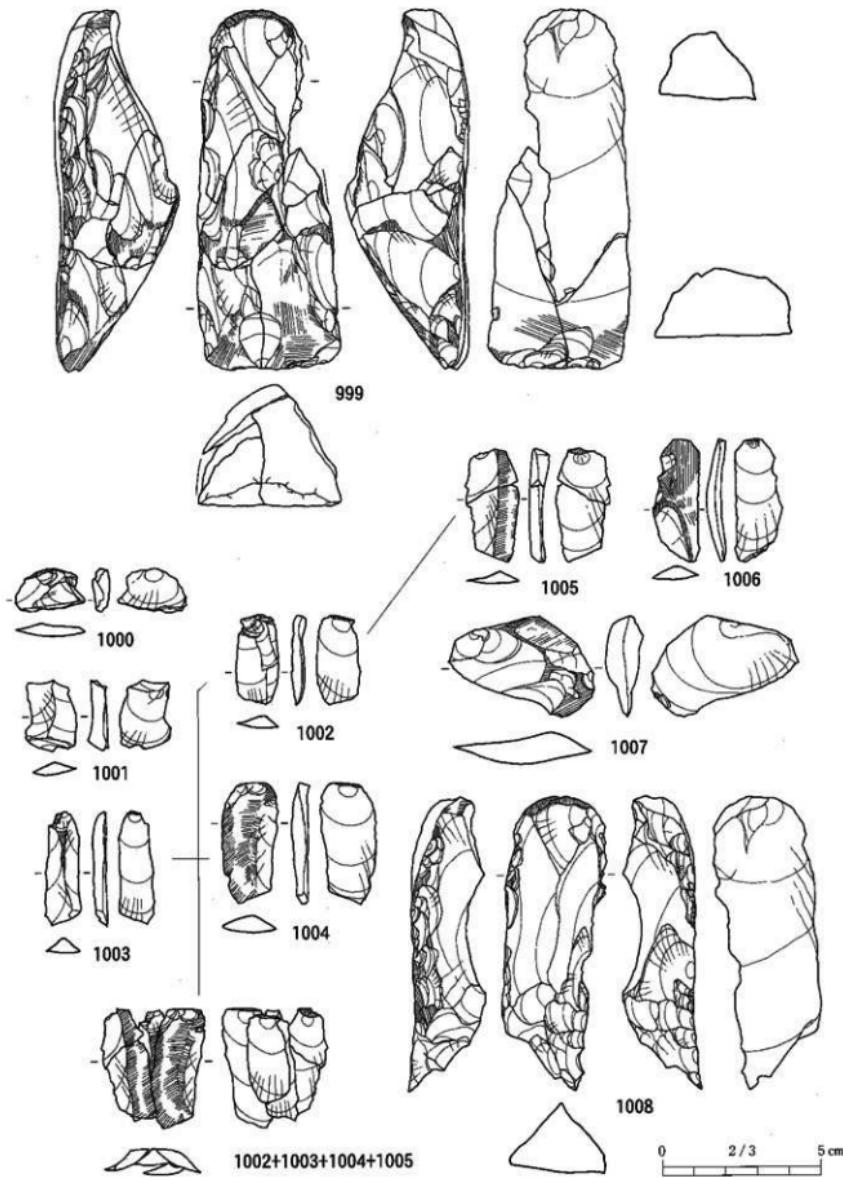
第115図 出土土器(1)



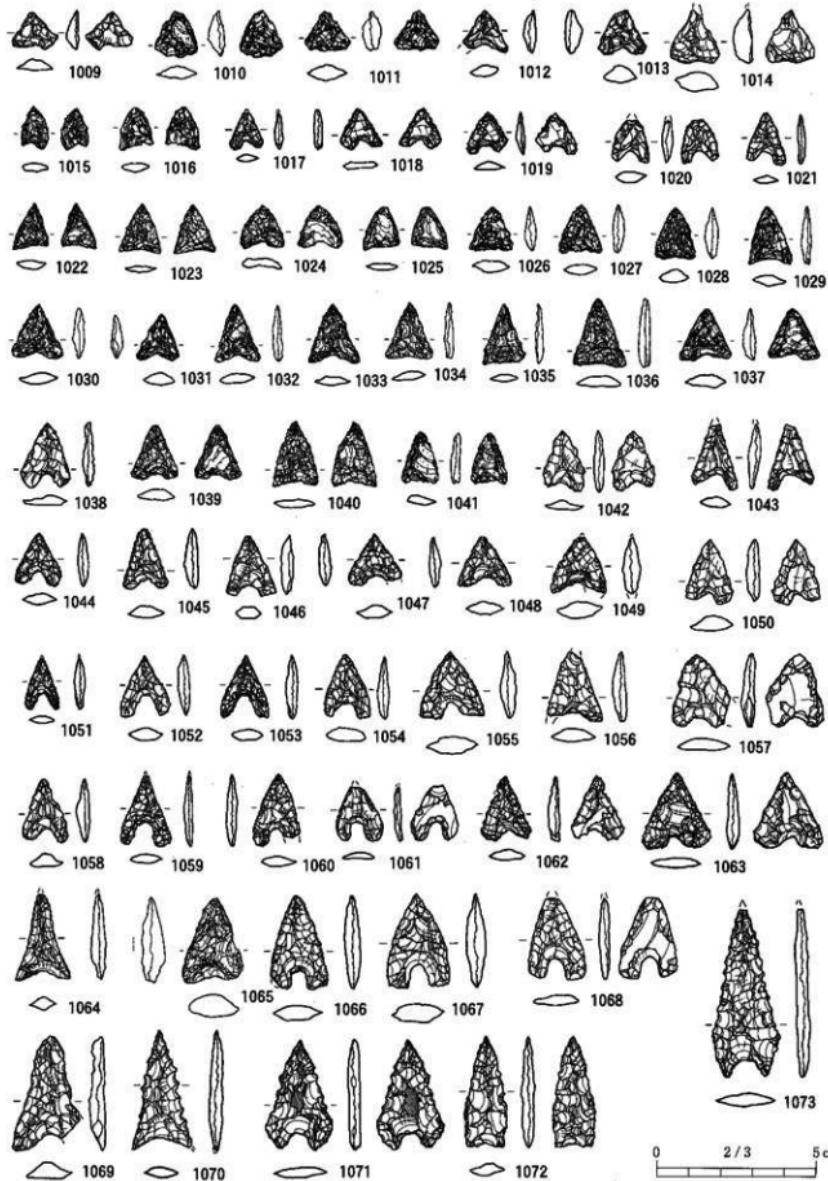
第116図 出土土器(2)



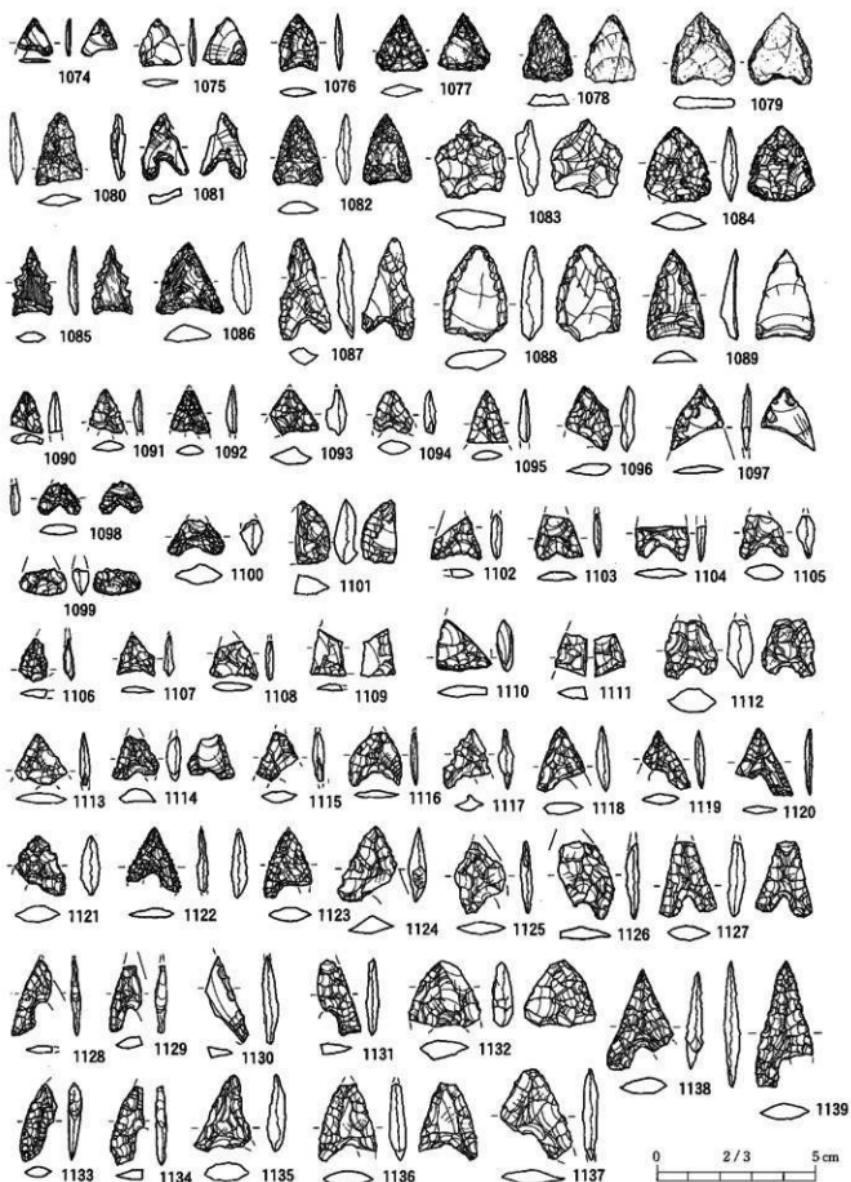
第117図 出土土器(3)



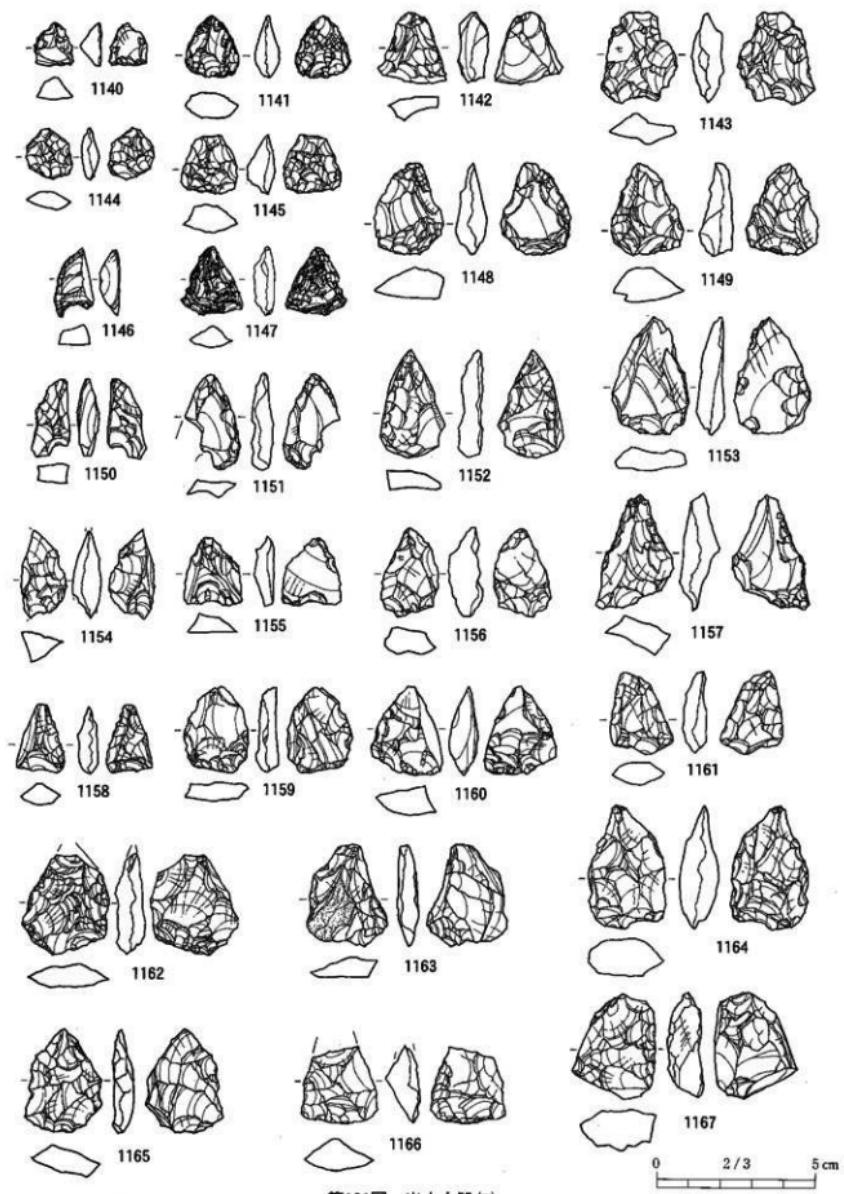
第118図 出土土器(4)



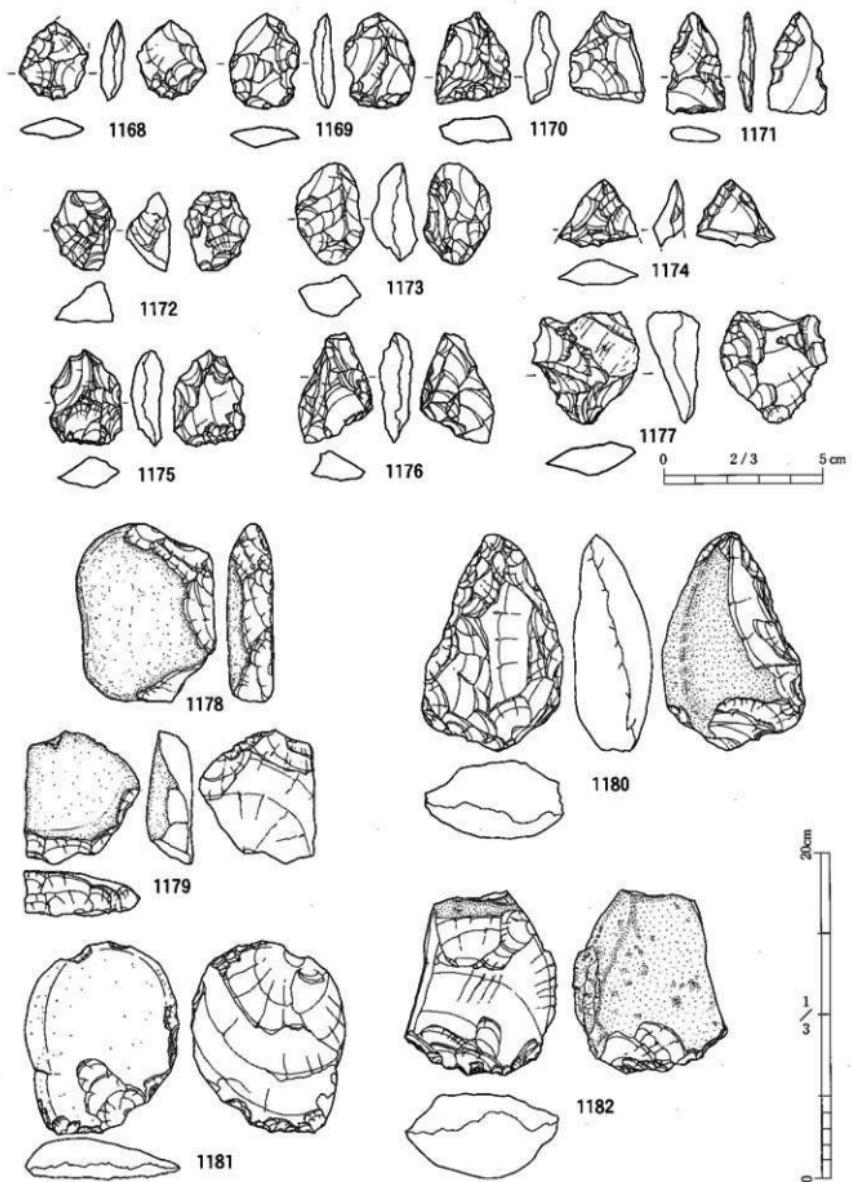
第119図 出土土器(5)



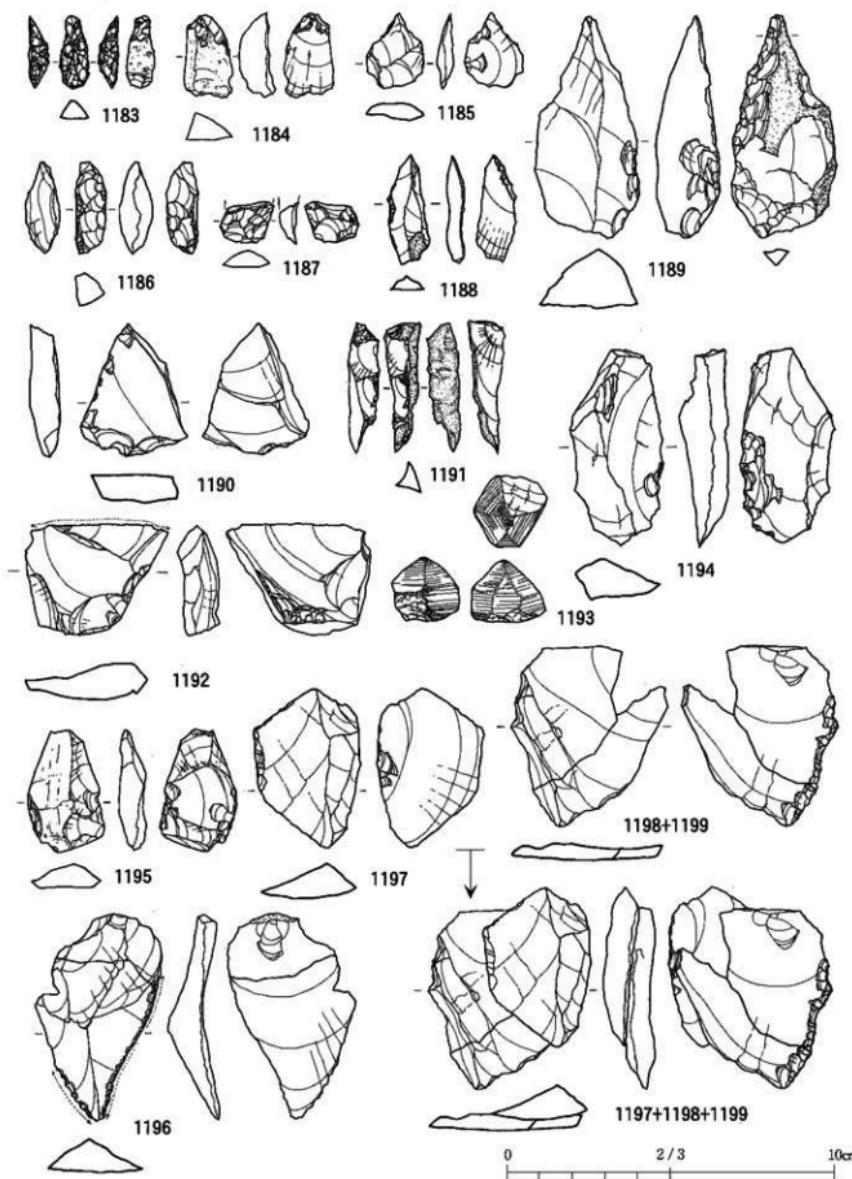
第120図 出土土器(6)



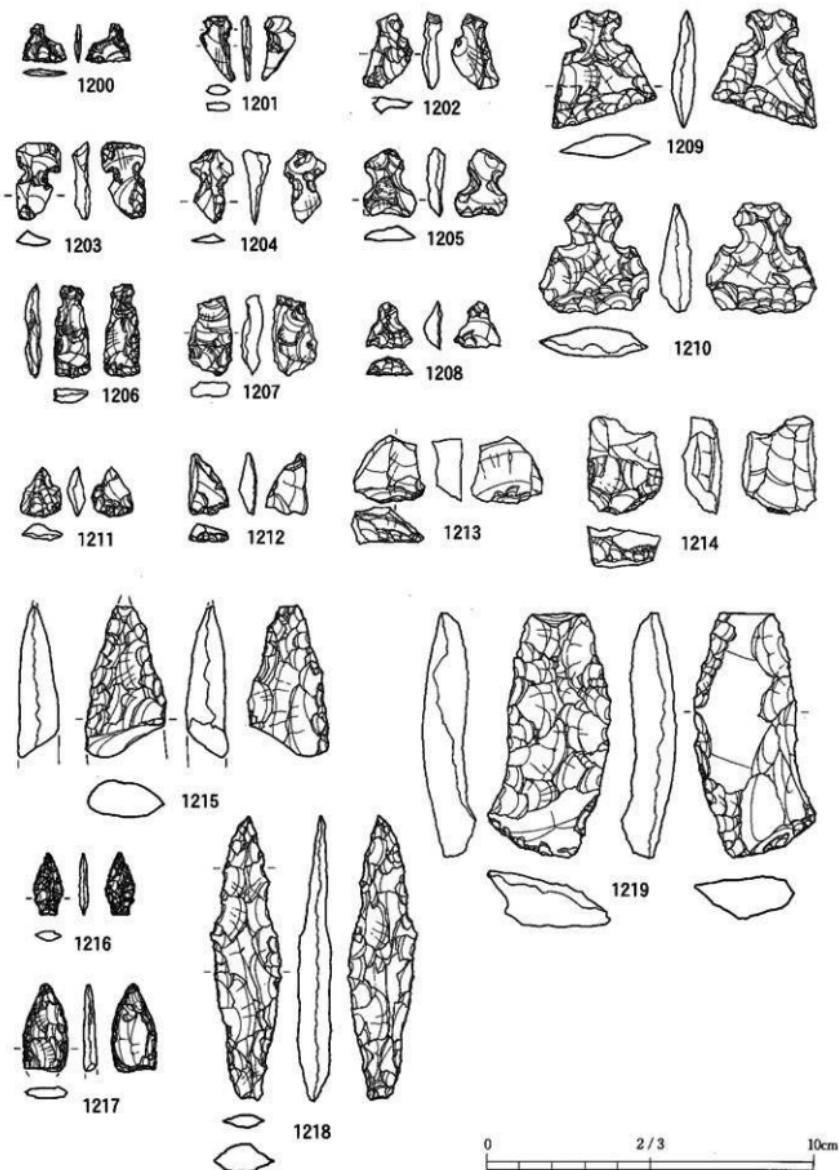
第121図 出土土器(7)



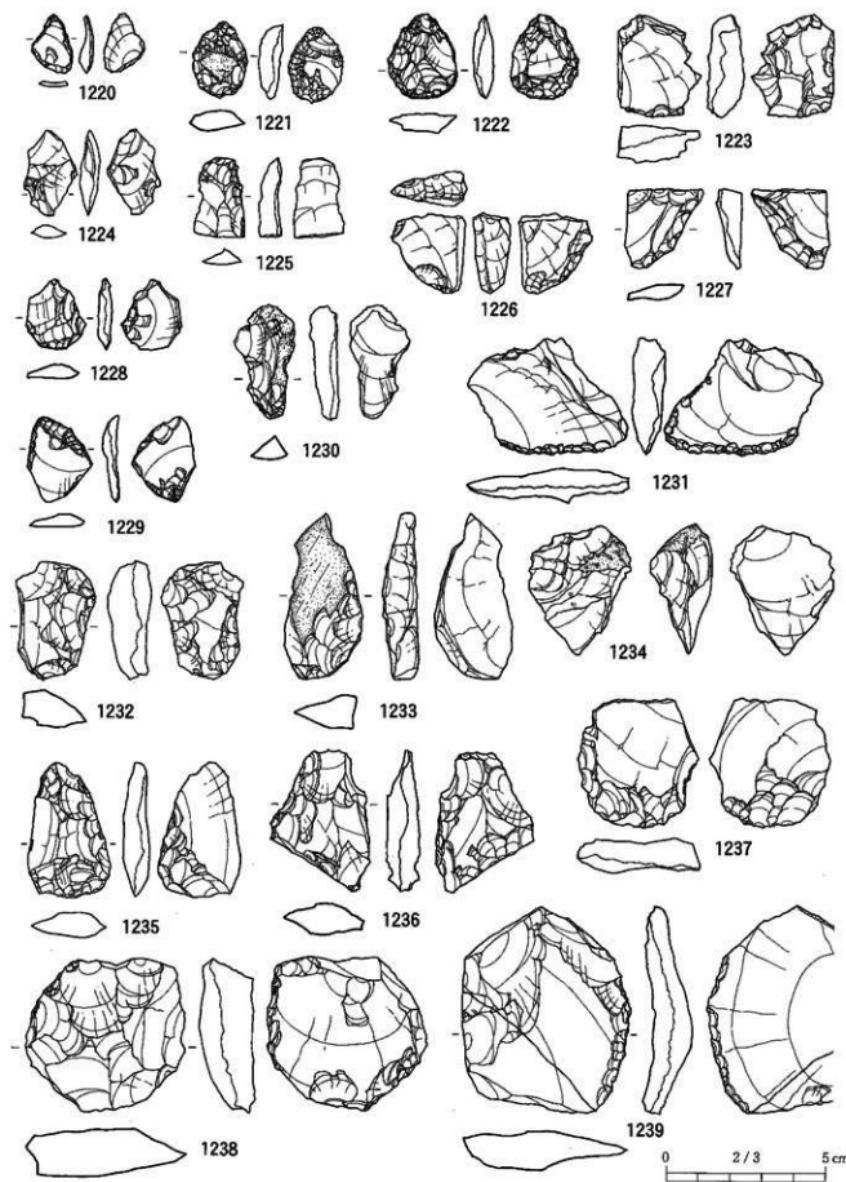
第122図 出土土器(8)



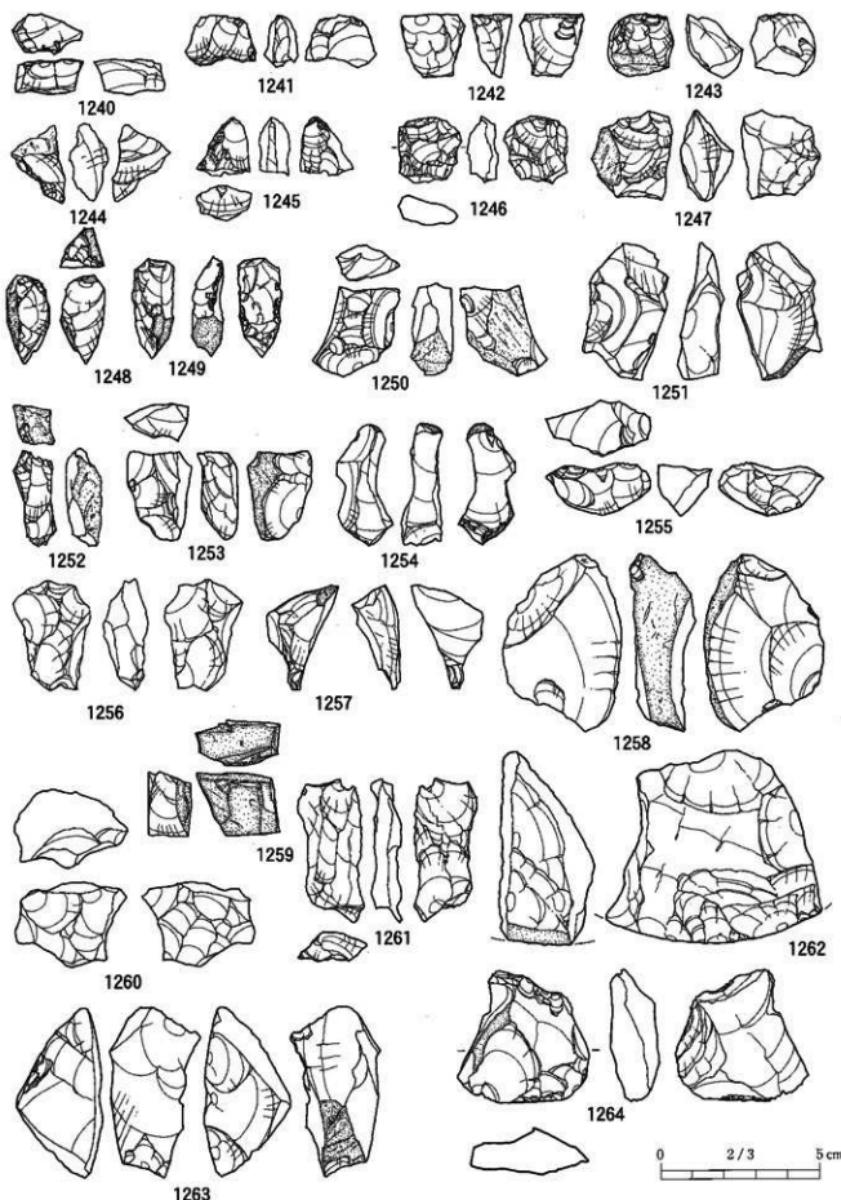
第123図 出土土器(9)



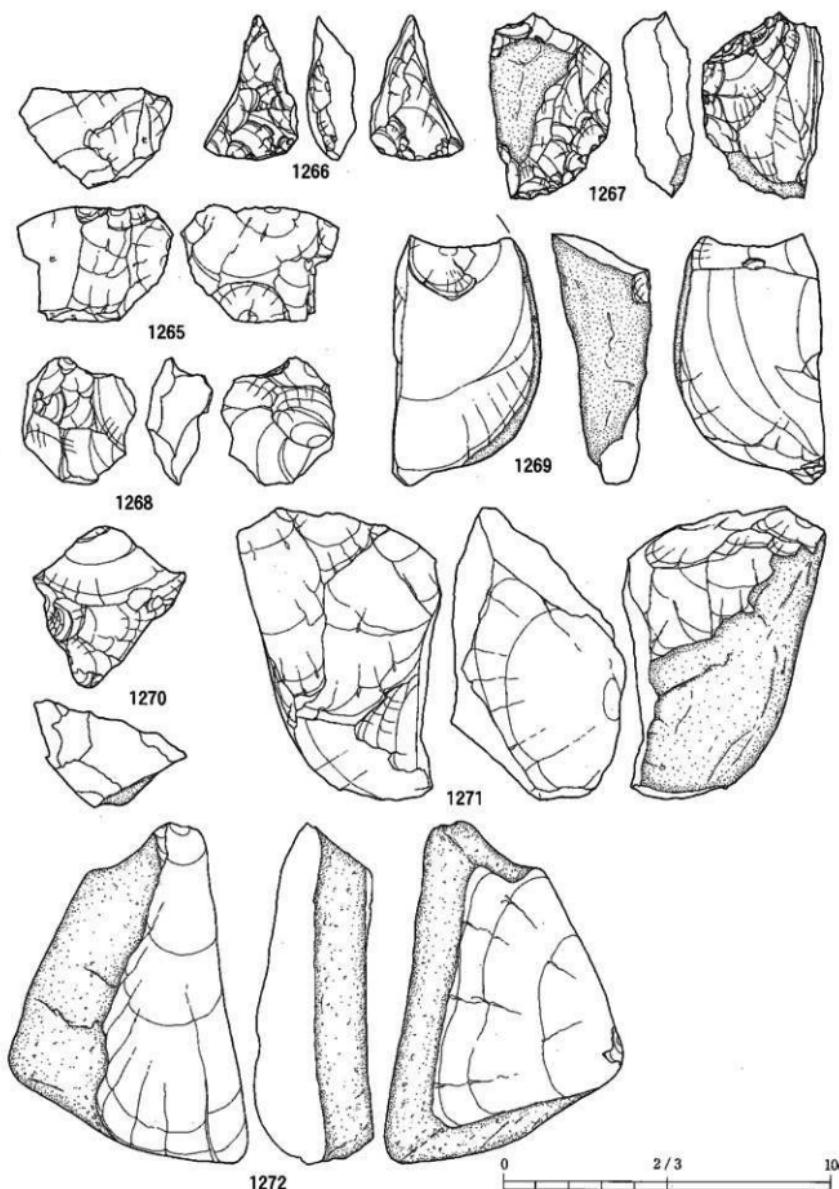
第124図 出土土器(10)



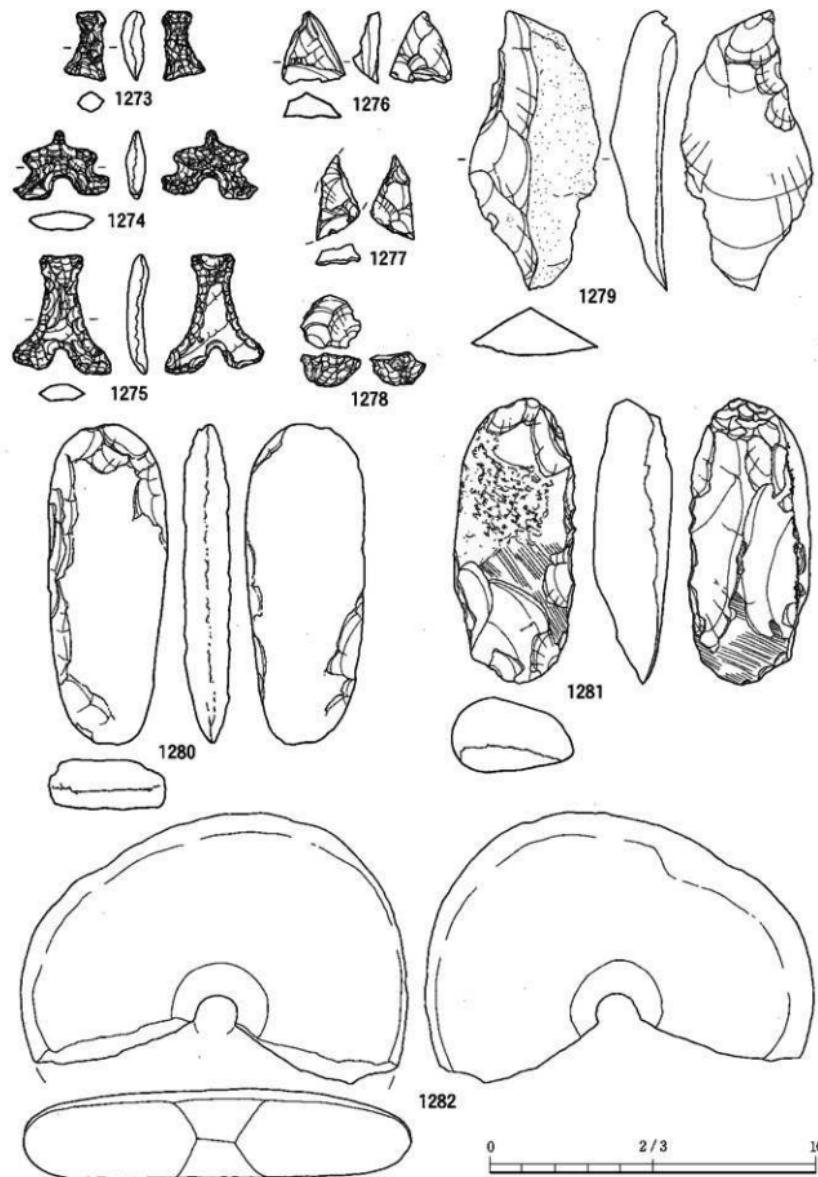
第125図 出土土器(II)



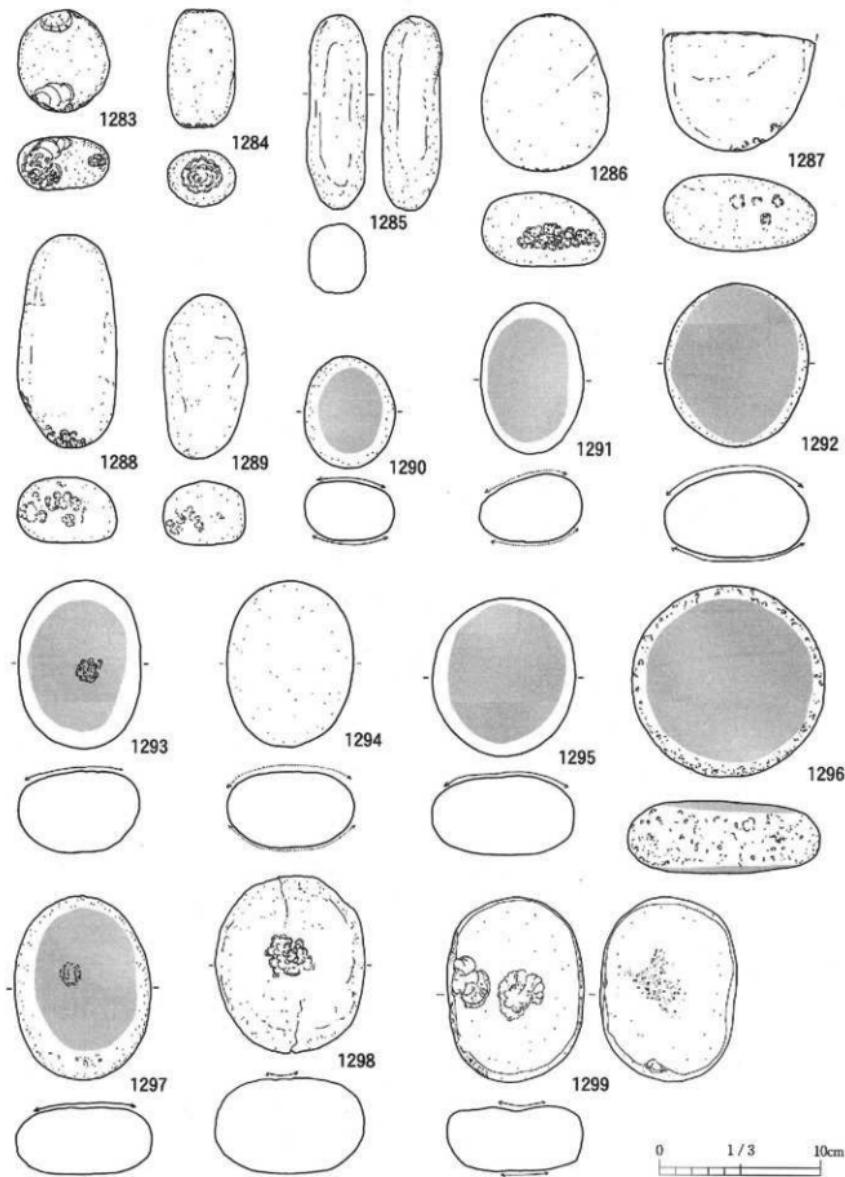
第126図 出土土器(12)



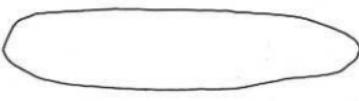
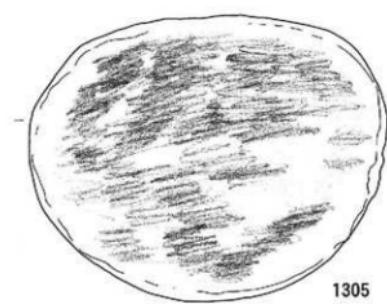
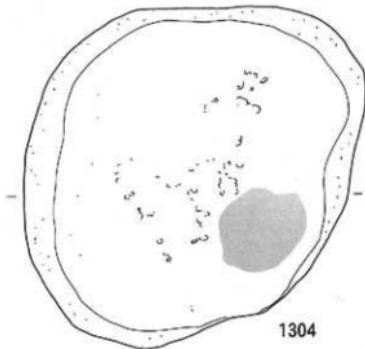
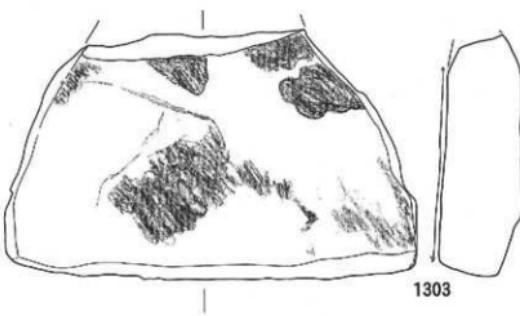
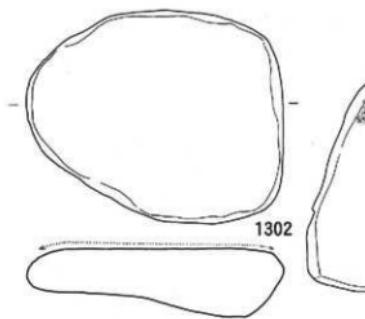
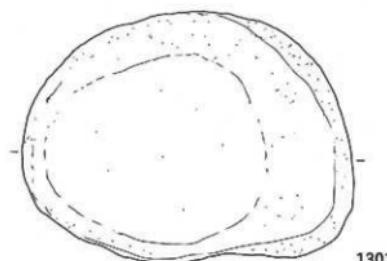
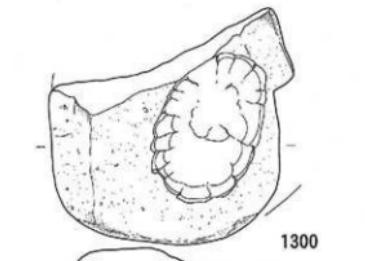
第127図 出土土器(13)



第128図 出土土器 (14)

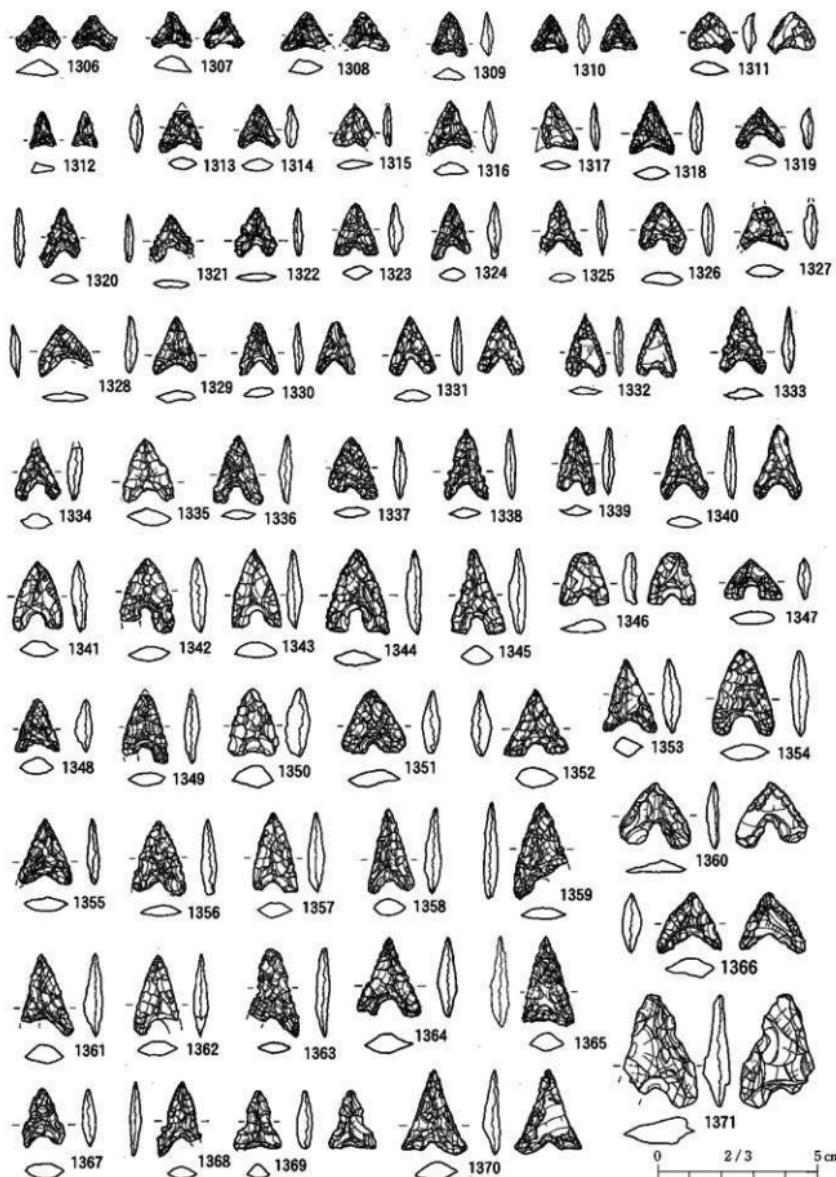


第129図 出土土器(15)

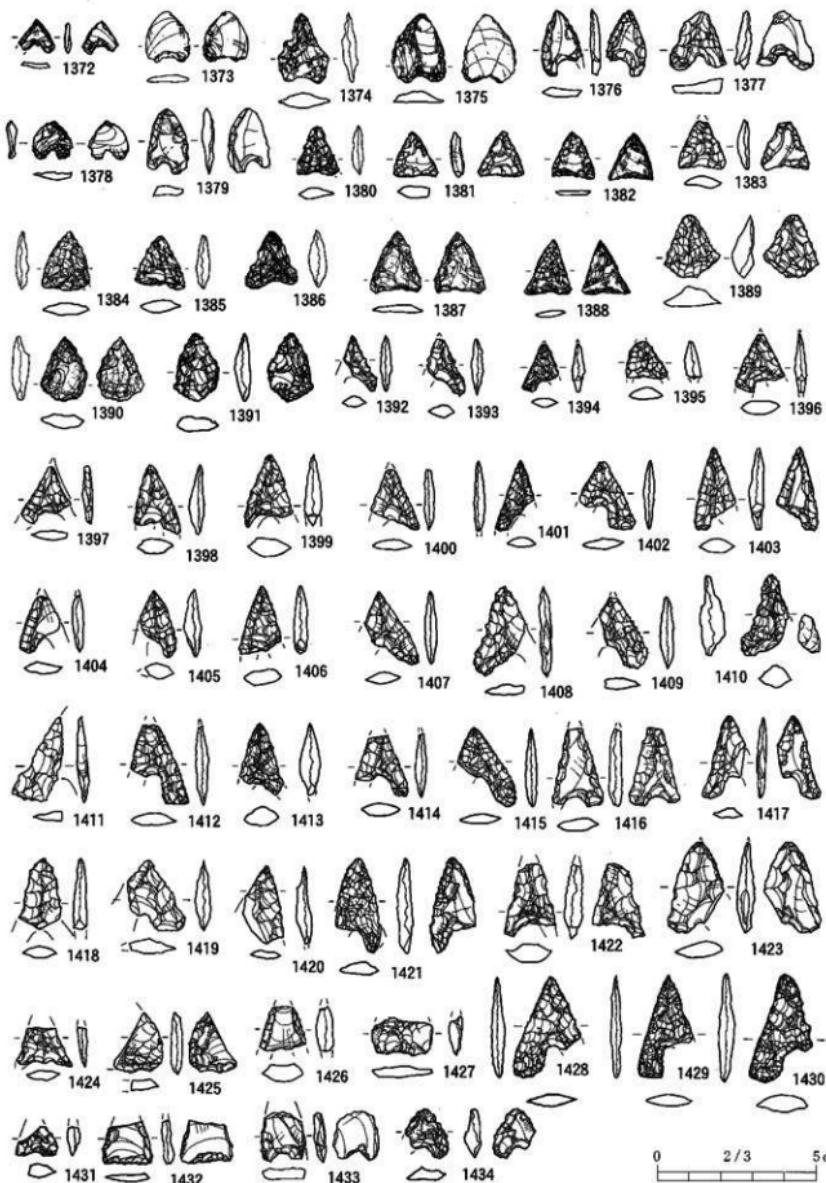


0 1/4 20cm

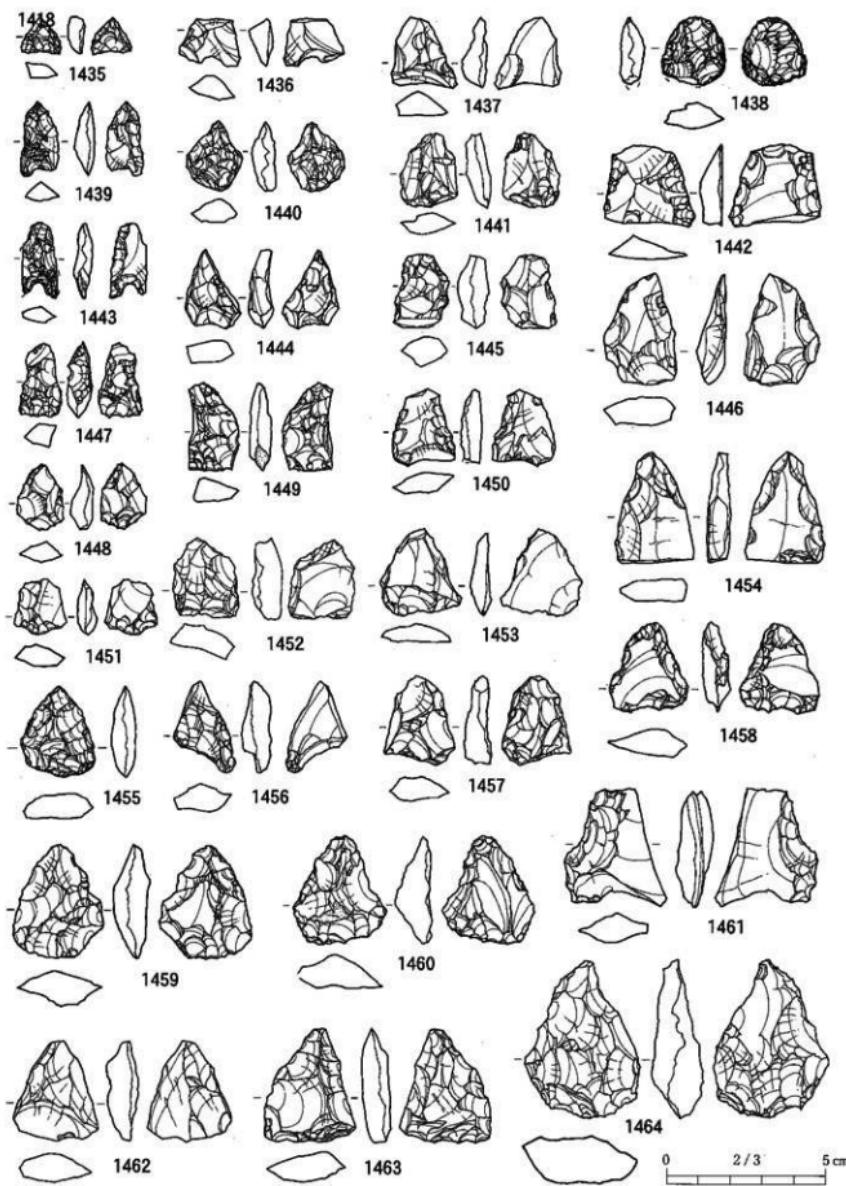
第130図 出土土器(16)



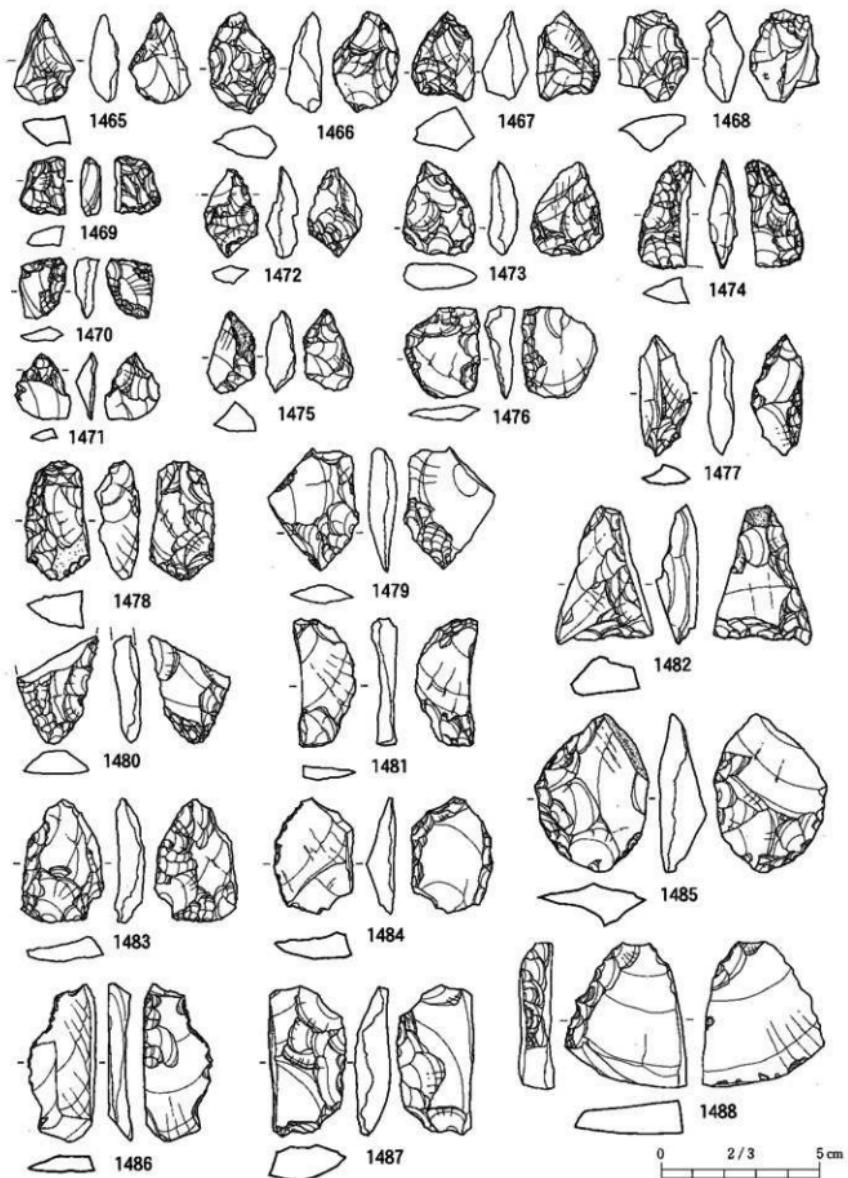
第131図 出土土器(17)



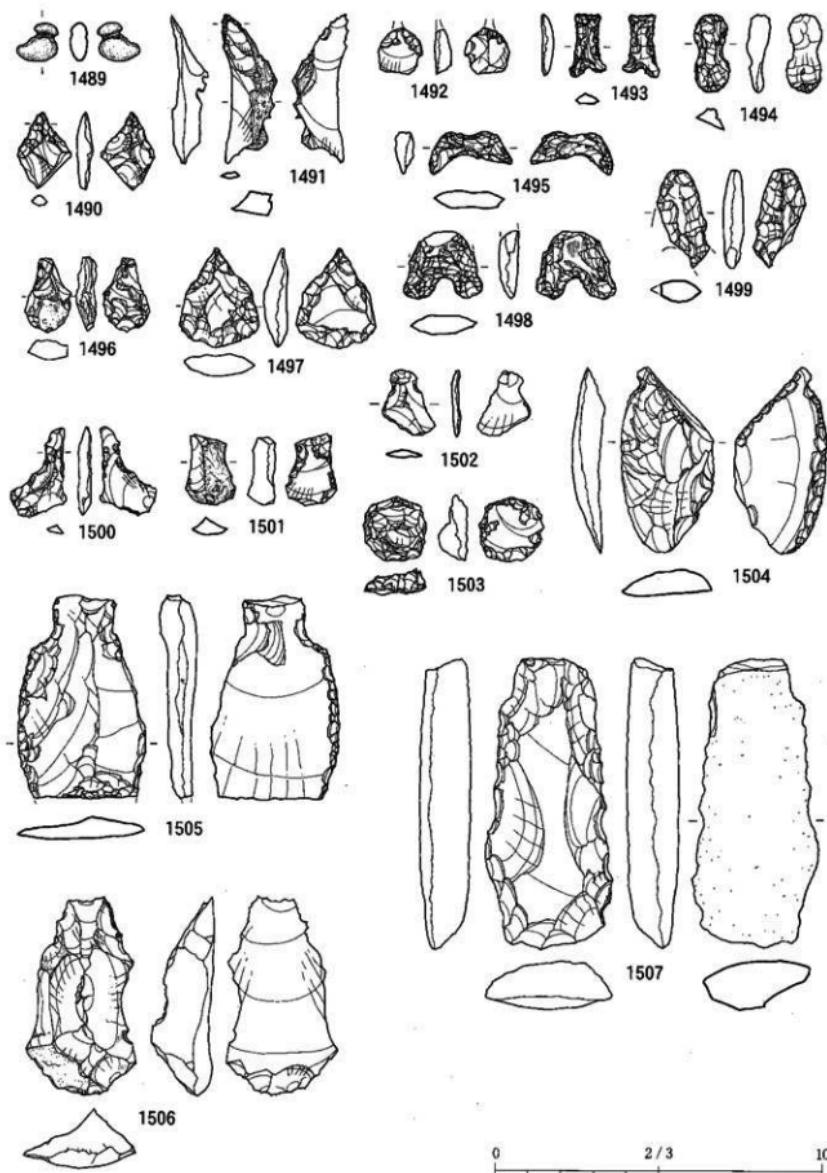
第132図 出土土器(18)



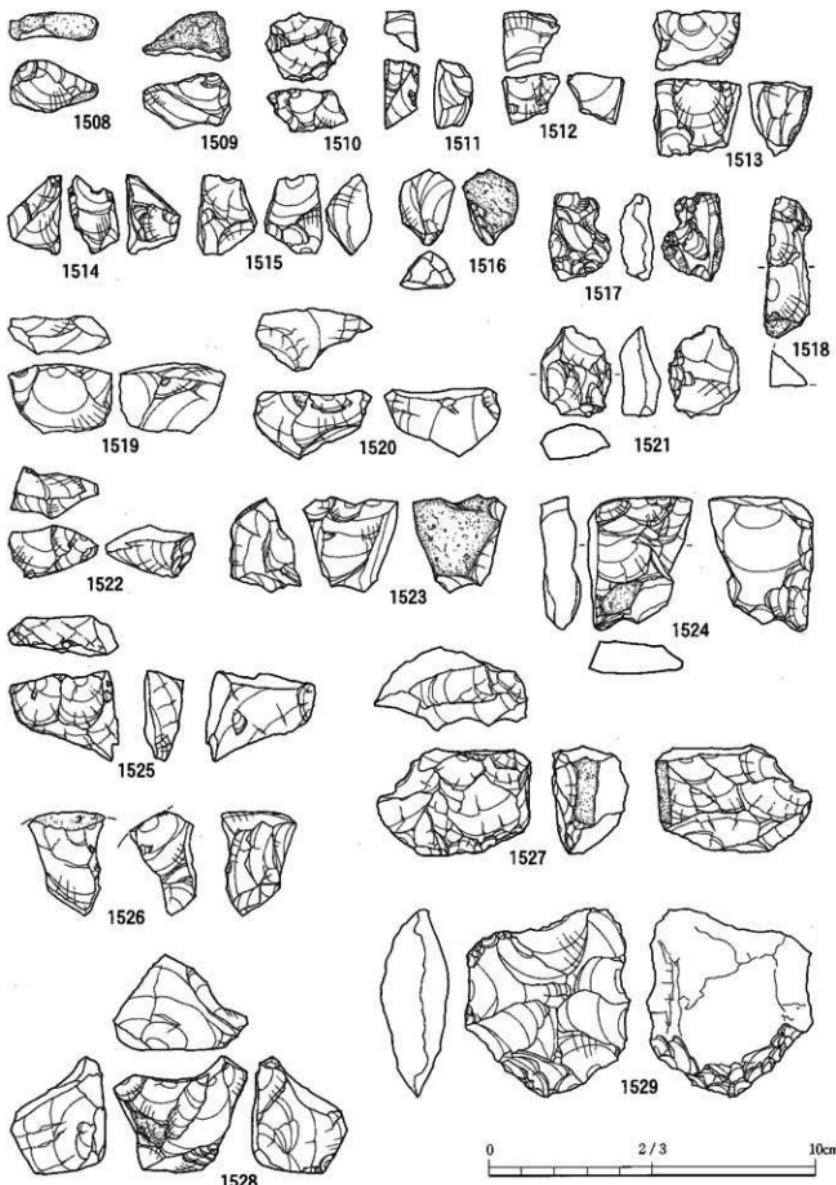
第133図 出土土器 (19)



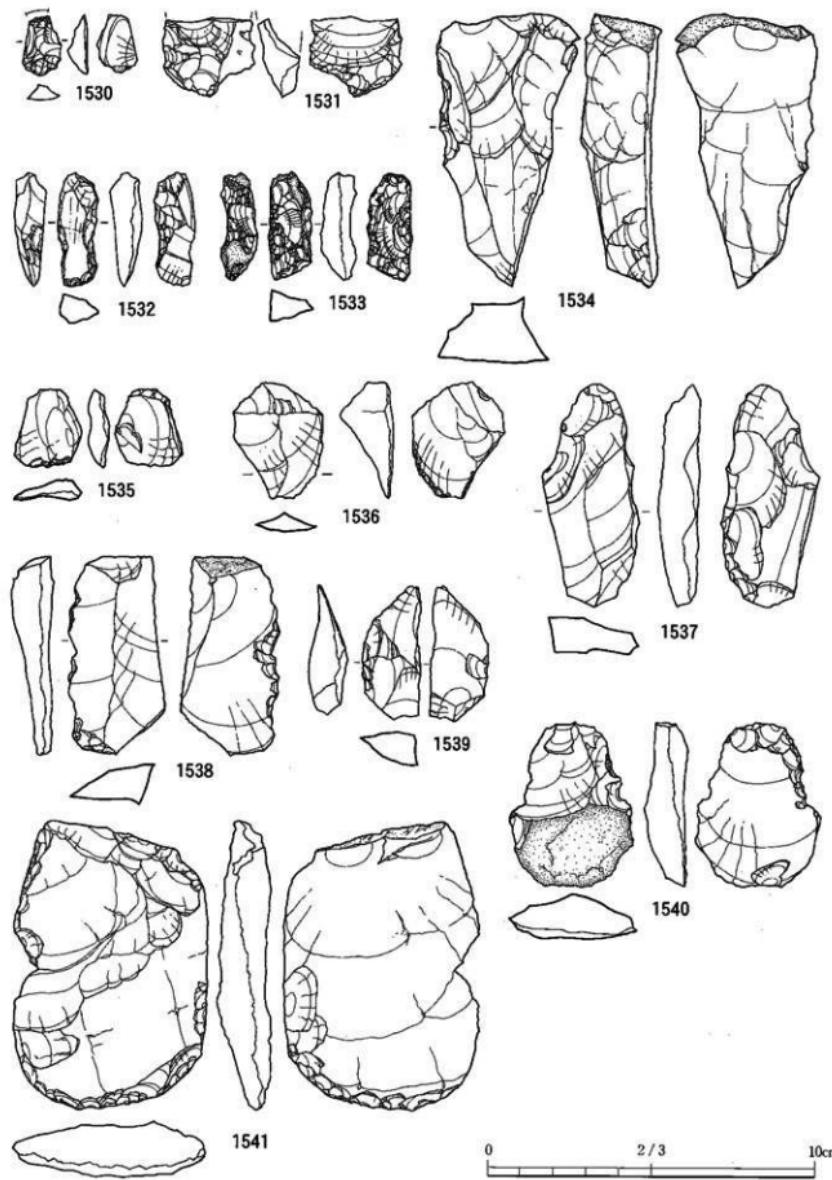
第134図 出土土器(20)



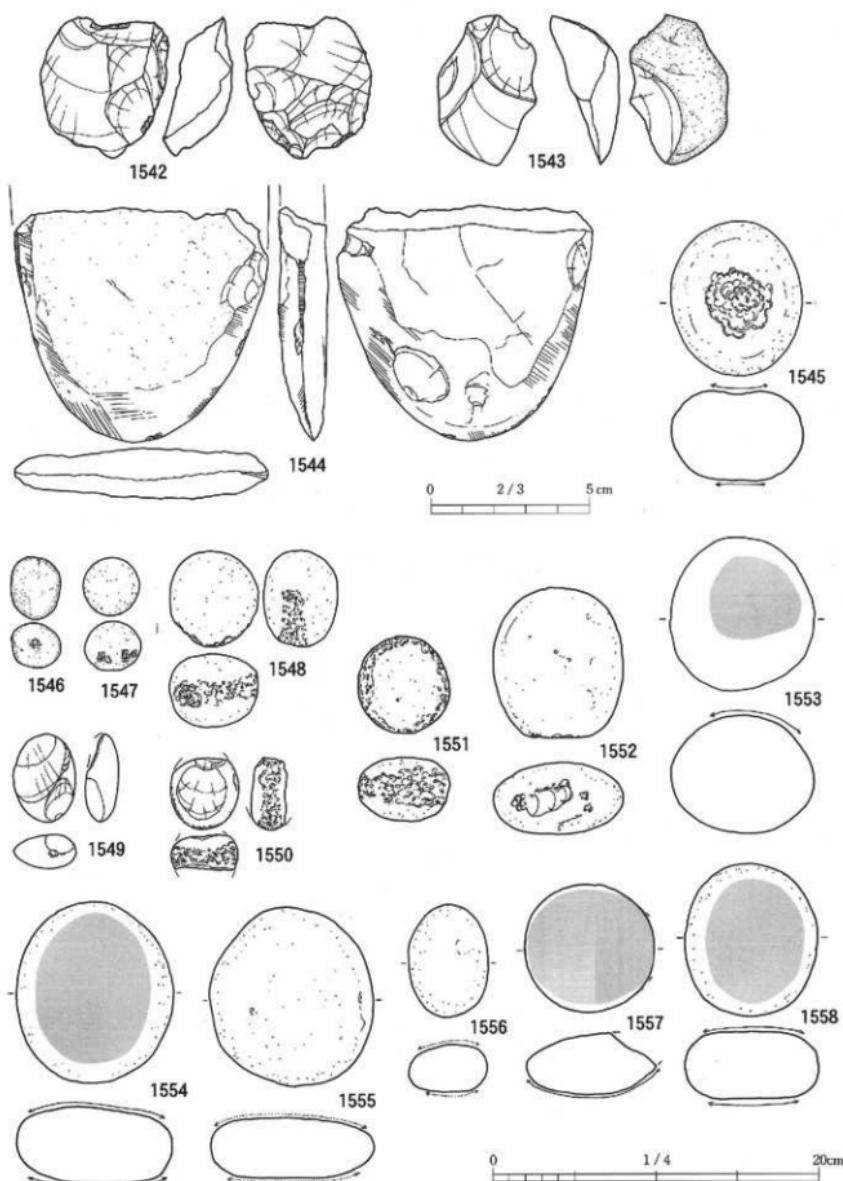
第135図 出土土器(2)



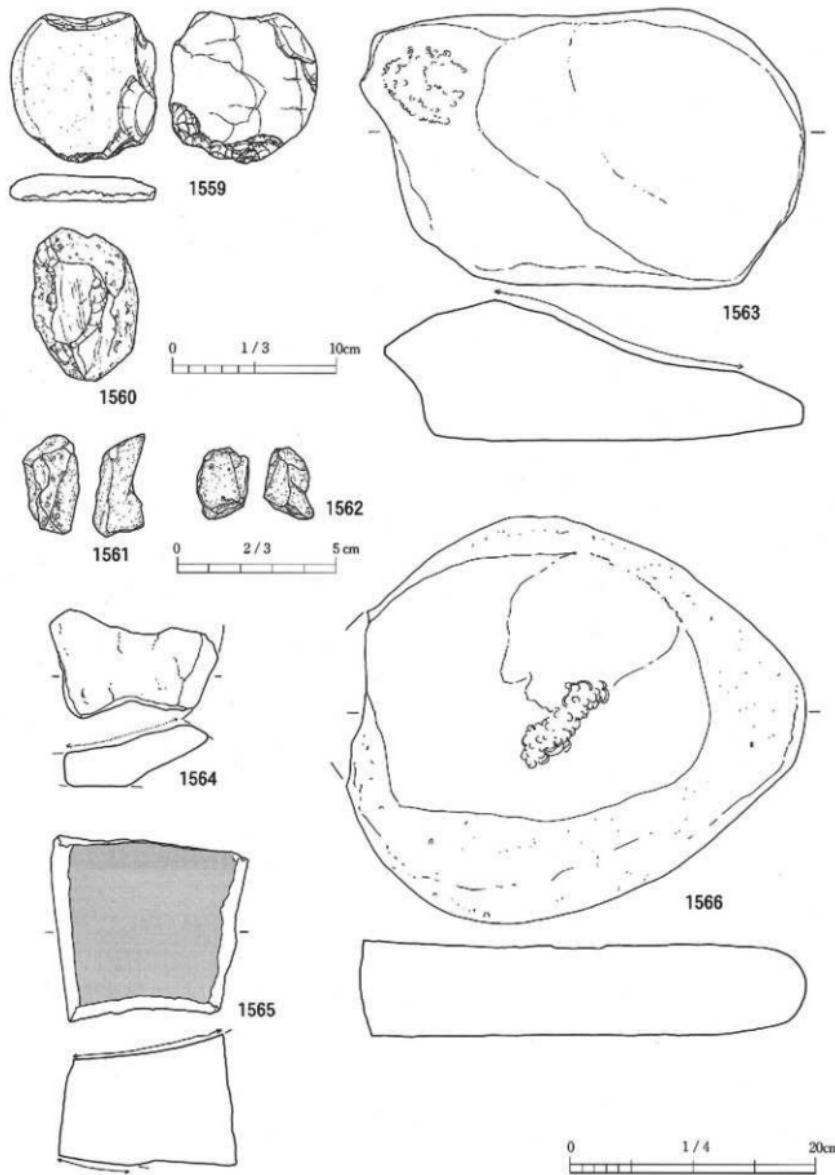
第136図 出土土器(22)



第137図 出土土器 (2)



第138図 出土土器 (24)



第139図 出土土器 (2)

表4 石器観察表(1)

図No	層	グリッド番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考	
961	IX b	K14	2 繩石刃	0.8	0.4	0.2	<0.1	Ob	風化顯著。西北九州系のものか。	
962	IX a	J14	7 繩石刃	1.5	0.5	0.2	0.2	Ob	桑ノ木津留産。	
963	IX a	I14	2 繩石刃	1.4	0.7	0.2	0.2	Ob	白色斑晶含む石材。	
964	IX a	J14	33 繩石刃	1.1	0.7	0.2	<0.1	Ob	桑ノ木津留産。	
965	IX b	I14	2 繩石刃	1.6	0.6	0.3	0.1	Ob	西北九州系のものか。	
966	IX a	I14	2 繩石刃	1.5	0.7	0.3	0.2	Ob	白色斑晶含む石材。	
967	IX a	H20	2 石鏃	1.4	1.5	0.2	0.6	Ch	先端欠。	
968	IX a	K15	1 石鏃	2.1	1.4	0.3	0.8	Si		
969	IX a	J14	57 撥器(接合)	—	—	—	—	Si	右側縫に接合。新しい折れ。	
970	IX b	I14	5 撥器	3.2	1.0	0.5	1.7	Si	削器の要素もあわせ持つ。	
971	IX b	I14	3 削器	10.8	4.9	2.9	119.5	S	右側縫に刃部。	
972	IX a	I16	1 微細剥離片	12.0	7.7	3.2	282.7	Si	素材の打面は織面。	
973	Ⅷ E22	15 繩石刃核	2.2	1.3	1.1	2.3	1	Ob	繩分割面打向。石核成形・打面調整なし。	
974	IX b	I15	1 繩石刃核	1.8	1.5	1.0	2.4	Ob	打面調整・打面転移あり。	
975	IX a	J14	3 繩石刃核	1.4	1.2	1.3	1.8	Ob	繩分割面打面。打面済みなし。石核成形あり。	
976	Ⅷ F22	48 繩石刃核	2.0	1.5	1.6	3.2	1	Ob	打面調整あり。石核成形なし。	
977	D	632	繩石刃核	2.4	1.1	1.2	1.8	Ob	繩分割面打面。石核成形・打面調整なし。	
978	Ⅷ C20	1 繩石刃核	1.8	1.2	1.0	1.9	Ob	石核成形・打面調整なし。		
979	Ⅷ E22	63 繩石刃核	1.7	1.2	1.5	2.0	1	Ob	繩分割面打面。石核成形なし。	
980	D	95	繩石刃核	1.6	1.4	1.8	3.2	Ob	石核成形なし。打面を逃する。	
981	Ⅷ F22	52 繩石刃核	1.8	1.8	1.7	4.6	1	Ob	繩分割面打面。石核成形あり。	
982	D	132	繩石刃核	1.5	1.2	1.3	2.2	Ob	繩分割面打面。石核成形あり。	
983	IX b	J14	12 繩石刃核	1.6	1.6	1.3	2.8	Ob	打面。石核成形あり。	
984	Ⅷ E22	30 繩石刃核	2.4	1.2	1.8	5.6	1	Ob	繩打面。打面調整あり。	
985	Ⅷ F22	48 繩石刃核	2.9	1.0	2.0	5.1	1	Ob	打面調整・石核成形あり。	
986	Ⅷ J15	3 繩石刃核	2.0	1.5	1.6	4.4	1	Ob	繩分割面打面。石核成形なし。	
987	Ⅷ J14	8 繩石刃核	1.5	1.5	1.7	3.0	1	Ob	繩分割面打面。石核成形あり。	
988	IX b	F11	14 繩石刃核	1.8	1.3	1.5	3.2	1	Ob	繩分割面打面。石核成形なし。
989	D	368	繩石刃核	2.5	1.4	1.7	5.4	1	Ob	繩打面。石核成形なし。
990	D	128	繩石刃核	2.0	1.4	1.6	4.4	1	Ob	繩分割面打面。石核成形あり。
991	D	94	繩石刃核	1.5	1.7	3.4	7.0	1	Ob	石核成形あり。白色斑晶顯著な石材。
992	Ⅷ I14	7 繩石刃核	2.2	1.0	1.5	3.2	1	Ob	石核成形あり。	
993	IX a	J14	24 繩石刃核	1.6	1.3	2.0	3.4	1	Ob	繩分割面打面。石核成形あり。
994	IX a	I15	8 繩石刃核	1.5	2.5	2.1	5.4	1	Ob	石核成形あり。
995	IX a	I15	2 繩石刃核	3.0	2.0	1.9	7.0	1	Ob	打面調整・石核成形なし。
996	Ⅷ F22	45 石核	2.2	2.1	1.4	3.5	1	Ob	細石刃核のブランクか?	
997	IX a	I14	9 撥器	4.2	2.9	2.0	24.3	KSh	997と同一母岩。右側面・裏面は節理面。	
998	Ⅷ J14	7 石核	3.9	4.1	3.3	52.6	KSh	998と同一母岩。		
999			神子榮型石斧	11.1	4.4	3.6	135.6	Si		
1000	IX a	H14	11 刺片	1.4	2.1	0.6	1.3	Si		
1001	IX a	H14	5 刺片	2.2	1.6	0.9	1.4	Si		
1002	IX a	H14	刺片	2.8	1.3	0.4	1.3	Si	1005→1004→1003→1002の順に剥離。	
1003	IX a	H14	7 刺片	3.5	1.1	0.4	1.3	Si	1005→1004→1003→1002の順に剥離。	
1004	IX a	H14	6 刺片	3.7	1.7	0.5	3.0	Si	1005→1004→1003→1002の順に剥離。	
1005	IX a	H14	3・4 刺片	3.5	1.7	0.6	2.2	Si	1005→1004→1003→1002の順に剥離。	
1006	IX a	H14	刺片	3.8	1.5	0.5	2.1	Si		
1007	D	23	刺片	3.1	4.5	1.2	9.4	Si	石斧背面に接合。	
1008	IX a	H14	10 削器	9.1	3.3	2.3	61.8	Si	尖頭部を意識か。	
1009	Ⅷ H9	1 石鏃	1.1	1.4	0.4	0.2	Ob	石鏃の可能性あり。		
1010	Ⅷ E24	9 石鏃	1.4	1.3	0.5	0.6	Ob	背面に織面残る。		
1011	Ⅷ K4	204 石鏃	1.2	1.4	0.6	0.6	Ob	石鏃未製品か。かなり分厚い。		
1012	Ⅷ N5	11 石鏃	1.3	1.4	0.4	0.5	An	左脚欠損。		
1013	Ⅷ M7	35 石鏃	1.4	1.5	0.6	0.7	Ob	先端から欠損。		
1014	Ⅷ I10	105 石鏃	1.6	1.5	0.6	1.3	Ob	石鏃の可能性あり。		
1015	Ⅷ F26	35 石鏃	1.3	0.9	0.3	0.2	K	小形。		
1016	Ⅷ L9	石鏃	1.3	1.1	0.3	>0.1	Ob	表裏面に素材剥片面を残す。		
1017	Ⅷ L4	117 石鏃	1.2	1.0	0.3	0.2	Ob	先端をやや欠く。		
1018	Ⅷ L8	93 石鏃	1.2	1.2	0.3	0.3	Ch	右脚は欠損でない。		
1019	Ⅷ L7	5 石鏃	1.3	1.3	0.3	0.3	Ob	1018に向じく、右脚は欠損でない。		
1020	Ⅷ E12	307 石鏃	1.3	1.2	0.4	0.4	Si	先端は潰れる。		
1021	Ⅷ F11	354 石鏃	1.6	1.2	0.3	0.3	Ob	完形。		
1022	Ⅷ E25	120 石鏃	1.5	1.1	0.3	0.3	Ch	右側縫は欠損後の再加工か。		
1023	Ⅷ G22	26 石鏃	1.5	1.3	0.2	0.3	Ch	うすぐ整形。		
1024	Ⅷ J6	47 石鏃	1.3	1.4	0.4	0.5	Ch	基部周辺はうすい。		
1025	Ⅷ E24	12 石鏃	1.3	1.2	0.2	0.2	Ch	うすぐ整形。		
1026	Ⅷ B23	14 石鏃	1.3	1.3	0.1	0.3	ObI	完形。		
1027	Ⅷ D25	19 石鏃	1.5	1.3	0.3	0.4	Ob	うすぐ整形。		
1028	Ⅷ B23	8 石鏃	1.6	1.2	0.4	0.5	Ch			

表4 石器觀察表(2)

図No	層	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
1029	VII	F15	408	石鏃	1.8	1.3	0.3	0.4	Ob	うすく整形。
1030	VII	H6	56	石鏃	1.4	1.6	0.4	0.6	Ob	完形。
1031	VII	H17	573	石鏃	1.4	1.3	0.4	0.3	Ob	不純物多い石材。完形。
1032	VII	F28	17	石鏃	1.8	1.4	0.3	0.4	Ob	完形。
1033	VII	F21	2	石鏃	1.9	1.6	2.5	0.4	Ch	うすく整形。
1034	VII	M6	213	石鏃	1.7	1.5	0.3	0.4	Ch	うすく整形。
1035	VII	K4	235	石鏃	1.9	1.3	0.3	0.4	Ch	うすく整形。
1036	VII	J6	37	石鏃	2.1	1.6	0.3	0.8	Ch	裏面に素材剥片面残す。
1037	VII	K5	306	石鏃	1.6	1.6	0.4	0.5	Ob	右脚をやや欠く。
1038	VII	F24	59	石鏃	2.1	1.6	0.4	0.7	An	完形。
1039	VII	L7		石鏃	1.6	1.4	0.3	0.5	Ch	裏面に素材剥片面残す。
1040	VII	G11	28	石鏃	2.0	0.9	0.3	0.5	Ch	うすく整形。
1041	VII	C23	58	石鏃	1.6	1.6	0.3	0.4	Ob	表面に素材剥片面を残す。
1042	VII	D20	11	石鏃	1.8	1.3	0.3	0.5	K	完形。
1043	VII	E20	1	石鏃	2.0	1.4	0.4	0.7	Sh	先端を欠損。
1044	VII	E22	26	石鏃	1.7	1.4	0.4	0.6	K	完形。
1045	VII	K7	72	石鏃	1.9	1.4	0.4	0.7	K	やや分厚い断面。
1046	VII	G10	86	石鏃	1.9	1.6	0.4	0.8	An	先端は調査中に欠く。
1047	VII	K6	49	石鏃	1.6	1.7	0.4	0.6	Ob	右脚欠損。
1048	VII	G10	32	石鏃	1.5	1.7	0.4	1.6	Ch	完形。
1049	VII	G24	8	石鏃	1.8	1.7	0.6	1.2	Ob	先端・右脚欠損。
1050	VII	J6	204	石鏃	2.0	1.4	0.4	0.8	S	完形。
1051	VII	F27	4	石鏃	1.6	1.1	0.4	0.4	Ch	先端をやや欠く。
1052	VII	F26	60	石鏃	2.0	1.6	0.4	0.7	Ch	側縁はやや鋸歯状。
1053	VII	L11	1	石鏃	2.0	1.5	0.4	0.7	Ch	抉り深い。完形。
1054	VII	F16	709	石鏃	2.0	1.5	0.4	0.6	SI	風化著しい。
1055	VII	F10	133	石鏃	2.1	2.0	0.5	1.4	An	完形。
1056	VII	C22	6	石鏃	2.2	1.8	0.4	1.4	Ch	先端から欠損。左脚を欠く。
1057	VII	K5	98	石鏃	2.3	1.8	0.5	1.5	Ch	右脚欠損。
1058	VII	J7	8	石鏃	2.0	1.4	0.4	0.7	Ch	背面中央にこぶを残す。
1059	VII	F28	15	石鏃	2.2	1.6	0.3	0.6	Ch	抉り深い。うすく整形。
1060	VII	I5	82	石鏃	2.3	1.5	0.4	0.9	Ob	右脚欠損。
1061	VII	J6	100	石鏃	1.7	1.4	0.2	0.5	Ch	先端をやや欠く。
1062	VII	K6	53	石鏃	2.0	1.6	0.4	0.7	Ob	左側縁は調査中に欠く。
1063	VII	H7/8		石鏃	2.4	2.1	0.4	1.4	Ob	表面に素材剥片面を残す。
1064	VII	H17	568	石鏃	2.5	1.7	0.4	0.9	An	先端は潰れる。
1065	VII	F15	414	石鏃	2.6	1.8	0.7	2.4	An	左脚欠損。
1066	VII	G24	7	石鏃	2.9	1.7	0.5	1.9	An	完形。
1067	VII	H15	628	石鏃	2.9	1.9	0.6	2.3	An	完形。
1068	VII	F13	291	石鏃	1.5	1.7	0.4	1.3	SI	先端から欠損。
1069	VII	F30	5	石鏃	3.6	2.1	0.6	2.5	SI	右脚欠損。
1070	VII	K12	4	石鏃	3.7	1.8	0.5	1.6	Sh	両側縁は鋸歯縁。
1071	VII	I8	18	石鏃	3.4	2.1	0.4	2.1	Ch	表面とともに研磨あり。
1072	VII	B25	2	石鏃	3.4	1.3	0.4	1.3	K	帖地型石鏃Aタイプ。
1073	VII	D21	41	石鏃	5.2	2.1	0.4	3.4	Ch	先端を欠損。帖地型石鏃Aタイプか。
1074	VII	L4	65	石鏃	1.1	1.1	0.2	0.2	Ch	素材剥片形状をそのまま活かす。
1075	VII	G22	16	石鏃	1.5	1.3	0.2	0.4	Ch	剥片か。
1076	VII	I9	4	石鏃	1.8	1.2	0.3	0.4	Ob	うすく整形。
1077	VII	C23	43	石鏃	1.8	1.6	0.3	0.5	Ob	表面に素材剥片面を残す。
1078	VII	N4	24	石鏃	2.1	1.6	0.5	1.3	KSI	表面に素材剥片面を残す。
1079	VII	L10	30	石鏃	2.3	1.9	0.3	1.3	HI	表面に素材剥片面を残す。整形加工も粗い。
1080	VII	C23	9	石鏃	2.2	1.4	0.4	0.9	KSh	先端・右脚欠損。
1081	VII	F30	2	石鏃	2.1	1.4	0.5	0.5	Ob	素材剥片を折断後、基部の抉りと先端周辺のみ整形。
1082	VII	G9	193	石鏃	2.2	1.6	0.4	1.0	Sh	表面に素材剥片面を残す。
1083	VII	F21	12	石鏃	2.4	2.2	0.7	3.0	Ch	粗い整形で、歪んだ形態。石鏃未製品か。
1084	VII	D20	129	石鏃	2.3	2.0	0.5	1.7	Ob	尖頭状石器か。
1085	VII	K4	131	石鏃	2.1	1.3	0.3	0.6	Sh	表面とともに研磨あり。側縁は粗い傷痕状。
1086	VII	K5	429	石鏃	2.2	2.1	0.5	1.5	Ch	表面に素材剥片面を残す。
1087	VII	E23	20	石鏃	3.1	1.7	0.5	1.7	Ob	素材剥片面の歪みを修整する格好で整形。
1088	VII	L10	16	石鏃	3.0	2.0	0.5	3.8	KSh	素材剥片面の周縁にのみ整形。
1089	VII	E19	7	石鏃	2.8	1.8	0.5	1.6	Sh	表面は素材剥片面。
1090	VII	H6	77	石鏃	1.3	1.0	0.4	0.3	Ob	先端のみ残存。右方向より欠損。
1091	VII	J5	5	石鏃	1.4	1.1	0.3	0.4	Ch	両脚欠損。
1092	VII	N4	石鏃	1.3	1.2	0.3	0.6	Ch	先端・両脚欠損。	
1093	VII	F28	19	石鏃	1.4	1.5	0.6	0.7	Ch	背面中央にこぶ残す。石鏃未製品か。
1094	VII	J6	12	石鏃	1.3	1.2	0.4	0.5	Ob	両脚欠損。先端は尖らない。
1095	VII	L10	26	石鏃	1.6	1.3	0.3	0.6	Ob	先端のみ残存。
1096	VII	E28	9	石鏃	2.0	1.4	0.4	0.7	K	左脚欠損。

表4 石器観察表(3)

登録番号	層	グリッド番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
1097	Ⅷ	H16	1 石鏃	1.9	1.6	0.3	0.5	Ch	基部側を欠損。石器周縁に細かな加工。
1098	Ⅷ	J4	45 石鏃	1.0	1.3	0.3	0.3	Ob	基部側のみ残存。欠損は先端方向から。
1099	Ⅷ	H9	3 石鏃	0.9	1.4	0.5	0.5	Ob	基部のみ残存。分厚い。
1100	Ⅷ	O4	12 石鏃	1.1	1.7	0.7	0.7	Ob	先端欠損。分厚い。
1101	Ⅷ	H11	8 石鏃	2.0	1.1	0.7	1.3	Ch	分厚い。石鏃未製品か。
1102	Ⅷ	C23	7 石鏃	1.4	1.5	0.3	0.5	Ob	先端欠損。
1103	Ⅷ	G16	5 石鏃	1.4	1.5	0.3	0.5	Ch	先端から欠損。
1104	Ⅷ	F25	66 石鏃	1.1	1.7	0.3	0.4	Ob1	脚部のみ残存。
1105	Ⅷ	L6	66 石鏃	1.4	1.5	0.6	0.8	Ob	先端欠損。
1106	Ⅷ	E24	45 石鏃	1.3	0.9	0.3	0.3	Ob	左脚のみ残存。
1107	Ⅷ	E22	45 石鏃	1.3	1.1	0.3	0.3	K	先端のみ残存。
1108	Ⅷ	E23	41 石鏃	1.2	1.5	0.2	0.5	Ch	先端欠損。
1109	Ⅷ	C23	63 石鏃	1.5	1.1	0.2	0.4	Ch	左脚のみ残存。抉りのない石鏃。
1110	Ⅷ	F30	9 石鏃	1.5	1.7	0.5	1.0	Ch	左脚のみ残存。大形の石鏃か。
1111	Ⅷ	K7	62 石鏃	1.3	1.0	0.4	0.5	Ch	脚部半分のみ残存。
1112	Ⅷ	M5	30 石鏃	1.8	1.7	0.8	2.1	Ch	先端欠損。分厚く、石鏃未製品か。
1113	Ⅷ	F25	84 石鏃	1.6	1.6	0.3	0.6	Ch	両脚欠損。
1114	Ⅷ	K9	56 石鏃	1.4	1.5	0.4	0.7	Ch	先端から大きく剥離。
1115	Ⅷ	O3	7 石鏃	1.6	1.3	0.4	0.5	Ob	先端・両脚欠損。
1116	Ⅷ	E28	15 石鏃	1.7	1.6	0.3	0.6	Ob	先端欠損。裏面には素材剥片面残す。
1117	Ⅷ	I6	10 石鏃	1.9	1.5	0.5	0.7	Ob1	右脚欠損。両側縁はやや彫削状。
1118	Ⅷ	E14	284 石鏃	2.0	1.5	0.4	0.8	An	右脚欠損。
1119	Ⅷ	K4	406 石鏃	1.8	1.5	0.3	0.5	Ch	左脚欠損。
1120	Ⅷ	C24	10 石鏃	2.1	1.8	0.3	0.6	Ch	先端・左脚欠損。
1121	Ⅷ	L7	Nべ 石鏃	1.9	1.6	0.6	1.2	Ob	左脚欠損。分厚い。
1122	Ⅷ	H6	30 石鏃	2.0	1.8	0.3	0.6	Ob2	両脚欠損。
1123	Ⅷ	I5	61 石鏃	2.0	1.5	0.5	1.0	Ob	右脚欠損。先端をやや欠く。
1124	Ⅷ	M6	77 石鏃	2.3	1.8	0.6	1.6	Ch	右脚は節理で欠く。
1125	Ⅷ	D27	1 石鏃	2.2	1.6	0.4	1.0	K	崎地型石鏃Bタイプか。
1126	Ⅷ	K7	62 石鏃	2.4	1.7	0.4	1.5	Ch	先端から左身を大きく欠損。
1127	Ⅷ	F11	99 石鏃	2.3	1.8	0.6	1.3	Ch	先端から欠損。
1128	Ⅷ	I5	60 石鏃	2.3	1.3	0.3	0.5	Ch	先端・右脚欠損。
1129	Ⅷ	C24	23 石鏃	2.1	1.0	0.4	0.6	Ch	先端から右身を欠損。欠損は先端側から。
1130	Ⅷ	M4	232 石鏃	2.8	1.3	0.5	0.5	KSh	欠損は節理に沿って生じる。
1131	Ⅷ	G15	5 石鏃	2.4	1.3	0.4	0.8	Ch	先端から左身を欠損。欠損は先端側から。
1132	Ⅷ	I4	40 石鏃	2.1	2.2	0.6	2.8	Ch	両脚欠損。石鏃未製品か。
1133	Ⅷ	F14	641 石鏃	2.4	1.1	0.5	0.7	Ch	左脚のみ残存。欠損は先端側から。
1134	Ⅷ	G15	9 石鏃	2.4	1.0	0.4	0.6	Ch	先端から右身を欠損。欠損は抉り側から。
1135	Ⅷ	O4	19 石鏃	2.3	1.8	0.6	1.9	Ch	右脚欠損。分厚く、石鏃未製品か。
1136	Ⅷ	G24	26 石鏃	2.5	1.8	0.5	1.7	An	先端・右脚欠損。
1137	Ⅷ	M7	30 石鏃	2.8	2.2	0.5	2.3	Ch	先端・両脚欠損。
1138	Ⅷ	J9	19 石鏃	3.1	2.1	0.6	1.8	Ch	右脚欠損。
1139	Ⅷ	H17	563 石鏃	3.9	1.7	0.4	2.0	An	右脚は表面中に欠損。
1140	Ⅷ	I10	27 石鏃未製品	1.3	1.2	0.7	0.8	Ob	石鏃製作の早い工程で、先端付近で欠損したものか。
1141	Ⅷ	L4	184 石鏃未製品	1.9	1.7	0.8	1.8	Ob1	基部周辺は分厚い。尖頭状石器か。
1142	Ⅷ	K7	201 石鏃未製品	2.2	2.1	0.9	3.9	Ch	製作の早い工程か。
1143	Ⅷ	K4	302 石鏃未製品	2.8	2.4	1.0	5.3	Ch	周縁からの粗い整形のみ。
1144	Ⅷ	F23	34 石鏃未製品	1.6	1.4	0.5	0.9	K	尖頭部の作出は明確でない。
1145	Ⅷ	I5	64 石鏃未製品	1.8	1.7	0.9	2.5	Ch	背面の厚みを減じきれなかったか。尖頭部未作出。
1146	Ⅷ	K7	60 石鏃未製品	2.2	1.3	0.7	1.5	Ch	右側縁を欠損する。
1147	Ⅷ	c 24	18 石鏃未製品	2.1	1.9	0.6	2.0	Ch	分厚い。
1148	Ⅷ	L4	94 石鏃未製品	2.9	2.2	1.0	4.8	Ch	尖頭状石器か。
1149	Ⅷ	K4	407 石鏃未製品	2.9	2.2	1.1	5.2	Ch	石器全体に厚薄の差が目立つ。
1150	Ⅷ	M4	25 石鏃未製品	2.4	1.2	0.7	1.3	Ob1	右側面を欠損。
1151	Ⅷ	K4	250 石鏃未製品	3.0	1.7	0.6	2.7	Ch	左側面を欠損。右側縁も作出まだ。
1152	Ⅷ	K6	210 石鏃未製品	3.4	2.0	0.8	4.5	Ch	左側面は素材剥片面のまま。左側より整形開始。
1153	Ⅷ	E20	7 石鏃未製品	3.6	2.4	0.8	5.6	KSh	周縁からのわずかな加工のみ。
1154	Ⅷ	E20	7 石鏃未製品	2.7	1.4	0.9	2.3	K	左側面は欠損する。
1155	Ⅷ	K4	383 石鏃未製品	2.2	1.8	0.6	2.2	Ch	先端と基部の抉り周辺に簡単に加工。
1156	Ⅷ	E26	107 石鏃未製品	2.7	1.7	1.0	4.6	Ch	粗く成形の工程。
1157	Ⅷ	N4	58 石鏃未製品	3.6	2.4	1.2	5.4	Ch	尖頭部の作出台中に製作中止。
1158	Ⅷ	E22	26 石鏃未製品	2.1	1.4	0.6	1.4	Ob1	左側は素材剥片面のまま。
1159	Ⅷ	E22	29 石鏃未製品	2.7	2.0	0.6	4.2	Ch	周縁からの粗い整形のみ。
1160	Ⅷ	E22	43 石鏃未製品	2.8	2.2	0.9	4.2	Ch	右側縁を欠損する。
1161	Ⅷ	G24	17 石鏃未製品	2.5	1.9	0.7	3.2	An	先端・基部の作出明確でなく、また分厚い。
1162	Ⅷ	E24	42 石鏃未製品	2.2	3.0	0.8	6.0	Ob	石核の可能性あり。
1163	Ⅷ	G26	9 石鏃未製品	3.2	2.5	0.7	4.5	KSh	右側縁に芯裏面から整形。
1164	Ⅷ	L8	32 石鏃未製品	3.8	2.4	1.3	9.4	Ch	かなり分厚い。

表4 石器観察表(4)

図No	層	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
1165	VII	I8	115	石錐未製品	3.3	2.5	0.9	5.3	Ch	尖頭部の位置は決定。周縁からの粗い整形のみ。
1166	VII	E23	13	石錐未製品	2.5	2.4	1.0	4.6	Ch	先端を欠損。石中央が高いくことから未製品とした。
1167	VII	F19	4	石錐未製品	3.4	2.6	1.3	9.9	KSh	周縁からの粗い整形のみ。
1168	VII	F19	6	石錐未製品	2.4	2.1	0.7	3.1	Ch	周縁からの加工で平面円形に成形。
1169	VII	F29	2	石錐未製品	2.9	2.1	0.6	3.8	K	周縁からの加工で平面円形に成形。
1170	VII	J6		石錐未製品	2.8	2.3	1.0	6.4	Ch	周縁からの粗い整形のみ。
1171	VII	D24	41	石錐未製品	3.2	1.8	0.6	2.3	Sh	製品の可能性あり。裏面に素材剥片面残す。
1172	VII	F25	59	石錐未製品	2.5	2.0	1.3	5.5	Ch	かなり分厚い。石核の可能性あり。
1173	VII	L4	94	石錐未製品	3.1	2.1	1.4	7.7	Ch	周縁から粗く成形のみ。かなり分厚い。
1174	VII	L4	196	石錐未製品	2.0	2.5	0.9	2.9	S1	先清掃のみ残存。周縁からの粗い加工のみ。
1175	VII	D25	65	石錐未製品	2.9	2.2	1.0	5.1	Ch	周縁からの粗い整形のみ。
1176	VII	M7	Nべ	石錐未製品	3.4	2.3	0.9	5.7	Ch	圓の左が最終的に尖頭部となるか。
1177	VII	F28	21	石錐未製品	3.4	3.3	1.6	12.1	Ch	周縁からの粗い加工のみ。石核か。
1178	VII	E12	731	礫器	11.1	8.7	2.9	370.0	S	扁平凧素材。裏面からのみ加工。
1179	VII	M4	150	礫器	8.2	7.2	2.9	200.0	Os	礫分割剥片に無い加工。
1180	VII	J6	88	礫器	13.5	8.5	4.8	560.0	S1	尖頭部を有する。純重な石器。
1181	VII	N7	Nべ	礫器	11.8	9.4	2.6	300.0	Os	礫部に無い加工。裏面の硬度を利用か。
1182	VII	K6	べ	礫器	11.3	9.4	5.2	641.7	Sh	下端にナットバード状の刃部。
1183	VII	F28	5	舟底状石器	2.3	0.9	0.7	0.9	Ob	裏面は鉛面。小形。
1184	VII	M7	118	石鉈	2.6	1.5	1.1	3.0	Ob	鉈部を欠損する。
1185	VII	E22	22	石錐	2.3	1.7	0.5	1.6	Ch	錐頭断面は菱形。素材剥片形状をそのまま活かす。
1186	VII	I5	14	舟底状石器	2.8	1.1	0.9	2.2	Ob	断面は三角形。
1187	VII	K4	105	二次加工剥片	1.3	1.7	0.6	1.0	Ch	背面の横は薄めか?
1188	VII	E13	724	二次加工剥片	3.4	1.3	0.6	1.6	Ob2	上に向かって尖頭部を意識か。
1189	VII	J8		二次加工剥片	6.8	3.3	2.0	29.9	Sh	ピック状。
1190	VII	M7	78	二次加工剥片	4.0	3.3	1.0	12.2	Sh	下端に数回の剥離あり。
1191	VII	F12	93	剥片	4.0	1.2	1.0	2.5	Ob	石核の打面再生または打面作出に伴うものか。
1192	VII	E13	294	微細剥離剥片	3.4	4.4	1.3	16.4	Ob2	上端に微細剥離。
1193	VII	N4	91	水晶	2.0	2.3	2.0	10.0	Q	六角柱の結晶。後は摩滅する。
1194	VII	D25	57	二次加工剥片	6.0	2.8	1.0	19.5	Sh	裏面左側縁にわずかに加工あり。
1195	VII	E22	10	二次加工剥片	3.7	2.3	0.8	7.6	Sh	
1196	VII	J5	83	微細剥離剥片	6.4	4.0	1.1	16.3	Sh	両側縁に微細剥離。
1197	VII	G10	189	剥片	4.9	3.3	1.1	13.4	KSh	1198-1199と接合。
1198	VII		186	削器	5.6	4.8	0.6	17.2	KSh	1199と接合。左側縁に刃部。
1199	VII		190	削器	-	-	-	-	KSh	1197と接合。
1200	VII	I7	14	石匙	1.2	1.3	0.2	<0.1	Ob	右側縁のまみは折断により作出生ずる。
1201	VII	K6	24	石匙	2.0	1.1	0.3	0.5	Ob	まみは明確に作出生ずる。両側縁は折断により整形。
1202	VII	J7	88	石匙	1.5	2.4	0.5	1.1	Ob	何らかの調整剥片を利用か。
1203	VII	J4	149	石匙	2.4	1.3	0.4	1.1	Ob	下端を尖らす意图か。
1204	VII	K5	32	石匙	2.2	1.3	0.2	1.1	Ch	小形の縱長剥片素材。下端は尖る。
1205	VII	E12	307	石匙	2.1	1.7	0.5	1.2	An	つまみは明確に作出生ずる。
1206	VII	G16	2	石匙	2.8	1.2	0.4	1.4	Ob	左側縁は折断面から加工。
1207	VII	K6	104	楔形石器	2.5	1.4	0.7	1.8	Ob	右側縁に背面側から数回の剥離がある。
1208	VII	K8	37	楔形	1.4	1.4	0.6	0.7	Ob	器長のわりに分厚い刃部。
1209	VII	F14	269	右匙	3.6	3.2	0.7	6.3	An	
1210	VII	F15	425	右匙	3.4	3.4	0.9	8.4	An	下端の加工はやや粗い。
1211	VII	H7	96	削器	1.6	1.3	0.6	0.8	Ch	小形。
1212	VII	G10	188	削器	1.9	1.3	0.6	1.1	An	
1213	VII	K7	2	削器	2.1	2.2	0.9	4.8	Ch	分割された剥片素材。
1214	VII	F19	2	削器	3.0	2.8	1.2	9.2	Ch	
1215	VII	K12	16	尖頭器	4.7	2.4	1.1	12.1	An	上半部のみ残存。断面は分厚いレンズ形。
1216	VII	F20	4	石錐	1.9	0.9	0.3	0.4	K	船底型石錐Aタイプ。小形。
1217	VII	F28	18	尖頭器	2.7	1.4	0.4	1.8	Sh	下半を欠損。裏面に素材剥片面を残す。周縁に纏かい加工。
1218	VII	K4	231	尖頭器	8.9	2.1	1.0	15.2	An	下半は上辺に比べ薄い。
1219	VII	K5	220	尖頭器	7.6	3.8	1.2	33.6	Ch	周縁より整形。先端を欠く。便宜上尖頭器に分類した。
1220	VII/VIII	L5		削器	1.8	1.3	0.5	0.6	Ch	尖頭部を作出。
1221	VII	I7	101	削器	2.3	1.7	0.6	2.0	Ob	周縁を舟円形に整形。
1222	VII	F21	42	削器	3.0	2.1	0.7	3.5	Sh	尖頭状石器か。
1223	VII	N6	1	削器	3.2	2.6	1.1	9.0	Ch	右側縁に粗い加工による刃部を作出。
1224	VII	K5	47	削器	2.6	1.6	0.6	2.2	Ch	左下に抉り状の加工。
1225	VII	B21	1	削器	2.5	1.6	0.7	2.2	Ob	下端は欠損。右側縁に刃部。
1226	VII	H16	2	削器	2.5	2.3	1.2	5.5	Os	左側縁に刃部。
1227	VII	F16	506	削器	2.5	2.3	0.8	3.3	An	右側縁に刃部。
1228	VII	F14	590	削器	2.2	1.8	0.4	1.8	Ob	下端は搔器状の加工。
1229	VII		353	削器	2.2	2.1	0.5	1.6	Ob2	漁手の剥片素材。加工は纏かい。
1230	VII a	MS	べ	削器	3.5	1.8	0.8	4.0	Ob	下に向かって尖頭部を作出。
1231	VII	N4	130	削器	4.1	3.7	0.9	15.2	Ch	下線に刃部を設定。
1232	VII	K7	103	削器	3.7	2.5	1.4	11.4	Ch	右側縁に刃部。

表4 石器観察表(5)

図No	層	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
1233	Ⅷ	H17	566	削器	5.1	2.3	1.0	12.8	S	右側縁は節理? 左側縁の刃縁が刃部か。
1234	Ⅷ	B23	6	削器	4.0	3.2	1.9	17.9	Ch	
1235	Ⅷ	C24	27	削器	4.2	2.5	1.0	8.6	Rh	石墨未製品か。
1236	Ⅷ	H6	29	削器	4.4	3.0	1.0	12.9	An	下端は欠損。尖頭器状の石器の失敗か。
1237	Ⅷ	B24	41	削器	4.0	3.7	1.1	13.2	Ch	下縁に刃部を設定。周縁は折り取りで成形。
1238	Ⅷ	K5	143	削器	4.8	4.9	1.7	33.3	S	側縁から下縁にかけて刃部を設定。
1239	Ⅷ	K4	211	削器	5.2	6.4	9.0	38.7	Sh	素材剥片末端に刃部を設定。
1240	Ⅷ	K7	Nべ	石核	1.1	2.1	1.3	2.8	Ch	わずかに打面調整あり。小形剥片を剥離。
1241	Ⅷ	J4	69	石核	1.6	2.2	1.1	2.5	Obl	小形剥片を剥離。
1242	Ⅷ	D23	41	石核	2.0	2.9	1.3	3.4	Ob	裸打面。小形の綫長剥片を剥離。
1243	Ⅷ	E22	16	石核	2.0	2.0	1.7	6.2	Ob	打面調整はない。細石刃様の小形綫長剥片を剥離。
1244	Ⅷ	I10	4	石核	2.5	1.2	1.4	2.4	Ch	打面調整はない。不定形剥片を剥離。
1245	Ⅷ	D27	4	石核	1.8	1.7	1.0	2.3	Ob	表面面は同時に剥離か。打面は点状。
1246	Ⅷ	F25	85	石核	2.1	2.0	1.0	3.6	Ch	周縁から中心に向って、小形の不定形剥片を剥離。
1247	Ⅷ	E22	25	石核	2.8	2.5	1.6	8.4	K	單一打面。綫長に近い不定形剥片を剥離。
1248	Ⅷ	F23	19	石核	2.7	1.4	1.3	3.3	Ob	複数の打面。綫長・不定形剥片を剥離。
1249	Ⅷ	I5	23	石核	3.1	1.3	1.0	3.8	Ob	1249に同じ。
1250	Ⅷ	C21	3	石核	2.8	2.7	1.3	9.0	Obl	不定形剥片を剥離。
1251	Ⅷ	E13	293	石核	4.3	2.5	1.5	11.2	Obl	不定形剥片を剥離。
1252	Ⅷ	E22	18	石核	2.9	1.3	1.2	3.8	Ob	細石刃様の可能性あり。
1253	Ⅷ	C21	4	石核	2.7	1.9	1.3	6.1	Obl	打面と作業面を入れ替えて剥離。チヨバーラー状の残核。
1254	Ⅷ	E13	295	石核	3.8	1.8	1.3	5.8	Obl	複数の打面。不定形剥片を剥離。
1255	Ⅷ	L10	17	石核	1.6	3.3	1.7	6.5	Obl	先行剥離面が打面。不定形剥片を剥離。
1256	Ⅷ	F28	23	石核	3.0	2.4	1.4	7.5	Ch	周縁から中心に向って不定形剥片を剥離。
1257	Ⅷ	E13	298	石核	3.2	2.2	1.5	5.3	Obl	不定形剥片を剥離。
1258	Ⅷ	E20	9	石核	5.5	3.6	2.1	35.9	Sh	不定形剥片を剥離。
1259	Ⅷ	D20	2	石核	1.9	1.3	2.5	7.6	Ob	小形角環素材。剥離は1回のみ。
1260	Ⅷ	F22	51	石核	2.6	3.5	2.4	20.5	Sl	風化著しく、切り合い不明確。不定形剥片剥離か。
1261	Ⅷ	D26	8	石核	4.4	2.0	0.9	1.2	K	打面調整なし。綫長に近い不定形剥片を剥離。
1262	Ⅷ	M6	Nべ	石核	6.0	7.0	2.9	133.8	S	下面は裸面。不定形剥片を剥離。
1263	Ⅷ	F25	7	石核	5.2	2.8	2.7	24.2	Obl	打面調整はほとんどない。不定形剥片を離。
1264	Ⅷ	F19	1	石核	4.1	4.1	1.6	20.9	Ksl	不定形剥片を剥離。削器として転用か。
1265	Ⅷ	K6	47	石核	3.6	4.8	3.1	51.5	K	複数の打面。不定形剥片を剥離。
1266	Ⅷ	M5	10	石核	4.4	2.9	1.5	15.1	Ch	剥片素材。不定形剥片を剥離。
1267	Ⅷ	C23	10	石核	5.7	3.7	2.2	45.6	Sh	作業面を打面とする。小形の不定形剥片を剥離。
1268	Ⅷ	D25	49	石核	3.9	3.5	2.1	16.3	Obl	打面は固定されない。不定形剥片を剥離。
1269	Ⅷ	M8	75	石核	17.7	4.5	3.0	121.6	Sh	円錐素材。分割面から大形の綫長剥片を剥離。
1270	Ⅷ	H7	106	石核	4.7	5.0	3.3	37.8	Sl	不定形剥片を剥離。
1271	Ⅷ	E15	388	石核	9.0	6.3	5.4	310.2	S	剥離面は石材の影響か明確でない。綫長に近い不定形剥片を剥離か。
1272	Ⅷ	F12	369	石核	10.5	7.4	3.7	235.0	S	扁平機を輪切りにする格好で、綫長に近い不定形剥片を剥離する。
1273	Ⅷ	L8	74	異形石器	2.2	1.3	0.7	1.3	Ob	分厚い片面。
1274	Ⅷ	J6	72	異形石器	2.2	2.9	0.6	2.3	Ob	背面に研磨面。
1275	Ⅷ	J6	48	異形石器	3.7	3.0	0.6	4.4	Ch	
1276	Ⅷ	E19	—	二次加工剥片	2.2	1.9	0.8	2.4	Ch	石墨木製品か。
1277	Ⅷ	E19	—	二次加工剥片	2.7	1.3	0.6	1.4	Ch	裏面下端に加工あり。
1278	Ⅷ	J14	21	二次加工剥片	1.1	1.8	1.7	2.2	Ob	石核か。
1279	Ⅷ	I7	1	二次加工剥片	8.6	4.1	2.1	39.1	Sh	右側縁に加工あり。
1280	Ⅷ	G27	25	磨製石斧	9.9	3.7	1.5	73.9	H	風化著しく、剥離の切り合いで、研磨など不明確。
1281	Ⅷ	H8	4	磨製石斧	8.8	7.0	2.4	100.0	S	分割磨材。正面には成形に伴う敲打痕が残る。
1282	Ⅷ	G3	7	環狀石斧	12.0	8.4	2.8	341.9	S	周縁は木を帯びる。欠損部周辺は赤化する。
1283	Ⅷ	K4	206	鐵石	6.3	5.7	3.2	166.8	Os	上下端に剥離した敲打痕。
1284	Ⅷ	—	727	鐵石	3.5	4.2	3.5	155.5	S	上下端は敲打により面をなす。
1285	Ⅷ	F25	99	鐵石	12.0	3.6	4.2	318.5	S	敲打痕は明確でない。
1286	Ⅷ	J6	—	鐵石	9.7	7.8	4.6	490.2	S	下端に敲打痕。全体に赤変。
1287	Ⅷ	E22	24	鐵石	7.3	9.3	4.7	429.5	S	下端に弱い敲打痕。
1288	Ⅷ	E27	113	鐵石	13.2	6.1	4.1	504.4	S	下端に弱い敲打痕。
1289	Ⅷ	G16	716	鐵石	10.1	5.2	4.0	321.5	S	下端に弱い敲打痕。
1290	Ⅷ	J6	—	磨石	6.9	5.6	3.7	197.5	S	表面間に磨痕。
1291	Ⅷ	F11	355	磨石	9.3	6.3	4.2	331.2	S	表面間に弱い磨痕。
1292	Ⅷ	K6	122	磨石	10.1	8.8	5.3	693.7	S	表面間に磨痕。
1293	Ⅷ	I7	50	磨石	10.4	7.5	5.0	539.7	S	全体に赤変。表面に弱い敲打痕。
1294	Ⅷ	K5	116	磨石	10.4	7.8	4.7	598.2	Os	自然磨の可能性あり。
1295	Ⅷ	M7	7	磨石	9.8	8.8	4.9	647.3	Os	表面に磨痕。周縁に敲打痕の可能性あり。
1296	Ⅷ	E19	1	磨石	11.9	11.9	4.4	914.3	S	表面磨面に磨痕。
1297	Ⅷ	F30	4	凹石	11.4	8.4	4.1	601.0	S	表面に磨痕あり。磨痕を切って、弱い凹み。
1298	Ⅷ	J5	191	凹石	11.0	9.1	5.9	818.4	S	表面に弱い凹み。
1299	Ⅷ	J5	192	凹石	11.4	8.4	4.0	634.2	S	表面に強い凹み、裏面に弱い凹み。
1300	Ⅷ	P48	104	台石	15.1	15.1	5.6	1148.4	S	欠損が多い。表面に大きな凹み。

表4 石器観察表(6)

図No	層	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
1301	VII	C25	3	石皿	27.3	20.9	5.0	5000.0	S	表面にゆるい凹み。
1302	VII	B23	4	台石	10.5	9.1	6.0	3000.0	S	表面はやや摩滅するか。
1303	VII	H2		石皿	20.4	33.6	6.8	6000.0	S	表面に黑色の付着物あり。
1304	VII	G10	158	石皿	26.5	27.0	8.3	10000.0	S	表面に局所的な磨痕とアバタ状の潰れあり。
1305	VII	L5/5	3	石皿	23.4	29.2	6.7	6.5	S	表面に黑色の付着物あり。
1306	VII b	K7	17	石鏃	1.1	1.4	0.5	0.3	Obl	分厚い。
1307	VII	H10	23	石鏃	1.1	1.3	0.4	0.2	Obl	不定形剥片素材。
1308	VII b	L6	439	石鏃	1.2	1.4	0.4	0.3	Obl	石匙か?
1309	VII	J7	73	石鏃	1.4	1.1	0.4	0.3	Obl	基部にこぶが残る。
1310	VII b	L5	1233	石鏃	1.2	1.1	0.3	>0.1	Obl	小形。
1311	VII b	J7	26	石鏃	1.3	1.4	0.4	0.5	Ch	石匙か?
1312	VII b	L6	12	石鏃	1.2	0.8	0.3	0.2	Obl	不定な整形。
1313	VII b	K4	282	石鏃	1.3	1.3	0.4	0.4	Obl	先端から欠損。
1314	VII b	N4	157	石鏃	1.4	1.3	0.4	0.5	Ch	
1315	VII	H9	90	石鏃	1.3	1.2	0.3	0.4	Ch	右脚欠損。
1316	VII	I9	31	石鏃	1.6	1.4	0.4	0.4	Obl	右脚欠損。
1317	VII	E24	50	石鏃	1.5	1.1	0.3	0.3	Ch	
1318	VII b	I8	18	石鏃	1.6	1.4	0.4	0.6	Obl	
1319	VII b	M10	6	石鏃	1.3	1.5	0.4	0.3	Obl	
1320	VII	J5	31	石鏃	1.9	1.3	0.3	0.5	Obl	右脚は欠損でない。
1321	VII a	K5	9	石鏃	1.4	1.4	0.3	0.2	An	両脚欠損。
1322	VII	K5	11	石鏃	1.5	1.3	0.2	0.3	Obl	両側縁はやや鋸歯をする。
1323	VII	G9	4	石鏃	1.6	1.4	0.5	0.5	Obl	
1324	VII	J3	52	石鏃	1.8	1.2	0.4	0.5	Ch	右脚は欠損でない。
1325	VII a	J5	62	石鏃	1.7	1.3	0.3	0.3	Obl	左脚欠損。
1326	VII	J4	79	石鏃	1.6	1.4	0.4	0.6	Ch	裏面は先端から剥離。
1327	VII	K5	4	石鏃	1.4	1.5	0.4	0.5	Obl	先端・左脚欠損。
1328	VII a	H6	40	石鏃	1.6	1.7	0.3	0.4	Obl	右脚やや欠損。
1329	VII	J4	154	石鏃	1.7	1.3	0.4	0.4	Obl	
1330	VII a	J4	174	石鏃	1.6	1.2	0.3	0.3	Obl	先端潰れる。
1331	VII	I8	2	石鏃	1.8	1.4	0.3	0.5	Ch	
1332	VII b	L4	246	石鏃	1.9	1.3	0.3	0.5	Ch	素材剥片面を大きく残す。
1333	VII	J5	114	石鏃	2.1	1.4	0.4	0.7	Obl	
1334	VII b	N4	115	石鏃	1.7	1.4	0.5	0.7	An	先端欠損。
1335	VII	K3		石鏃	2.0	1.6	0.5	1.0	Obl	
1336	VII	K4	202	石鏃	2.1	1.6	0.4	0.7	Obl	
1337	VII	I4	11	石鏃	1.9	1.5	0.4	0.6	Obl	左脚は欠損でない。
1338	VII	J5	16	石鏃	2.2	1.3	0.3	0.5	Obl	両側縁はやや鋸歯をする。
1339	VII a	J5	52	石鏃	2.1	1.2	0.4	0.5	An	
1340	VII	I5	94	石鏃	2.3	1.4	0.3	0.5	Obl	先端に素材剥片面残す。
1341	VII b	M4	24	石鏃	2.2	1.6	0.5	1.0	Ch	
1342	VII b	L5	66	石鏃	2.3	1.7	0.5	1.3	Obl	左脚欠損。
1343	VII	J5	31	石鏃	2.4	1.7	0.5	1.3	Hl	
1344	VII b	M4	125	石鏃	2.6	1.9	0.5	1.9	An	
1345	VII	I5	17	石鏃	2.6	1.7	0.5	1.2	Hl	
1346	VII b	L4	143	石鏃	1.6	1.5	0.4	0.9	Hl	先端潰れる。
1347	VII b	M4	170	石鏃	1.3	1.8	0.4	0.5	Obl	
1348	VII b	H3		石鏃	1.6	1.4	0.5	0.6	Obl	基部付近は分厚い。
1349	VII a	J4	160	石鏃	2.2	1.4	0.5	1.1	Ch	先端・左脚欠損。
1350	VII	H7	30	石鏃	2.1	1.6	0.8	2.0	Ch	石鏃未製品か。
1351	VII	H7	315	石鏃	1.9	2.0	0.6	1.4	Obl	
1352	VII	H8	21	石鏃	2.1	2.0	0.6	1.4	KSh	
1353	VII	J4	161	石鏃	2.3	1.7	0.6	1.4	Ch	穂が磨耗か。
1354	VII b	L4	116	石鏃	2.6	1.9	0.5	2.1	Obl	
1355	VII b	E25	9	石鏃	2.0	1.7	0.4	0.8	Obl	左脚欠損。
1356	VII	I16	180	石鏃	2.3	1.7	0.5	1.3	Obl	
1357	VII b	K5	79	石鏃	2.5	1.4	0.5	1.9	Obl	
1358	VII b	L6	151	石鏃	2.6	1.5	0.6	1.1	An	
1359	VII a	J4	185	石鏃	3.0	1.7	0.5	1.4	Obl	右脚欠損。
1360	VII b	M5	286	石鏃	2.0	2.2	0.4	1.1	Sl	裏面に素材剥片面残す。
1361	VII b	L5	95	石鏃	2.5	1.6	0.6	0.3	Ch	左脚欠損。
1362	VII	J5	629	石鏃	2.5	1.5	0.5	0.9	Obl	右脚欠損。
1363	VII b	F24	1	石鏃	2.8	1.6	0.5	1.2	Obl	左脚欠損。先端から剥離。
1364	VII	H16	1	石鏃	2.5	2.0	0.6	1.6	Ch	
1365	VII	K4	123	石鏃	2.8	1.6	0.6	1.7	Sh	
1366	VII b	L7	31	石鏃	1.9	2.0	0.6	1.1	Obl	
1367	VII	J5	19	石鏃	1.8	1.3	0.4	0.7	Obl	
1368	VII a	J5	41	石鏃	2.3	1.3	0.4	0.6	Obl	両側縁中位に段あり。

表4 石器観察表(7)

図No	層	グリッド番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
1369	VII a	J4	21 石鏃	1.8	1.4	0.5	0.7	Obl	両脚欠損。
1370	VII	H8	23 石鏃	2.6	2.0	0.6	1.3	Obl	裏面は素材剥片面を残す。
1371	VII	H9	41 石鏃	3.5	2.3	0.8	3.8	Sl	左脚欠損。
1372	VII	I7	100 石鏃	1.1	1.1	0.2	0.1	Obl	素材剥片面を大きく残す。
1373	VII b	M4	312 石鏃	1.6	1.4	0.2	0.2	Obl	素材剥片形状をそのまま活かす。
1374	VII a	J4	264 石鏃	2.2	1.6	0.5	0.9	Obl	
1375	VII	J4	243 石鏃	2.1	1.7	0.3	0.8	Ch	素材剥片の形状をそのまま活かす。
1376	VII b	M6	63 石鏃	2.0	1.2	0.3	0.5	Obl	素材剥片の形状をそのまま活かす。
1377	VII	J4	225 石鏃	1.8	1.3	0.6	1.1	An	裏面は素材剥片のまま。
1378	VII a	H6	38 石鏃	1.2	1.2	0.3	0.3	Obl	剥片か。
1379	VII	J4	248 石鏃	2.0	1.3	0.4	0.8	An	素材剥片面を大きく残す。
1380	VII	I5	158 石鏃	2.0	1.3	0.3	0.4	Obl	先端はやや丸みを帯びる。
1381	VII	H7	26 石鏃	1.5	1.4	0.4	0.6	Ch	右側縁は折曲のまま。
1382	VII b	K8	33 石鏃	1.3	1.5	0.1	0.3	Obl	素材剥片面を大きく残す。
1383	VII b	L6	38 石鏃	1.5	1.5	0.4	0.6	Obl	先端欠損。
1384	VII	F18	1 石鏃	1.8	1.5	0.4	0.8	KSI	
1385	VII	I4	11 石鏃	1.7	1.6	0.4	0.5	Obl	
1386	VII	H8	21 石鏃	1.8	1.6	0.5	0.8	Obl	
1387	VII	J3	21 石鏃	1.9	1.6	0.2	0.6	An	
1388	VII	I5	3 石鏃	1.7	1.5	0.3	0.4	Obl	
1389	VII	G6	22 石鏃	1.9	1.7	0.6	1.6	Ch	基部は分厚い。
1390	VII a	J4	153 石鏃	2.0	1.6	0.5	0.9	Obl	かなり粗質。
1391	VII	J4	74 石鏃	2.1	1.4	0.5	0.9	Obl	かなり粗質。
1392	VII	J4	215 石鏃	1.7	1.0	0.4	0.3	Obl	左脚欠損。
1393	VII a	J4	156 石鏃	1.8	1.2	0.4	0.4	Obl	左脚欠損。側縁は鋸歯状。
1394	VII b	L4	291 石鏃	1.5	1.2	0.4	0.3	Obl	右脚欠損。
1395	VII a	H6	33 石鏃	1.2	1.3	0.5	0.5	Obl	先端・両脚欠損。
1396	VII	J9	5 石鏃	1.8	1.5	0.4	0.8	Ch	先端・両脚欠損。
1397	VII b	M4	166 石鏃	1.8	1.5	0.3	0.6	Ch	先端・両脚欠損。
1398	VII	K4	299 石鏃	2.2	1.5	0.5	0.9	Sh	両脚欠損。
1399	VII b	K6	61 石鏃	2.3	1.5	0.6	1.1	Obl	両脚欠損。
1400	VII b	M5	270 石鏃	1.8	1.5	0.3	0.7	Ch	先端・左脚欠損。
1401	VII b	L5	475 石鏃	2.2	1.2	0.4	0.5	Obl	右脚欠損。
1402	VII	I9	35 石鏃	2.1	1.7	0.3	0.9	Ch	左脚欠損。
1403	VII b	N4	78 石鏃	1.5	1.3	0.5	1.1	Sh	右脚欠損。
1404	VII b	M10	5 石鏃	1.8	1.2	0.4	0.5	Obl	右脚欠損。
1405	VII	I5	157 石鏃	2.1	1.1	0.5	0.7	Obl	左脚欠損。
1406	VII	L4	Nべ 石鏃	2.1	1.3	0.5	1.1	Obl	両脚欠損。
1407	VII	I7	204 石鏃	2.3	1.7	0.4	1.0	Ch	左脚欠損。
1408	VII	K5	石鏃	2.7	1.6	0.3	1.2	Ch	右脚欠損。
1409	VII	I8	32 石鏃	2.2	1.5	0.4	0.9	Ch	先端・左脚欠損。
1410	VII b	L5	1103 石鏃	2.5	1.5	0.8	1.4	Obl	右脚欠損。
1411	VII a	J4	10 石鏃	2.6	1.5	0.3	0.9	Ch	左脚のみ残存。
1412	VII b	K4	14 石鏃	2.5	1.8	0.4	1.3	Ch	先端・左脚欠損。
1413	VII	K4	327 石鏃	2.2	1.4	0.7	1.2	Obl	両脚欠損。
1414	VII	K3	50 石鏃	2.0	1.7	0.4	0.9	Ch	先端・左脚欠損。
1415	VII	K4	83 石鏃	2.5	1.8	0.3	0.9	Ch	左脚欠損。
1416	VII	J5	591 石鏃	2.4	1.6	0.4	1.3	S	先端・両脚欠損。
1417	VII	J8	Nべ 石鏃	2.6	1.3	0.3	0.8	Sh	右脚欠損。
1418	VII	I5	93 石鏃	2.2	1.3	0.5	0.7	Obl	先端のみ残存。
1419	VII	I3	45 石鏃	2.2	1.8	0.5	1.2	Obl	左脚欠損。
1420	VII a	J3	31 石鏃	2.4	1.2	0.5	1.0	Obl	先端のみ残存。
1421	VII b	N4	115 石鏃	2.9	1.4	0.5	1.4	Obl	右脚欠損。
1422	VII b	M4	116 石鏃	2.3	1.6	0.6	1.5	Sh	先端・右脚欠損。
1423	VII	K4	92 石鏃	2.8	1.8	0.5	1.8	An	右脚欠損。
1424	VII	D25	21 石鏃	1.2	1.7	0.2	0.5	Obl	先端・左脚欠損。
1425	VII	H7	153 石鏃	1.9	1.5	0.4	0.8	Obl	右脚の一部であろう。
1426	VII b	M4	115 石鏃	1.4	1.4	0.5	1.0	Obl	先端から欠損。背面の剥離。
1427	VII b	J6	10 石鏃	1.2	0.3	0.4	0.8	Obl	基部のみ残存。
1428	VII a	H6	35 石鏃	3.1	2.1	0.4	1.8	Ch	右脚欠損。
1429	VII/VIII	E15	384 石鏃	3.2	1.7	0.3	1.1	Ch	右脚欠損。
1430	VII b	L5	1145 石鏃	3.3	1.9	0.5	1.9	Ch	右脚欠損。
1431	VII	H6	180 石鏃	0.9	1.3	0.4	0.3	Obl	基部のみ残存。
1432	VII	K4	301 石鏃	1.3	1.6	0.4	0.6	Obl	先端欠損。
1433	VII b	N4	140 石鏃	1.6	1.4	0.4	0.8	Sh	素材剥片面を大きく残す。
1434	VII	I7	139 石鏃	1.5	1.3	0.5	0.7	Obl	背面に裏面残す。
1435	VII	G6	44 石鏃未製品	1.2	1.2	0.5	0.6	Obl	左側縁は折曲か。
1436	VII	J4	221 石鏃未製品	1.5	1.9	0.7	0.7	Obl	基部の抉りのみ作出。

表4 石器觀察表(8)

図No	層	グッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
1437	VII	I5	石器未製品	2.2	2.0	0.8	2.2	Obl	右側縁から作成。	
1438	VII	K4	363	石器未製品	2.1	2.3	0.6	2.8	Obl	右側縁先端付近に擦面残す。先端は尖らない。
1439	V	J4	石器未製品	2.3	1.2	0.6	1.3	Obl	断面三角形。	
1440	VII	I7	341	石器未製品	2.2	1.8	0.7	2.5	Ch	石器の可能性あり。
1441	VII b	L5	1044	石器未製品	2.3	1.8	0.8	2.8	Ch	周縁からの粗い整形のみ。
1442	VII	J5	112	石器未製品	2.5	2.8	0.7	4.1	Sh	石器からの器種の可能性あり。
1443	VII	I5	6	石器未製品	2.3	1.1	0.6	1.1	Obl	製品の可能性もある。
1444	VII b	L4	18	石器未製品	2.4	1.7	0.8	2.7	Ch	右側縁の折面から粒形。
1445	VII a	J4	26	石器未製品	2.3	2.7	1.0	3.0	Ch	裏面の剥離は素材剥片面。背面側より整形開始。
1446	VII	F18	12	石器未製品	3.4	2.3	0.9	6.3	Sh	周縁からの粗い整形のみ。
1447	VII	H5	29	石器未製品	2.3	1.3	0.8	1.7	Ob	右側縁は背面側から急角度で調整。
1448	VII	J5	484	石器未製品	2.0	1.5	0.7	1.4	Obl	周縁からの粗い整形のみ。
1449	VII	F28	3	石器未製品	2.7	1.6	0.7	2.5	Ob	左側縁は欠損。
1450	VII	K3	石器未製品	2.3	2.0	0.6	2.6	Sh	素材剥片面と調整面との風化が著しく異なる。旧石器の剥片を再利用した可能性あり。	
1451	VII	J10	1	石器未製品	1.7	1.6	0.6	1.3	Ch	基部側面は分厚い。
1452	VII a	H6	14	石器未製品	2.5	2.1	1.0	5.1	Ch	整形は背面側が中心。
1453	VII	J5	389	石器未製品	2.6	2.5	6.0	3.1	Ch	裏面は素材剥片面のまま。
1454	VII	K5	石器未製品	3.4	2.4	0.7	7.2	S	右側縁:下部は折面。	
1455	VII	F29	3	石器未製品	2.8	2.4	0.8	4.3	An	尖頭状石器か。
1456	VII b	K8	149	石器未製品	2.8	1.7	1.0	3.1	Ch	裏面は素材剥片末端のまゝをそのまま利用。
1457	VII b	L4	382	石器未製品	2.8	2.2	0.9	5.3	Sh	周縁からの粗い整形のみ。
1458	VII b	N4	184	石器未製品	2.8	2.4	0.8	4.6	K	素材剥片面は重みがつき。周縁より整形。
1459	VII	I5	55	石器未製品	3.5	2.8	1.2	8.1	Ch	尖頭状石器か。
1460	VII b	O4	32	石器未製品	3.4	2.8	1.2	7.0	Ch	裏面中央の擦面除去に失敗か。
1461	VII b	L4	石器未製品	3.6	3.1	1.1	8.5	S	右側縁のみ整形。	
1462	VII b	C6	357	石器未製品	3.1	2.5	1.0	6.3	K	左側縁のみの粗い整形。
1463	VII	K4	304	石器未製品	3.5	2.8	0.9	7.6	KSh	基部周辺の整形が頗る。
1464	VII	K4	248	石器未製品	4.9	3.5	1.6	22.8	KSh	粗い整形で尖頭部を作成。
1465	VII b	K10	4	石器未製品	2.8	1.8	0.9	3.5	Obl	右側面は折断面。
1466	VII b	L6	302	石器未製品	3.1	2.1	1.2	5.9	K	周縁からの粗い整形のみ。
1467	VII	H9	84	石器未製品	2.7	2.0	1.4	5.5	Ch	厚さの除去に失敗か。
1468	VII	I4	11	石器未製品	2.9	2.0	1.0	5.3	Ch	石核か。粗い整形のみ。
1469	VII	I7	328	楔形石器	1.8	1.4	0.7	1.9	Ch	J:下端からの加壓により整形。石器未製品か。
1470	VII	I5	33	削器	1.9	1.5	0.8	1.7	Ob	素材剥片打点周辺の厚み除去する格好で刃部作出。
1471	VII b	N5	86	削器	2.1	1.7	0.6	1.5	Ch	素材剥片一部を尖頭状に作出。石器の未製品の可能性あり。
1472	VII b	N5	157	削器	2.7	1.7	1.0	2.9	Ob	
1473	VII b	L6	170	石器未製品	2.9	2.2	0.9	5.6	Ch	左側面を打面とし、厚さ除去の調整を入れる。
1474	VII	H7	57	石器未製品	3.3	3.1	0.9	3.7	Ch	尖頭状石器が半削したものか。
1475	VII	K4	52	削器	2.5	1.5	0.9	2.6	Obl	裏面に封し分厚い剥片素材。石器部削面を中心に加工あり。
1476	VII	H9	8	削器	2.8	2.3	0.9	4.0	Ch	素材剥片側面に細かい剥離。
1477	VII b	K4	20	削器	5.7	1.6	0.8	3.3	Ch	裏面の両側面を中心に細かい剥離。
1478	VII	I5	51	削器	3.7	2.0	1.4	9.6	Ch	左側縁は搔き刃部のような加工。
1479	VII	K3	削器	3.8	2.8	0.9	7.1	Ch	下側に尖頭部を意識か。	
1480	VII	J3	59	削器	3.3	3.6	0.8	5.2	Ch	尖頭器状。
1481	VII	H8	36	削器	3.9	1.9	0.8	4.6	Ch	
1482	VII	F14	583	削器	4.3	3.0	1.3	10.5	An	石器未製品か。
1483	VII	H7	176	削器	3.8	2.6	0.9	7.3	Ch	長軸方向に湾曲する。
1484	VII	H7	304	削器	3.6	2.4	0.9	6.7	Ch	素材剥片側面に細かい剥離。
1485	VII b	L5	1156	削器	4.9	3.6	1.5	18.3	An	尖頭器状。
1486	VII	H7	296	削器	4.8	2.2	0.7	6.6	Ch	裏面左側の剥離は刃部でない。石器左側縁が刃部か。細かい剥離が連続する。
1487	VII b	L4	334	削器	4.6	2.4	1.1	15.0	Sh	左側縁は凹面。粗い整形。
1488	VII b	N4	45	削器	4.6	3.8	1.0	2.3	Sh	右側縁のみの刃部。加工は裏面側からのみ。
1489	VII b	N4	1	玉製品	1.2	1.3	0.5	1.7	滑石	口下をくびった皮袋状の玉製品。
1490	VII	I5	65	石錐	2.4	1.6	0.5	1.1	Obl	錐部削面はゆるい菱形。
1491	VII	K4	220	石錐	4.6	1.7	1.1	4.2	Ob	不定形剥片の一端に錐部を作成。錐部削面は菱形。
1492	VII	K4	51	石錐	1.4	1.4	0.6	0.7	Ob	錐部削面はゆるい菱形。
1493	VII		異形石器	1.9	1.1	0.3	0.6	Ob2	背面はゆるく研磨か。	
1494	VII b	M6	異形石器	2.4	1.1	0.7	1.3	Ch	素材剥片の歪みは修復せず。	
1495	VII	J8	121	異形石器	1.3	2.5	0.6	1.3	Ob	表面に裏面側面を残す。
1496	VII b	M4	225	異形石器	2.3	1.5	0.7	1.5	Ob	上面は頭部に潰れる。石器背面には擦面残す。
1497	VII b	N4	石錐	3.1	2.5	7.1	4.6	KSh	錐部削面は菱形。	
1498	VII b	L4	516	異形局部磨製石錐	2.1	2.4	0.6	3.1	Ch	先端は欠損する。裏面の研磨は頗る。
1499	VII b	M5	73	異形局部磨製石錐	3.1	1.4	0.7	2.7	Ch	先端部も入念に研磨される。
1500	VII b	L8	52	石錐	2.8	1.8	0.4	1.2	Ob	不定形剥片素材で、裏面側面形状をそのまま活かして石器とする。
1501	VII b	J6	55	石錐	2.2	1.5	0.8	2.1	Ob	石錐のつまみ部の可能性あり。
1502	VII b	L4	1	石錐	1.9	1.4	0.2	0.6	Ch	素材剥片形状をそのまま活かす。

表4 石器観察表(9)

図No	局	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
1503	VI	b	O5	2 振器	2.0	2.0	0.9	2.8	Ch	表面基部側は厚みを落としている。尖部は甲高い。
1504	VI	b	M6	83 石匙	5.7	2.8	0.7	11.0	Si	つまみ部は小さい。欠損品を再利用か。
1505	VI	b	L4	29 右匙	6.3	3.9	1.1	22.2	Sh	綫長剥片素材。下端を欠損する。
1506	VI	b	L4	121 振器	6.1	3.4	1.9	25.8	Sh	紛失
1507	VI	b	L5	172 振器	9.0	3.8	1.4	65.0	Hl	風化著しい。裏面は織面か?
1508	VI	b	M6	72 石核	1.5	2.7	0.8	3.4	Ob	小形織素材。單一打面で不定形剥片を剥離。
1509	VI	H6	167 石核	1.5	1.7	2.7	5.7	Ob	小形織素材。單一打面で不定形剥片を剥離。	
1510	VI	K3	石核	1.3	2.5	2.1	6.1	Ob	不純物の混入が審い。打面は先行剥離面か。不定形剥片を剥離。	
1511	VI	K3	31 石核	2.2	1.1	1.2	2.6	Obl	織石刃様の小形の綫長剥片を剥離。打面調整はない。	
1512	VI	K3	石核	1.6	1.8	1.8	3.1	Obl	紛失	
1513	VI	J5	195 石核	2.4	2.7	2.0	11.2	Obl	打面は複数あり、不定形剥片を剥離。裏面は織面。	
1514	VI	b	L5	115 石核	2.5	1.5	1.6	4.2	Ob	綫長・不定形剥片を剥離。打面調整はない。
1515	VI	J7	252 石核	2.5	1.8	1.4	5.5	Kcr	綫長に近い不定形剥片を剥離。打面調整はない。	
1516	VI	J3	110 石核	2.3	1.7	1.2	3.2	Obl	不定形剥片を剥離。打面は固定されていない。	
1517	VI	b	L6	164 石核	2.7	1.9	1.1	4.5	Ob	左右から小形の剥片を剥離。右面は織面。
1518	VI	H7	310 石核	4.4	1.5	1.1	6.1	Ob	角織素材。裏面から不定形剥片を剥離。	
1519	V	石核	2.2	3.2	1.2	7.3	Ob	打面は先行剥離面。不定形剥片を剥離。		
1520	VI	H7	259 石核	3.6	1.8	1.8	9.4	Ch	單一打面から不定形剥片を剥離。打面調整はない。	
1521	VI	a	J4	233 石核	2.8	2.2	1.3	5.5	Ob	風化著しい。鹿児島県上牛鼻産か。小形の不定形剥片を剥離。
1522	VI	J5	21 石核	1.7	2.8	1.6	3.7	Obl	不定形剥片を剥離。打面は固定されていない。	
1523	VI	K5	14 石核	3.0	2.9	2.2	13.7	Obl	單一打面から不定形剥片を剥離。織打面。	
1524	VI	K3	2 石核	4.1	3.3	1.2	17.7	KSh	剥片素材の石核。正面の剥離の打面は織面。	
1525	VI	b	L5	188 石核	2.8	3.4	1.2	8.6	Ob	剥片素材の石核。綫長に近い不定形剥片を剥離。
1526	VI	a	K5	4 石核	3.2	2.3	2.2	11.2	Ob	裏面は標示剥離面。正面・右面は織打面より不定形剥片を剥離。
1527	VI	K3	石核	3.3	4.8	2.4	37.0	Ch	大形剥片素材。不定形剥片を剥離。	
1528	VI	b	L4	427 石核	3.5	4.1	2.9	28.8	Obl	正面の剥離に伴う打面調整あり。不定形剥片を剥離。
1529	VI	N5	37 石核	5.8	5.1	2.1	53.6	Sh	裏面は織面。周縁より中心に向かって不定形剥片を剥離。	
1530	VI	J7	92 微細剥離剥片	1.8	1.3	0.6	0.9	Ob	石器上部に微細剥離あり。	
1531	VI	b	M6	11 二次加工剥片	2.4	2.9	1.3	6.0	Ch	裏面左下に抉り状の加工。
1532	VI	b	K4	9 二次加工剥片	3.5	1.3	1.0	4.2	Sh	複数で磨耗する。意図的な研磨?
1533	VI	b	K5	11 二次加工剥片	1.3	3.3	0.9	4.3	Ob	舟底状石器のような形態。
1534	AHT	J14	二次加工剥片	8.4	4.4	2.4	75.3	S	織打面から剥離された擬似刃片の側縁に加工を入れる。	
1535	VI	b	L5	1251 二次加工剝片	2.3	2.2	0.7	2.7	Ob	石器下端にわざかな加工。
1536	VI	b	K4	14 二次加工剝片	3.6	2.8	1.6	9.6	Sh	裏面左下に細かな加工あり。
1537	VI	b	L7	223 二次加工剝片	7.9	3.0	1.4	25.7	Sh	尖頭器などの未製品か。ただし剥離面のバルブは強い。
1538	VI	b	N4	198 二次加工剝片	6.1	3.3	1.3	21.9	S	左側縁に加工あり。
1539	VI	a	J5	49 二次加工剝片	4.1	1.8	1.2	7.5	Sh	削器か。
1540	VI	J5	664 二次加工剝片	5.1	3.9	1.1	19.8	Sh	鋭器的な石器か。	
1541	VI	a	J4	打面石斧	11.0	6.0	1.7	92.1	S	人形であること、下縁の後がやや潰れることから石斧とした。
1542	VI	J3	66 二次加工剝片	4.3	3.9	8.1	26.8	Ch	不定形剥片素材。裏面石剝縁に加工あり。	
1543	VI	H7	284 二次加工剝片	4.6	3.0	2.2	17.2	Sh	分割して円縫に加工を入れる。石核か。	
1544	VI	b	L4	543 売精石斧	7.2	7.8	1.6	112.8	Sh	刃部のみ残存。刃部のみ丁寧に研磨。剥離の研究はゆるい。
1545	VI	I5	39 回石	9.6	8.1	5.6	571.8	S	風化著しい。裏面中央に凹み。	
1546	VI	a	J6	37 蔽石	3.9	3.1	2.8	44.5	S	敲打痕明確でない。
1547	VI	J3	136 蔽石	3.6	3.5	3.0	50.0	S	下端に敲打痕?	
1548	VI	J4	蔽石	6.0	5.5	4.3	196.1	Os	下端が剥離者に潰れる。	
1549	VI	K4	265 蔽石	5.4	3.9	2.1	50.4	S	よく転磨され光沢のある円錐素材。硬質。下端から敲打により剥落。	
1550	VI	b	L4	233 蔽石	4.5	4.1	2.2	59.4	Sh	破壊著しい。周縁に顕著な敲打痕。
1551	VI	I6	14 蔽石	6.0	5.6	3.8	176.7	S	上下端に敲打痕。	
1552	VI	b	L5	1010 蔽石	9.3	8.1	4.3	492.6	Os	上下端に敲打痕。よく転磨された光沢のある円錐素材。
1553	VI	J4	328 蕁石	9.5	8.7	7.2	820.0	S	表面に磨痕。	
1554	VI	H6	44 蕁石	11.2	9.7	4.7	800.0	Os	表裏面に磨痕。	
1555	VI	B24	10 蕁石	11.1	10.1	3.7	637.1	S	自然縫の可能性あり。	
1556	VI	J3	119 蕁石	7.2	4.7	3.0	142.1	S	自然縫の可能性あり。	
1557	VI	K4	481 蕁石	7.9	7.9	3.8	324.5	S	表面に光沢あり。	
1558	VI	J7	べ 蕁石	9.5	8.4	4.5	469.5	S	表裏面に顕著な磨痕。	
1559	VI	a	J4	283 麦器	9.3	9.1	1.8	171.9	S	節理で分割された扁平椎円錐素材。
1560	VI	I7	349 原石	8.3	6.6	5.9	365.0	Ob	球頭が剥離者に入る。南九州産か。	
1561	VI	C4	2 原石	3.6	1.8	1.6	7.1	Ob	小形。黒色で不純物をほとんど含まない。	
1562	VI	D23	8 原石	2.2	1.6	1.3	5.1	Ob	1561と同石材。	
1563	VI	G6	57 石皿	36.3	22.5	11.4	15000.0	S	表面にゆるい凹面。	
1564	VI	G6	315 石皿	9.0	13.7	3.5	482.3	S	欠損著しい。表面にゆるい凹面。	
1565	VI	D21	8 石皿	15.3	16.3	10.8	4300.0	S	欠損著しい。表裏面ともに磨痕。	
1566	VI	D21	1 台石	37.4	33.2	8.4	14000.0	S	表面中央にアバタ状の潰れの可能性あり。	

## 第4節 小 結

### 1 造構について

集石造構については新しい視点でデータの収集を行った。

南九州における集石造構は、掘り込みの有無、赤化蝶の分布、蝶の接合関係、総数、重量などに着目されてきた。八木澤一郎は蝶の平面分布（分散・密集）、掘り込みの有無、底石の有無によって①集石1類（分散型、掘り込み無し）、②集石2類（密集型、掘り込み無し、底石無し）、③集石3類（密集型、掘り込み有り、底石無し）、④集石4類（密集型、掘り込み有り、底石有り）の4形態に分類している。さらに、住居址の有無を加えて①タイプ1（住居址に伴って集石造構検出）、②タイプ2（住居址無し、集石3類と4類の集石造構群が微高地を取り囲む）、③タイプ3（住居址無し、集石3類と4類を検出）、④タイプ4（住居址無し、集石1類と2類を検出）の4タイプに分けた<sup>1)</sup>。

本遺跡の集石造構96基を上述の区分に従って分類するならば、以下のようなになる。

	VI層	VII層	VIII層	層不明	計
① 集石1類	9	8	0	4	21
② 集石2類	16	15	2	0	33
③ 集石3類	8	24	4	2	38
④ 集石4類	2	1	0	1	4
計	35	48	6	7	96

本遺跡では、集石造構と同時期の住居跡は全く検出されなかった。調査地は微高地の東側に位置し、この範囲で集石造構の分布状態を見るならば、タイプ1と2に属する集石造構は存在せず、タイプ3と4に属する集石造構に該当するといえる。八木澤は、タイプ3は住居地区から独立した場所にある恒常的調理地区、タイプ4は季節的利用のキャンプ地であるという考えを提示した。これに対し、徳永貞紹は集石炉と石組炉・配石炉の違いの明確化し、各遺跡から報告されている集石造構の基本的個別データの不足を指摘した<sup>2)</sup>。宮崎県における集石造構の研究は、鹿児島県と同様な状況にあり、今後の課題として、単純遺跡や分離可能な検出層の中で集石造構の所属時期を明確にした上で基本的データを測定し考察する必要がある。

そこで今回は、上記のような研究の総括をふまえて、96基のうち94基の集石造構について個々の蝶を数値化して測定し、統計処理を行った。測定項目は①検出層、②掘り込みの有無、③蝶の分布（長径、短径）、④蝶総数、⑤岩質、⑥大きさ、⑦炭化物の有無、⑧土器・石器の有無、⑨石器石材の有無、⑩敷石の有無、⑪赤化蝶の有無である。結果は次節で詳しく触れる。

磨石を並べた造構の例としては、鹿児島県鹿屋市の飯盛ヶ丘遺跡から掘り込み不明の石器集石造構として、4個の磨石を並べた造構が報告されている<sup>3)</sup>。

### 2 土器の特徴

草創期の土器は、数段の爪形文を施すものと、貝殻腹縁、殻頂による圧痕文、沈線文を施すものが少量認められた。爪形文は成形時の爪跡ではなく、ヘラ状工具（？）の刺突による文様である。

それらの出土層は早期土器と同一で、テフラ等を基にした垂直位置については積極的に言及できないが、貝殻文を施す個体（5）に関しては、口唇部形態や口縁上部に文様帯が集約されている点など、当地域の早期初頭土器群に近い様相が看取される。このため、この資料については早期初頭まで編年的位置が下る可能性も否定できない。宮崎学園都市遺跡群の堂地西遺跡B区の出土土器群の中に同様の資料が認められる<sup>4)</sup>。

早期土器は、大きくは貝殻文円筒形土器系のA類、押型文系のB類、撲糸文・繩文系のC類、平格・塞ノ神式系のD類に4類別できることは前述のとおりである。

A類は、貝殻による施文と円筒形を呈する器形が特徴で、南九州系の早期貝殻文円筒形土器群が主体をなすが、A 4類のみは、異なる係累のものである（32～36）。

A 1類は7のみが該当する。全容は不明であるが、おそらくは前平式<sup>5)</sup>の胴部片と見られる。

A 2類は貝殻腹縁による圧痕文を施すもので、知覧式<sup>6)</sup>、椿ノ原タイプ<sup>7)</sup>と称される（8～10）。楔形突堤、角筒形土器など、特徴的な文様要素、器形が認められる。

A 3類は下剥峯式あるいは桑ノ丸式<sup>8)</sup>に属する、あるいはそれに類するものと見られる。22は下剥峯式・桑ノ丸式の概念から外れるが、内湾する口縁部やその断面形などから近接した編年的位置を推測することが可能である。

A 4類は北部～中九州に広く分布する、条痕文施文の一群に含まれるものであろう。口唇部はやや肥厚させるか（32）、かまぼこ状となり（34など）、内面は丁寧なナデ調整が施される。

押型文系のB類については、前述の通り器形の特徴を重視して細分を行った（挿図参照）。

B 1類は器形や文様の特徴から、東九州編年<sup>9)</sup>における下首尾B式に類似するものと考えられる。桑畠光博らの追究によれば、貝殻文円筒形土器系の桑ノ丸式と近い編年的位置にあるという<sup>10)</sup>。

B 2類は直に立ち上がる口縁部を有し、完形資料はないもののバケツ形を呈すると見られる。從来、このような器形の資料は、当地域においては貝殻文円筒形土器群との接触により成立したものと解釈されてきたが、近年、東九州の稻荷山式に並行する、北部・中九州における最古段階の押型文土器であるとの見解が示されており、「弘法原式」と呼称されている<sup>11)</sup>。確かに、本遺跡の64や68などは横方向の目の細かな押型文であり、古く遡る可能性は否定できない。69のようなベルト状施文の個体が存在することも傍証の一つとなろう。

B 3類と4類は、内面ケズリの調整手法が共通することや、中間的な様相を示す個体が多く認められることから近い関係にある一群と見られる。そのような資料は、清武町杉木原遺跡<sup>12)</sup>で一定量出土しているほか、田野町芳ヶ迫第3遺跡<sup>13)</sup>などでも確認されている。宮崎平野南部を中心に分布する型式と位置づけておきたい。

89、238の口縁部形態や横方向施文は早水台式に似るが、内面はケズリ調整が施されるなど、在地的色合いが強い。口縁部片の324は、外面に鋸歯状ないしは波状の沈線文を、内面の上部に「枝回転文」を施す。本類と後述するB 5類（手向山式）との近縁性を示す資料と位置づけられよう。

B 5 類は当地域における押型文系の最終末の型式である手向山式<sup>14)</sup>に該当する。それらと同じ器形で沈線文を主文様とし、押型文を施文しない一群(620~641)や、微細な突帯を施す一群(654~659)も、從来手向山式に含められていたものである。円盤状を呈する667・668や上げ底となる669は、確証はないが、B 5 類の底部の候補となろう。

C 類は、器形の類似からB 類との密接な関連がうかがえる。同様の器形変化を遂げた可能性も指摘できる。外面に網目状の撚糸文が施される619や、結節繩文が施される665、666は、文様はC 類と、器形の面ではB 5 類(あるいはB 5 類と同様の器形で押型文を施文しない一群)と関連するものであろう。なお結節繩文は、当地域においては平柄式に認められる特徴的な文様要素と考えられており<sup>15)</sup>、上記の位置付けが正しければ、その初現がさかのばることになる。

D 類もいくつかの型式を包括する類型である。

D 1 類は、天道ヶ尾遺跡のV 類<sup>16)</sup>、妙見遺跡の「平柄式前段階<sup>17)</sup>」に該当する資料で、先に触れたB 5 類と同様の器形で押型文を施さない一群がこれらと密接な関係があると考えられる。

D 2 類は平柄式に包括されると見られるが、肥厚口縁が平柄式の口縁形態の特徴と位置づけるならば694、699~701などは口縁端部に付された突帯→口縁部肥厚帯の変化の過程を示していると考えられ、いわば平柄式成立の瞬間を体現している個体と表現できるのではなかろうか。690などは口縁部内面に文様があり、古い様相を示している。一方699、700の口縁端部に見られる横「ハ」字状の短沈線文は後の段階につながる特徴である。

D 3 類は口縁部がわずかに肥厚する一群、D 4 類は口縁部が内湾する一群で、口縁部破片が多く出土しているものの完形資料がないため全体の文様構成は不明となっている。おそらくはD 1 類・2 類でa・bとした2つの流れ(頸部以下に繩文が施されるもの=a、沈線文が主となるもの=b)が踏襲されているのである。胴部片820、821などは1~4 類のいずれかに属するb該当資料であろう。

D 5 類・6 類は、胴部との境に明瞭な稜線が形成される。撚糸文系の塞ノ神式に相当する一群であり、口縁部に沈線文と列点文、胴部に縱方向の網目撚糸文を施すものと、沈線区画内に撚糸文を施すものに大別できる。前者は河口貞徳のA a式に、後者はA b式にあたる<sup>18)</sup>。

D 7 類は貝殻文系の塞ノ神式(河口による塞ノ神式B式)に相当する。932や937など、貝殻文に似た列点文や短沈線文を施すものも近い関係にある資料と考えられる。

D 8 類は、苦浜式と称されるものに文様の特徴が似る。苦浜式は貝殻文系塞ノ神式と条痕文系土器をつなぐ型式として再認識されている<sup>19)</sup>。ただし、このD 8 類は、器形(特に口唇部形態)がそれと大きく異なる。このため、A 類の貝殻文円筒形系土器群に属する可能性も皆無ではない。

なお、今回の報告では、この苦浜式(と仮定したもの)までを早期とし、外・内面に条痕文を施す平底の土器群<sup>20)</sup>から前期に属するものと位置付けている。從来、南九州においてはアカホヤ火山灰の堆積をもって早期と前期の境界と見なしているが、その問題点は既に指摘されている通りであろう<sup>21)</sup>。ただし、ここでの線引きはあくまで便宜的なであり、今後、土器編年上の他地域との併行関係について詰めていき、その当否を検討していかねばならない。

それでは、上記の内容をまとめ、該期の土器型式の変遷案について簡単に触れておきたい。

B類とした押型文系土器については、器形をもとにした分類を行ったが、それが時間的変化には対応するとの仮定のもと、以下の通りの変化を遂げたものと推定しておきたい。

押型文系土器は、同時期の無文土器を含めて一部古くさかのぼる可能性のある資料も存在するが、貝殻文円筒土器系の終末期（ここでのA3類期）に並行する形でB1類が展開したと見られる。これは、九州東南部においても下背尾B式が一定量出土するという事実から裏付けられる。

そしてB3類・4類の時期に至り、押型文系土器が当地域の土器の主体を占めるようになる。他地域との並行関係を直接的に示す資料は現在のところないが、B5類（手向山式）期以前の、東九州縦年における田村式、あるいはヤトコロ式に並行する段階のことであろう。

さらに手向山式期のある段階で、それまで少量ながら流入していた繩文、撚糸文系（C類土器）との接触・混合により押型文を施さない（押型文以外の文様要素をも取り入れた）土器群が成立し、さらにD1類へと展開していったと見られる。ただし、押型文系終焉に関する一連の流れについては、少なくとも西日本一帯に目を配る必要があるとの指摘もある。必ずしも一元的な変化にとらわれる必要はないのであろうが、今後注意すべき点の一つと言えよう。

D類についても器形をもとに分類したが、それらの位置付けに関しては、手向山式から平格式、撚糸文系塞ノ神式を経て貝殻文系塞ノ神式に変化したという縦年観に準拠したい<sup>22</sup>。

まず、前述の通り押型文系のB5類からD1類が生じ、そこから平格式に包括されるD2類→4類の流れで口縁部形態が変化したと推測される。胴部以下については、縦方向突帯がある段階で消滅するであろうということ以外、大きな変化は見られないと考えられる。おそらくa、bとした2つの流れが踏襲されているのであろう。

撚糸文系塞ノ神式に相当するC5類・6類については十分整理ができていないが、仮説として、平格式段階に見られるような2つの文様の「流れ」（河口による塞ノ神式Aa、Ab式の両者）があったと考えておきたい。

D7類の貝殻文系塞ノ神式は、苦浜式を介して条痕文系土器につながると考えられており、近年の調査事例から条痕文系土器の存続期にアカホヤ火山灰の堆積をもたらした鬼界カルデラの爆発がおこったと見られている<sup>23</sup>。

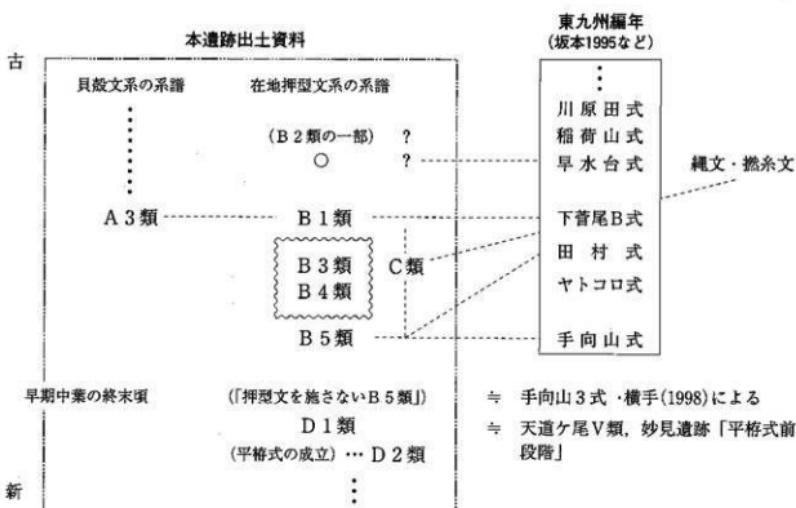
以上、本遺跡出土の早期土器についての流れをまとめてみた。全体として粗い考察となり、特にD類とした一群について、不明な点が多く残ったが、今回の報告資料をもとに、周辺台地における縦年が固まることが期待される。なお、次頁には、主としてB類に関わる縦年の位置付けを模式図化して整理している。タテ軸が時間、ヨコ軸が空間距離を表している。

### 3 遺物の出土位置

前項で縦年の位置を推定した土器は、実際には、どのような平面・垂直位置から出土しているのか検討してみたい。

草創期の土器は、調査区北端近くで出土している。VI層より2点、VII層より1点、b層より2点となっているが、原位置をとどめているかどうか疑わしい。

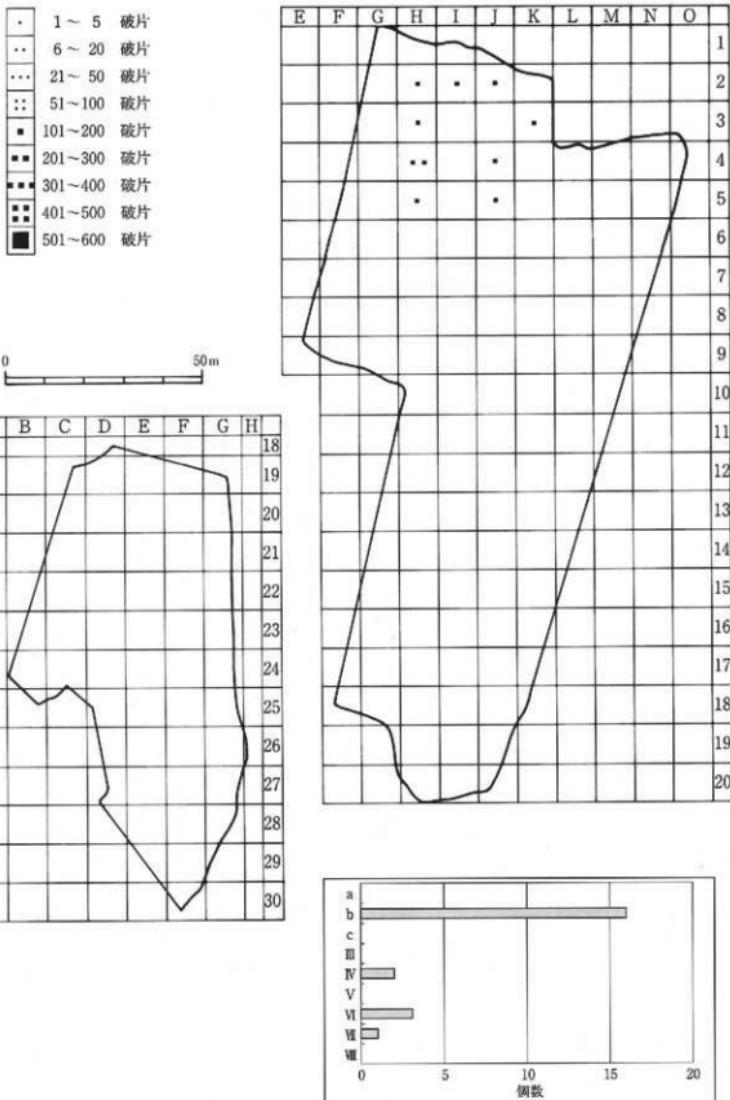
A類は、多くは調査区北半より出土しているが、15や24など南端近くで出土しているものもある。VII層出土の個体が多い。



B類については、ほぼ全ての出土資料を分析対象としたが、小破片についてはどの類型に属するのか把握することが困難であり、まず大きく山形押型文を施すものと精円押型文を施すものに分け、傾向を調べた。その結果、いずれも調査区北東部の小さな谷の頂部付近に集中箇所があることが判明した。さらに細かくB 3・4類に限ってみた場合でも、その傾向は変わらない。出土層はVI層、VII層の比率が高く、中でもVII層出土資料が多数を占めることがうかがえる。

C類は、多くは前述の谷の北側付近より出土している。わずかにB類よりも分布の重心が北東に寄るようである。出土層の傾向はB類と変わらない。このことから、B類と同時期に属し、分布のやや異なる集団の存在が推定できる。

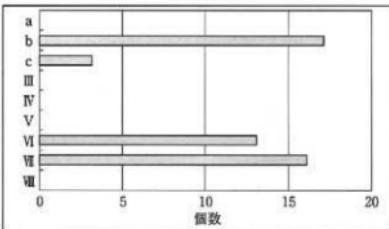
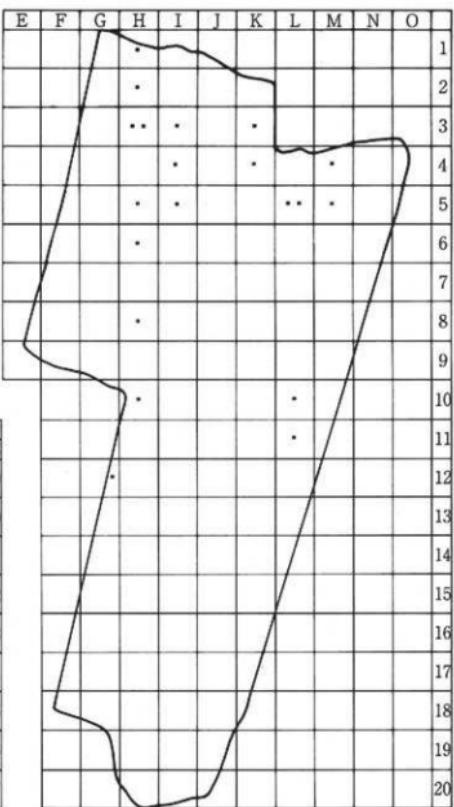
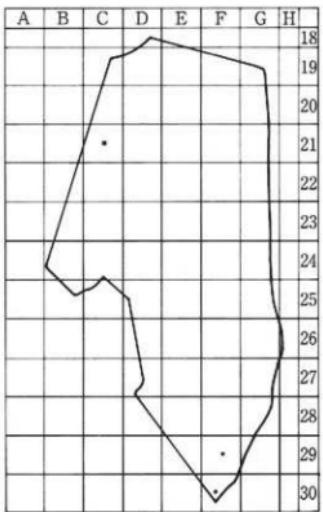
D類は、調査区北半の中央付近に多く分布しており、これもわずかではあるがB類よりも分布の重心がやや西に寄っていることが判る。VII層より出土している個体もあるが、傾向としてはVI層出土のものが多い。この点から、B類との時間差が導き出される。これは従来から指摘されている縦年の研究の成果と合致する。



第140図 草創期土器の分布

.	1 ~ 5	破片
..	6 ~ 20	破片
...	21 ~ 50	破片
::	51 ~ 100	破片
■	101 ~ 200	破片
■■	201 ~ 300	破片
■■■	301 ~ 400	破片
■■■■	401 ~ 500	破片
■■■■■	501 ~ 600	破片

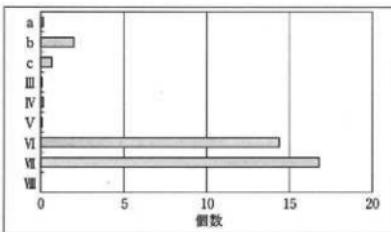
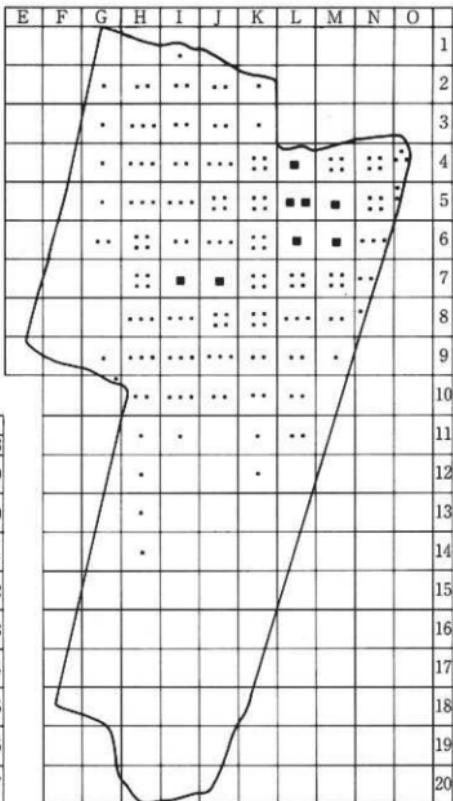
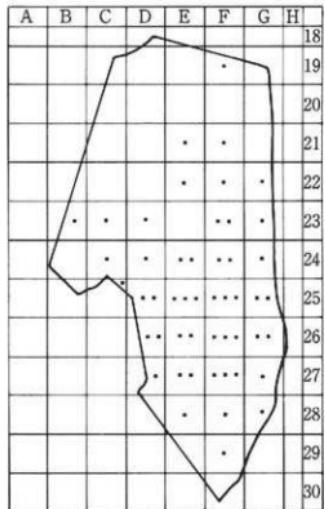
0 50m



第141図 A類土器の分布

·	1~5 破片
··	6~20 破片
···	21~50 破片
···	51~100 破片
■	101~200 破片
■■	201~300 破片
■■■	301~400 破片
■■■	401~500 破片
■■■■	501~600 破片

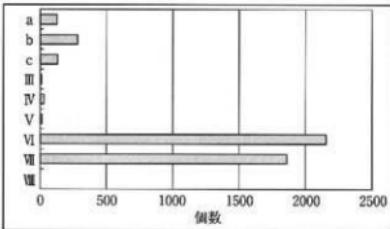
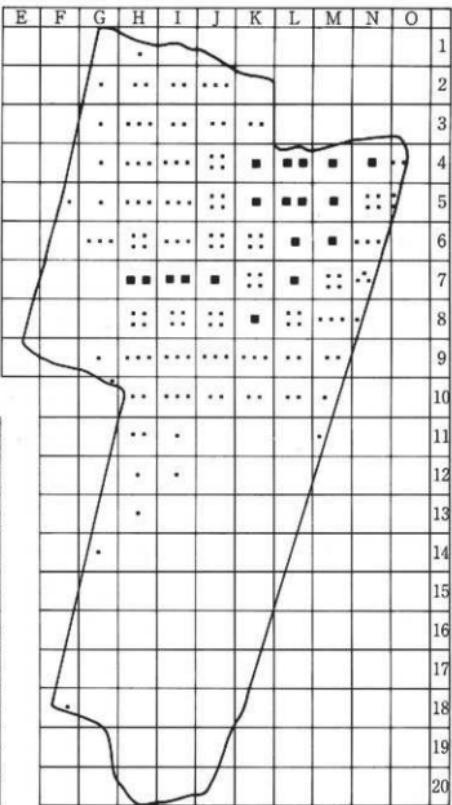
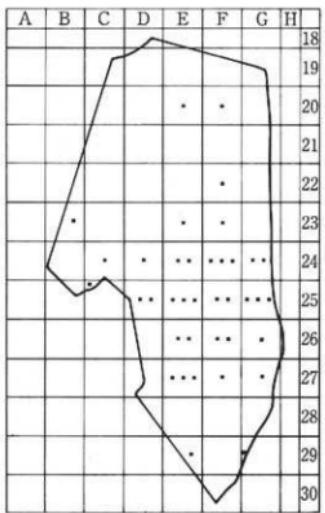
0 50m



第142図 B類土器（山形押型文）の分布

.	1 ~ 5	破片
..	6 ~ 20	破片
...	21 ~ 50	破片
::	51 ~ 100	破片
■	101 ~ 200	破片
■■	201 ~ 300	破片
■■■	301 ~ 400	破片
■■■■	401 ~ 500	破片
■■■■■	501 ~ 600	破片

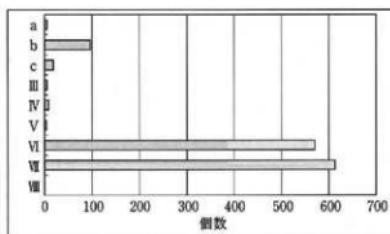
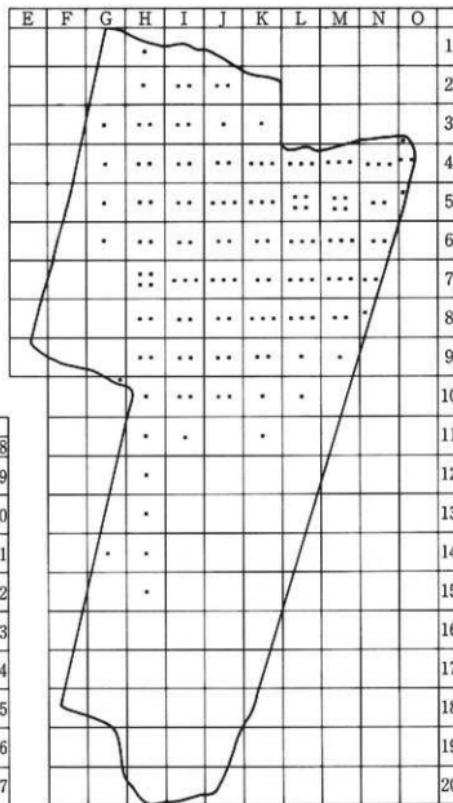
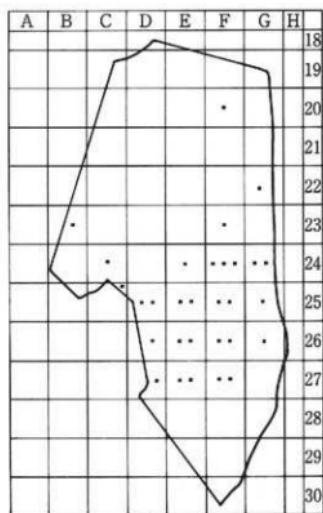
0 50m



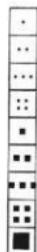
第143図 B類土器（精円押型文）の分布

.	1 ~ 5	破片
..	6 ~ 20	破片
...	21 ~ 50	破片
::	51 ~ 100	破片
■	101 ~ 200	破片
■■	201 ~ 300	破片
■■■	301 ~ 400	破片
■■■■	401 ~ 500	破片
■■■■■	501 ~ 600	破片

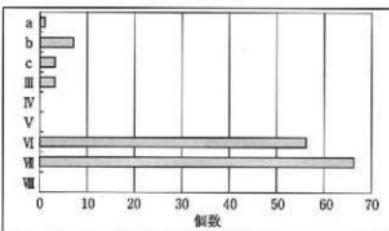
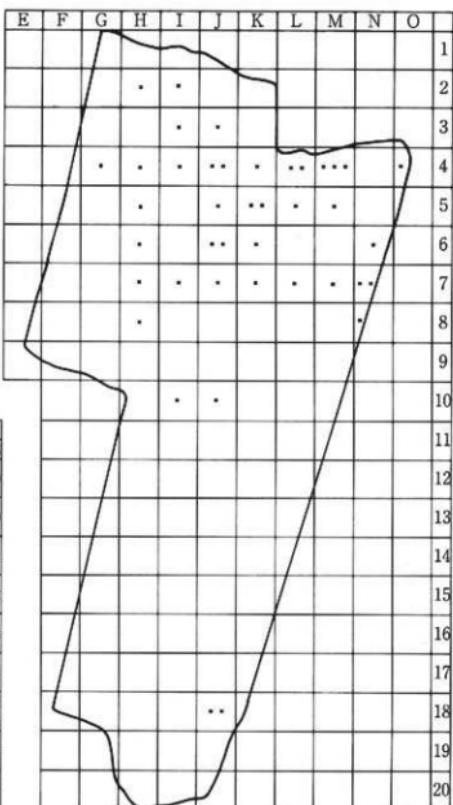
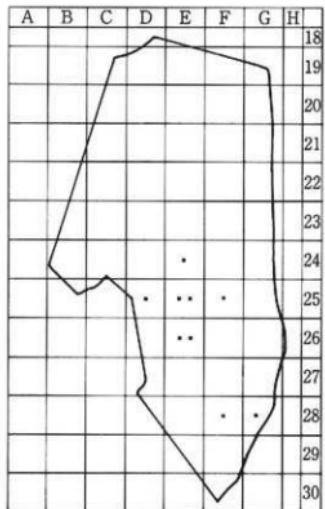
0 50m



第144図 B 3・4 類土器の分布



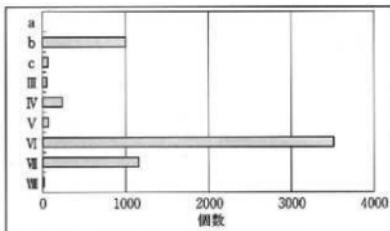
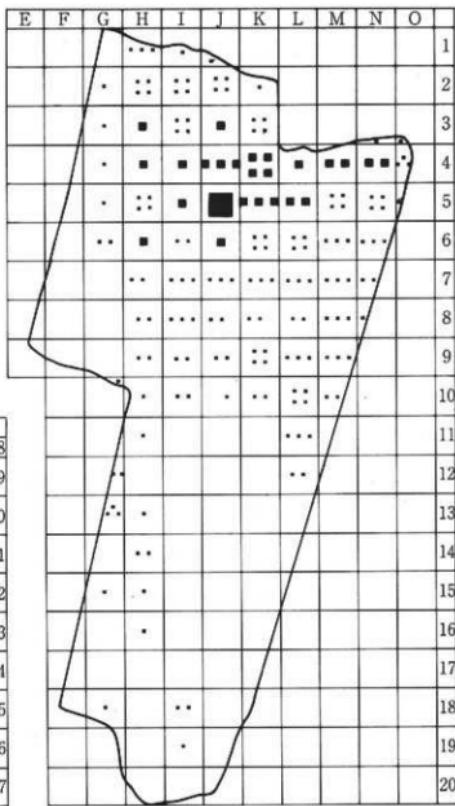
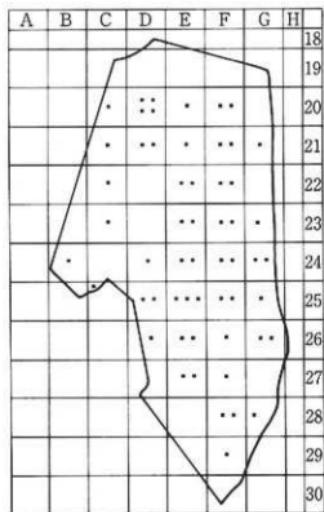
0 50m



第145図 C類土器の分布

·	1 ~ 5 破片
...	6 ~ 20 破片
...	21 ~ 50 破片
::	51 ~ 100 破片
■	101 ~ 200 破片
■■	201 ~ 300 破片
■■■	301 ~ 400 破片
■■■■	401 ~ 500 破片
■■■■■	501 ~ 600 破片

0 50m



第146図 D類土器の分布

(文献)

- 1 八木澤一郎 「南九州の集石遺構」『南九州縄文通信』8 1994 南九州縄文研究会
- 2 徳永貞紹 「八木澤一郎『南九州の集石遺構』の論評」『南九州縄文通信』9 1995
- 3 鹿児島県埋蔵文化財センター「飯森ヶ丘遺跡 鹿児島県埋蔵文化財センター調査報告書3」1993
- 4 宮崎県教育委員会 「堂地西遺跡ほか 宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書2」1985
- 5 新東晃一 「早期九州貝殻文系土器様式」「縄文土器大観」1 小学館 1989
- 6 5に同じ
- 7 本田道輝 「鹿児島県考古学の諸問題—縄文時代—」『鹿児島考古』20 1986
- 8 5に同じ
- 9 賀川光夫 「縄文文化の発展と地域性 九州東南部」「日本の考古学II」縄文時代 1965
- 10 坂本義弘 「西日本の押型文土器の展開—九州からの視点—」「古文化談叢」35 1995 九州古文化研究会
- 11 福光博・上田耕・雨宮瑞生 「貝殻文円筒形土器と押型文土器の関係—宮崎・鹿児島県における出土状況の検討—」『南九州縄文通信』7 1993 南九州縄文研究会
- 12 水之江和同 「九州における押型文土器の地域性」「九州の押型文土器—論考編」1998 九州縄文研究会
- 13 宮崎県教育委員会 「杉木原遺跡ほか 宮崎埋蔵文化財センター発掘調査報告書2」1985
- 14 田野町教育委員会 「芳ヶ迫第1遺跡・第3ほか 田野町埋蔵文化財調査報告書3」1986
- 15 横手浩二郎 「手向山式土器の細分と編年試案」「九州の押型文土器—論考編」1998
- 16 高橋信武 「平格式土器の系譜」「國分直一博士米寿記念論文集 モノ・ヒト・コトバの考古学」1996 廉友会
- 17 熊本県教育委員会 「天遣ケ尾遺跡(Ⅱ) 熊本県文化財調査報告111」1990
- 18 宮崎県教育委員会 「妙見遺跡ほか」1994
- 19 河口貞徳 「塞ノ神式土器」「鹿児島考古」6 1972 鹿児島県考古学会
- 20 堂込秀人 「熊毛諸島の縄文早期土器の一型式—苦浜式土器の認定—」「考古学ジャーナル」378 1994 ニューサイエンス社
- 21 大分県荻町の右京西遺跡や、宮崎市内々野遺跡、鹿児島吉田町の小山遺跡などで出土している、外・内面に条痕による文様を施す平底の土器群。轟I式、鎌石様式などと称される。  
河口貞徳 「塞ノ神式土器と轟式土器」「鹿児島考古」19 1985 鹿児島県考古学会  
荻町教育委員会 「右京西遺跡 荻町地の遺跡V」1986
- 22 水之江和同 「アカホヤ火山灰に関する研究の成果と課題」『南九州縄文通信』8 1994
- 23 福光博 「鬼界アカホヤ火山灰と九州縄文時代早期の土器編年」「日本第四紀学会講演要旨集」2001 日本第四紀学会

## 第5節 集石遺構について

本文中の第1節第2表をもとに礫の分布、礫の密集度、岩質、礫の大きさについて統計処理を行い、円度と角度、礫の使用度、円礫換算、加熱実験の考察を行なった。その結果は第1表に示した。

集石遺構の礫はひとかたまりとなってみかけ上ほぼ円形に分布しているが、詳しく観察すると掘り込みのある場合とない場合では円または梢円の違いがあるよう見える。違いを数値として表すため「離心率」を用いた。礫の密集状態は掘り込みのある場合は密に、ない場合は疎である傾向が観察される。これを数値として表すために「礫密集度」を求めた。礫密集度は1m<sup>2</sup>あたりの礫の個数を表している。岩質は測定した礫のすべてを岩質別に統計処理した。礫の大きさは、多くの報告書の中で拳大や人頭大などの表現が見られるが、地質学的に用いられている区分法に従い巨礫、大礫、中礫、細礫に分けた。細礫は直径4~2mmの大きさであるため巨礫、大礫、中礫に限定した。なお、中礫は拳大より小さく、大礫は拳大、巨礫は人頭大に相当する。

礫は円礫から角礫まで円磨度によって細かく区分される。本稿では大きく円礫、亜円礫、亜角礫、角礫の4つのタイプに区分して計測を行い、円礫と亜円礫を合わせて「円度」、角礫と亜角礫を合わせて「角度」と表示した。集石遺構全体としては角度の割合が高い。円礫として持ち込まれた礫は集石用に使用されるたびに割れて小さくなり角礫化したという仮説のもとに、礫の大きさと角度の割合から礫の「使用度」を推定した。

角礫を元の円礫に換算して、円礫としてはじめに持ち込まれた数を試算した。さらに、試算の結果に基づいた数の円礫を敷き詰めて集石料理の野外実験を行い、割れる礫の数と赤化の様子を観察した。以下各項目について結果と考察を行う。

### 1) 紣分布

礫の分布は検出した層ごとに、掘り込み有りと掘り込み無しに分け、離心率で表した。離心率eは礫分布の長半径aと短半径bから  $e = (a^2 - b^2)^{1/2} / a$  の式を用いて算出した。その結果、各層の平均値は、

	掘り込み有り（測定数）	掘り込み無し（測定数）
--	-------------	-------------

VI層	$e = 0.53$ (11)	$e = 0.63$ (23)
VII層	$e = 0.46$ (25)	$e = 0.59$ (23)
VIII層	$e = 0.54$ (4)	$e = 0.26$ (2)

ここで短半径b=0.50mとすると、長半径aは、

	掘り込み有り	掘り込み無し
--	--------	--------

VI層	$a = 0.59m$	$a = 0.64m$
VII層	$a = 0.56m$	$a = 0.62m$
VIII層	$a = 0.59m$	$a = 0.52m$

となり、全体として円形に近い礫分布を成すことを示している。

### 2) 索密集度

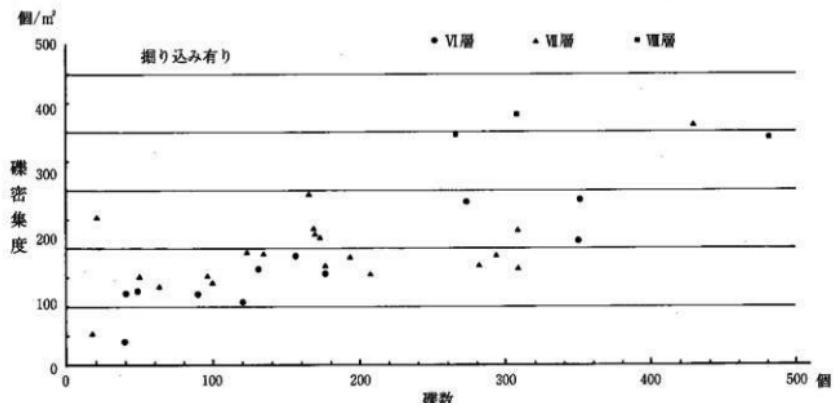
礫の密度分布は礫密集度で表した。礫密集度は礫分布が円を成すと仮定して、礫総数を円の面

第1表 基石地盤の微分析表

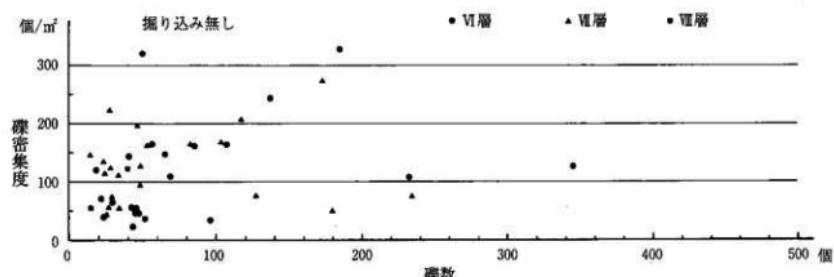
VI層	S I	重心率	面積 m <sup>2</sup>	標 個 数	標 高 度 mm	標 高 度 標準偏差 mm	標 高 度 標準偏差 標準偏差 mm	中 標 度 %	大・巨 標 度 %	中 標 度 %	圓 度 %	角 度 %	使用度 円×1	圓 度 X1/2	圓 度 X1/4	角 度 X1/16	計 算
①繋り込み 有り	1	0.52	0.33	41	124	98	2	44	56	A	8	5	4	1	18		
	2	0.55	0.95	273	287	97	91	25	75	D	7	31	30	5	73		
	4	0.69	0.71	116	164	100	47	53	20	80	F	4	10	17	2	33	
	6	0.40	1.04	110	106	100	39	61	8	92	F	2	4	5	5	16	
	9	0.42	0.87	157	181	92	66	34	11	89	E	3	7	18	4	32	
	10	0.66	0.38	49	127	92	82	18	24	76	D	1	6	5	1	13	
	12	0.31	0.75	90	121	97	74	26	10	90	D	0	5	10	3	18	
	23	0.62	1.23	353	288	99	57	43	13	87	E	3	22	28	12	65	
	25	0.53	1.13	177	157	99	44	56	8	92	F	2	6	34	2	44	
	28	0.72	0.95	40	42	95	28	73	18	83	G	3	2	2	2	9	
	29	0.36	1.65	350	212	98	38	62	8	92	F	5	11	34	12	62	
②繋り込み 無し	3	0.70	0.28	41	145	93	12	88	0	100	G	0	0	0	3	3	
	5	0.47	2.01	44	22	98	5	95	18	82	G	0	4	7	1	12	
	7	0.48	0.44	29	66	100	62	38	14	86	E	0	2	4	2	4	
	8	0.60	0.16	51	321	98	69	31	8	92	E	3	1	5	2	11	
	11	0.90	0.64	24	38	96	71	29	8	92	D	0	1	4	1	6	
	13	0.55	0.95	46	48	93	54	46	11	89	E	1	2	4	2	9	
	14	0.37	1.43	52	36	94	69	31	17	83	E	2	4	4	2	12	
	15	0.75	0.31	22	72	91	77	23	41	59	A	2	4	2	0	8	
	16	0.84	0.79	43	55	100	49	51	21	79	E	1	4	3	1	9	
	17	0.87	0.64	108	170	98	72	27	15	85	D	4	6	8	4	22	
	18	0.46	0.57	138	243	99	65	35	19	81	E	5	11	15	3	34	
	19	0.42	0.87	46	53	100	46	54	24	76	F	6	3	1	2	12	
	20	0.76	2.14	232	109	98	26	74	17	83	G	12	14	37	3	66	
	21	0.52	0.33	56	169	95	64	36	9	91	E	3	1	5	2	11	
	22	0.75	0.44	65	147	100	30	70	32	68	C	3	10	10	8	31	
	24	0.60	0.64	69	109	96	32	68	16	84	F	3	4	2	3	13	
	26	0.55	0.53	86	161	99	29	71	5	95	G	1	2	7	4	14	
	27	0.52	0.33	56	169	95	64	36	9	91	E	3	1	5	2	11	
	30	0.91	0.57	185	326	97	22	78	12	88	G	3	10	10	8	31	
	31	0.32	2.69	345	128	99	14	86	6	94	G	1	10	24	14	49	
	101	0.75	3.14	97	31	98	27	73	4	96	G	1	2	6	4	13	
	102	0.60	0.16	19	120	89	63	37	11	89	E	0	1	2	1	4	
	103	—	—	32	—	97	56	44	16	84	E	1	2	3	1	7	
	106	0.88	0.95	47	49	96	55	45	6	94	E	0	2	5	2	9	

固有	S I	重心率	面積 m <sup>2</sup>	面積 偏心 数	礫 数	礫 偏 度	礫 密度 個/m <sup>3</sup>	細粒砂岩 %	大・巨礫 %	中礫 %	角 度	使用度 円×1	円×1/2 重 円 ×1/4	重 円 ×1/16 角 度	角 度
③纏り込み 有り	33	0.38	1.33	308	232	99	37	63	8	92	F	9	8	41	7
	37	0.78	1.33	208	157	96	60	40	12	88	E	1	12	16	7
	38	0.52	1.33	173	220	94	73	27	7	93	D	0	6	17	6
	39	0.00	0.79	293	190	97	48	52	7	93	F	0	8	31	9
	40	0.66	1.54	168	237	98	46	54	7	93	F	1	6	11	7
	42	0.69	0.71	168	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	47	0.42	0.87	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	48	0.52	0.08	21	253	95	86	14	0	100	D	0	0	2	1
	49	0.00	0.33	18	54	89	44	56	11	89	F	0	1	2	1
	50	0.44	0.71	135	191	97	47	53	12	88	F	4	6	8	5
	52	0.58	1.65	281	170	99	54	46	11	89	E	6	12	47	4
	57	0.35	0.47	64	136	95	27	73	5	95	G	0	2	5	3
	58	0.69	1.89	309	164	99	48	52	29	71	F	12	39	23	8
	59	0.46	0.57	166	293	95	62	38	11	89	E	4	7	18	5
	60	0.44	0.71	100	141	96	49	51	12	88	F	2	5	11	3
	61	0.52	0.33	50	151	96	68	32	10	90	E	1	2	5	2
	62	0.60	0.64	123	193	99	49	51	3	97	F	0	2	11	5
	64	0.40	1.04	194	187	96	28	72	3	97	G	1	3	13	9
	65	0.77	0.64	96	151	100	32	68	15	85	F	2	6	4	4
	67	0.44	0.71	470	663	100	31	69	7	93	F	6	14	23	22
	68	0.31	0.75	170	228	98	74	26	34	66	A	15	22	20	2
	69	0.00	1.77	932	528	96	64	36	4	96	E	15	19	90	33
	71	0.40	1.04	177	170	95	44	56	11	89	F	2	9	12	7
	74	0.40	1.04	429	413	98	68	32	12	88	E	6	17	35	15
	78	0.69	0.47	453	961	99	32	67	9	91	F	10	15	24	20
④纏り込み 無し	32	0.66	0.10	14	146	86	43	57	14	86	F	0	1	1	3
	34	0.55	0.24	47	198	91	38	62	11	89	F	1	2	5	1
	35	0.55	0.24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	36	0.81	0.18	24	136	79	79	21	13	87	D	1	1	2	1
	41	0.00	0.64	105	165	92	35	65	5	95	F	1	2	7	5
	43	0.82	0.24	29	122	100	14	86	24	76	G	3	2	2	1
	44	0.66	0.38	49	127	82	88	12	6	94	D	0	2	5	9
	45	0.00	0.20	22	112	95	91	9	9	91	D	0	1	3	0
	46	0.81	0.71	37	52	92	76	24	57	43	A	1	10	2	1
	51	0.61	3.63	180	50	99	41	59	14	86	F	1	12	21	5
	53	0.00	0.50	187	372	98	24	76	7	93	G	1	7	10	8

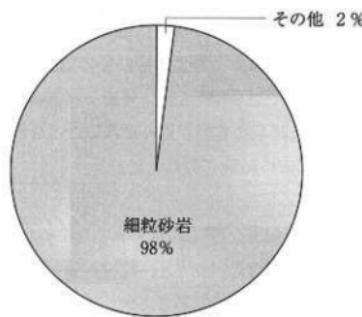
Ⅷ層	S I	離心率	面積 m <sup>2</sup>	繩 個	繩 數	繩 密度 個/m <sup>3</sup>	細粒砂岩 % 大・巨礫 %	中 礫 %	円 度 %	角 度 %	使用度	円×1 ×1/2	圓 度 %	角 度 %	×1/4 ×1/16	計 個
65	54	0.63	0.50	49	98	98	45	55	8	92	F	1	2	10	0	13
	56	0.71	0.57	26	46	92	31	69	8	92	F	0	1	1	1	3
66	63	0.90	0.33	54	163	89	76	24	6	94	D	0	2	5	2	9
	71	0.57	1.18	208	100	53	47	18	82	E	2	10	6	5	23	
70	70	0.00	3.14	235	75	99	53	47	11	89	E	6	10	20	8	44
	72	0.80	0.13	28	223	89	68	32	4	96	E	0	1	4	1	6
73	60	0.64	1.74	274	99	39	61	18	82	F	9	11	19	4	43	
	75	0.63	0.50	83	165	93	31	69	7	93	F	2	2	6	3	13
76	79	0.79	1.26	78	98	41	59	8	92	F	1	5	6	6	18	
	77	0.96	0.38	29	75	93	38	62	0	100	F	0	0	2	1	3
104	78	0.47	2.77	57	89	30	70	19	81	G	0	3	2	1	6	
	標記1	0.77	15.90	1553	98	99	17	83	6	94	G	15	40	61	76	192
標記2	89	17.71	181	10	97	52	48	7	93	E	3	5	18	6	32	
Ⅸ層	S I	離心率	面積 m <sup>2</sup>	繩 個	繩 數	繩 密度 個/m <sup>3</sup>	細粒砂岩 % 大・巨礫 %	中 礫 %	円 度 %	角 度 %	使用度	円×1 ×1/2	圓 度 %	角 度 %	×1/4 ×1/16	計 個
⑤掘り込み 有り	79	0.44	0.71	308	435	97	37	63	17	83	F	1	25	33	8	67
	81	0.53	0.67	267	398	98	18	82	4	96	G	7	3	11	13	34
⑥掘り込み 無し	82	0.82	0.95	943	993	100	49	51	8	92	F	8	35	45	43	131
	83	0.38	1.23	481	392	99	74	26	14	86	D	6	31	48	14	99
⑦掘り込み 有り	80	0.00	0.28	15	53	100	67	33	0	100	E	0	0	1	1	2
	84	0.52	0.33	40	121	90	55	45	15	85	E	2	2	2	2	8
層不明	S I	離心率	面積 m <sup>2</sup>	繩 個	繩 數	繩 密度 個/m <sup>3</sup>	細粒砂岩 % 大・巨礫 %	中 礫 %	円 度 %	角 度 %	使用度	円×1 ×1/2	圓 度 %	角 度 %	×1/4 ×1/16	計 個
	87	0.86	0.82	70	85	94	44	56	16	84	F	1	5	8	2	16
⑧掘り込み 無し	85	0.42	0.87	42	49	100	24	76	0	100	G	0	0	3	2	5
	86	0.66	0.38	19	49	100	42	58	0	100	F	0	0	2	1	3
105	88	0.60	1.43	35	24	91	57	43	54	46	B	10	5	2	1	18
	53	1.13	44	39	93	66	34	23	77	E	5	3	4	1	13	
標記3	0.75	4.91	115	23	98	38	62	7	93	F	2	3	9	5	19	
	標記4	0.83	3.46	186	53	96	47	53	4	96	F	1	4	10	9	24



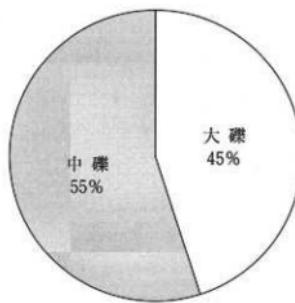
第1図 掘り込みの有る集石造構の礫密集度



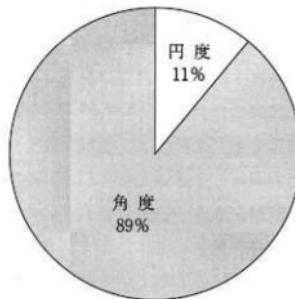
第2図 掘り込みの無い集石造構の礫密集度



第3図 磨の岩質



第4図 磨の大きさ



第5図 円度と角度

積で割って求めた（単位は個／m<sup>2</sup>）。当然、掘り込みの深い集石遺構では疊密集度は高い数値を示し、掘り込みの深さと相関をもつ。相関は横軸に疊数、縦軸に疊密集度をとり、掘り込みの有る場合（第1図）と掘り込みの無い場合（第2図）に分けて図示した。

その結果、掘り込みの有るVI層では150個／m<sup>2</sup>、VII層では200個／m<sup>2</sup>、VIII層では400個／m<sup>2</sup>に集中し、古い年代ほど疊密集度は大きくなり掘り込みが深いことを示した。掘り込みの無い場合は、検出層とは無関係に50~150個／m<sup>2</sup>の範囲に散点した。

### 3) 疊の岩質

約15000個の疊の岩質を分類した結果、細粒砂岩が98%を占めた（第3図）。残りの2%は軽石、粗粒砂岩、シルト岩、尾鉛酸性岩（溶結凝灰岩）、疊岩の順に多かった。細粒砂岩は台地の基盤を成す第三系宮崎層群から供給されたものであり、四十万累層群の緻密で硬い細粒砂岩とは容易に区別できる。白ヶ野遺跡の南に流れる清武川沿いには河岸段丘が発達しており、河岸段丘の底部には宮崎層群の細粒砂岩円疊が多量に堆積しているので、段丘疊から円疊を探集すれば容易に遺跡へ持ち込むことができる環境にある。

### 4) 疊の大きさ

疊は粒径によって次のように区分される。巨疊（粒径25.6cm以上）、大疊（25.6~6.4cm）、中疊（6.4~0.4cm）、細疊（0.4~0.2cm）。細疊は除外して、すべての疊の長径を測定した結果、大疊が45%，中疊が55%を占めた（第4図）。巨疊は3個含まれていた。

### 5) 円度と角度

疊は円疊と角疊から構成される。これらの疊をさらに細分して形が円～椭円形のままで割れていない疊を「円疊」、円疊が割れて二分した疊を「亜円疊」、亜円疊がさらに二分した疊を「亜角疊」、全体が角ばった疊を「角疊」と規定した。さらに、円疊と亜円疊を合わせて「円度」（単位%）、亜角疊と角疊を合わせて「角度」（単位%）とした。遺跡全体の疊は、円度11%，角度89%を示し、割れた状態の疊が多いことを示している（第5図）。

### 6) 疊の使用度

集石遺構の疊は赤化疊を含み、埋土に炭化物粒を多く含むことから加熱した跡であると考えられている。個々の集石遺構の疊は、様々な大きさの円疊と角疊から構成されている。これを数値化して大疊・中疊の含有率および円度・角度の占有率で区分することによって、各集石遺構の疊が「使用始め」～「使用中」～「使用後廃棄」という各段階を表せるのではないかと考えた。疊に加熱したとき、疊の熱量Qは質量をm、比熱をc、温度変化をtとすると、 $Q = m c t$ で表される。比熱cは同質の細粒砂岩から成るので共通と考えれば、熱容量m cの大きいのは大疊の円疊である。角疊は円疊に比べて表面積が大きく放热量が大きいので、破碎した中疊になるほど保熱量は小さく、時間は短くなることが予想される。

白ヶ野第2・第3遺跡では、集石遺構に使われている疊の98%が宮崎層群の細粒砂岩から成るので、円疊として遺跡に持ち込まれた砂岩の疊は加熱後割れ、使用回数が増すにつれてしだいに小さな角疊状となり廃棄されたという仮説に基づいて以下の推論を行う。

統計処理の結果、それぞれの集石遺構中に含まれる円度の割合が30%を越すのは6基だけで、

角度の割合が圧倒的に多いこと、円度30%以上で中疊70%以上の集石遺構は0であること、大疊と中疊の割合はおよそ半々であることなどを考慮して「円度または角度」と「大疊または中疊含有率」の組み合わせによって以下のようにA～Gまで区分した。

- A～大疊70%以上 + 円度30%以上
- B～大疊50～70% + 円度30%以上
- C～中疊50～70% + 円度30%以上
- D～大疊70%以上 + 角度70%以上
- E～大疊50～70% + 角度70%以上
- F～中疊50～70% + 角度70%以上
- G～中疊70%以上 + 角度70%以上

集石遺構は、掘り込みのあるものから掘り込みのないものへ発達したという見解や準備から廃棄までの段階を表すという考え方がある。本報告では阿部洋人・小薬一夫・小島正裕(1984)の見解に従って準備、使用中、使用後の段階を表すという考えをとった。この考え方を数値を使って表す方法としてA～Gを3タイプに分けた。

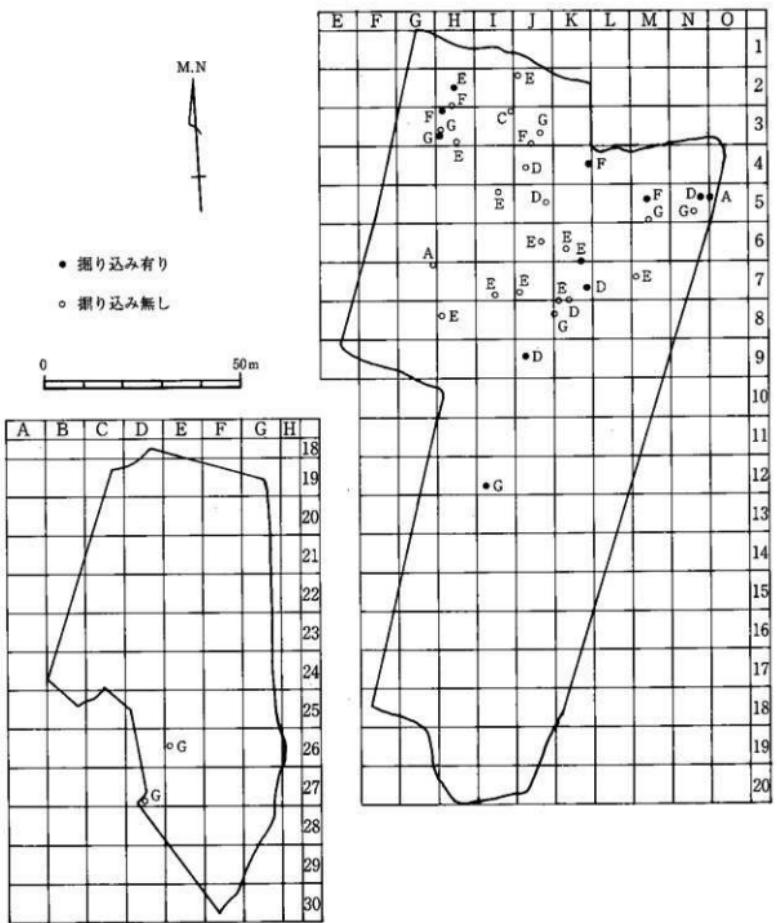
タイプ1－区分A, B, C。円度の割合が高く大疊と中疊の割合が多いことから、掘り込みのある集石遺構では「使い始めに近い時期」、掘り込みのない集石遺構では「準備疊」と考えた。

タイプ2－区分D, E。角度の割合が高い大疊から構成されることから「使用中」の集石遺構と考えた。

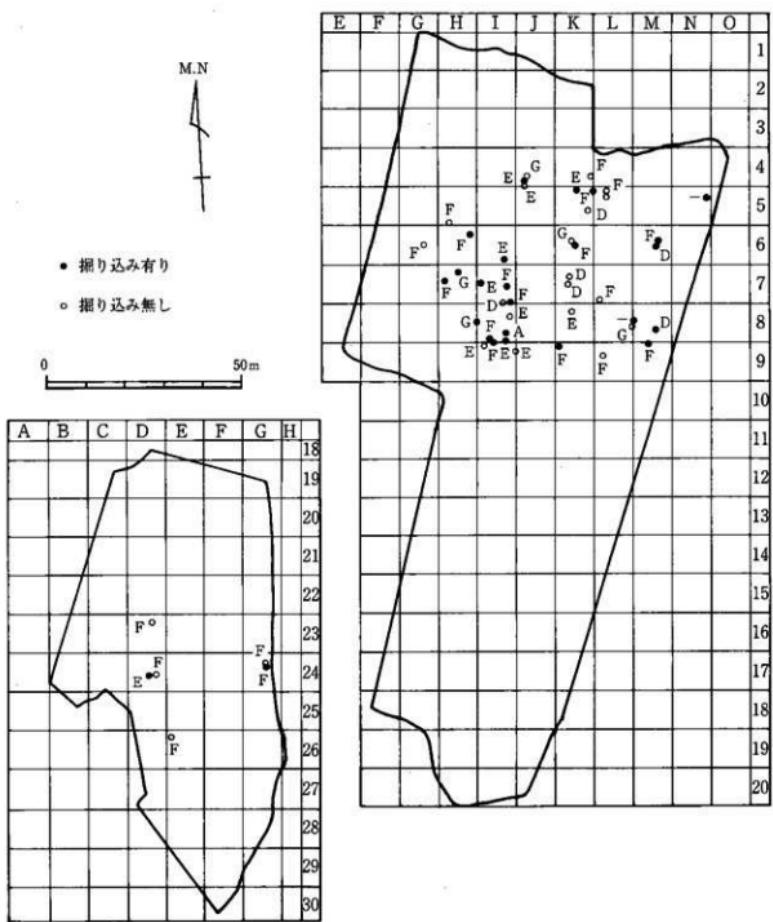
タイプ3－区分F, G。角度の割合が高く、中疊から成ることから「使用後廃棄」されたと考えた。

VI, VII, VIII層の疊使用度水平分布はそれぞれ第6・7・8図に示した。A～Gを各層の集石遺構に当てはめてまとめたのが第2表である。

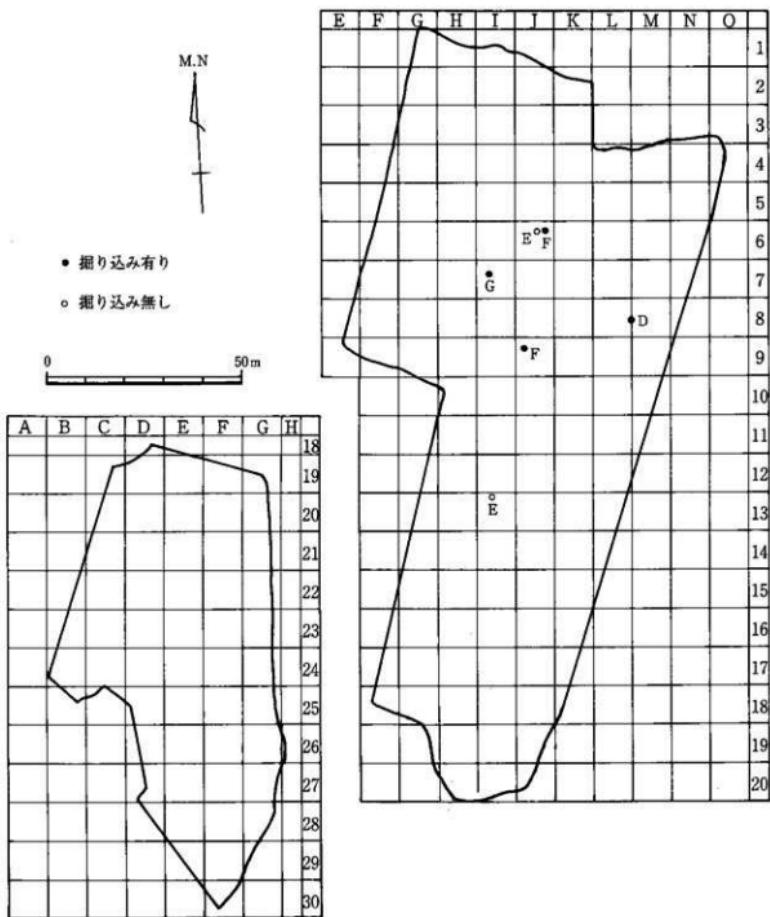
掘り込みが有る場合、タイプ1に属する集石遺構はVI層から1基(S I 1)とVII層から1基(S I 68)だけであった。S I 1は敷石を有する小型の集石遺構である。総疊数は少ないにもかかわらず大疊の占める割合が大きい。疊の中に砂岩の敲石を2個含み、南側40cmのところに尾鈴山産の溶結凝灰岩からなる磨石を1個出土することからS I 1と関連が考えられる。S I 68はC区の疊群1の近くで検出された円形の集石遺構である。総疊数170個のうち円疊を15個、亜円疊を43個有していた。S I 1とS I 68は使用途中の状態を示すと思われる。タイプ2はVI層から5基、VII層から8基、VIII層から1基検出した。遺構に含まれる総疊数は200個以下、200～400個、400個以上の3つに分けられる。中でもS I 69とS I 74は疊密度が400個/m<sup>2</sup>を越えている。タイプ3はVI層から4基、VII層から14基、VIII層から3基を検出した。VII層とVIII層に含有する疊は小さな角疊が多いので遺構埋土に分散して含まれていることから廃棄疊の可能性が高い。



第6図 VI層集石造構の礫使用度分布図



第7図 VII層集石造構の礫使用度分布図



第8図 VII層集石造構の礫使用度分布図

第2表 集石造構の礫使用度一覧表

掘込	検出層	A	B	C	D	E	F	G	計
有り	VI	1	0	0	3	2	4	0	10
	VII	1	0	0	2	6	12	2	23
	VIII	0	0	0	1	0	2	1	4
	不明	0	0	0	0	0	1	0	1
	計	2	0	0	6	8	19	3	38
無し	VI	1	0	1	2	11	2	8	25
	VII	1	0	0	4	5	10	4	24
	VIII	0	0	0	0	2	0	0	2
	不明	0	1	0	0	1	3	1	6
	計	2	1	1	6	19	15	13	57

掘り込みが無い場合、タイプ1のAはVI層から1基(S I 15)とVII層から1基(S I 46)であった。2基とも礫総数は少なく、大礫の亜円礫からなるので、準備礫の可能性が高い。S I 21はタイプ1のCに属し、中礫で角度の割合が高い。タイプ2はVI層から13基、VII層から9基、VIII層から2基を検出した。タイプ3はVI層から10基、VII層から14基を検出した。掘り込みがない場合、総じて礫数が少ない。総礫数100個以下の割合はVI層で80%、VII層で70%を占める。しかも中礫の角礫主体の構成をしていることから廃棄礫の可能性が高い。

### 7) 級の円礫換算

初めに、礫を円礫の状態で運び込んだものと仮定して、割れた礫を円礫に換算する方法を試算してみた。即ち、円礫は×1、亜円礫は×1/2、亜角礫は×1/4、角礫は×1/16の換算式をすべての集石造構測定値にあてはめてみると、平均値は次のような値を示した。

#### 掘り込み有り 掘り込み無し

VI層	37個	16個
VII層	42個	17個
VIII層	83個	5個

古い時期(VIII層)の集石造構では深い掘り込みの穴に70個前後の円礫を置き、後の時期(VII、VI層)になると40個前後の円礫を使った可能性を示している。掘り込みの無い場合は、当然のことながら数は少ない。

実際に大礫サイズの円礫を40個敷き詰めてみると、直徑約50cmの掘り込みの浅い穴に適合する。直徑約1mの掘り込みの浅い穴では、80個の円礫が適合する。敷き詰める礫の数は掘り込みの深さに関係するので、計算値が適正な数であるかどうかは疑問である。発掘した礫は長い年月の間に風化し、移動している可能性があるので、真の測定値はもっと多いことが予想される。また、換算式を変えれば円礫数は変化するので、上記の換算式は、一応の基準としてとらえておく。

### 8) 加熱実験

保坂康夫(1993)は、関東・東海地域の礫群について破断していない完全礫の占有率は1~2割程度が最も多いことを指摘している。また、加熱後自然冷却の実験を行い、加熱によって破断

した碟はおおむね1割程度であったことを報告している。

白ヶ野遺跡でも発掘調査終了後の集石遺構を使って加熱と碟の破断実験を行った。石材は宮崎層群産の細粒砂岩の円碟を用いた。大きさは直径10cmの大碟を主にして直径5cmの中碟を少量加えた。実験の手順は、調査を終了した掘り込みのある集石遺構の中に円碟79個を敷き詰め、周囲には土を高さ約10cm盛り上げた。次に小枝を約30分間燃やして碟を加熱した。その間にばしょうの葉に鳥肉とりんごを包み、加熱の対照実験として同じ食材をアルミはくで包んだ。これらの食材を加熱碟で包み込むように置き、その上に盛り上げておいた土をかぶせ、そのまま約40分間放置した。

掘り出してみると、ばしょうの葉は外側が焼けて黒くなっているものの内側は変化がなく、りんごと鶏肉は内部までよく加熱されていた。それに対し、アルミはくで包んだ鳥肉は内部まで加熱されていたが、りんごは内部まで熱が十分伝わらず芯は固いままであった。また、後日ばしょうの葉でサツマイモ、魚、クリを包んで実験したが、すべて内部まで十分加熱されることがわかった。以上の実験では、ばしょうの葉の水分が蒸し焼きに大きな役割を果たしていることを示唆している。

碟の破断実験は2回行った。1回目では79個のうち9個の碟が破断した。2回目は70個中6個の碟が破断し、加熱後破断する円碟の数は約1割であることを示唆した。加熱実験後掘り出した碟は約一週間地表に放置した結果、79個中33個が赤化を示した。

発掘した碟の90%は角碟から成り、ほぼすべての集石遺構で赤化碟が存在する。本稿では円碟から破断して角碟化するメカニズムと赤化のメカニズムについては解明していない。今後、野外での加熱実験によって多数の測定データを得る必要がある。

#### 9)まとめ

白ヶ野第2・第3遺跡で検出された集石遺構について、①検出層、②掘り込みの有無、③碟の分布、④碟数、⑤岩質、⑥碟の大きさ、⑦炭化物の有無、⑧土器・石器の有無、⑨石器石材の有無、⑩底石の有無、⑪赤化碟の有無の測定を行い、数値化した資料から統計処理によって相関を見い出す試みを行った。

その結果、以下のことがわかった。

- 1) 碟の分布形態は離心率で表すと、掘り込みの有無に関係なくほぼ円形に近い楕円形を示す。
- 2) 碟の密集度は1m<sup>2</sup>あたりの碟数で表した。掘り込みの有る場合は古い時代ほど大きな数値を示し、掘り込みが深くなることを表した。掘り込みのない場合、数値は分散した。
- 3) 碟の岩質は98%が宮崎層群産の細粒砂岩から成る。
- 4) 碟の大きさは大碟と中碟が半々である。
- 5) 碟を円碟、亜円碟、亜角碟、角碟に区分し、円碟と亜円碟を円度（%）、亜角碟と角碟を角度（%）で表すと、円度：角度=1:9の割合である。
- 6) 碟の使用度をA～Gに区分し、さらにタイプ1（使用始め）、タイプ2（使用中）、タイプ3（使用後廃棄または準備）に分けた。全体として使用後廃棄または準備のタイプが半

数を占め、古い時代の集石遺構ほど使用後廃棄または準備の割合が大きい。

- 7) 磺は最初は円礫として搬入されたものと仮定して、亜円礫は2個、亜角礫は4個、角礫は16個で1個の円礫に換算した。その結果、掘り込みのある場合Ⅵ層とⅦ層では約40個、Ⅷ層では約80個に換算された。この個数はそれぞれ直径50cmと1mの集石遺構に適合する。掘り込みのない場合は、検出層とは無関係に少量を示した。
- 8) 集石礫を加熱調理施設とみなして2回にわたって野外加熱実験した結果、円礫が破断する数は1割であった。また、加熱後一週間で約42%の礫が赤化した。

#### 10) 問題点

本報告で考察した集石遺構の礫の分析は、宮崎平野の段丘礫が発達する台地上での遺構であるという特別な条件下で成り立つものである。それは、細粒砂岩の円礫が段丘礫から簡単に入手できるという地理的背景による。従って、県北の様々な岩質の混合した集石遺構や鹿児島県の上の原遺跡の集石遺構のように安山岩の角礫を使用している場合では、本稿の推論は適用できない。今後、宮崎平野の台地上で発掘される同様な集石遺構について、条件を規定して適用すれば本論の検証は可能である。

集石遺構の数値化は、これまで肉眼観察によって論じられたことの検証と統計処理による傾向分析を目的とした一つの試みであり、すべてを数値で分析・説明できるものではない。

今回は礫の加熱後、どのように破断し、赤化するのか明らかにすることはできなかった。今後、他地域の似たような条件下でのデータ分析に期待したい。

#### (参考文献)

- 阿部祥人・小堀一夫・小島正裕(1984) 縄文遺跡における「礫」の考古学的位置づけ—多摩丘陵出土の資料を中心として—古代文化, vol.36, 521-526.
- 平原遺跡Ⅱ(1993) 佐賀県文化財調査報告書 第120集, 佐賀県教育委員会
- 保坂康夫(1993) 磺群構成礫の割れ(破断)に関する実験的研究 考古論集, 潤見浩先生退官記念事業会, 93-110.
- 鹿児島県教育委員会(1980) 石峯遺跡, 九州縄貫自動車道埋蔵文化財調査報告書-IV-
- 飯盛ケ岡遺跡(1993) 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(3)
- 桑畠光博(1989) 宮崎県の縄文時代研究史—研究の現状と課題— 宮崎考古, 石川恒太郎先生米寿記念特集号上巻, 25-44.
- 宮崎県高岡町教育委員会(1997) 久木野遺跡(1区~4区) 高岡町埋蔵文化財調査報告書第12集
- 成尾英仁(1999) 横占町大中原遺跡におけるテフラ層, 鹿児島県立博物館研究報告, 18号, 79-88.
- 徳永貞紹(1995) 八木澤一郎「南九州の集石遺構」の論評 南九州縄文通信, No 9, 30-33.
- 八木澤一郎(1994) 南九州の集石遺構 南九州縄文通信, No 8, 21-41.
- 吉本正典(1995) 集石遺構(宮崎県) 旧石器から縄文へ, 平成7年度鹿児島県考古学会秋季大会, 96-100.

# 第IV章 自然科学的分析

株式会社古環境研究所

## I. 白ヶ野遺跡第2・第3遺跡の土層とテフラ(1)

### 1. はじめに

宮崎県域には、霧島火山や姶良カルデラ、鬼界カルデラなど南九州地方の火山をはじめとして阿蘇火山など多くの火山から噴出したテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く分布している。これらのテフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされているものがあり、それら示標テフラとの層位関係を求めるこによって、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代に関する資料を収集できるようになっている。そこで白ヶ野遺跡においても地質調査、テフラ検出分析さらに屈折率測定を合わせて行い、示標テフラの層位を明らかにして、遺跡の土層の形成年代に関する資料を求めるこになった。調査の対象となった地点は、G-12グリッド、E区試掘トレンチ、G-9グリッドおよびB-4グリッドの4地点である。

### 2. 土層の層序

#### (1) G-12グリッド

この地点では、下位より褐色土（層厚25cm）、暗褐色土（層厚30cm）、黄色軽石に富む灰色がかかった暗褐色土（層厚17cm）、軽石の最大径12cm、石質岩片の最大径2cm）、暗褐色土（層厚27cm）が認められた（図1）。

#### (2) E区試掘トレンチ

本地点では、下位より黄色軽石に富む灰色がかかった暗褐色土（G-12グリッドの下位より3層目）の上位に、下位より暗褐色土（層厚30cm）、黄色粗粒火山灰混じり暗褐色土（層厚14cm）、灰色粗粒火山灰混じり黒色土（層厚14cm）、成層したテフラ層、作土（層厚27cm）が認められた（図2）。これらのうち、成層したテフラ層は、下部の褐色火山豆石混じり黄色細粒軽石層（層厚3cm、軽石の最大径5mm、火山豆石の最大径3mm）と、上部の黄色細粒火山灰層（層厚28cm）から構成されている。このテフラ層は、層相から約6,300年前に鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah、町田・新井、1978）に同定される。白ヶ野第2・第3遺跡の発掘調査では、最下位の土層の上面から細石核が検出されている。

#### (3) G-9グリッド

この地点では、下位より暗褐色土（層厚17cm）、黒褐色土（層厚4cm）、黄色粗粒火山灰に富む黒褐色土（層厚4cm）、黒色土（層厚10cm）、成層したテフラ層が認められた（図3）。これらのうち、成層したテフラ層は層相からK-Ahに同定されるものである。これらの土層のうち、発掘調査では下位より2層目および3層目の土層から縄文時代早期の土器が検出されている。

#### (4) B-4 グリッド

ここでは、K-Ahに同定される成層したテフラ層の上位に、下位より黄褐色土（層厚7cm）、黒色土（層厚21cm）、暗褐色土（層厚9cm）、褐色粗粒火山灰に富む暗褐色土（層厚8cm）、作土が認められた（図4）。褐色粗粒火山灰については、岩相などから788（延暦7）年に霧島火山御鉢火口から噴出したと考えられている霧島御鉢延暦テフラ（Kr-OhE、井ノ上、1988、町田・新井、1992）に由来すると思われる。

### 3. 屈折率測定

#### (1) 測定試料と測定方法

示標テフラとの同定精度を向上させるために、G-12グリッド、E区試掘トレンチ、G-9グリッドの3地点で採取された試料について、位相差法による屈折率測定（新井、1972）を行った。

#### (2) 測定結果

屈折率の測定結果を表1に示す。G-12グリッド試料番号1には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は1.704-1.707である。これらの特徴は、約1.6万年前以降（約1.05万年前以前）に霧島火山から噴出したと考えられている霧島小林軽石（Kr-Kb、伊田ほか、1956、町田・新井、1992）と一致する。

E区試掘トレンチ試料番号1には、斜方輝石のほか単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、1.706-1.711である。この斜方輝石は、その屈折率や層位などからE区試掘トレンチ試料番号1に含まれるテフラと起源を同じくするものと考えられる。白ヶ野遺跡の調査で検出された細石核の層位はKr-Kbの上位で、この桜島火山起源の縄文時代早期のテフラより下位にある。また縄文時代早期の遺物は、このテフラ層の下位から上位にかけての層位にあると考えられる。

G-9グリッド試料番号1にも、斜方輝石のほか単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、1.706-1.711である。この斜方輝石は、その屈折率や層位などからE区試掘トレンチ試料番号1に含まれるテフラと起源を同じくするものと考えられる。白ヶ野遺跡の調査で検出された細石核の層位はKr-Kbの上位で、この桜島火山起源の縄文時代早期のテフラより下位にある。また縄文時代早期の遺物は、このテフラ層の下位から上位にかけての層位にあると考えられる。

縄文時代早期に桜島火山から噴出したテフラとしては、桜島薩摩テフラ（約1.05万年前、町田・新井、1992）をはじめとして数層の存在が知られているが、それらの層序および噴出年代に関しては統一見解が得られていないのが現状である。より詳細な編年研究を展開するためにさらに分析を行い、桜島火山起源のテフラの層序と噴出年代に関する資料を収集していく必要がある。

### 4. 小結

白ヶ野第2・第3遺跡において、土層の形成年代に関する資料を収集するために、地質調査と屈折率測定を合わせて行った。その結果、下位より霧島小林軽石（Kr-Kb、約1.6-1.05万年前）、桜島火山起源の縄文時代早期のテフラ、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah、約6,300年前）さらに霧島御鉢延暦テフラ（Kr-OhE、788年）の降灰層準を検出することができた。

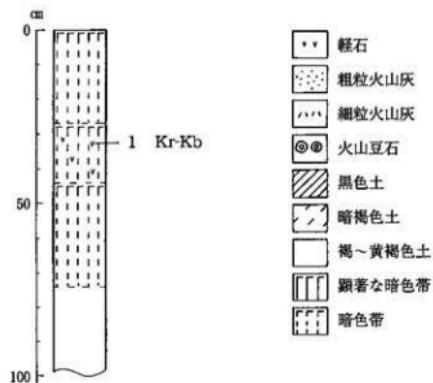


図1 白ヶ野遺跡G-12グリッドの  
土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

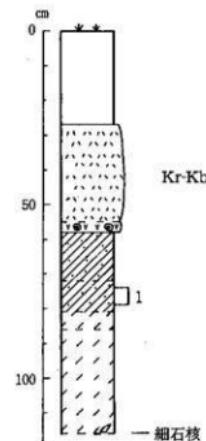


図2 白ヶ野遺跡E区試掘トレンチの  
土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

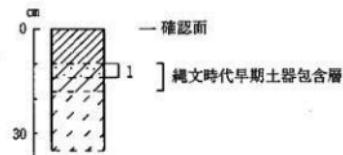


図3 白ヶ野遺跡G-9グリッドの  
土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

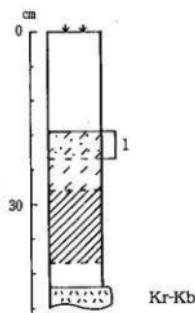


図4 白ヶ野遺跡B-4グリッドの  
土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

## (文献)

- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p.2 54-269.
- 伊田一善・本島公司・安国 昇 (1956) 宮崎県小林市付近の天然ガス調査報告. 地調報告, 168, p.1-44.
- 井ノ上幸造 (1988) 霧島火山群高千穂複合火山の噴火活動史. 岩鉱, 83, p.26-41.
- 町田 洋・新井房夫 (1978) 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ—鬼界アカホヤ火山灰. 第四紀研究, 17, p.243-263.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.

表1 屈折率測定結果

地 点	試料	重鉱物	斜方輝石(γ)
G-12グリッド	1	opx, cpx	1.704-1.707
E区試掘トレンチ	1	opx>cpx	1.706-1.711
G-9グリッド	1	opx>cpx	1.706-1.711

屈折率の測定は、位相差法(新井、1972)による。

opx:斜方輝石、cpx:単斜輝石。

## II. 白ヶ野第2・第3遺跡の土層とテフラ(2)

## 1. 土層の層序

## (1) B 5 グリッド (基本土層断面)

B 5 グリッドでは、火山灰土の堆積状況をよく観察することができた。この地点では、下位より黄色軽石を多く含む灰褐色砂質土(層厚10cm, 軽石の最大径5mm), 明褐色土のブロックに富む褐色土(層厚27cm), 褐色土(層厚12cm), 暗褐色土(層厚4cm), 黄色細粒軽石に富む暗褐色土(層厚5cm, 軽石の最大径2mm), 黒色土(層厚7cm), 黑褐色土(層厚4cm), 砂分を比較的多く含む黒灰色土(層厚2cm), 成層したテフラ層(層厚34cm), 暗褐色土(層厚3cm), 黑褐色土(層厚5cm), 黑色土(層厚9cm), 黑褐色土(層厚11cm), 褐色スコリア混じり黒色土(層厚7cm, スコリアの最大径2mm), 暗灰色土砂質表土(層厚25cm)が認められた(図1)。

これらの土層のうち、最下位の灰褐色土中に多く含まれる黄色軽石は、その岩相から約1.4-1.6万年前に霧島火山から噴出した霧島小林軽石(Kr-Kb, 伊田ほか, 1956, 町田・新井, 1992, 早田, 1996印刷中)に由来すると考えられる。また成層したテフラ層は、火山豆石を含む下部の黄橙色軽石層(層厚2cm, 軽石の最大径7mm, 火山豆石の最大径5mm)と上部の厚い黄橙色細粒火山灰層(層厚32cm)から構成される。このテフラ層は、層相から約6,300年前に鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah, 町田・新井, 1978)に同定される。なお、K-Ahの直上にある暗褐色土の上面には、凹凸が認められる。したがって、時期は不明であるが、この土層の形成後に土壤侵食が発生した可能性が考えられる。

表土のすぐ下位の黑色土中に含まれるスコリアについては、層位や岩相などから従来788(延

暦7)年に霧島火山御鉢火口から噴出したと考えられ、霧島延暦御鉢テフラ(Kr-OhE, 井ノ上, 1988, 町田・新井, 1992)と命名されてきた霧島高原スコリア(Kr-Th, 早田, 1996印刷中)に由来すると考えられる。このテフラについては、最近加速器質量分析法による放射性炭素年代測定の結果などから、10~13世紀の可能性が指摘されている(奥野, 1996)。

## (2) 第1地点

下位より黒褐色土(層厚42cm), 暗褐色土(層厚21cm), 黄色軽石に富む灰色土(層厚21cm, 軽石の最大径14mm), 褐色土(層厚20cm)が認められた(図2)。これらのうち、灰色土中に含まれる黄色軽石は、その岩相から約1.4-1.6万年前に霧島火山から噴出した霧島小林軽石に由来すると考えられる。

## 2. 屈折率測定

### (1) 測定試料と測定方法

K-Ahの下位の比較的腐植に富む土層中に認められた2層準のテフラ試料(試料番号2および試料番号1)について、位相差法(新井, 1972)により屈折率測定を行い、従来知られているテフラとの同定を試みた。

### (2) 測定結果

屈折率の測定結果を、表1に示す。試料番号2には、重鉱物として斜方輝石のほか、单斜輝石さらにごく少量のカンラン石が認められた。斜方輝石の屈折率( $\gamma$ )は1.706-1.713、中央値は1.710-1.713である。したがってこのテフラ粒子は、縄文時代早期の約7,400~8,300年前に桜島火山から噴出した桜島嫁坂軽石(Sz-Ym, 早田, 1996印刷中)に由来すると考えられる。

一方、試料番号1には、重鉱物として斜方輝石のほか、少量の单斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率( $\gamma$ )は、1.705-1.710である。このテフラ粒子については、その層位から、約6,500-6,300年前に霧島火山から噴出していた霧島牛ノスネ火山灰下部(Kr-USL, 井ノ上, 1988, 早田, 1996印刷中)に由来している可能性が大きいと思われる。ただし従来Kr-USLについては屈折率が測定されておらず、資料に欠如している。今後Kr-USLについて、屈折率の測定を行う必要がある。

## 3. 小結

地質調査と屈折率測定の結果、下位より霧島小林軽石(Kr-Kb, 約1.4-1.6万年前)、桜島嫁坂軽石(Sz-Ym, 約7,400~8,300年前)、鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah, 約6,300年前)、霧島高原スコリア(10~13世紀?)の層位を検出することができた。さらに霧島牛のスネ火山灰下部(Kr-USL, 約6,500-6,300年前)の降灰層準を検出できる可能性も指摘できた。従来南九州地方における後期更新世以降のテフラの調査や発掘調査の際に、テフラの岩石記載的な特徴把握が行われた例はさほど多くない。今後さらに調査分析を行い、資料を蓄積していく必要がある。

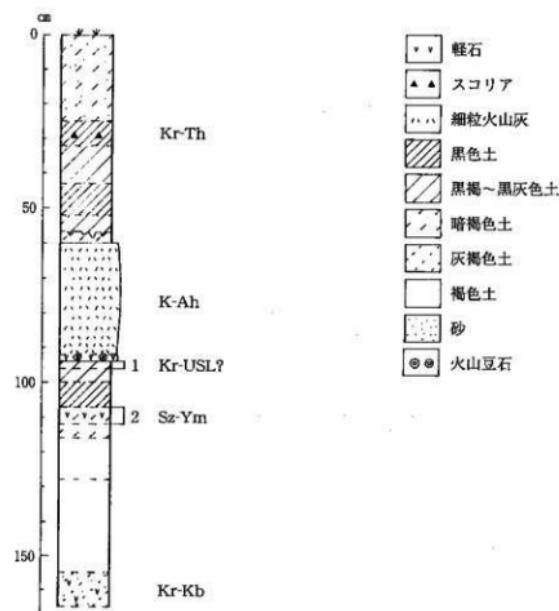


図1 B5グリッドの土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

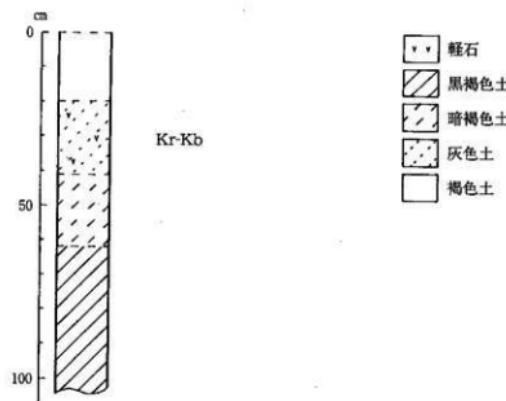


図2 第一地点の土層柱状図

(文献)

- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石によるテフラの同定—チフロクロノロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p. 243-269.
- 伊田一善・本島公司・安国 昇 (1956) 宮崎県小林市付近の天然ガス調査報告. 地調報告, 168, p.1-44.
- 井ノ上幸造 (1988) 霧島火山群高千穂複合火山の噴火活動史. 岩鉱, 83, p.26-41.
- 町田 洋・新井房夫 (1978) 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ—鬼界アカホヤ火山灰. 第四紀研究, 17, p.243-263.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 奥野 充 (1996) 南九州の第四紀末テフラの加速器14C年代 (予報). 名古屋大学 加速器質量分計 業績報告書, 8, p.89-116.
- 早田 魁 (1996印刷中) 宮崎県のテフラ. 宮崎県史.

表1 屈折率測定結果

試料	重鉱物	斜方輝石の屈折率 ( $\gamma$ )
1	opx>cpx	1.705-1.710
1	opx>cpx (ol)	1.706-1.713 (1.710-1.713)

屈折率の測定は、位相差法(新井、1972)による。

opx: 斜方輝石、cpx: 単斜輝石。

### III. 白ヶ野第2・第3遺跡の植物珪酸体分析

#### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸( $\text{SiO}_2$ )が蓄積したものであり、植物が枯れたあとで微化石(プラント・オバール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている(杉山、1987)。

#### 2. 試料

試料は、G-12グリッド、E区試掘トレンチ、B-4グリッドの3地点から採取された21点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

#### 3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オバール定量分析法(藤原、1976)をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料の絶乾(105°C・24時間)
- 2) 試料約1gを秤量、ガラスピーツ添加(直径約40μm・約0.02g)※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- 3) 電気炉灰化法(550°C・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波による分散(300W・42KHz・10分間)
- 5) 沈底法による微粒子(20μm以下)除去、乾燥
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散、プレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡

下で行った。計数は、ガラスピース個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1 gあたりのガラスピース個数に、計数された植物珪酸体とガラスピース個数の比率をかけて、試料1 g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： $10^{-5}$  g）をかけて、単位面積で層厚1 cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属型（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48、クマザサ属は0.75である。

#### 4. 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行った。

##### 〔イネ科〕

機動細胞由来：イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（ススキ属、チガヤ属）、ウシクサ族型、ウシクサ族型A（大型）、シバ属、Bタイプ、Cタイプ、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（おもにクマザサ属）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、マダケ属型（マダケ属、ホウライチク属）、タケア科（未分類等）

穎の表皮細胞由来：オオムギ族

その他：表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

##### 〔樹木〕

ブナ科（シイ属）、クヌキ科（バリバリノキ？）、マンサク科（イスノキ属）、その他

##### （1）G-12グリッド（図1）

Kr-Kb混層およびその上下層について分析を行った。その結果、Kr-Kbより下位層（試料5～8）では、クマザサ属型が比較的多く検出された。ウシクサ族型や棒状珪酸体なども検出されたが、いずれも少量である。Kr-Kb混層（試料3、4）およびその上層（試料1、2）でもおおむね同様の結果であるが、試料4ではクマザサ属型が一時的に増加しており、試料2ではネザサ節型が出現している。おもな分類群の推定生産量（図の右側）によると、全体的にクマザサ属型が優勢であることが分かる。

##### （2）E区試掘トレンチ（図2）

細石核が検出された層（試料8）からK-Ahの上層（試料1）までの層準について分析を行った。その結果、細石核が検出された層（試料8）ではクマザサ属型やススキ属型、ウシクサ族型などが検出されたが、いずれも少量である。試料7ではクマザサ属型が比較的多く検出されたが、試料6では減少傾向を示し、かわってネザサ節型やウシクサ族型が増加傾向を示している。桜島火山起源の縄文時代早期のテフラ混層（試料5）では、ネザサ節型が急激に増加しており、密度は6万個/g以上にも達している。K-Ah直下層（試料3、4）でもおおむね同様の結果である。K-Ah直上層（試料1）ではネザサ節型やウシクサ族型、棒状珪酸体が多量に検出され、ススキ属型やブナ科（シイ属）も検出された。おもな分類群の推定生産量（図の右側）によると、試料

5より上位ではネザサ節型が優勢となっていることが分かる。

### (3) B-4 グリッド(図3)

K-Ah直上層(試料6)から現表土(試料1)までの層準について分析を行った。その結果、K-Ah直上層(試料6)ではネザサ節型やスキ属型などが検出されたが、いずれも比較的少量である。その上位の黒色土(試料4, 5)では、ネザサ節型が多量に検出され、スキ属型やウシクサ族型、メダケ節型、ブナ科(シイ属)、クスノキ科(バリバリノキ?)、マンサク科(イスノキ属)なども検出された。ネザサ節型の密度は最大8万個/g以上にも達している。霧島御鉢延暦テフラ混層(試料2)にかけてもおおむね同様の結果であるが、スキ属型やウシクサ族型がしだいに増加している。現表土(試料1)ではイネやオオムギ族(穎の表皮細胞)、マダケ属型が検出された。おもな分類群の推定生産量(図の右側)によると、全体的にネザサ節型が卓越していることが分かる。

## 5. 植物珪酸体分析から推定される植生・環境

以上の結果から、白ヶ野第2・第3遺跡における堆積当時の植生と環境について推定すると次のようである。

霧島小林軽石(Kr-Kb, 約1.6-1.05万年前)混層およびその上下層の堆積当時は、クマザサ属を主体とするイネ科植生であり、何らかの原因でそれ以外のイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったものと推定される。クマザサ属は比較的寒冷なところに生育していることから、当時は寒冷な気候条件下で推移したものと推定される。クマザサ属は常緑性であることから、大半の植物が落葉または枯死する秋から冬にかけてはシカの重要な食物となっている(高瀬, 1992)。

桜島火山起源の縄文時代早期のテフラ混層では、ネザサ節が急激に増加し、スキ属やチガヤ属なども見られるようになったと考えられる。ネザサ節は比較的温暖なところに生育していることから、この時期に寒冷から温暖への環境変化があったと考えられる。これらの植物は日当りの悪い林床では生育が困難であることから、当時の遺跡周辺は森林で覆われたような状況ではなく比較的開かれた環境であったものと推定される。鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah, 約6,300年前)直下層でも同様の状況であったと考えられる。

鬼界アカホヤ火山灰の上位の黒色土の堆積当時は、ネザサ節を主体としてスキ属やチガヤ属、メダケ節なども見られるイネ科植生が継続されたと考えられる。また、この時期には周辺でシイ属やイスノキ属、クスノキ科などの照葉樹林が成立したものと推定される。花粉分析の結果によると、南九州では約8,500年前には照葉樹林が成立していたと推定されている(松下, 1992)が、内陸部や台地部では沿岸部よりもかなり遅れて照葉樹林が拡大したことが指摘されている(杉山・早田, 1994)。今後、周辺地域で同様の検討を行うことにより、照葉樹林の存在や分布拡大の様相が解明されるものと期待される。

現表土では、イネやムギ類の栽培が行われていたと考えられるが、これらの栽培が開始されたのは霧島御鉢延暦テフラ(Kr-OhE, 788年)の堆積以降と考えられる。タケアキ科植物のうち、マダケ属にはマダケやモウソウチクなど有用なものが多く、建築材や生活用具、食用などとしての利用価値が高いが、これらの植物が現れるのは比較的最近のことと考えられる。

(参考文献)

- 杉山真二 (1987) 遺跡調査におけるプランツ・オパール分析の現状と問題点. 植生史研究, 第2号, p.27-37.
- 杉山真二 (1987) タケ亜科植物の機動細胞珪酸体. 富士竹類植物園報告, 第31号, p.70-83.
- 杉山真二・早田勉 (1994) 植物珪酸体分析による遺跡周辺の古環境推定 (第2報) -九州南部の台地上における照葉樹林の分布拡大の様相-. 日本文化財科学会 第11回大会研究発表要旨集, p.53-54.
- 高橋成紀 (1992) 北に生きるシカたちーシカ、ササそして雪をめぐる生態学ー. どうぶつ社.
- 藤原宏志 (1976) プランツ・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培 植物の珪酸体標本と定量分析法-. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 松下まり子 (1992) 日本列島太平洋岸における完新世の照葉樹林発達史. 第四紀研究, 31(5), p.375-387.

## II. 白ヶ野第2・第3遺跡における放射性炭素年代測定結果

### 1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No 1	B 5グリッド、No① Kr-USL?直下	土壤	酸洗浄 ベンゼン合成 低濃度処理	$\beta$ 線法
No 2	B 5グリッド、No② Sz-Ym直上	土壤	酸洗浄 ベンゼン合成 低濃度処理	$\beta$ 線法
No 3	B 5グリッド、No③ Sz-Ym層準	土壤	酸洗浄 ベンゼン合成 低濃度処理	$\beta$ 線法
No 4	B 5グリッド、No④ Sz-Ym直下	土壤	酸洗浄 ベンゼン合成 低濃度処理	$\beta$ 線法
No 5	S 117集石、No⑦	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	$\beta$ 線法
No 6	S 69集石、No⑧	炭化材 (カヤ)	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	$\beta$ 線法 (長時間測定)
No 7	S 92集石、No⑩	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	$\beta$ 線法 (長時間測定)
No 8	S 82集石、No⑪	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	$\beta$ 線法
No 9	第1地点、No 1 Kr-Kb層準	土壤	酸洗浄 ベンゼン合成 低濃度処理	$\beta$ 線法
No 10	第1地点、No 2 Kr-Kb直下	土壤	酸洗浄 ベンゼン合成 低濃度処理	$\beta$ 線法

### 2. 測定結果

#### 1) $^{14}\text{C}$ 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (1950年 A.D.) から何年前 (B.P.) かを計算した値。  
 $^{14}\text{C}$ の半減期は5,568年を用いた。

## 2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ( $^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}$ )。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(%)で表す。

## 3) 補正 $^{14}\text{C}$ 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で算出した年代。

## 4) 曆年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度の変動を補正することにより算出した年代(西暦)。補正には年代既知の樹木年輪の $^{14}\text{C}$ の詳細な測定値を使用した。この補正是10,000年B.P.より古い試料には適用できない。曆年代の交点とは、補正 $^{14}\text{C}$ 年代値と曆年代補正曲線との交点の曆年代値を意味する。 $1\sigma$ は補正 $^{14}\text{C}$ 年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した曆年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の $1\sigma$ 値が表記される場合もある。

試料名	$^{14}\text{C}$ 年代 (年B.P.)	$\delta^{13}\text{C}$ (%)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年B.P.)	曆年代 交点 ( $1\sigma$ )	測定No (Beta-)
No 1	6030±70	-28.7	5970±70	BC4840 (BC4930~4785)	97145
No 2	4960±70	-25.6	4950±70	BC3715 (BC3790~3660)	97146
No 3	6460±70	-24.1	6470±70	BC5420 (BC5445~5315)	97147
No 4	6670±80	-24.5	6680±80	BC5580 (BC5605~5480)	97148
No 5	8210±70	-24.7	8220±70	BC7255 (BC7310~7055)	97149
No 6	7400±110	-25.3	7390±110	BC6190 (BC6365~6115)	97150
No 7	8140±220	-25.7	8130±220	BC7045 (BC7430~6690)	97151
No 8	8260±80	-27.9	8210±80	BC7245 (BC7310~7045)	97152
No 9	14010±110	-22.7	14050±110	-	90970
No 10	15570±100	-23.2	15600±100	-	90971

### III. 白ヶ野第2・第3遺跡出土炭化材の樹種同定

#### 1. 試料

試料は、S69集石中から出土した炭化材（No⑫）である。試料は、年代測定を行ったNo⑥と同一物である。

#### 2. 方法

試料を剖析して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

#### 3. 結果

結果を表1に示し、同定根拠となった特徴を記す。また、各断面の顕微鏡写真を示す。

表1 出土炭化材の樹種同定結果

試料	樹種（和名／学名）
No⑫	カヤ <i>Torreya nucifera</i> Sieb. et Zucc.

カヤ *Torreya nucifera* Sieb. et Zucc. イチイ科

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭く年輪界は比較的不明瞭である。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～4個存在する。仮道管の内壁には、らせん肥厚が存在し2本対になる傾向を示す。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、仮道管の内壁には2本対になる傾向を示すらせん肥厚が存在する。

以上の形質より、カヤに同定される。カヤは宮城県以南の本州、四国、九州と韓国の濟州島に分布する。常緑の高木で通常高さ25m、径90cmに達する。材は均質緻密で堅硬、弾性強く水湿にも耐え、保存性が高い。弓などに用いられる。

#### （参考文献）

佐伯 浩・原田 浩(1985)針葉樹材の細胞。木材の構造、文永堂出版、P.20-48.

## 第VII章 総 括

### 第1節 遺物からうかがえる遺跡の性格

本遺跡の縄文時代草創期（一部後期旧石器最終末期に遡る可能性あり），早期の年代，環境について，第2節で総括がなされるため，ここでは土器，石器からうかがい知ることのできる事象についてのみ，簡単にまとめておきたい。

出土土器からは，早期前半に一部空白期はあるものの，早期の中葉から末葉にかけて，当地で連続と人々の生活が展開されてきたことが判った。特に，押型文系土器のB3・4類示準期から平格式・撚糸文塞ノ神式期にかけて，本遺跡の形成活動がピークを迎えたと見られ，出土層の分析からⅦ層が押型文系土器の存続期に，Ⅵ層が平格式・塞ノ神式の存続期に形成されたと考えられる。縄文時代草創期の土器はⅧ・Ⅸ層中には見られなかったが，細石器，神子柴型石斧などを出土するⅩ層が，後期旧石器最終末～縄文時代草創期に形成された層である可能性が高いと見られる。今後，土器編年を確立させるとともに，本報告では詳しく触れることのできなかつた文様の細かな検討や，多く見られる円形の穿孔の意味するところの解明などといった課題に取り組んでいきたい。

石器については，出土層ごとにまとめてみたが，現時点では土器との関連が必ずしも明らかでない。この点についても今後，他遺跡の状況を参考にしながら検討を進めていきたい。

また，本報告では遺憾ながら各々の遺物の細かな出土位置や出土状況については触れることができず，土器についてグリッド毎の出土位置（平面・垂直）の傾向を示すにとどまった。その結果については前章末に示した通りであるが，土器片の遺存の度合いについて補足するならば，平格・撚糸文塞ノ神式の個体が比較的まとまっており原形をとどめる個体が多いこと，貝殻文円筒形土器の系統や押型文系土器は多くが小破片化していることなどが指摘できる。このことから，塞ノ神式期の擾乱作用によって既に堆積していたⅦ層中に包含されている押型文系土器の破碎，細片化，移動などの現象が生じたと推測される。

### 第2節 自然科学分析の結果

本遺跡では，2か年度にわたり自然科学分析を古環境研究所に依頼した。

1995年の分析では，土層の形成年代を明らかにするための指標テフラ検出と古環境を推定する資料としての植物珪酸体分析を試みた。その結果，斜方輝石の屈折率測定と土層の層位観察によって4つのテフラを検出した。下位から霧島小林軽石（Kr-Kb，約1.6-1.05万年前），桜島火山起源の縄文時代早期のテフラ，鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah，約6300年前），霧島御鉢延暦テフラ（Kr-OhE，AD788年）である。なお，Kr-OhEテフラのAD788年は後に10-13Cに訂正された。

1996年の分析では，前回詳細不明であったテフラの同定および集石遺構中の炭化物と土壤の放射性炭素年代測定，炭化材の樹種同定を行った。1995年のテフラ分析で桜島起源とされたテフラは斜方輝石の屈折率測定の結果，縄文時代早期の約7400-8300年前に桜島から噴出した桜島嫁坂

軽石（桜島末吉, p.11ともいう）に由来することがわかった。また、アカホヤ火山灰直下のテフラは、斜方輝石の屈折率測定によって霧島牛ノ脛火山灰（下部）に由来する可能性が指摘された。その他、前回と同じく下位から霧島小林軽石、アカホヤ火山灰、霧島高原スコリアが検出された。

植物珪酸体分析の結果、白ヶ野遺跡の過去の植生と環境が明らかになった。霧島小林軽石混層およびその上下層の堆積当時（旧石器時代後期）はクマザサ属を主とした植生環境下にあったと推定される。この時代は約1.8万年前の最寒氷期を過ぎた寒冷～冷涼期にあたる。クマザサ属は寒冷な気候条件のもとで常緑性であり、秋から冬にかけてシカの食料になっている。桜島火山起源テフラ混層（縄文時代早期）では、ネザサ節が急激に増加し、スキ属やチガヤ属も見られるようになったと考えられる。ネザサ節は温暖で日当たりの良いところに生育していることから当時の白ヶ野付近は森林の少ない草原状態であったと推定されている。このような環境はアカホヤ火山灰降灰直前まで続いていると考えられる。

広範囲にわたるアカホヤ火山灰の堆積は南九州の植生環境を一変させた。当台地上でも長い時間を経て上位の黒色土になると、ネザサ節を主体としたスキ属、チガヤ属、メダケ節などが見られ、周辺ではシイ属、イスノキ属、クスノキ属などの照葉樹林が成立していたと推定されている。

放射性炭素年代測定は土壤6サンプルを使った。測定は $\beta$ 線法を使用し、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から求めた値を補正してある。 $^{14}\text{C}$ の半減期は5568年を用い、何年前（B.P.）かは1950年ADを基準にしている。その結果、霧島牛ノ脛火山灰層直下で $5970 \pm 70\text{y.B.P.}$ 、桜島嫁坂層直上で $4950 \pm 70\text{y.B.P.}$ 、桜島嫁坂層で $6470 \pm 70\text{y.B.P.}$ 、桜島嫁坂層直下で $6680 \pm 80\text{y.B.P.}$ 、霧島小林層で $14050 \pm 110\text{y.B.P.}$ 、霧島小林層直下で $15600 \pm 100\text{y.B.P.}$ の値が得られた。この中で小林軽石層より上位の土壤サンプル4点の測定値は既知年代よりも若い値を示している。これは土壤中の植物や生物の影響を受けた可能性がある。

集石遺構中の炭化物は4点の年代測定を行った。その結果、 $8220 \pm 70\text{y.B.P.}$ 、 $7390 \pm 110\text{y.B.P.}$ 、 $8130 \pm 220\text{y.B.P.}$ 、 $8210 \pm 80\text{y.B.P.}$ の値を得た。 $7390 \pm 110\text{y.B.P.}$ の炭化材は樹種同定によって「カヤ」であることが判明した。カヤは常緑の高木で通常高さ25m、径90cmに達し、材質は緻密・堅硬で弾性が強く保存性が高いという。

以上述べた測定結果を次頁図に示しておく。

• 既知の年代値			
Vb アカホヤ火山灰	約6300年前	(試料)	(本報告補正年代値)
牛ノ脛火山灰	土壤	5970±70 y.B.P.	
VI 黒色土層			
直上	土壤	4950±70 y.B.P.	
桜島嫁坂火山灰	土壤	6470±70 y.B.P.	
直下	土壤	6680±80 y.B.P.	
VII 黒褐色土層			
	集石中の炭化物	7390±110 y.B.P.	
		8220±70 y.B.P.	
		8210±80 y.B.P.	
VIII 黄褐色土層			
	集石中の炭化物	8130±220 y.B.P.	
IXa 暗褐色土層			
IXb 小林軽石層			
直下	土壤	14050±110 y.B.P.	
X 褐色土層	土壤	15600±100 y.B.P.	
XIa 明黄褐色土層			
XIb A T			
	約2.4~2.5万年前		

第1図 白ヶ野第2・第3遺跡の土壤および炭化物の年代測定結果



A～C区  
(上空より)



F～G区  
(上空より)

図版2



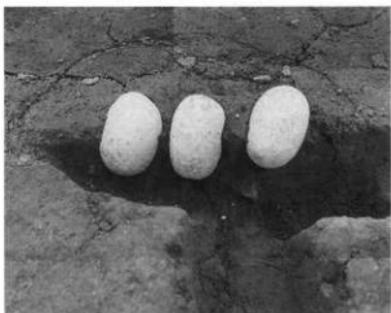
C区VII層の状況（東より）



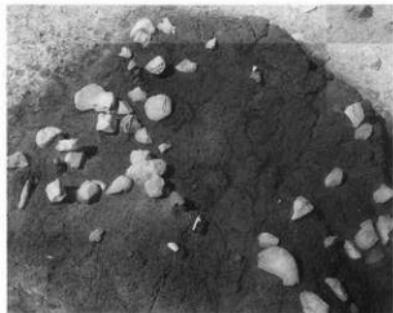
E区VII層の状況



F区土層



「石器埋納遺構」

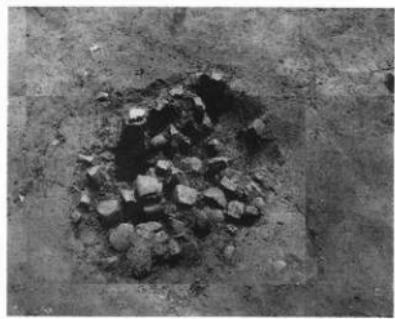


S I 14



S I 15

図版 3



S I 26



S I 69



S I 78



S I 66

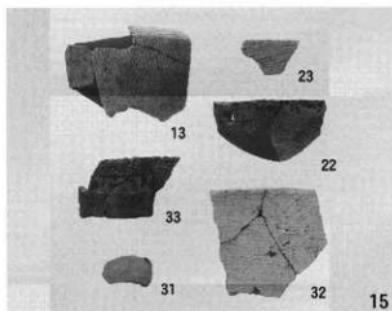


S I 75

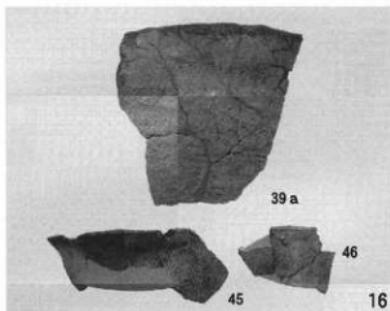


S I 79

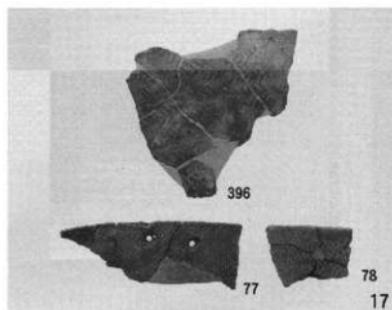
図版 4



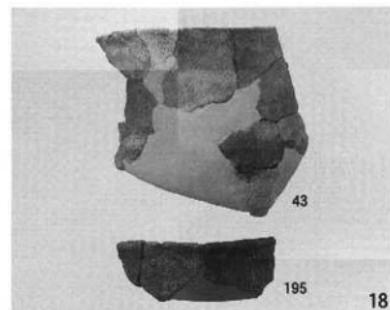
A類土器



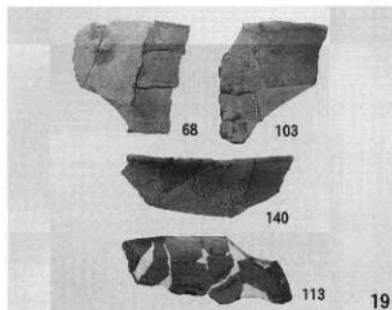
B類土器



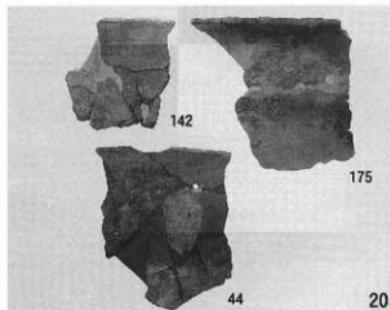
B類土器



B類土器



B類土器



B類土器